

CONTENTS

学士課程教育プログラム

情報システム学科	4
情報デザイン学科	60
総合情報学科 経営情報専攻	118

開講科目一覧

情報システム学科	168
情報デザイン学科	175
総合情報学科	182

教職課程

情報システム学科	192
----------------	-----

規程	197
----------	-----

学士課程教育プログラム

情報学部情報システム学科 学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

情報学部情報システム学科は、情報処理システムや情報通信システムに関する知識と技術を有し、研究から得られる多彩な知恵と創造力をもって、社会の多方面で活躍できる人材を育成することを目的とする。

2 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針となっています。

2. 1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦勞と喜びへと促します。

専門力の育成とは、目まぐるしく変化する情報社会のどこにおいても、情報機器やネットワークの仕組みを理解し、その開発、活用に貢献できる人材を育てることです。

今日の私たちの生活は情報技術なしでは考えられません。パソコンやスマホでいろいろなアプリを使ったり、インターネットで世界中の情報を集めたりするのが当たり前になっています。

また、工場の生産現場ではロボットが大活躍し、鉄道、航空、道路の交通システムの管理や医療、災害対策にも欠かせない存在になっています。そして目には直接見えない形でも、家電製品や自動車にたくさんのコンピュータが組み込まれて私たちを助けてくれています。

こうしてコンピュータとネットワークが現代社会のインフラ(基盤的設備)となっているので、それを維持しさらに発展させるためには「使う人」だけでなく「発明する人」、「作る人」、「守る人」が必要なのです。つまり、たくさんのコンピュータを使いこなしてネットワークシステムを組み立て保守する人、あるいは小さなコンピュータを組み込んだ装置を作る人が要るのです。また、ここまで高度に情報化した社会では、わずかなトラブルや悪意のある行為が社会に大きなインパクトを与える危険性があります。そんな危険を避けるためにも、豊富な情報の知識を持ってスマートに問題を解決できる人が求められているのです。

情報システム学科では、卒業後の進路を想定して、コンピュータサイエンス専攻と情報ネットワーク専攻の2専攻を設けています。両専攻とも情報表現やコンピュータの動作原理、人間と機械のインターフェースなど、情報の基本を学ぶことは共通です。そして情報技術者の最大の武器であるプログラミング能力の習得にも力を入れます。

コンピュータサイエンス専攻では、さらにコンピュータのハードウェアとソフトウェアの両面に精通し、情報通信機器、や組み込みコンピュータシステムについても学習して、設計から、製造、運用・保守まで様々な場面で活躍できる人材を育成します。

情報ネットワーク専攻では、コンピュータおよびネットワークの両方に精通し、今後も拡大続けるネットワーク環境に柔軟に対応するための実践的な講義・演習が用意されています。そして、大企業の巨大情報通信システムから個人企業の小さなネットワークまで様々な場面で活躍できる人材を育成します。

コンピュータサイエンス専攻、情報ネットワーク専攻ともに、卒業生は東海地方を中心に全国の製造業、情報通信業、情報サービス業、そしてアミューズメント業まで多方面に飛びだって行きます。そしてそれぞれの分野において、情報システム学科で学んだ知識とその応用能力を大いに発揮しています。

こうした「頼れる」情報技術者を育成するため、情報システム学科では以下に示す教育目標と人材の養成目標を設定しています。

- ① ハードウェアとソフトウェア、理論と応用の両面を学習し、コンピュータの原理を理解する。
- ② 徹底したプログラミング演習を通して、コンピュータの特性を深く理解する。
- ③ 人工知能、組み込みコンピュータシステム、ネットワークプログラミングなどの高度・先進的なコンピュータ技術を学ぶ。
- ④ 講義と演習による実践的教育により、課題探求能力と課題解決能力を身につける。
- ⑤ 技術者倫理、インターンシップなどの関連科目を学び、社会的使命感・責任感を醸成する。

2. 2 学位授与の方針

情報システム学科では、以下の力を備えた者に学位を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応できる素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。
8. 情報学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。

(専門力)

9. 情報学分野における基礎理論を理解し自らの問題に応用できる。
10. 情報学分野の専門知識と理論を理解し他者と深く議論できる。
11. 実験・実習を通して理論と現象を結びつけて分析・理解・説明できる。
12. 課題解決に必要なツールを探索し使いこなす自らのスキルを向上できる。
13. 研究的活動も含め、実験・実習を通して問題発見・課題解決できる。

3. 標準教育プログラム

標準教育プログラムとは、本学で学ぶ皆さんが、上に示した教育の目的と学位授与の方針に到達するために4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を「教養力」と「専門力」に分けて定めたもので、これは、本学の教育課程編成・実施の方針に基づき作成されています。学科の情報システム学科の標準教育プログラムは、以下の(1)～(9)になります。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知

見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(3) 情報科学の基礎としての数学、自然科学を活用する力を身に付けることができる

情報科学のさまざまな分野で、多くの自然科学の知識が用いられます。特に、力と動きの関係、熱や電気の性質を理解するために物理学、材料の特性と、自然環境を理解するために化学が必要となります。また情報科学の各分野、物理学、化学で用いられる数式を理解し、応用するために数学が必要となります。専門基礎科目群においては、これらの、情報科学系分野の基礎となる数学、物理学、化学を学びます。それぞれの専門分野において、既存の知識を身につけるだけでなく、創造的な仕事をする上でも、これらの基礎知識がしっかり身に付いていることが重要です。

(専門力)

(4) コンピュータの構造や原理、プログラミング技術を学び、コンピュータ技術の基礎を固める

コンピュータおよびその周辺装置は電気回路・電子回路でできています。回路を学ぶことはコンピュータを学ぶ第一歩です。また、コンピュータはプログラムによってその動作が与えられます。プログラムの作成には理論も必要です。回路、コンピュータの構造、OS、プログラミング、理論を学習し、コンピュータ技術の基礎を固めます。電気回路では抵抗、コイル、コンデンサの組み合わせにより各種の回路が構成され、電源の周波数に応じて電流・電圧特性が変化するという基本的な動作原理について理解します。電子回路では能動素子(トランジスタなど)を組み合わせる論理動作を理解します。コンピュータの構造では、コンピュータの命令が演算回路により実行される様子を学習します。OSでは Windows や UNIX などの代表的なOSの構造を学びます。プログラミングではC言語、Java言語などを学び、理論では情報理論、オートマトン・言語理論、アルゴリズムとデータ構造に関する理論などを学びます。また高校における数学、物理の履修履歴が皆さんそれぞれに異なっていますので、数学、物理の基礎的な部分を固めて以後の専門科目の履修に備えます。

(5) コンピュータのハードウェアとソフトウェアを学ぶ

コンピュータには様々な装置が、直接的に、あるいはネットワークを介して接続されます。それらの動作はプログラムによってコントロールされます。様々な装置が接続されたコンピュータシステムは、無駄のない効率的な処理を行なえるように工夫されています。すなわち、ハードウェアの特性や特徴を前提としたハードウェアの制御、プログラムの処理速度やプログラムの異常処理の方法などに関する工夫です。情報技術者を目指す皆さんはこれらの工夫を学ぶことにより、ハードウェアとソフトウェアをバランスよく学習します。

(6) コンピュータを組み込んだ応用システムの構築技術を学ぶ

自動車、家電、情報通信機器などには多数のマイコン(マイクロコンピュータ)が組み込まれています。マイコンもコンピュータですから、その基本原理はコンピュータと同じです。しかし組み込みコンピュータは、皆さんが普段使っているパソコンとは使い方が違います。例えば、CPUやOSがパソコンとは違っています。また組み込みシステムには各種のセンサがつながっていて、センサを通じて外部の情報がマイコンに入力されます。さらにマイコンの出力が電気信号となって、モータを回転させたり、ライト(LED)を点滅させたりします。このような組み込みシステムの構築について学びます。これには制御工学、計測工学の知識も必要となります。

(7) ネットワークの構造やネットワークプログラミングなどのネットワーク技術を学ぶ

インターネットの発展には目覚ましいものがあります。最近では素人でもインターネットに接続し、利用できるようになりました。単にネットワークを利用するだけならば情報技術の素人にも問題はありません。しかし、情報技術者はそれだけでは済

みません。トラブルが起きてもすぐ対処できる、システムの改善や改良を立案できる、実行できる、そうした「頼れる」情報技術者は、ネットワークの構造や原理を確実に知っておくことが必要となります。ネットワークを構成するケーブル、無線通信などのハードウェアから、通信方式、通信規約(ネットワークプロトコル)などのネットワークの原理、さらにネットワークプログラムの作り方について学びます。ネットワークプログラムはネットワークに関わるプログラム部品(ライブラリ)を使いますので、ネットワークの原理を知っておくことが必要となります。

(8) 人工知能などの先進的ハードウェア技術、ソフトウェア技術を学び、将来を展望する

コンピュータを人間の代わりとして利用するためには、人間が知覚する画像や音声の情報をコンピュータに処理させることが必要となります。さらに、人工知能などのソフトウェア技術や新しいハードウェアが次々と開発され、これまで考えられていた以上に広い範囲でコンピュータが人間の仕事をできるようになっています。コンピュータの先進的な利用技術を学び、皆さんが将来関わる仕事がどのように変わっていくかを展望します。

(9) コンピュータグラフィックス、Web技術、情報セキュリティ技術を学ぶ

魅力的なWebページは企業にとって重大な関心事となっています。Webページを魅力的なものとするために、コンピュータグラフィックスが活用されています。企業のWebページには、そうした見栄えのよいコンテンツ(情報の中身)だけでなく、注文・生産・発送などの業務処理を実現するためのアプリケーションも組み込まれています。そのようなシステムの実現には、最新のWeb技術や情報セキュリティ技術などが使われています。このような、コンピュータのコンテンツに関わる技術について学びます。

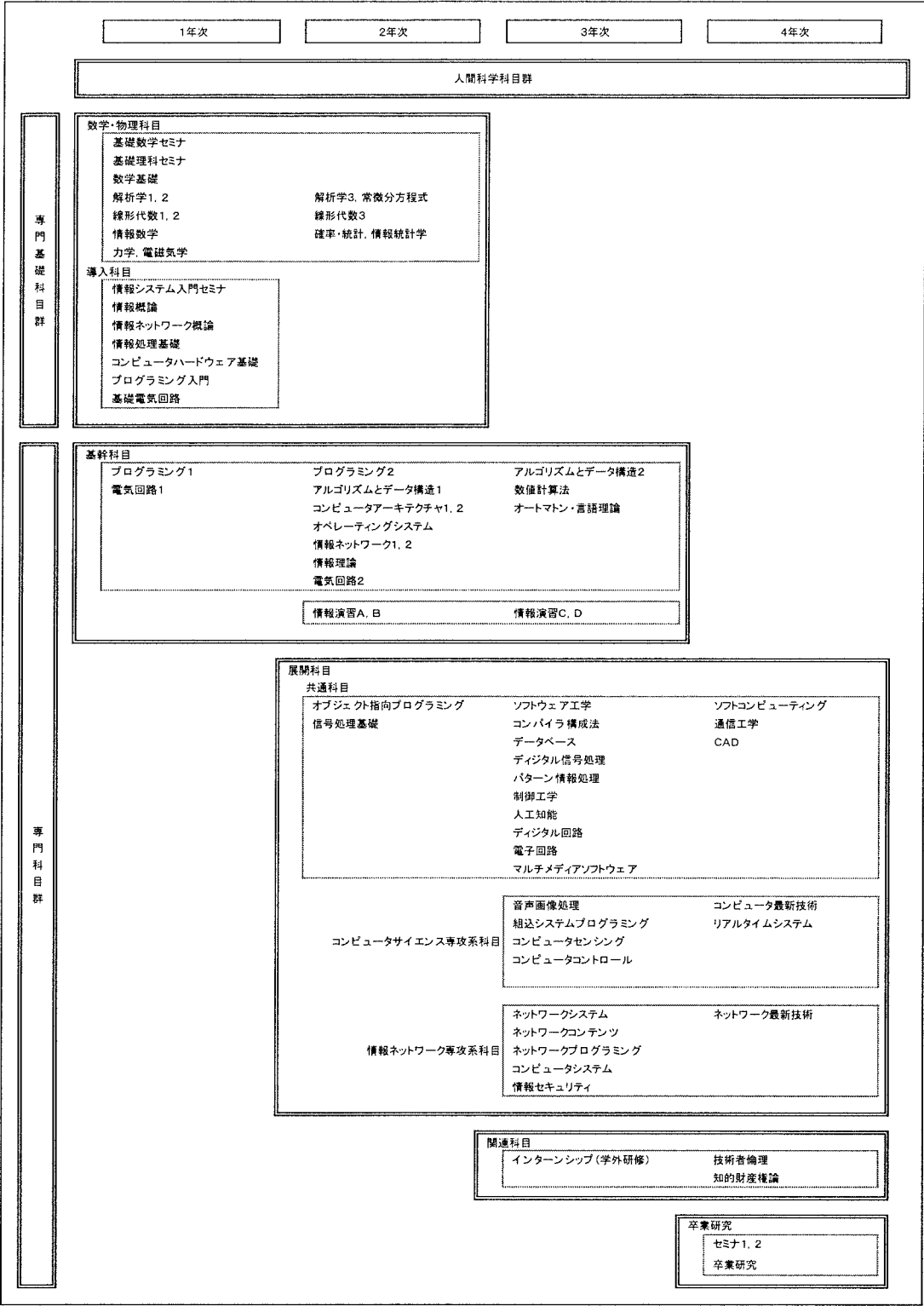
4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

第3章で説明した標準教育プログラムは、4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を示したものですので、皆さんが学修を進めていくためには、学修の達成に必要な授業科目が記された教育課程が必要です。

本学の教育課程は、授業科目を順次的・体系的に配置したうえで、①授業科目の順次性・体系性と学位授与の方針との関係性を説明するためのカリキュラム・フローチャートとカリキュラムマップが準備され、②授業科目ごとに学修到達目標を定め、さらに、③皆さんが進みたい進路の参考とするため、履修モデルも準備されています。

図-1は、標準教育プログラムに基づく教育課程の概念図をまとめたものです。教育課程は、人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の具体的な開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。

以下にそれぞれの授業科目の授業内容および達成目標について説明します。



図ー1 情報システム学科の教育課程の概念図

4・1 人間科学科目群

(1)教育内容

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ (First Year Seminar、略して FYS、初年次演習)とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「学習技法 (スタディ・スキルズ)」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。これをまず入学当初に身につけてもらうこと、そのことが皆さん方に4年間の充実した大学での学びを保証します。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方(つまり知的レベルをステップアップする方法)のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションの様々な方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応すること、言いかえると皆さんが手応えをもって大学生活を送ることを手助けするところにあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとすると、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、知的自己形成に資する技法です。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれにこたえねばなりません。

② 外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思われるかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「基礎英語グラマー1・2」と「基礎英語リーディング1・2」、2年次には「コミュニケーション英語1・2」を必修科目として開講しています。「コミュニケーション英語1・2」では関心に応じたコースを選ぶことができます。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「コミュニケーション英語3・4」という選択科目を開講しています。

③ 健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとして)も運動を継続して行えるような素地を身につけることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④ 基礎英語セミナー

基礎英語セミナーでは、基本的な英単語を習得すること、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることになります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群Bグループ

開講が予定されている講義系と演習系科目は、すべて次世代を担う一市民としての教養を磨き高めることを目的とします。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション能力」と「固定観念にとらわれず自ら考えを組み立てる力」に重点を置いています。人文科学、社会科学、自然科学、総合系の諸科目を取りそろえていますから、できるだけ偏りのないように履修し、修得することが望まれます。

私たちは文字通りグローバルな激動の世の中に生きています。世界はテクノロジーを介して、距離と時間に縛られることなく緊密に結びついています。しかしその一方で、善い事も悪い事もよその国の出来事ではすまされない時代に私たちは直面しています。

世界の同時不況から日本が立ち直りかけたと思われた矢先に、ギリシアに端を発するヨーロッパの通貨危機、東日本の大震災、原発事故等によってわれわれの暮らしは一変させられました。アラブ世界も大きく変容しています。ローカルな異文化衝突、民族紛争も止む気配がありません。それらは局地的に先鋭化を見せ、これが国際社会をいとも簡単に協調から敵対関係へ、あるいは資源の争奪へと巻き込みます。

具体的に皆さんに求められているのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵と活力を身につけることです。そのためには現在を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは協力しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学分野の学問が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では経済学、法学、政治学、社会学、社会調査の方法、地域研究がさまざまな社会の仕組みや国際関係を扱います。

また自然科学のアプローチから、われわれの思考や生活や身体を見直す諸科目も創設しました。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、行動生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身そのものに焦点を当てています。

2年次、3年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングやPBL(問題 or 課題解決型授業)を意識した少人数科目を開講しています。

以上の科目を選択履修することによって、幅広い知識の修得と同時に、全体としてのものの見方や考え方を学んでいくように努めてもらいます。その最も基本的な目標を繰り返せば、「論理的な思考力と的確な表現力の養成」です。つまり、物事を直感だけに頼らず、筋道を立てて順序よく考え、それを他人にわかりやすく伝える力を養うということです。

大学での勉学は、与えられた何かを繰り返し習い覚えること以上に、何が問題でその解決のためにはどうしたらよいのかについて、自分自身が考え始めるところに醍醐味があります。人間科学科目群Bグループがその糸口となることを願っています。

c. 人間科学科目群Cグループ

情報学部での1年次生および2年次生を対象に、社会人基礎力を養成する必修科目を開講しています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4. 2 専門基礎科目群

(1) 教育内容

専門基礎科目とは、皆さんが今まで身につけてきた知識や能力を大学での専門教育につなげるための科目です。専門基礎科目群では、数学、物理と専門の導入科目を学習します。これらの科目は、主に1年次の前期(1期)から2年次後期(4期)までに開講されます。

以下では、専門基礎科目群の概要を説明します。なお、各科目で何を学んで、どんな知識を習得するかに関しては、科目別の学修到達目標としてカリキュラムマップにまとめています。

①導入科目(計7科目)

情報システム入門 세미나、情報概論、情報処理基礎、コンピュータハードウェア基礎、プログラミング入門、情報ネットワーク概論、基礎電気回路

情報システム入門セミナーでは、学科・専攻の標準教育プログラムから、安全、キャリア(就職関連)まで大学生活に関わる様々なことを学び、教員の教育研究活動の説明を聞いて専門分野への興味を喚起します。情報概論では、情報の表現方法やコンピュータの仕組みに関するもっとも基礎となる原理から情報科学の面白さを学びます。情報処理基礎では、コンピュータ内部の演算処理である2進数の演算のほか、コンピュータを構成する基本的な論理回路、基本的な動作や命令を学びます。コンピュータハードウェア基礎では、デジタル回路の基礎となる基本論理回路とそれらの組み合わせにより構成される回路、その回路を実現する方法を学びます。プログラミング入門では、コンピュータ操作の基礎(タイピング、ワープロ、表計算ソフトウェア、電子メール)を学んでから、プログラミングを学びます。情報ネットワーク概論では、情報を送受信する技術を学んだうえで、インターネットで使われるプロトコル(通信規約)について学びます。基礎電気回路では、情報機器を構成する電気回路や電子回路の仕組みを理解するために必要となる基礎を学びます。

②数学物理科目(計13科目)

線形代数1、線形代数2、線形代数3、数学基礎、解析学1、解析学2、解析学3、常微分方程式、情報数学、情報統計学、確率・統計、力学、電磁気学

線形代数1、線形代数2、線形代数3では、2つのものの間に成り立つ関係のうち、もっともシンプルで多くのことの基礎となるのは「比例する」という関係ですが、この比例関係を多くのものの間の関係に拡張したものが、ここで学ぶ線形性と呼ばれる考え方です。これを学ぶことにより、理工系のみならず経済学、社会科学においても重要な、2つ以上のものの間に成り立つ関係をつかむ目が養われます。また線形性は平面や空間の幾何とも関係し、特に空間図形を把握する練習としても、線形代数の授業を活用してもらいたいと思います。

また、解析学1、解析学2、解析学3、常微分方程式では特に、近代科学技術文明の基礎とも言えるニュートン、ライプニッツに始まる解析学を、段階を追って学習していきます。変化の割合を表す微分法と、面積や体積を求める積分法とがどこでつながるのか。無限とか極限とかいう言葉がよく出てくるが、どういう意味なのか。こういったことをしっかり考えて学習することにより、解析学の基本的な考え方が身につく、数式とその表すものとの関係がわかるようになります。さらに常微分方程式を学ぶと、変化の割合がみたす式より将来を予測することが出来るようになり、自然の中に存在する因果関係(何が原因で何が結果か)にも目が向かうようになるでしょう。

また高等学校までの数学教育の多様化に対応し、他の数学系科目および自然科学、情報学系専門科目への準備となる科目として、数学基礎を開講しています。この科目の受講対象者は入学時に実施する学力試験の結果に基づいて決定され、受講対象者には1年前期に解析学1に先んじて、特に大学での専門教育に直結する基礎的な数学を精選して教授します。

情報統計学、確率・統計では、確率の性質、確率変数、確率密度関数、正規分布関数などの統計学の基本を学びます。また表計算ソフトウェアの関数機能を使って、実際に統計分析の演習を行ないます。これにより情報を定量的に扱うための基本的な考え方を学びます。力学では微分積分を利用して物体の運動方程式を解き、物体の運動を決定する方法を学びます。また、エネルギーと仕事についても学びます。

情報学部で物理学系科目には、力学と電磁気学があります。力学とは物体の運動を知ることが目的とする理論であり、その理論体系には自然科学と自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。力学では、ベクトルと微分積分を利用して、力の合成・分解や、物体の運動方程式を解くことで物体の運動を決定する方法を学びます。物事を理路整然と把握す

る考え方の具体例として、力学を学ぶと良いでしょう。電磁気学という理論体系は、電気回路や有線・無線通信の基礎です。電磁気学では、ベクトルと微分積分を使って電磁気現象の基礎法則の学習を通して、電子機器や電子部品の内部で起きる現象やそのメカニズムを理解する基礎を学びます。なお、電磁気学の中で、力学の考え方を応用する場面が随所に出てきます。電磁気学を学ぶ前に、力学を学んでおく必要があります。

(2)学修到達目標

以上に述べた内容を確実に理解し、自分のものとして活用できるレベルにする必要があります。学修到達目標は、具体的にどのような項目についてそれが達成されるべきかを示したものです。各科目の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

(3)基礎数学セミナ・基礎理科セミナ

ア [数学関係科目](基礎数学セミナ)

基礎数学セミナでは、数式を一目で把握し、スムーズに計算できることを目標にします。「何とかできる」ではなく「一目でスムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

イ [物理・化学関係科目](基礎理科セミナ)

大学で学ぶ科目の中には、理科の基礎知識を必要とするものが、物理・化学だけではなく、専門科目にも多くあります。基礎理科セミナでは、大学で学ぶ上で最低限必要となる基礎的な数値計算や単位の取り扱い、および自然科学的な基礎知識を身につけることを目標とします。「何とかできる」ではなく「スムーズにできる」ことが自然科学・工学の素養として大切で、そのためには十分な量の練習が必要です。なお、3年次修了までにこの科目を習得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

4. 3 専門科目群

(1)教育内容

専門科目群の授業科目は、主に2年次と3年次に開講される基幹科目、2年次後期から始まる展開科目、3年次と4年次の関連科目と卒業研究からなります。ここで、基幹科目とは専門科目の中でも根幹となる科目であり、専門知識を習得するときの土台となる科目です。また、展開科目とは、皆さんの興味や将来の進路に従って、より高度な専門科目の学習ができるように設けられた科目です。コンピュータサイエンス専攻と情報ネットワーク専攻の学習内容の違いは、この展開科目の選択の仕方(履修モデル)の違いとなります。それぞれの専攻に対して推奨する履修モデルを示していますので、それに従って科目を選択して下さい。しかし、学年が進むにつれて進路希望が多少変わってくることもあると思います。このため、他専攻の推奨科目を選択することも可能となっています(但し、受講者数が制限される場合もあります)。

以下では、専門科目群の教育内容の概要を説明します。なお、各科目で何を学んで、どんな知識を習得するかに関しては、科目別の学修到達目標としてカリキュラムマップにまとめています。

①基幹科目(計18科目)

基幹科目は、1年次の後期(2期)より3年次の後期(6期)までの間に学びます。基幹的な科目であるため、情報科学の主要な学問の大部分が含まれています。また、演習系として情報演習(4科目)を学びます。実際の情報機器を使いながら、実践能力を高める授業を行います。情報演習は、全学生にとって必修な演習です。

基幹科目: プログラミング1、プログラミング2、コンピュータアーキテクチャ1、コンピュータアーキテクチャ2、オペレーティングシステム、情報ネットワーク1、情報ネットワーク2、アルゴリズムとデータ構造1、アルゴリズムとデータ構造2、情報理論、オートマトン・言語理論、数値計算法、電気回路1、電気回路2(計14科目)

プログラミング1、プログラミング2では、C言語を対象にコンピュータ言語の基本的機能を学び、これらの機能を使ったプログラミ

ング実習を通じて、コンピュータの動作とデータ処理の基本を学びます。この場合、ある機能を果たすためには、どのようなデータをいかに処理するかに関する判断が必要となり、より実地的なプログラミング技術が身につきます。コンピュータアーキテクチャ1、コンピュータアーキテクチャ2では、コンピュータのハードウェアの理解に不可欠な論理素子の動作原理から、コンピュータの頭脳である中央処理ユニット、メモリ、入出力装置などのコンピュータを構成する各部品の役目と機能を理解し、コンピュータの設計手順や構成方法についてマイクロプロセッサなどの実例をもとに学びます。オペレーティングシステムは、コンピュータシステム全体の管理運用を行っている重要なソフトウェアです。オペレーティングシステムでは、コンピュータの起動時の動作、ファイルシステムの構成、プロセスの動作を理解し、オペレーティングシステムの重要性を学びます。情報ネットワーク 1、情報ネットワーク 2 では、コンピュータネットワークの構造、通信規約(プロトコル)、インターネットの成り立ちなどを学ぶとともに、ネットワークのアプリケーションとその正しい利用法を学びます。アルゴリズムとデータ構造1、アルゴリズムとデータ構造2では、コンピュータを使って問題を解決する方法と手続きを学びます。基本的なアルゴリズムの種類と方法を学びます。情報理論では、情報量を理論的に取り扱う基礎としてシャノンがまとめた理論を主体に情報量や通信容量を数学的に取り扱う方法を学び、現代の情報処理の基礎体系を知ることができます。オートマトン・言語理論では、一定の規則に従って並んだ記号列(抽象化した言語)を生成するモデル(言語理論)とそれらの言語を受理する装置(オートマトン)の理論を学びます。数値計算法では、数学的問題に対する数値解法を理解し、数値計算アルゴリズムを習得します。電気回路1では、1年次で学習した基礎電気回路をうけて、電気電子機器のあらゆる分野で不可欠な抵抗、コイル、コンデンサの交流回路を学びます。電気回路2では、回路計算を行う回路方程式の立て方、解き方について学びます。プログラミングは、コンピュータを自由に扱うための、もっとも基幹となる学問です。

演習系科目： 情報演習A、情報演習B、情報演習C、情報演習D (計4科目)

情報演習では実際の部品や測定器、コンピュータなどに触れて使用方法やその特性を学び、設計や製作を行ないながら、「もの」を作る楽しさを実感する演習を行います。計測装置の特性に合った計測方法など、実際のデータを評価する能力も培います。また、コンピュータネットワーク機器の操作を通してネットワーク技術を学び、コンピュータグラフィックスによりデジタル画像の作成・編集技術を学びます。

②展開科目(計27科目)

基幹科目で情報科学の基幹となる内容を学びますが、その上に積み上げられた学問を修得するのが展開科目です。展開科目としては、以下のものがあります。これらの科目については、コンピュータサイエンス専攻、情報ネットワーク専攻別に、科目選択の仕方(履修モデル)を決めています。詳細については、5項の履修モデルで説明します。

信号処理基礎、デジタル信号処理、制御工学、パターン情報処理、音声画像処理、データベース、ソフトウェア設計法、コンパイラ構成法、ソフトウェア工学、ソフトコンピューティング、人工知能、ネットワークプログラミング、情報セキュリティ、電子回路、デジタル回路、コンピュータセンシング、コンピュータコントロール、組込システムプログラミング、リアルタイムシステム、コンピュータ最新技術、オブジェクト指向プログラミング、ネットワークシステム、ネットワークコンテンツ、コンピュータシステム、ネットワーク最新技術、マルチメディアソフトウェア、CAD

信号処理基礎はアナログ信号(連続信号)を扱う基礎として、信号の表現方法やその特徴を把握するための数学を学びます。デジタル信号処理では、音声などの波形信号をデジタル化するためのサンプリング定理や信号解析を行なう高速フーリエ変換(FFT)の原理とその応用法を学びます。制御工学はコントロールする対象となる機械やロボットの特性を調べ、を思い通りに動かすための技術を学習します。パターン情報処理は画像や音の特徴を調べたり識別する方法の基本から実際問題の応用まで学びます。音声画像処理では、デジタル化された時系列の音声データ、および2次元や3次元の画像データを取り上げ、各種データ成分の分析や特徴抽出などに関する数学的な処理方法を学びます。

データベースでは、データの効率的な格納、高速な検索を実現するための技術について学び、さらにデータベースシステムの設計と保守・運用についても学びます。ソフトウェア設計法では、ソフトウェア開発のプロセスモデルを学び、要求分析・設計・プログラミング・テストと保守およびオブジェクト指向設計の基本を学びます。コンパイラ構成法では、高級言語で書かれたプログラムを

機械語プログラムに変換するコンパイラの構築技法について学びます。ソフトウェア工学では大規模なソフトウェア開発するための工学的アプローチとして構造化、オブジェクト指向などの考え方を学びます。

ソフトコンピューティングでは、人間の情報処理能力をモデルとした、コンピュータを高度かつ知的に利用するソフトウェア技術(柔軟な情報処理)について学びます。人工知能では、コンピュータによる問題解決の基礎となる探索、推論、知識の表現、学習などを学び、さらにその応用事例を学びます。ネットワークプログラミングでは、インターネットの中心となっている TCP/IP プロトコルを利用したプログラムを作成し、コンピュータ間の通信を実現する方法を学びます。情報セキュリティは情報ネットワークを安全面から支える技術として、暗号理論について学習します。

電子回路では、電子回路の理論と半導体素子の性質とを理解したうえで、増幅回路、発振回路、フィードバック回路などを作るための技術を学びます。デジタル回路では、コンピュータの中で使われるデジタル信号を発生したり、変換したりする回路を学びます。コンピュータセンシングでは、家電やロボットなどの機器に使われるセンサについて、その原理と、センサの信号をデジタル信号に変換してコンピュータに取り込むまでの技術について学びます。コンピュータコントロールでは、コンピュータ制御の基礎となるフィードバック制御から、コンピュータ制御系の構成要素や機能などを学びます。組込システムプログラミングでは、組込コンピュータのハードウェア構成からソフトウェア技術までを学びます。また、組込コンピュータ向けのプログラミング演習も行い、自動車・携帯電話など私たちの身の回りで使われているコンピュータに対する理解を深めます。リアルタイムシステムでは、多数のコンピュータが私たちの身の回りで使われている機器で使われていることを理解し、リアルタイムシステムの基礎概念から構造・処理方式・応用システムの実例までを学びます。コンピュータ最新技術では、最新のコンピュータ技術について、原理、構成、応用、発展可能性などを学びます。オブジェクト指向プログラミングでは、C 言語よりさらに進化してオブジェクト指向モデルに基づいた Java 言語によるプログラミングを学びます。ネットワークシステムでは、構内で用いられるローカルエリアネットワーク(LAN)と公衆網を介するワイドエリアネットワーク(WAN)の構成技術を学びます。ネットワークコンテンツでは、インターネットを使った情報発信と情報共有のしくみ、ならびに電子商取引技術・情報セキュリティ・ネットワーク著作権について学びます。コンピュータシステムでは、各種のコンピュータによる各種の分散処理などを取り上げ、それぞれの処理方式のシステム構成やソフトウェア構造などについて学び、さらには処理性能と信頼性などの評価指標・セキュリティについても学びます。ネットワーク最新技術では、最新のネットワーク技術について、原理、構成、応用、発展可能性などを学びます。マルチメディアソフトウェアでは、マルチメディアとデジタルコミュニケーションについて基本的な知識、及び文書、画像、映像のマルチメディアを処理する技術について実習を交えて学びます。CAD では、CAD機能を理解し、CAD作図法の基本について学び、さらにはCADを用いた電子回路の作図を通して製図に関する規格、図記号等について学びます。

③関連科目(3科目)

関連科目は、インターンシップ(学外研修)、技術者倫理、知的財産権論からなります。インターンシップ(学外研修)では、専門に関連した業務を企業などで体験します。技術者倫理では、技術が社会や環境にもたらす影響を考え、平素はもとより重大事故に遭遇したときや過ちを犯したときにも倫理的に正しく行動することについて学びます。知的財産権論では、知的財産権の種類、権利の内容および知的財産権に関する法律を学び、知的財産権の中でも特に重要な特許権に関して、特許権取得までの手続きなどを学びます。

④卒業研究(3科目)

卒業研究に関連する科目は、 세미나1、 세미나2、そして卒業研究からなります。 세미나1では、専門知識の総合的な学習、卒業研究テーマに必要な知識や技術について学び、卒業研究テーマを着手するための準備を行います。 세미나2では、技術者として知っておかなければならない専門用語や表現方法、まとめ方などを学びます。この中には、英語のマニュアルを理解したり作成したりすることも含まれます。卒業研究は4年間の学習の集大成であり、これまで学んできた知識を応用し、実践的な技術の修得を図ります。1人あるいは2人で特定のテーマの研究・調査を行い、未知なる問題に対する解決手段を模索することにより、講義とは異なる研究に対する取り組み方を学び、最後に研究成果を発表します。

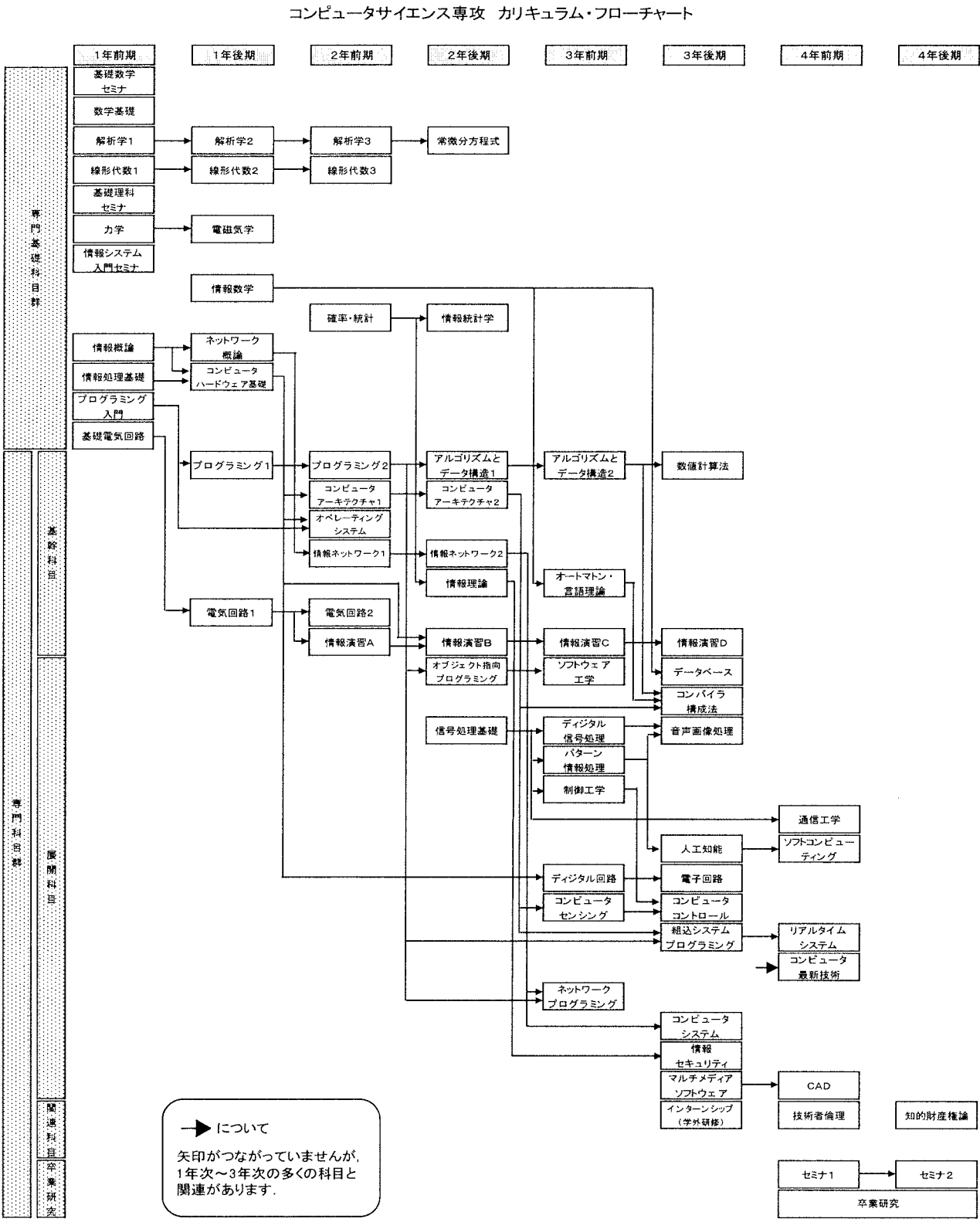
(2)学修到達目標

以上に述べた内容を確実に理解し、自分のものとして活用できるレベルにする必要があります。学修到達目標は、具体的に

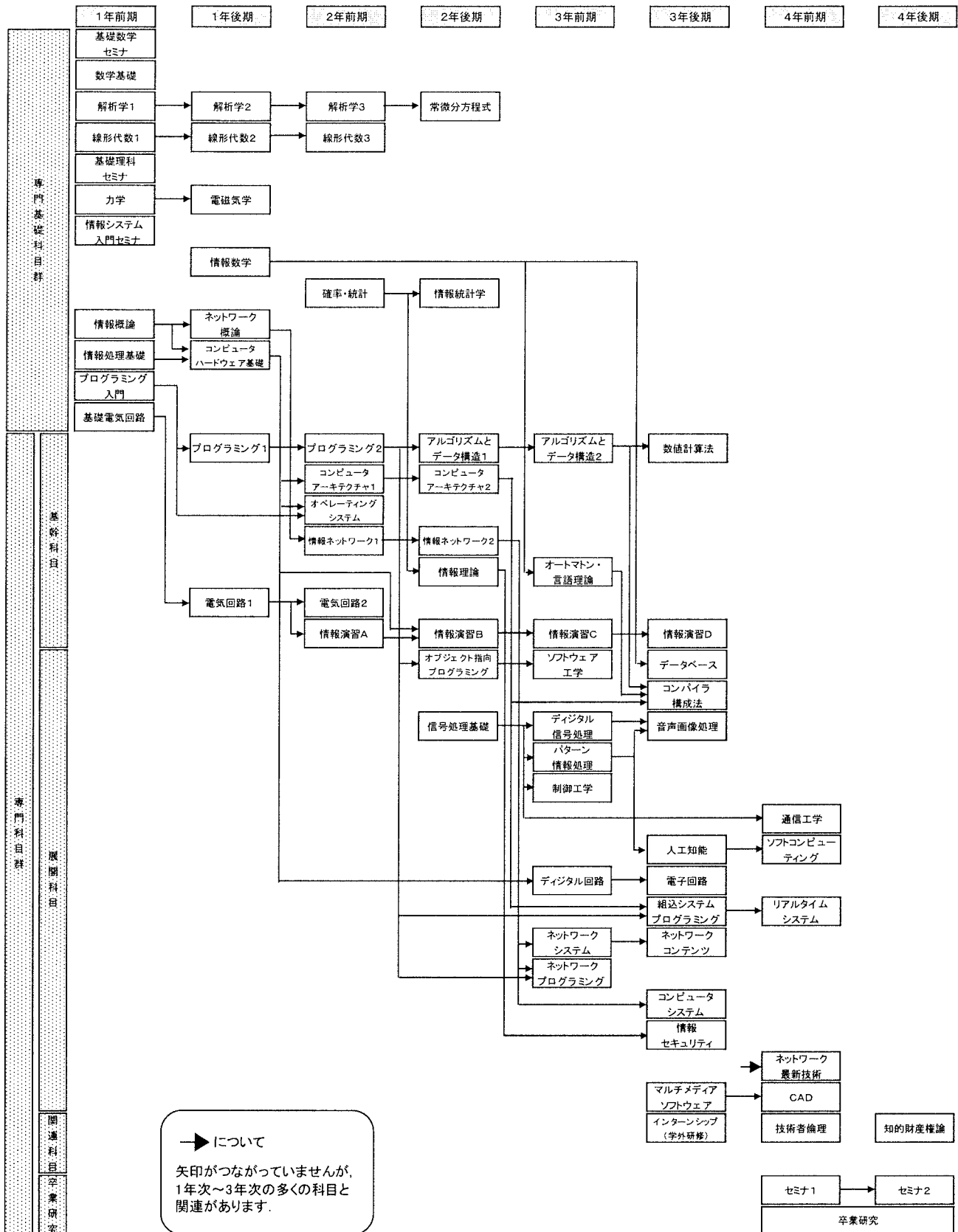
のような項目についてそれが達成されるべきかを示したものです。各科目の学修到達目標は、カリキュラムマップにまとめて示しています。

5. カリキュラム・フローチャート

1～2年次に開講される専門基礎科目群の授業科目は、情報システム学の基礎となる科目からなります。また、専門科目群の授業科目は、基幹科目・展開科目・関連科目・卒業研究からなります。専攻ごとの専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを以下に示します。



情報ネットワーク専攻 カリキュラム・フローチャート



6. 履修モデル

情報システム学科のコンピュータサイエンス専攻と情報ネットワーク専攻では、皆さんの将来の進路を想定して、専攻別に科目選択の推奨パターン(履修モデル)を用意しています。専攻別の履修モデルを図に示します。

卒業要件(卒業に必要な単位数)は、必修科目を全て含み、人間科学科目群として27単位以上、専門基礎科目群として17単位以上、専門基礎・専門科目群(自由科目を除く)として97単位以上、合計124単位以上が必要です。

専攻別の履修モデルは卒業要件を満たしつつ、各専攻の特徴に合わせてバランスよく構成されています。従って、なるべく自分の専攻の履修モデルに従って科目を選択して下さい。しかし、学年が進むにつれて進路希望が多少変わってくることもあると思います。このため、他専攻の推奨科目を選択することも可能となっています(但し、受講者数が制限される場合があります)。

(1) コンピュータサイエンス専攻

コンピュータサイエンス専攻では、ハードウェアとソフトウェアを学び、将来様々な分野で活躍できるコンピュータ技術者の養成を目標としています。パソコンや通信用サーバなどの汎用コンピュータの応用分野だけでなく、自動車、家電、工作機械、生産設備などにコンピュータが組み込まれた機器の開発・運用に関わる技術者としての活躍も期待されます。このため、組み込みシステムの開発技術などを履修モデルに取り入れています。

コンピュータサイエンス専攻の教育の特色として、

1年次よりプログラミングを学び始めます。

電子回路技術も学び、コンピュータ組み込み機器の開発に役立つ技術を学びます。

講義のみならず実習を重視した教育で確かな技術を身につけられます。

コンピュータサイエンス専攻の履修モデルに従って学習を進めていけば、卒業するときには、ハードウェアとソフトウェアの両方の技術を身につけ、コンピュータ関連企業のみでなく、様々な機器製造業に必要とされる技術者になることができます。進路先は、情報通信機器産業、コンピュータ関連機器産業、計測制御機器産業、民生用電子機器産業、医療福祉機器産業、OA機器産業、ベンチャー企業、教員、官公庁、大学院等があります。

(2) 情報ネットワーク専攻

情報ネットワーク専攻では、ハードウェアとソフトウェアの基礎をしっかりと学んだ上で、普及・発展が目覚ましいネットワーク技術を詳しく学びます。コンピュータの基礎を身につけますので、コンピュータ技術者になることはもちろん、人材ニーズの高いネットワーク技術者として、またネットワーク上に流通するデジタルコンテンツの企画・制作者として活躍することも可能です。このため、履修モデルにはネットワーク科目が十分取り入れられています。

情報ネットワーク専攻の教育の特色として、

ネットワークプログラムの作成に使われる主要なプログラミング言語を学びます。

インターネットなどで使われるネットワーク技術の基礎を修得します。

演習用ネットワークを駆使して、ネットワークの確かな技術を身につけられます。

情報ネットワーク専攻の履修モデルに従って学習を進めていけば、卒業するときには、コンピュータ関連企業や、情報ネットワークベンチャー企業で活躍できる技術者になることができます。進路先は、コンピュータソフトウェア企業、情報通信産業、ネットワークサービス産業、マルチメディア関連産業、アミューズメント産業、広告・流通産業、ベンチャー企業、教員、官公庁、大学院等があります。

コンピュータサイエンス専攻 履修モデル

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
人間科学科目群		人間科学科目群 27単位							
専門基礎科目群	情報システム入門セミナー								必修科目
	情報概論		情報ネットワーク概論						選択科目
	情報処理基礎		コンピュータハードウェア基礎						自由科目
	プログラミング入門								推奨科目
	基礎電気回路								
	基礎数学セミナー								
	数学基礎								
	解析学1		解析学2	解析学3	常微分方程式				
	線形代数1		線形代数2	線形代数3					
			情報数学	確率・統計	情報統計学				
	基礎理科セミナー								
	力学		電磁気学						
		専門基礎科目: 41単位中33単位							
基幹科目	プログラミング1		プログラミング2	アルゴリズムとデータ構造1	アルゴリズムとデータ構造2	数値計算法			
			コンピュータアーキテクチャ1	コンピュータアーキテクチャ2					
			オペレーティングシステム						
			情報ネットワーク1	情報ネットワーク2					
				情報理論	オートマトン・言語理論				
	電気回路1		電気回路2						
			情報演習A	情報演習B	情報演習C	情報演習D			
		基幹科目: 44単位中40単位							
展開科目	共通科目		オブジェクト指向プログラミング	ソフトウェア工学	データベース				
					コンパイル構成法				
			信号処理基礎	ディジタル信号処理					
				パターン情報処理					
				制御工学					
						通信工学			
						人工知能	ソフトコンピューティング		
				ディジタル回路		電子回路			
						マルチメディアソフトウェア	CAD		
						音声画像処理			
コンピュータサイエンス専攻系科目	情報ネットワーク専攻系科目		組込システムプログラミング	リアルタイムシステム					
			コンピュータセンシング	コンピュータコントロール	コンピュータ最先技術				
			ネットワークプログラミング	コンピュータシステム					
				情報セキュリティ					
		展開科目: 46単位中14単位							
関連科目	卒業研究		インターンシップ(学外研修)	技術者倫理	知的財産権論				
			インターンシップは受入企業がある場合、3年次の夏期休暇中に実施する。						
		卒業研究: セミナ1, 2を含めて10単位							
		セミナ1 セミナ2 卒業研究							

(注) 網掛け部分の合計単位数(卒業要件) = 124単位
 人間科学科目27単位 + 基礎科目33単位 + 基幹科目40単位 + 展開科目14単位 + 卒業研究10単位

情報ネットワーク専攻 履修モデル

		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
人間科学科目群		人間科学科目群 27単位								
専門基礎科目群	情報システム入門セミナー							必修科目		
	情報概論	情報ネットワーク概論							選択科目	
	情報処理基礎	コンピュータハードウェア基礎							自由科目	
	プログラミング入門							推奨科目		
	基礎電気回路									
	基礎数学セミナー									
	数学基礎									
	解析学1	解析学2	解析学3	常微分方程式						
	線形代数1	線形代数2	線形代数3							
		情報数学	確率・統計	情報統計学						
	基礎理科セミナー									
	力学	電磁気学								
									専門基礎科目: 41単位中33単位	
	基礎科目	プログラミング1	プログラミング2	アルゴリズムとデータ構造1	アルゴリズムとデータ構造2	数値計算法				
		コンピュータアーキテクチャ1	コンピュータアーキテクチャ2							
		オペレーティングシステム	情報ネットワーク1	情報ネットワーク2	情報理論	オートマトン・言語理論				
電気回路1		電気回路2	情報演習A	情報演習B	情報演習C	情報演習D				
						基幹科目: 44単位中40単位				
						履修者の半数は、情報演習D、情報演習Cの順で履修する。				
専門科目群		展開科目	共通科目							
			オブジェクト指向プログラミング	ソフトウェア工学	データベース	コンパイル構成法				
			信号処理基礎	デジタル信号処理	パターン情報処理	制御工学				
			デジタル回路	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD				
			ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術					
			ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ					
			通信工学	ソフトコンピューティング						
			人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD				
	音声画像処理		組込システムプログラミング	リアルタイムシステム						
	ネットワークシステム		ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術						
	ネットワークプログラミング		コンピュータシステム	情報セキュリティ						
	通信工学		ソフトコンピューティング							
	人工知能		電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD					
	音声画像処理		組込システムプログラミング	リアルタイムシステム						
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク最新技術								
ネットワークプログラミング	コンピュータシステム	情報セキュリティ								
通信工学	ソフトコンピューティング									
人工知能	電子回路	マルチメディアソフトウェア	CAD							
音声画像処理	組込システムプログラミング	リアルタイムシステム								
ネットワークシステム	ネットワークコンテンツ	ネットワーク								

(注) 網掛け部分の合計単位数(卒業要件) = 124単位

人間科学科目27単位 + 基礎科目33単位 + 基幹科目40単位 + 展開科目14単位 + 卒業研究10単位

情報学部 情報システム学科 カリキュラムマップ

大学の目的
大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

学部 の 教育研究上の目的
情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

学科 の 教育研究上の目的
情報学部情報システム学科は、情報処理システムや情報通信システムに関する知識と技術を有し、研究から得られる多彩な知恵と創造力をもって、社会の多方面で活躍できる人材を育成することを目的とする。

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修	選択	自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤ－・ 세미나	1				1 [2]	スタディ・スキルズとは。ノート・テイキング。リーディングのスキルと文章要約。図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践	高校と大学の学びの違いが理解できる。 ノートの取り方が効果的にできる。 文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。 図書館の利用法がわかる。 レポートの作成の必要手順が分かる。 基本的なレポートの作成ができる。 プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。 プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。 授業科目の貢献度
		基礎英語グラマー1	1				1 [2]	この授業では、4技能（読む・聴く・書く・話す）の基礎としての文法力を固めるために体系的な文法教育をおこない、文法的な基礎力に裏打ちされたコミュニケーション能力の向上をはかることを目標とします。そのために文法法則の単なる暗記ではなく、英語による自己表現能力や運用能力の基盤としての文法力を身につけてもらうことをめざします。	品詞の性質の違いについて理解できる。 さまざまな時制を英語で適切に表現できる。 標準的な文章の主語と述語動詞を正しく指摘することができる。 5つの文型について正しく判別することができる。 文法にしたがって、正しく和訳することができる。 授業科目の貢献度
		基礎英語グラマー2	1				2 [3]	この授業では、前期に開講されている基礎英語グラマー1の内容を継続・発展させるかたちで、4技能（読む・聴く・書く・話す）の基礎としての文法力を固めるために体系的な文法教育をおこない、文法的な基礎力に裏打ちされたコミュニケーション能力の向上をはかることを目標とします。そのために文法法則の単なる暗記ではなく、英語による自己表現能力や運用能力の基盤としての文法力を確実に身につけてもらうことをめざします。	受動態をつかって英文を書くことができる。 不定詞の3つの用法について正しく判別することができる。 関係代名詞の用法ならびに種類について正しく理解することができる。 that節や関係詞節など、節を含む構造の文章を正しく和訳することができる。 これまで学習した文法項目を用いて、自分の考えを表現することができる。 授業科目の貢献度
		基礎英語リーディング1	1				1 [2]	この授業では、リーディング手法を体得してもらうとともに、語彙力の向上をはかるようにしていきます。リーディングという英語から日本語に訳すことと思うかもしれませんが、特に英語の語順のまま英文の内容を把握する能力の基礎を養成します。	英文の構造を把握しながら基礎的な英文を読み進めることができる。 英語の論理展開を理解しながら、基礎的な英文を読み、その内容を理解することができる。 基礎的な英文の意味を理解しながら、音読することができる。 基礎的な語彙（英単語および英熟語）の意味を理解できる。 英文の題材を通じて、自然環境、社会問題、異文化についての理解を深めることができる。 授業科目の貢献度

学位授与の方針	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。	I. 情報学分野における基礎理論を理解し自らの問題に応用できる
	B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応できる素養を身につけることができる。	J. 情報学分野の専門知識と理論を理解し他者と深く議論できる
	C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。	K. 実験・実習を通して理論と現象を結びつけて分析・理解・説明できる
	D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。	L. 課題解決に必要なツールを探索し使いこなす自らのスキルを向上できる
	E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。	M. 研究的活動も含め、実験・実習を通して問題発見・課題解決できる
	F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。	
	G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。	
	H. 情報学の基礎として数学、自然科学を活用することができる。	

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
		10											10
		10											10
		10											10
		10											10
		10											10
		10				10							20
		10											10
		10				10							20
0	0	80	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8					2							20
58	40	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8					2							20
10	6		2			2							20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	基礎英語リーディング2	1	2 [3]	この授業では、前期に開講されている基礎英語リーディング1の内容を継続・発展させるかたちで、リーディング手法を体得してもらうとともに、語彙力の向上をいっそうはかるようにしていきます。リーディングというと英語から日本語に訳すことと思うかもしれませんが、特に、英語の正しい発音で音読ができるようにしつつ、英語の語順のまま内容を把握する能力の基礎を養成します。	英文の構造を把握しながら、より正確に英文を読み進めることができる。 英語の論理展開を理解しながら、英文を読み、その内容をより深く理解することができる。 英文の意味を理解しながら、より流暢に音読することができる。 基礎的な語彙（英単語および英熟語）の意味を瞬時に理解できる。 英文の題材を通じて、自然環境、社会問題、異文化についての理解をより深めることができる。
					授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語1 〈英語会話コース〉	1	3 [4]	この授業では、ますますグローバル化する21世紀の中でコミュニケーションのツールとして重要な英語力の向上を図ることを狙いとしています。特に、英語のリスニング力を高めることに主眼を置き、その基礎ともなる語彙力も増強してもらうことにします。	日常に使われる基礎的な英語の語彙を理解できる。 ビジネスで使われる基礎的な英語の語彙を理解できる。 提示された状況を説明する英語を聞き取り、大まかに理解することができる。 基礎的な英語の質問を聞き取り、大まかに理解することができる。 状況を大まかに推測しながら、英語を聞き取ることができる。
					授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語1 〈総合英語コース〉	1	3 [4]	この授業では、1年次の基礎英語文法・基礎英語リーディングを基盤として「読む・聴く・書く・話す」など、英語の総合的運用能力の養成をはかります。また、ビジネスや日常に関する語彙力の強化をはかることにより英語によるコミュニケーション能力を高め、TOEIC等の資格試験に対しても全般的な対応ができる能力を養成します。	英語を通して得た一般常識や時事的な知識を使って、問題を解くことができる。 問題解決に必要な重要単語や重要表現の意味を理解し、身につけることができる。 まとまりのある英文を聴き、重要語句や重要表現を聴き取ることができる。 まとまりのある英文を読み、文型や語順、品詞に注意しながら、要点を把握することができる。 習得した重要単語や重要表現を使って、口頭や文書で短い質問をしたり、答えたりすることができる。
					授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語1 〈キャリアコース〉	1	3 [4]	この授業では、品詞、代名詞、動詞の時制、進行形、完了などの基礎的な英文法を学習します。交通やインターネットなど身の回りの事柄に関する英語の語彙力の強化も図ります。	主語・動詞や代名詞や助動詞に注意して、英文を正しく解釈することができる。 語の形や文中での位置から品詞を見分けることができる。 動詞の時制や進行形の意味と用法を理解することができる。 完了表現の形・意味と用法を理解することができる。 交通、インターネットなど特定の場面でよく使われる単語の意味を理解することができる。
					授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語2 〈英語会話コース〉	1	4 [5]	この授業では、前期のコミュニケーション英語1〈英語会話コース〉の内容を継続・発展させながら、英語のリスニング力を高めることに主眼を置き、その基礎ともなる語彙力も増強してもらうことにします。	日常に使われる英語の語彙を理解できる。 ビジネスで使われる英語の語彙を理解できる。 基礎的な英語の対話を聞き取り、大まかに理解できる。 基礎的な英語の説明文を聞き取り、大まかに理解できる。 状況を推測しながら、英語を聞き取ることができる。
					授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語2 〈総合英語コース〉	1	4 [5]	この授業では、前期のコミュニケーション英語1〈総合英語コース〉の内容を継続・発展させながら、「読む・聴く・書く・話す」の4技能に裏打ちされた実社会で要求される実用的な英語力の向上をめざします。また、ビジネスや日常に関する語彙力の強化を引き続きはかることにより、英語によるコミュニケーション能力をいっそう高めます。	一般常識や時事的な知識を、英語を通して自発的に学ぶことができる。 問題解決に必要な重要単語や重要表現を身につけ、それらが使われている表現の中で、ふさわしい意味を理解することができる。 まとまりのある英文を聴き、その状況を理解しながら、要点を把握することができる。 まとまりのある英文を読み、時制や代名詞、接続詞に注意しながら、話の展開を理解することができる。 習得した重要単語や重要表現を使って、口頭や文書で、ある程度まとまった情報を伝えたり、相手からの情報を理解することができる。
					授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語2 〈キャリアコース〉	1	4 [5]	この授業では、前期のコミュニケーション英語1〈キャリアコース〉の内容を継続・発展させながら、不定詞や動名詞、関係代名詞などの基礎的な英文法を学びます。ビジネスにおける人事や顧客サービスなど身の回りの事柄に関する英語の語彙力も強化します。	受動態や使役表現の意味と用法を理解することができる。 動名詞の意味と用法を理解することができる。 不定詞の意味と用法を理解することができる。 who, which, whatなど基本的な関係代名詞の意味と用法を理解することができる。 会議や接客など特定の場面でよく使われる単語の意味を理解することができる。
					授業科目の貢献度	

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8					2							20
10	6		2			2							20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	100
14	6												20
12	5					3							20
12	5					3							20
12	5					3							20
12	5					3							20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	100
10	7		2	1									20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	2					6							20
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
9	8					3							20
57	40	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	100
14	6												20
12	5					3							20
12	5					3							20
12	5					3							20
12	5					3							20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	100
10	6		2	2									20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	2					6							20
58	32	0	2	2	0	6	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
9	8					3							20
57	40	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修	選択	区分自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	コミュニケーション英語3 (検定コース)	1			5	この授業では、基礎英語リーディング1・2、基礎英語グラマー1・2、コミュニケーション英語1・2の学習内容を基に、TOEIC等の英語の資格試験に対処できる基礎力を身につけることを目的としています。	動詞の時制や進行形について理解することができる。 名詞や冠詞などについて理解することができる。 疑問詞、形容詞、副詞などについて理解することができる。 語形や文中での位置を参考にして語の品詞を見分けることができる。 200語程度の英文を読んで、キーワードを見つけ、概要を理解することができる。 繰り返し出てくる基本語彙の意味を理解し、文中で正しく解釈することができる。 英語の強弱のリズムやイントネーション、音のつながりなどの音変化について理解し、それらに注意して英文を聴くことができる。 英語の短い説明文や会話を聴いて、概要を理解することができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語3 (キャリア支援コース)	1			5	この授業では、基礎英語リーディング1・2、基礎英語グラマー1・2、コミュニケーション英語1・2を踏まえて、卒業後のビジネスに関わる英語によるコミュニケーション能力の養成を図ります。	100語程度の基礎的な英文を聞き手に、内容を大まかに、伝達することができるように音読することができる。 身の回りの状況を簡易な英語を用いて、口頭で説明することができる。 英語で基礎的な質問を受け、その質問に英語で答えることができる。 提示された情報を理解し、基礎的な英語を用いて口頭で対処することができる。 与えられたテーマについて、自身の意見を100語程度の英文で書き表すことができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語4 (検定コース)	1			6	この授業では、コミュニケーション英語3<検定コース>の内容を継続・発展させながら、TOEIC等の英語の資格試験に対処できる基礎力を身につけることを目的としています。	不定詞、動名詞、助動詞などについて理解することができる。 関係代名詞、分詞、完了、受動態などについて理解することができる。 前置詞、接続詞、代名詞などについて理解することができる。 語形や文中での位置を参考にして語の品詞を見分けることができる。 400語程度の英文を読んで、事実関係を把握することができる。 繰り返し出てくる基本語彙の意味を理解し、文中で正しく解釈することができる。 英語の強弱のリズムやイントネーション、音のつながりなどの音変化について理解し、それらに注意して英文を聴くことができる。 英語の短い説明文や会話を聴いて、概要を理解することができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語4 (キャリア支援コース)	1			6	この授業では、コミュニケーション英語3<キャリア支援コース>の内容を継続・発展させながら、卒業後のビジネスに関わる英語によるコミュニケーション能力の養成を図ります。	100語程度の基礎的な英文を聞き手に、内容を伝達することができるように正確に音読することができる。 身の回りの状況について英語を用いて、口頭で説明することができる。 英語で質問を受け、その質問に英語で答えることができる。 提示された情報を理解し、英語を用いて口頭で対処することができる。 与えられたテーマについて、自身の意見を150語程度の英文で論理的に書き表すことができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習A (卓球)	1			1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートのつながりができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサービスを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習A (バドミントン)	1			1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつながり出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
7	5												12
7	5												12
7	5												12
7	5												12
7	3					2							12
7	5												12
7	5												12
7	5					4							16
56	38	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	6					2							20
12	6					2							20
12	6					2							20
12	2					6							20
60	28	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	100
7	5												12
7	5												12
7	5												12
7	5												12
7	3					2							12
7	5												12
7	5												12
7	5					4							16
56	38	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	6					2							20
12	6					2							20
12	6					2							20
12	2					6							20
60	28	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習A (硬式テニス)	1		1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる 授業科目の貢献度
		健康科学演習A (フットニス)	1		1	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。 自分の体と向きあうことができた。 積極的に仲間づくりができた。 動作を3つ以上考え、発表できた。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (卓球)	1		2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートをつなぎができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサーブを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (バドミントン)	1		2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (硬式テニス)	1		2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (フットニス)	1		2	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。 自分の体と向きあうことができた。 積極的に仲間づくりができた。 動作を3つ以上考え、発表できた。 授業科目の貢献度
	Bグループ	日本文学A	2		3・5	文学作品の読解を通じて、言葉と感性に磨きをかけ、人間と社会について多面的に考察する。	文学作品をはじめとする各種文章の内容を客観的に読み取ることができる。 講義内容について理解、考察したことを論理的に文章で表現できる。 文学的文章を通じて、言葉に対する感受性を磨き、自己認識を広げる。 文学作品と周囲の文化遺産（行事や風習、文化財）とを関連付けて理解できる。 講義内容を通じて、文学の中における人間社会の普遍的テーマについて考察できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		30											30
		30											30
					20								20
					20								20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		15											15
		10											10
		10											10
		10											10
		15											15
					20								20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	100
		30											30
		30											30
					20								20
					20								20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	日本文学B	2	4・6	文学作品の読解を通じて、自ら課題を発見し、それに論理的でかつわかりやすい表現を与える。	文章の構成を正しく捉え、要旨を的確に把握することができる。 講義内容について理解、考察したことを論理的でわかりやすい文章で表現できる。 文学作品の中から、自分の力で課題を発見、追究することができる。 文学作品と周囲の文化遺産（行事や風習、文化財）とを関連付けて理解できる。 講義内容を通じて、文学の中における人間社会の普遍的テーマについて考察できる。 授業科目の貢献度
		外国文学A	2	1・3・5	外国文学の読解を通じて、作家の思考や言語感覚にふれ、自分が生きる現在とは異なる世界を経験する。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。 文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。 文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。 自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。 文学作品について、自分の見解などを適切な言葉で書くことができる。 授業科目の貢献度
		外国文学B	2	2・4・6	外国文学の精読を通じて、異なる時代・文化の深層を理解し、自分自身の考え方を相対化する視点をもつ。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。 文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。 文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。 文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。 文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。 授業科目の貢献度
		哲学A	2	1・3・5	西洋哲学史の概論を通じて、その世界観に触れるとともに、自分を知る。	プラトン哲学におけるイデア論について説明できる。 デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。 啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。 西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。 知的リフレッシュメントを味わうことができる。 授業科目の貢献度
		哲学B	2	2・4・6	モラル、道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学という学問そのものの意義について理解できる。 哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。 「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。 おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。 自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。 授業科目の貢献度
		文化人類学A	2	3・5	さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	現代における人間像について様々な角度から考えることができる。 様々な文化を比較することができる。 習慣の意味が理解できる。 形のないものの価値について考えることができる。 現代社会がかかえる問題点について考えることができる。 授業科目の貢献度
		文化人類学B	2	4・6	文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	アイデンティティとは何かについて理解できる。 文化について様々な考え方が理解できる。 現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。 「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考えることができる。 コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分(単位)自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	歴史学 A		2	1・3・5	日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	日本の近代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。 国際環境と関連づけて日本の近代史を理解できる。 西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。 歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。 過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。 授業科目の貢献度
		歴史学 B		2	2・4・6	近代日本が主体的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	日本の近現代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。 東アジアのなかでの近現代日本の位置づけが理解できる。 日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。 歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。 過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。 授業科目の貢献度
		心理学 A		2	1・3・5	人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について、理解することができる。 学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。 欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。 発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。 パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができる。 授業科目の貢献度
		心理学 B		2	2・4・6	他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己概念および自己表出（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができる。 人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができる。 対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。 集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。 集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができる。 授業科目の貢献度
		教育原理		2	1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。 近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。 教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。 近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。 授業科目の貢献度
		教育心理学		2	3	「教育」という営みをとおしてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのあり様を捉えると同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことかを理解し、認知・感情・社会性（愛着など）の発達の様相を把握することができる。 発達上の「青年期」の特徴を理解し、青年にまつわる現代的問題について心理学的な観点から考察することができる。 条件づけや観察学習、記憶の基本的なメカニズムを理解することができる。 欲求と適応（／不適応）との関係、およびフラストレーション・コンフリクトの発生メカニズムを理解することができる。 動機と動機づけの違い、および達成動機と親和動機の関連について理解することができる。 「リーダーシップ」や「ソシオメトリー」などの観点から、学級集団の特徴・構造を把握することができる。 生徒の「問題行動」の内容・実態を把握し、それらへの対応策について心理学的な観点から考察することができる。 「パーソナリティ」概念、およびそのとらえ方を理解することができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				30									30
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			10										10
			10	10									20
			10										10
			10										10
			10										10
			10										10
			10	10									20
			10										10
0	0	0	80	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 (単位) 必修 選択 自由	区分 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	政治学 A	2		1 3 5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。 自由民主主義の理論と政治制度について理解する。 議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。 政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。 自分と政治との関わりについて考えることができる。
							授業科目の貢献度
		政治学 B	2		2 4 6	現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。 現代民主主義の理論的特徴について理解する。 現代民主主義の制度的特徴について理解する。 現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。 授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
		経済学 A	2		1 3 5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的思想法を身に着ける。	経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。 資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。 経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。 経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		経済学 B	2		2 4 6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。 日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。 歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。 日本の企業の特性・構造について説明できる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		法学 A	2		3 5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	法の発生過程を説明できる。 第一次的社会規範と法の違いを説明できる。 法を解釈することの必要性を説明できる。 解釈方法の分類ができる。 社会現象に目を向け、その事に関し意見を持つことができる。 日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。
							授業科目の貢献度
		法学 B	2		4 6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。 日本国憲法の基本原則が説明できる。 日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。 基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。 表現の自由とその制約原理を説明できる。 違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。
							授業科目の貢献度
		社会学 A	2		1 3 5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	社会学のイメージをつかむ 方法論的个人主義（ヴェーバー）と方法論的集団主義（デュルケム）の違いを理解する 社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる 「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する 東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				10									10
				20									20
				10									10
				30									30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				20									20
				10									10
				10									10
				30									30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10									10
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10									10
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				20									20
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	社会学B	2	2・4・6	社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なった論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを目指す。	社会学が持つ分析手法（量的・質的）や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。 個人化という概念について説明できるようになること。 ネオリベラリズム（新自由主義）という概念について説明できるようになること。 非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。 グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。 授業科目の貢献度
		社会調査の方法A	2	3・5	質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。 母集団及び標本抽出について理解する。 量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイ二乗検定）について理解する。 統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。 質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。 授業科目の貢献度
		社会調査の方法B	2	4・6	社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施（調査設計、データ収集、データ分析）に必要な知識を学び、それを活用してみる。	社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。 統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。 疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。 調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。 質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。 授業科目の貢献度
		地域研究A	2	3・5	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。 地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。 授業科目の貢献度
		地域研究B	2	4・6	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、社会的・思想的・文化的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる 地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる 授業科目の貢献度
		教育社会学	2	2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。 学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。 教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。 学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。 授業科目の貢献度
		健康科学A	2	1・3・5	生命・身体の仕組みについて学ぶことによって傷害や疾病などへの理解を深める。	体の仕組みについて理解できる。 発育の仕組みについて理解できる。 年齢とからだの関係について理解できる。 健康について理解できる。 健康に対する取り組みについて理解できる。 授業科目の貢献度
		健康科学B	2	2・4・6	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。	身体の動く仕組みについて理解できる。 人体の構造について理解できる。 障害について理解できる。 傷害について理解できる。 体力について理解できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
				20									20
				20									20
				20									20
				30									30
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10									10
			10	10									20
				10									10
		10	10	10									30
		10	10	10									30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		10		10									20
		10		10									20
			10	10									20
			10	10									20
			10	10									20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	認知科学 A	2	3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。 知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。 認知機能の神経機構について説明することができる。 ヒューマンエラーの原因について説明することができる。 認知科学の哲学的な問題を説明することができる。 授業科目の貢献度
		認知科学 B	2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。 我々が当たり前のように行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。 記憶のメカニズムや分類について説明することができる。 自覚できない心の働きがどのようなプロセスを経て、人間の行動に影響しているかを説明することができる。 ヒューマンエラーが生じる理由と、それを未然に防ぐ方法について論じることができる。 ヒトとヒト以外（ロボット、昆虫、ネアンデルタール人等）の共通点と相違点を説明することができる 授業科目の貢献度
		環境科学 A	2	3・5	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。	地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。 地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。 地球環境問題対策を理解する。 地球の進化と環境変化を結びつけて理解する。 授業科目の貢献度
		環境科学 B	2	4・6	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。	海洋と大気を総論的に理解する。 太陽系の惑星と地球環境の違いを理解する。 生態資源とエネルギー資源枯渇問題を理解する。 生命の生存条件を理解する。 授業科目の貢献度
		地球科学 A	2	3・5	地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。	与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。 最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。 鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。 水の特性から生物に与える影響が理解できる。 古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。 地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。 授業科目の貢献度
		地球科学 B	2	4・6	地球科学の基本を学ぶことから、将来の地球と人間社会のあり方を考察する。	天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。 様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。 地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。 日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。 太陽系の進化から地球の未来像を把握する。 授業科目の貢献度
		行動生物学 A	2	3・5	行動生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	行動生物学の一分野である行動生態学がどういった学問であるか説明をすることができる。 現代生物学での細胞や遺伝に関する基本的な用語考え方を説明することができる。 自然選択における代謝と自己増殖について説明することができる。 性選択と自然選択の違いについて説明することができる。 進化に関する基本的な用語を説明できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					10								10
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					10								10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					40								40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					40								40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					10								10
					20								20
					20								20
					10								10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	行動生物学B	2	4・6	動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的な視点から考察する。	生物の示す行動の多様性を理解することができる。
						Tinbergenの4つの「なぜ」を用いて生物の行動を考えることができる。
						生物が進化するメカニズムを理解することができる。
						ヒトの進化史を大まかに説明することができる。
						他の動物との比較でヒトの行動の進化を説明することができる。
						授業科目の貢献度
		自然科学概論A	2	1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。
						科学リテラシーの必要性を理解できる。
						近代科学の特徴を説明できる。
						20世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。
						科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。
						授業科目の貢献度
		自然科学概論B	2	2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。
						物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。
						現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。
						現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考えることができる。
						未来に向かって、物質科学・技術と人間社会のかかわり合いを展望できる。
						授業科目の貢献度
		リベラルアーツ実践演習A	2	3・5	少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
						諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
						課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
						自らの課題に対して解決まで導くことができる。
						コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
						授業科目の貢献度
		リベラルアーツ実践演習B	2	4・6	少人数のセミナー形式での演習を通じて、自然科学・社会科学・人文科学分野における専門的な思考法・研究法・表現法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
						諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
						課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
						自らの課題に対して解決まで導くことができる。
						コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
						授業科目の貢献度
		教養総合講座A	2	3・5	社会の第一線で活躍中の実務経験豊富な講師を迎え、これからの企業人に必要不可欠なCSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）を共に考える。	現代の問題群を整理することができる。
						ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
						課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
						これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。
						授業科目の貢献度
		教養総合講座B	2	4・6	企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	現代の問題群を整理することができる。
						ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
						課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
						問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。
						授業科目の貢献度
		国際事情	2	集中講義9月	現代アジアの国際関係の基本を押さえ、今後の日本の進路選択とその羅針盤を検討する。	理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。
						問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。
						国際事情を理解し、人間学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						40							40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
						20							20
						20							20
						20							20
						40							40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
				40									40
				20									20
					40								40
0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修	選択	自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Cグループ	社会実践1	1			2	「社会実践1」と「社会実践2」では、産業と社会の要請に応える人材になるために重要な「社会人基礎力」を育成することを目的としています。アクティブラーニングという学びの手法を用い、チーム作業を通して課題の解決に取り組みます。「社会実践1」では、チーム作業を通して、「課題発見」「課題解決」「発表」という一連の課題解決の手順を確認し、「社会実践2」で取り組む実践的な課題解決をスムーズに行う力を身につけます。	物事に進んで取り組むことができる。
								他人に働きかけ巻き込むことができる。
								目的を設定し確実に行動することができる。
								現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。
								自分の意見を分かりやすく伝えることができる。
								相手の意見を丁寧に聴くことができる。
								基本的な生活習慣に基づき、規律性を持って行動することができる。
								授業科目の貢献度
専門基礎科目群		社会実践2	1			3	「社会実践1」と「社会実践2」では、産業と社会の要請に応える人材になるために重要な「社会人基礎力」を育成することを目的としています。アクティブラーニングという学びの手法を用い、チーム作業を通して課題の解決に取り組みます。「社会実践2」では、本格的なPBL(Project-Based Learning)という学びの方法を用いて、「社会実践1」で身につけた課題解決の手順を実践し、企業からの課題提示に対し、チームで課題解決に取り組み、プレゼンテーションを行い、企業の評価を受けます。	物事に進んで取り組むことができる。
								他人に働きかけ巻き込むことができる。
								目的を設定し確実に行動することができる。
								現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。
								自分の意見を分かりやすく伝えることができる。
								相手の意見を丁寧に聴くことができる。
								基本的な生活習慣に基づき、規律性を持って行動することができる。
								授業科目の貢献度
		情報システム入門セミナー	1			1	大学生活全般に関わる指導と支援を行うこと、専門課程に対する関心や興味を喚起することを目的として、学士課程教育プログラム、安全教育、キャリア教育、専任教員の教育研究活動などについて学びます。	学士課程教育プログラムを理解している。
								安全に学生生活を送るための知識を把握している。
								キャリア形成に関わる知識を把握している。
								学科教員教育活動または研究室研究活動を概ね理解している。
								授業科目の貢献度
		情報概論	2			1	情報を科学的にとらえ、コンピュータの仕組みや様々な信号をデジタル信号として扱う方法を概観しながら、今後学ぶ「情報」関連科目の基本原則と考え方を学びます。	コンピュータでは、すべての情報が2進数で表される理由を説明できる。
								10進数、2進数、16進数を相互に変換することができる。
								アナログ信号をデジタル信号に変換する原理を説明できる。
								コンピュータ内で、文字、画像、音などの情報がどのように扱われるか説明できる。
								コンピュータでのプログラム実行のしくみを説明できる。
								授業科目の貢献度
		情報ネットワーク概論	2			2	従来のアナログ通信から近年のデジタル通信への変遷を概観し、変復調方式ならびに伝送制御手順を学んだうえで、インターネットで利用されるOSI7層モデルやTCP/IPモデルを学習し、通信プロトコルの概念について理解を進めます。	伝送制御手順について説明できる。
								回線交換とパケット交換の利点欠点をあげることができる。
								OSI7層モデルについて説明できる。
								ISDNについて説明できる。
								ハブとルータの機能の違いを説明できる。
								クライアントサーバシステムについて説明できる。
								授業科目の貢献度
		情報処理基礎	2			1	コンピュータ内での情報の表現方法、情報の表現に必要な2進数およびその演算方法、コンピュータを構成する基本的な論理回路、コンピュータの基本的な仕組みや動作を学びます。	コンピュータ内での情報の表現方法がわかる。
								2進数の演算方法がわかる。
								基本的な論理演算がわかる。
								コンピュータを構成する基本論理回路がわかる。
								コンピュータの基本的な仕組み・動作がわかる。
								授業科目の貢献度
		コンピュータハードウェア基礎	2			2	デジタル回路の基礎となる基本論理ゲート、論理式の簡単化、論理回路の実用的な表現方法、真理値表から論理回路を実現する方法、フリップフロップについて学びます。	基本論理ゲートの機能がわかる。
								カルノー図を用いて論理式を簡単化することができる。
								真理値表を論理式で表すことができる。
								フリップフロップの機能がわかる。
								フリップフロップのタイミング図を作成することができる。
								授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
						20							20
						20							20
						20							20
						10							10
						10							10
						10							10
		10											10
0	0	10	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	100
						10							10
						10							10
						10							10
						20							20
						20							20
						20							20
		10											10
0	0	10	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	100
								20	10				30
								10			10		20
								10			10		20
								20	10				30
0	0	0	0	0	0	0	0	60	20	0	20	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								10	5				15
								10	5				15
								20	10				30
								5	5				10
								10	5				15
								5	5	5			15
0	0	0	0	0	0	0	0	60	35	5	0	0	100
								20					20
								15		5			20
								15		5			20
								15		5			20
								15		5			20
0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	0	0	100
								20					20
								20		10			30
								10		10			20
								20					20
										10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	30	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群		プログラミング入門	2	1		情報処理技術者には、コンピュータを利用するだけでなく、そのプログラム作成する技能が要求されています。この授業では、初学者を対象に、HTMLとJavaScriptによるWebプログラミングによる演習を行い、プログラムの基本的な内容について学習します。	情報機器の使用法、コンピュータ・周辺装置の操作、オペレーティングシステムの利用法、テキストエディタの使い方が分かる。 ホームページの仕組みが理解でき、ブラウザ上に文字・画像・表を出力させることができる。 プログラムを作成する一連の作業手順が分かる。 変数、処理の分岐、配列、繰り返し処理などの使い方が分かる。 プログラミングに必要な各種演算子の使い方が分かる。 JavaScriptのイベントハンドラを使った動的なホームページを作成することができる。 授業科目の貢献度
		情報数学	2	2		情報科学を学ぶためには、数学理論の基礎となる数理論の思考法を理解することが重要になります。この授業では、情報科学を学ぶ上での基礎的な離散数学の内容として、集合、論理、関数、写像、グラフ理論などの学習を行います。情報科学で必要となる数学的概念や表記法を理解することを目標とします。	集合、論理、関係の基本概念について理解している。 数学における基本的な証明を説明することができる。 集合と要素を記号を用いて表現することができる。 写像と関数の定義について説明することができる。 集合間の関係をグラフで表現することができる。 順序関係を説明することができる。 授業科目の貢献度
		基礎電気回路	2	1		回路技術は、あらゆる分野で使われている極めて重要な技術であります。この授業では、情報系学生であっても最低限身につけてもらいたい回路の常識を、直流回路に対する理論を通じて学び、演習を交えて理解を深めます。	電圧と電流の関係がわかる。 オームの法則を使って電圧、電流、抵抗の値を計算することができる。 直列接続、並列接続された抵抗の値を計算することができる。 電力の値を計算することができる。 分圧・分流の法則がわかる。 キルヒホッフの法則がわかる。 授業科目の貢献度
		数学基礎	2	1 [2]		高等学校の数学から大学の数学への橋渡しとして、三角関数、指数関数、対数関数、集合と命題について学ぶ。	複素数の範囲で、2次方程式および高次方程式を解ける。 分数式の四則計算と部分分数分解ができる。 弧度法による一般角の三角関数を説明できる。 三角関数の加法定理を用いた計算ができる。 指数法則を理解し、それを用いた計算ができる。 対数の性質を理解し、それを用いた計算ができる。 集合の共通部分と合併集合を理解し、公式を用いた要素の個数の計算ができる。 授業科目の貢献度
		解析学1	2	1 [2]		1 変数関数の微分積分の基礎理論と基礎的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の計算に慣れるようにする。	導関数の基本公式(定数倍・四則・合成関数)を説明できる。 基本関数(べき関数、指数・対数関数、三角・逆三角関数)の微分公式を説明できる。 初等関数を微分できる。 不定積分の意味および基本関数の不定積分公式を説明できる。 置換積分法と部分積分法を理解し、それらを応用できる。 定積分と不定積分の関係を理解し、基本的な定積分の計算ができる。 授業科目の貢献度
		解析学2	2	2 [3]		1 変数関数の微分積分の応用理論と発展的な計算法について学ぶ。多くの演習を通じて、微分積分の応用に慣れるようにする。	ライプニッツの公式を理解し、それを積の高階微分計算に応用できる。 ロピタルの定理を理解し、それを不定形の極限計算に応用できる。 テーラーの定理を理解し、指数関数・三角関数のテーラー展開がかかる。 有理関数の不定積分を計算できる。 無理関数・三角関数を含む不定積分を置換積分を用いて計算できる。 定積分の応用として、曲線の長さを計算できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
											15		15
								10			10		20
								10	5	5			20
								10		5			15
								10		5			15
								10		5			15
0	0	0	0	0	0	0	0	50	5	20	25	0	100
								15	5				20
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
								10	10				20
								10	5				15
0	0	0	0	0	0	0	0	65	35	0	0	0	100
								20					20
								15		5			20
								10		5			15
								10		5			15
								10		5			15
								10		5			15
0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	25	0	0	100
					11		5						16
					6		10						16
					5		7						12
					9		5						14
					6		8						14
					6		6						12
					12		4						16
0	0	0	0	0	55	0	45	0	0	0	0	0	100
					10		7						17
					9		6						15
					8		10						18
					8		6						14
					6		12						18
					6		12						18
0	0	0	0	0	47	0	53	0	0	0	0	0	100
					8		7						15
					9		6						15
					10		8						18
					7		13						20
					6		12						18
					6		8						14
0	0	0	0	0	46	0	54	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群		解析学3	2	3	[4]	解析学1, 2を基にして, 多変数関数(主に2変数関数)の微分, 積分法の基礎理論とその応用について学ぶ。	偏導関数の意味を理解し, 初等関数の偏導関数を求めることができる。 2変数関数についての合成関数の微分公式(連鎖律)を理解し, それを応用できる。 2変数関数の極値を調べることができる。 2重積分の意味と基本性質を説明できる。 反復積分公式を使って2重積分を計算できる。 変数変換公式を用いる2重積分の計算ができる。 授業科目の貢献度
		常微分方程式	2	4	[5]	解析学1, 2の基本事項を基にして, 1変数関数の微分方程式である常微分方程式の解法について学ぶ。	常微分方程式とその解の意味を説明できる。 変数分離形および同次形の微分方程式が解ける。 1階線形および完全微分形の微分方程式が解ける。 斉次線形微分方程式の解の性質を説明できる。 定数係数斉次線形微分方程式が解ける。 2階非斉次線形微分方程式の特殊解の求めかたを理解し, それを応用できる。 授業科目の貢献度
		線形代数1	2	1		行列式および行列の基本性質, 演算方法を学び, 1次連立方程式の解法に応用する。複素数の基本事項についても学ぶ。	行列式の基本性質を説明できる。 余因子展開を使って行列式の計算ができる。 行列の和・積等の計算ができる。 逆行列を求めることができる。 クラメルの公式を使って連立方程式の解を表すことができる。 複素数の極形式を使った計算ができる。 授業科目の貢献度
		線形代数2	2	2		高等学校で学んだベクトルをさらに詳しく学んだ後, 新しくベクトルの外積を学び, 空間図形の解析に応用する。	空間における平面の方程式・直線の方程式を説明できる。 内積の定義および演算法則を説明できる。 成分計算を含め内積を使った計算ができる。 外積の基本性質を説明できる。 成分による外積の計算ができる。 外積を使って, 三角形の面積および四面体の体積を計算できる。 固有直交行列によって表される空間の回転の回転軸を求めることができる。 授業科目の貢献度
		線形代数3	2	3		情報理系に必要な数学の基礎として, 平面・空間のベクトルを一般化した多次元ベクトル空間(線形空間)のとりえ方を学んだ上で, 連立一次方程式などへの応用を意図しつつ, 行列から直交基底系を生成する方法ならびに行列の固有値分解・対角化について学びます。	一次独立とは何か理解できる。 ベクトル空間の基底系とは何か理解できる。 グラム・シュミットの方法で直交基底系を作ることができる。 正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 行列の対角化ができる。 授業科目の貢献度
		情報統計学	2	4		この授業では, コンピュータを利用して膨大な情報(データ)を効率的かつ迅速に処理するために必要な統計処理の最も基本的な知識・技術の習得を目的とします。統計に関する講義に加えて表計算ソフトウェアの関数機能を利用した統計処理の演習を行います。	Excelで統計の関数が扱える。 度数分布表を作成できる。 標準偏差を説明できる。 簡単な回帰分析ができる。 正規分布を説明できる。 検定方法を説明できる。 授業科目の貢献度
		確率・統計	2	3		集合・事象・標本空間など出発点の考え方を知った上で, 確率変数と確率密度関数、分布関数、期待値、分散など重要な量とそれらに関わる定理を学びます。また、ポアソン分布・正規分布など代表的な確率分布についても学びます。	集合の和と積を説明できる。 順列と組合せを説明できる。 集合を使って確率を説明できる。 正規分布の平均と分散を知っている。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
					8		6						14
					6		10						16
					6		14						20
					10		5						15
					5		15						20
					6		9						15
0	0	0	0	0	41	0	59	0	0	0	0	0	100
					9		6						15
					4		12						16
					5		16						21
					10		5						15
					7		10						17
					5		11						16
0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	100
					12		4						16
					10		8						18
					7		8						15
					9		9						18
					6		10						16
					8		9						17
0	0	0	0	0	52	0	48	0	0	0	0	0	100
					14		4						18
					8		2						10
					4		8						12
					8		2						10
					4		8						12
					8		10						18
					10		10						20
0	0	0	0	0	56	0	44	0	0	0	0	0	100
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
											20		20
										10	5		15
								10		5			15
										10	5		15
								10		5			15
								10		10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	40	30	0	100
								25					25
								25					25
								25					25
								25					25
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)			開講期	学修内容	学修到達目標			
			必修	選択	自由						
専門基礎科目群		力学	2		1	物理学の一分野である力学の主な目的は「物体の運動を知ること」だと言えます。 その理論体系には自然科学を応用する工学・情報学の考え方の基礎が集約されています。 この科目の大きな目標は、 (1) ベクトルに基づいて、力の合成・分解を正確に理解する (2) 微分積分に基づいて、運動方程式を解くことで物体の運動が決定できることを学ぶ の二つです。 なお、理系の大学生には「物事を理路整然と理解すること」が必要になりますが、その理路整然とした理解を実行する具体例としても、力学は好都合です。	力の合成・分解をベクトルを使って説明できる。				
							基本的な力（重力、ばねの力、摩擦力）の法則を説明できる。				
							速度、加速度の定義を説明できる。				
							力学の3つの基本法則を説明できる。				
							単振動の運動方程式を解き、その運動を説明できる。				
		電磁気学	2		2		この科目では、電気と磁気を統一的に理解する物理学の一分野である「電磁気学」の基礎を扱います。電磁気学は電流や電気回路などを理解する基礎理論であり、重要な科目です。この科目では、まず「電荷を担う基礎的なものは電子などの粒子であること」や「電流は電子の集団の運動であること」など基本的な自然界の姿を学びます。次に、これを踏まえて、電場（電界）や磁場（磁界）といった「場」という概念を学びます。なお、電磁気学の内容には力学の考え方を応用して理解するものが随所に出てきます。電磁気学を学ぶ前に力学を学んでおくことが必要です。	授業科目の貢献度			
								電気力と電場の関係を説明できる。			
								電位と静電エネルギーを説明できる。			
								ミクロな視点で電流を説明できる。			
								ローレンツ力と磁場（磁束密度）の関係を説明できる。			
専門科目群	基幹科目	プログラミング1	2		2・ (3)	電流が作る磁場（磁束密度）の図を使って説明できる。					
						授業科目の貢献度					
						プログラミング2		2		3・ (4)	変数の役割、型について説明できる。
											プログラムの実行順序について説明できる。
											分岐処理と繰り返し処理を書くことができる。
		繰り返し処理により配列を操作することができる。									
		変数の内容を適切な形で出力できる。									
		アルゴリズムとデータ構造1	2		4	授業科目の貢献度					
						関数の定義、仮引数について説明できる。					
						関数呼び出しを含んだプログラムの実行順序について説明できる。					
						ポインタを用いたプログラムの実行結果を説明できる。					
						構造体を用いたプログラムを作成できる。					
		アルゴリズムとデータ構造2	2		5	ファイル入出力処理を行うプログラムを作成できる。					
						授業科目の貢献度					
						アルゴリズムとは何か説明ができる。					
						計算量について説明ができる。					
						関数の再帰的呼び出しがわかる。					
		数値計算法	2		6	ソートアルゴリズムについて説明ができる。					
						リニアサーチ、バイナリサーチについて説明ができる。					
						授業科目の貢献度					
バックトラッキングについて説明ができる。											
ハッシュ探索について説明ができる。											
					コンピュータで問題を解く手順であるアルゴリズムとデータを表現・格納するためのデータ構造について系統的に学びます。計算量を含むアルゴリズムの基本的な考え方、整列・探索アルゴリズムの基本手法などについて学びます。	リストの構造について説明ができる。					
						スタック、キューの構造について説明ができる。					
						木構造について説明ができる。					
						授業科目の貢献度					
						コンピュータによる数値計算とその誤差について説明できる。					
								補間と近似について説明できる。			
								非線形方程式の求解（二分法、ニュートン法）の方法について説明できる。			
								常微分方程式の求解（オイラー法、ルンゲ・クッタ法）について説明できる。			
								連立一次方程式の解法（ガウス方法他）について説明できる。			
								授業科目の貢献度			

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
					6		14						20
					6		14						20
					6		14						20
					6		14						20
					6		14						20
0	0	0	0	0	30	0	70	0	0	0	0	0	100
					8		12						20
					8		12						20
					8		12						20
					8		12						20
					8		12						20
0	0	0	0	0	40	0	60	0	0	0	0	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								10	10				20
								10	10				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	80	0	0	0	100
								10	10				20
								10	10				20
									10	10			20
									10	10			20
									10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	50	30	0	0	100
									10	10			20
									10	10			20
									10	10			20
									10	10			20
									10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	100
									6	6	8		20
									6	6	8		20
									6	6	8		20
									6	6	8		20
									6	6	8		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	30	40	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	コンピュータアーキテクチャ1	2	3		モデルコンピュータとして COMET 2 を取り上げ、コンピュータの設計思想であるコンピュータアーキテクチャについて、ハードウェアとソフトウェアの機能分担を中心に講義します。最初に、コンピュータアーキテクチャの基本となる論理回路について復習します。続いて、コンピュータを構成する算術論理演算装置 (ALU)、メモリ、入出力の実現方式について解説します。	ノイマン・コンピュータの基本構成を理解できる。
							全加算器にて ALU を構成できることが理解できる。
							演算フラグの役割を理解できる。
							命令コードの構成を説明できる。
							簡単な命令の逆アSEMBル手順を説明できる。
							授業科目の貢献度
							実効アドレスを求める手順を説明できる。
		コンピュータアーキテクチャ2	2	4		コンピュータアーキテクチャ1に引き続いて、コンピュータの設計手順や構成方法に関する基本的な事項を講義します。ここでは、理解を深めるために、仮想コンピュータ COMET 2 のほか、実際のマイクロプロセッサを取り上げます。	LD 命令と LAD 命令の区別が説明できる。
							演算命令でフラグが変化する理由を説明できる。
							プログラムカウンタの役割を説明できる。
							スタックポインタの役割を説明できる。
							命令フェッチサイクルの流れを説明できる。
							授業科目の貢献度
		オペレーティングシステム	2	3		オペレーティングシステム (OS) の種類と、その基本機能について学びます。特にサーバでよく使われる UNIX-OS のコマンドについて一部実習を通じて学び、パソコン OS(Windows) との違いを具体的に理解します。	OS の役割を説明できる。
							マルチプログラミングを説明できる。
							割り込みを説明できる。
							メモリ管理手法を説明できる。
							UNIX の代表的なコマンドを列挙できる。
							授業科目の貢献度
		情報ネットワークワーク1	2	3		コンピュータネットワークのアーキテクチャ、OSI 参照モデル、プロトコル、インターネットの成り立ちなどを学ぶと共に、その構成とアプリケーションを学び、正しい利用法を知ります。またローカルエリアネットワークの構成を学び、将来を展望します。	クライアントサーバモデルを説明できる。
							パケット交換・回線交換の利点・欠点を説明できる。
							CSI 参照モデル・TCP/IP モデルを説明できる。
							MAC アドレスの構成を説明できる。
							IP アドレス・ネットワークの役割を説明できる
							授業科目の貢献度
		情報ネットワークワーク2	2	4		インターネットの基本技術ならびに応用技術を理解します。次世代インターネット標準である IPv6 技術の概要と、応用技術としての音声中継で利用される VoIP 技術を学びます。また、企業間で特定メンバーのみを接続対象とするイントラネットとその構成技術も取り上げます。	ルーティングのしくみについて説明できる。
							ポート番号の役割について説明できる。
							DNS の動作について説明できる。
							電子メールのしくみについて説明できる。
							ネットワークの主要なコマンドを利用できる。
							授業科目の貢献度
		情報理論	2	4		情報の量 (ビット) の定義を行い、情報量の計算をして、自己情報量や平均情報量を算出します。また、効率のよい符号化について学び、さらに、送信されてきた情報を受信側でチェックし誤りのある場合にはそれを受信側で訂正できる符号化法についても学習します。	自己情報量が説明できる。
							エントロピーを求めることができる。
							通信系のモデルについて説明できる。
							マルコフ情報源について説明できる。
							2元対称通信路について説明できる。
							授業科目の貢献度
		オートマトン・言語理論	2	5		オートマトン理論に関して、有限オートマトンとそれを拡張したプッシュダウンオートマトンを学びます。また、言語理論に関して、有限オートマトンに対応する正規文法、プッシュダウンオートマトンに対応する文脈自由文法、これらの文法により生成される正規言語・文脈自由言語を学びます。	有限オートマトンに対する状態遷移図を構成できる。
							非決定性有限オートマトンから等価な決定性有限オートマトンを構成できる。
							最簡形の有限オートマンを構成できる。
							有限オートマトンから正規文法を構成できる。
							正規文法から有限オートマトンを構成できる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								10	10				20
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	60	40	0	0	0	100
								5	15				20
								5	15				20
								5	15				20
								5	15				20
										15	5		20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	60	15	5	0	100
								2	18				20
								2	18				20
								2	18				20
								2	18				20
								2	18				20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	90	0	0	0	100
								3	20				23
								3	20				23
								2	20				22
								2	20				22
										10			10
0	0	0	0	0	0	0	0	10	80	10	0	0	100
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	電気回路1	2	2	電気回路はあらゆる電子機器に不可欠であり、情報系学生も学ばなければならない重要な技術です。この授業では、抵抗、コイル、コンデンサを用いた基本的な交流回路に関する最低限身につけて欲しい常識を演習を交えて学びます。	正弦波交流電圧および電流の各波形を描くことができる。
						正弦波交流電圧および電流の実効値が理解できる。
						リアクタンスおよびインピーダンスが理解できる。
						正弦波交流の電圧、電流の位相角が理解できる。
						有効電力、無効電力、皮相電力の関係が理解できる。
						授業科目の貢献度
		電気回路2	2	3	1年次で学習した「基礎電気回路」および「電気回路1」を基礎として、複素数を用いて電圧や電流を表すベクトル記号法について学びます。また、交流回路の基本的な法則や計算方法、複雑な回路の電圧や電流を求めるための回路解析法について学びます。	複素数の基本的な計算ができる。
						静電容量および自己インダクタンスの複素数表示がわかる。
						R、L、Cの直並列回路の合成インピーダンスおよび合成アドミタンスを求めることができる。
						R、L、Cの直列回路および並列回路の共振がわかる。
						交流ブリッジ回路の平衡条件がわかる。
						閉路電流法および節点電圧法によって回路方程式を求めることができる。
						授業科目の貢献度
		情報演習A	4	3	コンピュータを中心とする情報機器の基礎となる電気・電子回路について講義と演習を通して学習します。授業では、基本的な電気・電子回路の動作原理や特性、電圧・電流等の計測手法や計測機器の操作方法について学びます。	抵抗回路の合成抵抗の計算ができる。
						ブリッジ回路の平衡条件がわかる。
						抵抗、コイル、コンデンサの交流特性がわかる。
						ダイオード、トランジスタ、オペアンプの基本的な機能がわかる。
						電圧や電流の測定方法がわかる。
						テスタやオシロスコープの基本的な操作方法がわかる。
						授業科目の貢献度
		情報演習B	4	4	コンピュータや情報機器を構成する論理回路に関する基礎的な事項について学習します。授業では、講義および演習に加え、デジタルICを使用した回路製作の実習を通して、ハードウェア技術の基礎を体験的に学びます。	ブール代数の定理やカルノー図を用いて論理式を簡単化できる。
						真理値表を論理式で表すことができる。
						フリップフロップの機能がわかる。
						カウンタの機能がわかる。
						基本的なデジタルICの機能がわかる。
						授業科目の貢献度
		情報演習C	4	(5) (6)	音声信号の作成方法と記録方法、音声の認識と合成、画像処理プログラミングについて学びます。また、発展課題を設けて、調査・研究した事柄についてプレゼンテーション形式で発表します。	平均率音階の周波数を計算できる。
						ファイル内の数値から音声波形を再現できる。
						画像処理の基本的な技術について説明できる。
						顔検出・顔認識プログラムを作成できる。
						プレゼンテーション形式で調査内容を発表できる。
						授業科目の貢献度
		情報演習D	4	(5) (6)	C言語によるPICマイコン搭載ライントレースカーの制御、コンピュータネットワークの接続と設定について学びます。また、発展課題を設けて、調査・研究した事柄についてプレゼンテーション形式で発表します。	マイコン特有のC言語記述方法を理解できる。
						マイコンによる制御プログラムが作成できる。
						IPアドレスやネットマスクについて説明できる。
						WindowsとLinuxにおけるネットワークの設定方法を説明できる。
						プレゼンテーション形式で調査内容を発表できる。
						授業科目の貢献度
	展開科目	オブジェクト指向プログラミング	2	4	Java言語のプログラミングについて学びます。C言語に類似した部分と、C言語にはないオブジェクト指向プログラミングの技術（クラス、インスタンス、継承など）を学びます。また、グラフィカルユーザインタフェース（GUI）マウスでクリックするボタンなど）を持つプログラムの作り方も学びます。	C言語とJava言語の違いのポイントを列挙できる。
						メソッドとその多重定義について説明できる。
						クラスとインスタンスの違いを説明できる。
						継承の意味と意義を説明できる。
						Javaアプレットについて説明できる。
						オブジェクト指向の意義を理解できる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								15					15
								10	10				20
								10	10				20
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
0	0	0	0	0	0	0	0	65	35	0	0	0	100
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
								10	5				15
										10	10		20
										10	10		20
0	0	0	0	0	0	0	0	40	20	20	20	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
										10	10		20
0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	10	10	0	100
										20			20
										20			20
										20			20
										20			20
											20		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	100
										20			20
										20			20
										20			20
										20			20
											20		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	100
								8	4	4			16
								8	4	4			16
								8	4	4			16
								8	4	4			16
								8	6	4			18
								8	6	4			18
0	0	0	0	0	0	0	0	48	28	24	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修	選択	区分自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	ネットワークプログラミング		2		5	現在ではコンピュータ間通信における事実上の標準となっている TCP/IP に関する理解を深めるために、ソケットの概念、IP アドレスとポート番号など、UNIX では標準的に備わっている機能の理解を進めます。さらに、実際の UNIX システムを使用した実習を使って、サーバ/クライアントネットワークプログラムの作成とその動作確認を行います。	ネットワークシステムのサーバクライアントモデルの原理が説明できる。 TCP/IP の 4 層モデルの説明ができる。 TCP と UDP の違いについて説明できる。 ソケット通信プログラムの原理が説明できる。 ポート番号の役割について説明できる。 マルチプロセス・マルチスレッドによる効果を説明できる。 授業科目の貢献度
		ソフトウェア工学		2		5	大規模なソフトウェアを工学的なアプローチで開発するための方法であるソフトウェア工学について学びます。構造化分析手法とオブジェクト指向分析・設計手法を中心に、ソフトウェア開発に必要な様々な考え方を学びます。	ソフトウェア開発プロセスを説明できる。 要求分析における基本事項を説明できる。 構造化分析手法の手順を示すことができる。 オブジェクト指向分析・設計手法の手順を示すことができる。 ソフトウェアのテスト手法を説明することができる。 授業科目の貢献度
		コンパイラ構成法		2		6	コンパイラは、プログラミング言語で記述されたソースプログラムを機械語プログラムに翻訳するソフトウェアです。コンパイラを構成するための技術体系として、コンパイラの構成を理解した後、コンパイラの中核技術となる字句解析・構文解析・意味解析・コード生成の技法について学習します。	コンパイラの構成を説明できる。 コンパイラの子句解析技法を説明できる。 コンパイラの構文解析技法を説明できる。 コンパイラの意味解析技法を説明できる。 コンパイラのコード生成技法を説明できる。 授業科目の貢献度
		データベース		2		6	データベースのモデル論とシステム論を学習します。モデル論としては、基本概念、関係データモデル、データベース言語 SQL、データベースの設計法を学びます。さらに、システム論として、データベースシステムの主要な構築技術を学びます。	関係データモデルを説明できる 関係代数の演算を説明できる。 関係データベース言語 SQL を使って問合せを作成できる。 関係スキーマを設計できる。 データベースのシステム化技術を説明できる。 授業科目の貢献度
		信号処理基礎		2		4	信号処理とは時間的あるいは空間的に変化する情報を、数学的手法を用いてある目的に適合するように加工することである。この授業では、その基礎的位置づけとして、連続時間（アナログ量）に対する信号の表現方法や、信号の特性を把握するための数学について学びます。	周波数と周期の関係がわかる。 信号の大きさと位相がわかる。 フーリエ級数展開の物理的意味がわかる。 オイラーの公式を使って複素正弦波が説明できる。 フーリエ級数展開を使って周波数スペクトルを求めることができる。 フーリエ変換の物理的意味がわかる。 授業科目の貢献度
		デジタル信号処理		2		5	フーリエ変換・ラプラス変換とその離散版および標本化定理など信号処理の基礎を学んだ上で、それらの応用として、周波数分析や離散時間システム（デジタル・フィルタ）について学びます。	離散フーリエ変換を知っている。 z 変換を知っている。 システムの極と安定性がわかる。 デジタル・フィルタのブロック図がわかる 授業科目の貢献度
		音声画像処理		2		6	デジタル信号処理の発展として、音声・画像のフーリエ変換、予測、フィルタリング、画像の特徴抽出法などを学び、圧縮・合成・パターン認識など音声画像の豊富な応用技術に向けて視野を広げます。	音声のスペクトルを説明できる。 線形予測分析を理解できる。 画像のフィルタリングを理解できる。 画像特徴抽出の考え方を理解できる。 授業科目の貢献度
		パターン情報処理		2		5	本パターン情報処理講義において、パターン情報処理の基本概念を説明し、基本構成（前処理、特徴量、識別手法など）を説明します。これらの基本要素の実問題への適用方法を具体的に説明します。	パターン情報処理における処理過程（前処理、特徴量、識別アルゴリズムなど）を理解する パターン情報処理で使用する数理的基礎を理解する パターン情報処理における各種アルゴリズムを理解する パターン情報処理が適用可能な実問題を理解する 実問題のパターン情報処理による解決方法を説明する 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
									10				10
									10				10
									10	10			20
									10	10			20
									10	10			20
									10	10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	40	0	0	100
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
									10				10
									20				20
									10	20			30
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	100
								10	5				15
								10	5				15
								10		5		5	20
								10					10
								10			5	5	20
								10		5		5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	60	10	10	5	15	100
								10	15				25
								10	15				25
								5	20				25
								5	20				25
0	0	0	0	0	0	0	0	30	70	0	0	0	100
								5	20				25
								5	20				25
								5	20				25
								5	20				25
0	0	0	0	0	0	0	0	20	80	0	0	0	100
								20	10				30
								10	10				20
								10	10				20
								10	5				15
										5	10		15
0	0	0	0	0	0	0	0	50	35	5	10	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	制御工学	2	5		制御とは機械やロボットを思い通りに動かすために必要となる要素技術です。この授業では、制御を行なう対象がどのような特性を有するのかを解析する手法と、制御をするための方法について学びます。	制御対象をモデル化することができる。
							状態変数や極の物理的意味がわかる。
							制御ができるための条件がわかる。
							制御系の安定性を確認することができる。
							状態フィードバック制御を使って極を配置することができる。
							制御系を最適化する方法がわかる。
							授業科目の貢献度
		コンピュータシステム	2	6		分散システムを理論的に捉え、いくつかの問題やそれを解決する分散アルゴリズムの学習を通して、それらの持つ本質的な性質を理解し、分散システム上での新たなサービスの開発や提案のための基礎知識を身に付けます。	分散システムとそのモデルを理解し説明できる
							分散アルゴリズムとその評価尺度を理解し説明できる
							分散システム固有の問題とその解決法を列挙できる
							分散システムの非同期性と局所性を理解し説明できる
							分散システム上での故障について理解し説明できる
							授業科目の貢献度
		情報セキュリティ	2	6		情報ネットワークを安全面から支える情報セキュリティについて学びます。まず、情報セキュリティの基礎となる暗号理論を学びます。暗号理論では、共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式について学びます。さらに公開鍵基盤について学びます。情報セキュリティでは、実際に利用されている暗号化通信技術とその問題点について学びます。	共通鍵暗号方式を理解できる。
							公開鍵暗号方式を理解できる。
							公開鍵暗号基盤を理解できる。
							SSL/TLS を理解できる。
							情報セキュリティの3要素を理解できる。
							授業科目の貢献度
		通信工学	2	7		情報通信ネットワークのベースとなる情報の伝送、信号の伝送に関する基礎概念の理解と、通信方式に関する知識の習得を目的とし、通信システムの構成、各種アナログ変調・復調方式およびデジタル信号伝送の基礎知識を学びます。	変調と復調の役割がわかる。
							振幅変調がわかる。
							搬送波抑圧振幅変調および単側波帯振幅変調がわかる。
							周波数変調と位相変調がわかる。
							パルス符合変調の概要がわかる。
							授業科目の貢献度
		人工知能	2	6		人工知能の基本的技術である探索、推論、知識の表現、学習などを学び、また応用事例を学ぶことにより、人工知能を一般に使われるようなあいまいなものでなく学術分野で使われるときの意味を理解します。	人工知能の目的と課題を列挙できる。
							人工知能について事例を挙げて説明できる。
							人工知能における知識と推論の技術を説明できる。
							人工知能における知識獲得の手法を説明できる。
							人工知能におけるルール獲得の手法を説明できる。
							授業科目の貢献度
		ソフトコンピューティング	2	7		コンピュータという機械による固い情報処理の限界を破る試みとして、著しい前進を遂げつつある「柔軟な情報処理」ーニューロ・ファジィ・遺伝的アルゴリズムによる情報処理ーについて学びます。	脳とニューロンモデルの関係を説明できる。
							誤差逆伝搬法による学習を説明できる。
							ニューラルネットによるパターン認識を説明できる。
							ファジィ制御の考え方を説明できる。
							遺伝的アルゴリズムの流れを説明できる。
							授業科目の貢献度
		デジタル回路	2	5		情報機器を構成する実用的なデジタル回路の実現に必要な、デコーダやマルチプレクサ等の各種組合せ回路や、カウンタやシフトレジスタ等の順序回路の機能や特徴およびそれらの設計方法について学びます。	エンコーダ、デコーダの機能がわかる。
							マルチプレクサ、デマルチプレクサの機能がわかる。
							非同期式カウンタの仕組みがわかる。
							同期式カウンタの仕組みがわかる。
							シフトレジスタの機能がわかる。
							授業科目の貢献度
		電子回路	2	6		電子デバイスの基礎となる半導体の性質、電子回路を構成するダイオードやトランジスタ等の電子デバイスの仕組み、基本的な増幅回路の動作原理およびその解析方法、代表的なアナログ IC であるオペアンプについて学びます。	ダイオードの仕組みがわかる。
							MOSFET の仕組みがわかる。
							バイポーラトランジスタの仕組みがわかる。
							基本的な増幅回路の動作原理がわかる。
							オペアンプの特徴がわかる。
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
									5	5		5	15
								10	5				15
								10		5			15
								10		5			15
								10	5			5	20
								10	5			5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	20	15	0	15	100
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
								15	15				30
								15	15				30
									10				10
									10				10
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	30	70	0	0	0	100
									10	5		5	15
								5	5	5	5		25
									10	5	5		20
								5	5	5	5		20
									10	5	5		20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	50	25	20	5	100
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
								10	10				20
								10		10			20
									10	10			20
									10		10		20
									10			10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	40	20	10	10	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	0	50	50	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修 必修	区分 選択	分 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	組込システムプログラミング		2	6		自動車や通信情報機器等私たちの身の回りにはマイクロコンピュータを組込んだシステムが多く導入されています。この講義では、よく利用されている組込みコンピュータを題材として取り上げ、C言語で記述されたプログラミング手法の理解をとおして、組込み系コンピュータの機能、構造を学びます。	組込システムの基本的な仕組み（ハードウェア構成）を理解できる。
								マイコン用ヘッダファイルの記述内容が理解できる。
								汎用入出力プログラムの記述内容が理解できる。
								タイマ制御プログラムの記述内容が理解できる。
								割込みの動作内容が理解できる。
								授業科目の貢献度
		リアルタイムシステム		2	7		我々の身近な製品から産業機械にいたるまで、その動作はリアルタイム性が重視され、リアルタイムシステムとしての性質を持っています。本講義では、リアルタイムシステム構築に必要なソフトウェア（リアルタイムOS）技術、ハードウェア技術、システム開発設計手法の基本的な技術内容について学びます。	リアルタイムOSの導入メリットについて理解できる。
								リアルタイムOSの機能について理解できる。
								リアルタイムOSのスケジューリング技法について理解できる。
								マルチタスクのシーケンス図を表現できる。
								リアルタイムシステムを構成する基本ハードウェアについて理解できる。
								授業科目の貢献度
		コンピュータセンシング		2	5		家電製品などの民生品からロボットなどの産業機器に到るまで、あらゆる機器にセンサが組み込まれており、センサは我々の生活を支えています。この講義では、センサの原理から、センサ信号をマイクロコンピュータに取り込むまでの技術について学びます。	センシングの概念や単位・誤差が理解できる。
								よく使われているセンサの検出原理が理解できる。
								アナログ量をデジタル量に変換するAD変換の原理が理解できる。
								画像によるセンシングの概要が理解できる。
								センサ信号の入力から表示までのブロック図を描くことができる。
								授業科目の貢献度
		コンピュータコントロール		2	6		ロボットをはじめとして、あらゆる機器・装置の制御にはコンピュータが使われています。この講義では、コンピュータ制御の基礎となるフィードバック制御から、コンピュータコントロール系の構成要素や機能などを学びます。	シーケンス制御系の構成要素をあげ、その構成・機能を説明できる。
								フィードバック制御系の構成要素をあげ、その構成・機能を説明できる。
								制御装置に制御用コンピュータを使う場合の利点をあげることができる。
								コンピュータ制御系の基本的構成要素をあげ、その機能を説明できる。
								マイコン制御の応用事例を説明できる。
								授業科目の貢献度
		コンピュータ最新技術		2	7		コンピュータ技術は日進月歩で発展し、変化しています。この講義では、最新のコンピュータ技術について、原理、構成、応用、発展可能性などを学び、卒業後も継続的に学ぶ姿勢を身につけ、技術者として長く活躍できることを目指します。	コンピュータやネットワークの進歩の歴史を説明できること。
								最新のコンピュータOSの利用動向に関して説明できること。
								最新のコンピュータ制御技術の動向について説明できること。
								最新のコンピュータ応用技術の動向について説明できること。
								授業科目の貢献度
		ネットワークシステム		2	5		IPネットワーク技術の観点から、通信プロトコルの動作を階層横断的に理解します。メール、Webなどの代表的なネットワークサービスを例題として、ネットワーク各層の動きを理解します。	TCP/IP 4層モデルの各レイヤの動きを説明できる。
								メール、Webなどのアプリケーション層のプロトコルを説明できる。
								名前解決システムの構造を説明できる。
								TCPにおける輻輳制御の手法を説明できる。
								マルチキャスト・ルーティング・プロトコルの動作を説明できる。
								授業科目の貢献度
		ネットワークコンテンツ		2	6		インターネットを介した情報発信および情報共有のしくみ、通信と放送の関係について具体例を通してネットワーク活用とその有用性について学びます。電子商取引技術・情報セキュリティ・ネットワーク著作権についても触れます。	漢字コードとその構成を説明できる
								HTTPプロトコルについてその動作フローを説明できる
								メール転送に利用されるプロトコルの動作フローを説明できる
								メール拡張規格MIMEについて説明できる
								XMLが広い範囲で利用される理由が説明できる
								IPマルチキャストで動作するプロトコルについて説明できる
		ネットワーク最新技術		2	7		ネットワーク技術は日進月歩で発展し、変化しています。この講義では、最新のネットワーク技術について、原理、構成、応用、発展可能性などを学び、卒業後も継続的に学ぶ姿勢を身につけ、技術者として長く活躍できることを目指します。	授業科目の貢献度
								コンピュータやネットワークの進歩の歴史を説明できる。
								最新のコンピュータOSの利用動向に関して説明できる。
								最新のネットワーク応用技術の動向について説明できる。
								最新のネットワーク制御技術の動向について説明できる。
								授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
								10					10
								10					10
								20		10			30
								20		10			30
								10		10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	30	0	0	100
								10					10
								20					20
								20					20
								20		20			40
								10					10
0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	20	0	0	100
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
								10		10			20
0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	10	0	0	100
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
								20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
								10					10
								30					30
								30					30
								30					30
0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
								10	5				15
								5	10	5			20
									15	5			20
									15	5			20
									10	5			15
									10				10
0	0	0	0	0	0	0	0	15	65	20	0	0	100
									10				10
									30				30
									30				30
									30				30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 分 (単位 必修 選択 自由)	開 講 期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	マルチメディアソフトウェア	2	6	マルチメディアとデジタルコミュニケーションについての基本的な知識、および文書、画像、映像のマルチメディアを処理する技術について実習を交えて学びます。	画像をデジタル化するための基本的な流れを説明できる。
						ラスタ形式とビットマップ形式の画像の違いについて説明できる。
						デジタル画像における色の表現方法について説明できる。
						Adobe Photoshop と Adobe Illustrator の違いを理解し、目的にあったソフトウェアを選択して使うことができる。
	展開科目	C A D	2	7	C A D機能の理解とC A D作図法の基本について学び、C A Dを用いた電子回路の作図を通して製図に関する規格、図記号等について学びます。	Adobe Photoshop と Adobe Illustrator の基本的な操作方法がわかる。
						授業科目の貢献度
						AutoCAD の基本操作ができる。
						CAD を用いて機械部品を製図することができる。
	展開科目	C A D	2	7	C A D機能の理解とC A D作図法の基本について学び、C A Dを用いた電子回路の作図を通して製図に関する規格、図記号等について学びます。	CAD を用いて電気回路図を製図することができる。
						授業科目の貢献度
	関連科目	インターネット (学外研修)	2	6	大学で学んだ専門分野に関係する企業や団体などで実務を体験し、社会で情報技術がどのように活かされているか、また企業や団体の活動がどのように進められているかを理解します。この体験を残された大学での学習に生かすとともに、将来の職業選択に生かします。	社会で情報技術がどのように活かされているか理解することができる。
						企業や団体の活動がどのように進められているかを理解することができる。
						企業や団体での体験を大学での学習に生かすことができる。
						企業や団体での体験を将来の職業選択に生かすことができる。
		技術者倫理	2	7	技術者には、技術が社会や環境にもたらす影響を考え、倫理的に正しく行動することが求められています。この授業では、討論形式で重大事故や失敗事例の具体的検討を行い、技術者としての対応を探り、技術者の役割と倫理的行動について理解します。	授業科目の貢献度
						いわゆる「倫理」と「技術者倫理」の違いについて説明できる。
						安全、安心、リスクという用語を説明できる。
						技術が社会や環境に及ぼす影響を説明できる。
		知的財産権論	2	8	知的財産権の種類、権利の内容および知的財産権が守られている法律について鳥瞰し、中でも最も重要な特許権に関し、特許権取得までの手続き、特許権の存続期間、特許実施権について学びます。さらに特許権係争事例を通じて知的財産権の重要性を学びます。	重大事故や失敗事例に対して、技術者としての対応の仕方について討論ができる。
						技術者の役割とその倫理的行動について理解できる。
						授業科目の貢献度
						知的財産権の種類と知的財産制度の基礎となる法律がわかる。
専門科目群	関連科目	インターネット (学外研修)	2	6	大学で学んだ専門分野に関係する企業や団体などで実務を体験し、社会で情報技術がどのように活かされているか、また企業や団体の活動がどのように進められているかを理解します。この体験を残された大学での学習に生かすとともに、将来の職業選択に生かします。	企業での特許制度活用状況がわかる。
						特許権の出願から特許権取得までの手続きがわかる。
						特許権の内容と活用について説明できる。
						特許権の内容と活用について説明できる。
		技術者倫理	2	7	技術者には、技術が社会や環境にもたらす影響を考え、倫理的に正しく行動することが求められています。この授業では、討論形式で重大事故や失敗事例の具体的検討を行い、技術者としての対応を探り、技術者の役割と倫理的行動について理解します。	実用新案制度、意匠制度、商標制度と特許制度の違いがわかる。
						コンピュータソフト関連の発明を説明できる。
						授業科目の貢献度
						知的財産権の種類と知的財産制度の基礎となる法律がわかる。
	卒業研究	セミナ1	2	7	卒業研究の指導教員の下で、卒業研究に沿ったテーマや、卒業研究に関連した専門分野の知識の向上を図ります。	企業での特許制度活用状況がわかる。
						特許権の出願から特許権取得までの手続きがわかる。
						特許権の内容と活用について説明できる。
						特許権の内容と活用について説明できる。
		セミナ2	2	8	セミナ1に続いて、卒業研究の指導教員の下で、卒業研究に沿ったテーマや、卒業研究に関連した専門分野の知識の向上を図ります。	実用新案制度、意匠制度、商標制度と特許制度の違いがわかる。
						コンピュータソフト関連の発明を説明できる。
						授業科目の貢献度
						卒業研究の基礎となる知識や技術がわかる。
	卒業研究	セミナ1	2	7	卒業研究の指導教員の下で、卒業研究に沿ったテーマや、卒業研究に関連した専門分野の知識の向上を図ります。	卒業研究に関連したツールや装置を活用できる。
		セミナ2	2	8	セミナ1に続いて、卒業研究の指導教員の下で、卒業研究に沿ったテーマや、卒業研究に関連した専門分野の知識の向上を図ります。	
	卒業研究	卒業研究	6	7・8	卒業研究の指導教員の下で特定の研究テーマに関して、実験、シミュレーション、解析、設計、調査等を行い、技術者としてのレベルアップを図ります。卒業研究が進んだ段階では、研究テーマについてのディスカッションや発表を行います。	卒業研究の基礎となる知識や技術がわかる。
						卒業研究に関連したツールや装置を活用できる。
		卒業研究	6	7・8	卒業研究の指導教員の下で特定の研究テーマに関して、実験、シミュレーション、解析、設計、調査等を行い、技術者としてのレベルアップを図ります。卒業研究が進んだ段階では、研究テーマについてのディスカッションや発表を行います。	

学科 (専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
										10	10		20
										10	10		20
0	0	0	0	0	0	0	0	30	30	20	20	0	100
											40		40
											30		30
											30		30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100
									10	15			25
										10	10	5	25
										10	10	5	25
										10	10	5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	45	30	15	100
									20				20
									20				20
									20				20
									10			10	20
									10			10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	0	0	20	100
									15				15
									15				15
									15				15
									15				15
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
								20	20	20		20	80
											20		20
													0
													0
													0
													0
0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
								20	20	20		20	80
											20		20
													0
													0
													0
0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
									10	20	20	20	70
									10	10		10	30
													0
													0
													0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	30	20	30	100

学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

情報デザイン学科は、情報技術を活用した情報デザインに関わる基礎から応用までの専門知識を有し、社会の変化に対応して商品やサービスの魅力と価値を高められるデザイン能力を有する職業人を育成するとともに、情報デザインに関わる深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とします。

2. 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針になっています。

2.1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦勞と喜びへと促します。

専門力の育成とは、社会の変化に対応して創造性豊かな情報デザインができる人材を育成することを理念に、下記の教育目標を設定しています。【 】は大分類の項目、・文が具体的目標内容、《 》内はその資質・能力領域です。

(1). 【基礎力】時代の変化に対応できる人間基礎力の育成

- ・知とスキル(学芸技能)を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる《関心・意欲・態度》
- ・他者と協調・協働して、情報化社会にふさわしい倫理観を持って、適切にコミュニケーションできる《汎用的技能・表現》

(2). 【理解・発想】状況に応じた柔軟な理解力、発想力の育成

- ・状況を察知して、調査・分析し、他者・社会の目的を理解し、解決すべき課題を見つけることができる
- ・感性および論理性を養い、新たな価値が創造されるような企画、発案ができる《知識・理解、思考・判断》

(3). 【知識・創作】専門知識に基づいた創作力、設計力、構成力の育成

- ・形、音、色彩、広告、ことば、コンピュータ、材料など広くデザインに関する知識を身に付けている
- ・表現・制作目標に向けて出したアイデアを効果的に使用したり、組み立てたりすることができる《知識・理解、思考・判断》

(4). 【表現・制作】感性および論理性に基づいた表現力、制作力の育成

- ・グラフィック、サウンド、映像、CADなどのソフトウェアの操作法、ならびにプレゼンテーション、制作、加工方法に習熟している
- ・学んだことを総合的に用いて実践的な表現・制作ができる《汎用的技能・表現、学習の統合と創造力》

上記教育目標を達成するために、学生は下記のような“道しるべ”となる達成基準を目指して、学びの“青写真”といえる標準教育プログラムにおける“道すじ”を示した履修モデルに沿って学修します(4つの大きな目標をそれぞれ2つに分けた計8つの目標がカリキュラムマップに記されています。履修モデルについては後で説明します)。そして、このような教育目標達成基準(学科ディプロマ・ポリシー)に達して、合計取得単位数など卒業要件を満たすと卒業となります。

このような教育課程と教育方針・姿勢を含む学科の教育体系を図1に示します。

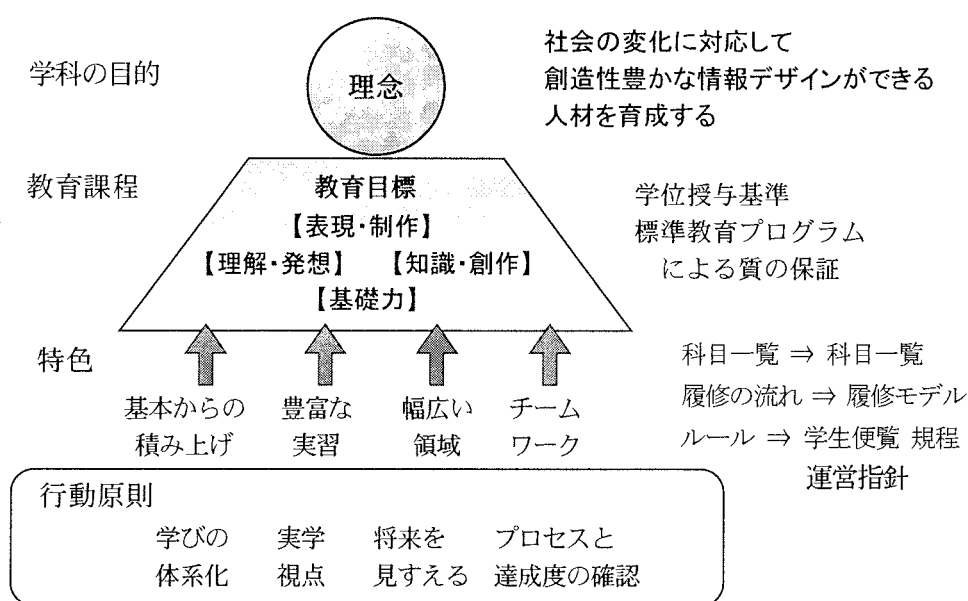


図1. 学科教育体系の概念図

2. 2 学位授与の方針

情報デザイン学科では、以下の力を備えた者、すなわち、教育目標に到達した者に学位(情報学士)を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応できる素養を身に付けることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身に付けている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。

(専門力)

8. 知とスキル(学芸技能)を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる。
9. 他者と協調・協働して、情報化社会にふさわしい倫理観を持って、適切にコミュニケーションできる。
10. 状況を察知して、調査・分析し、他者・社会の目的を理解し、解決すべき課題を見つけることができる。
11. 感性および論理性を養い、新たな価値が創造されるような企画、発案ができる。
12. 形、音、色彩、広告、ことば、コンピュータ、材料など広くデザインに関する知識を身に付けている。
13. 表現・制作目標に向けて出したアイデアを効果的に使用したり、組み立てたりすることができる。
14. グラフィック、サウンド、映像、CADなどのソフトウェアの操作法、ならびにプレゼンテーション、制作、加工方法に習熟している。
15. 学んだことを総合的に用いて実践的な表現・制作ができる。

3. 標準教育プログラム

標準教育プログラムとは、本学で学ぶ皆さんが、上に示した教育の目的と学位授与の方針に到達するために4年間で身に付けることが必要な知識や能力の骨格を「教養力」と「専門力」に分けて定めたもので、これは、本学の教育課程編成・実施の方針に基づき作成されています。情報デザイン学科の標準教育プログラムは、以下の(1)～(6)になります。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(専門力)

(3) 情報化社会に求められる基礎的人間力を身に付ける

自分自身を知り、行動力や判断力を身に付けます。初めてでも取り組めるようにデザインの基本を一から学ぶとともに、デザインはじめどのような分野に取り組むのにも必要な基本的な知とスキル、およびそれらを高めていく主体的な学習態度が身に付くように、1&2年次において学科共通の専門基礎科目を学びます。

(4) 状況に応じて柔軟に理解、調査・分析、発想・創造ができる

状況を察知して、調査・分析し、他者・社会の目的を理解し、解決すべき課題を見つけられるようになります。デッサンや造形などデザインの基礎、広告・広報、情報分析の分野の科目を通して、発想や創造性をみがきます。

(5) 専門知識に基づいた創作力、設計力、構成力を身に付ける

形、音、色彩、広告、ことば、コンピュータ、材料など広くデザインに関する知識を身に付けます。着想したアイデアを実践するために、デザインに関する知識を学びながら、発展させたり、組み合わせたり、実用のために修整したりする創作力や柔軟性を養います。

(6) 感性および論理性に基づいて表現、制作する専門技術を身に付ける

グラフィック、サウンド、映像、CG(コンピュータを使用したグラフィック作成)、CAD(コンピュータを使用した製図)、Web 関連などのソフトウェアの操作法、2D、3Dプリンタによる出力技術、ならびにプレゼンテーション、制作、加工方法に習熟します。このようにして学んだことを総合的に用いて実践的な表現・制作に取り組みます。

4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

本学の教育課程では、標準教育プログラムに基づき、学修の達成に必要な授業科目を順次的・体系的に配置するとともに、授業科目ごとに学修到達目標を定めています。また、授業科目の配置と学位授与の方針との関係を示すために、カリキュラムフローチャートとカリキュラムマップが準備されています。これらは本学の教育課程編成・実施の方針により作成されています。そして、皆さんが進みたい分野に応じて科目を選ぶ参考として履修モデルがあります。

図2は標準教育プログラムに基づく教育課程の概念をまとめたものです。教育課程は人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。以下にそれぞれの科目群について説明します。

学年と目あて\目標		基礎力	理解・発想	知識・創作	表現・制作
4年次 学んだことを結びつけ、 専門的な力を完成させる	人間科学 科目群	卒業研究			
3年次 専門的な力を身に付け、 社会との関わりを理解する		専門科目群 専門的な内容を学ぶ			
2年次 基礎力を伸ばし、学びと進路の 目標を明確にする		専門知識・スキルの基本を学ぶ			
1年次 大学における活動習慣を身に付け、 学ぶ方法を身に付ける		専門基礎科目群 基礎的素養をつちかう			

図2. 情報デザイン学科の教育課程概念図 (科目群の位置づけと役割)

4. 1 人間科学科目群

(1)教育内容

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ (First Year Seminar, 略して FYS、初年次演習)とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「学習技法 (スタディ・スキルズ)」を習得してもらう科目です。いわば「大学での学び方」を学ぶ授業科目です。これをまず入学当初に身に付けてもらうこと、そのことが皆さん方に4年間の充実した大学での学びを保証します。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方 (つまり知的レベルをステップアップする方法) のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションの様々な方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応すること、言いかえると皆さんが手応えをもって大学生活を送ることを手助けするところにあります。しかしそれだけではなく、皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとすると、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきと感じることでしょう。それらを可能にするのも、知的自己形成に資する技法です。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

② 外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思うかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「基礎英語グラマー1・2」と「基礎英語リーディング1・2」、2年次には「コミュニケーション英語1・2」を必修科目として開講しています。「コミュニケーション英語1・2」では関心に応じたコースを選ぶことができます。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「コミュニケーション英語3・4」という選択科目を開講しています。

③ 健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身に付けることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとしても)運動を継続して行えるような素地を身に付けることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④ 基礎英語セミナ

基礎英語セミナでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目指します。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることとなります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

b 人間科学科群 Bグループ

開講が予定されている講義系と演習系科目は、すべて次世代を担う一市民としての教養を磨き高めることを目的とします。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション能力」と「固定観念にとらわれず自ら考えを組み立てる力」に重点を置いています。人文科学、社会科学、自然科学、総合系の諸科目を取りそろえていますから、できるだけ偏りのないように履修し、修得することが望

まれます。

私たちは文字通りグローバルな激動の世の中に生きています。世界はテクノロジーを介して、距離と時間に縛られることなく緊密に結びついています。しかしその一方で、善い事も悪い事もよその国の出来事ではすまされない時代に私たちは直面しています。

世界の同時不況から日本が立ち直りかけたと思われた矢先に、ギリシアに端を発するヨーロッパの通貨危機、東日本の大震災、原発事故等によってわれわれの暮らしは一変させられました。アラブ世界も大きく変容しています。ローカルな異文化衝突、民族紛争も止む気配がありません。それらは局地的に先鋭化を見せ、これが国際社会をいとも簡単に協調から敵対関係へ、あるいは資源の争奪へと巻き込みます。

具体的に皆さんに求められているのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵と活力を身に付けることです。そのためには現在を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは協力しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学分野の学問が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では経済学、法学、政治学、社会学、社会調査の方法、地域研究がさまざまな社会の仕組みや国際関係を扱います。

また自然科学のアプローチから、われわれの思考や生活や身体を見直す諸科目も創設しました。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、行動生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身そのものに焦点を当てています。

2年次、3年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングやPBL(問題 or 課題解決型授業)を意識した少数科目を開設しています。

以上の科目を選択履修することによって、幅広い知識の修得と同時に、全体としてもものの見方や考え方を学んでいくように努めてもらいます。その最も基本的な目標を繰り返せば、「論理的な思考力と的確な表現力の養成」です。つまり、物事を直感だけに頼らず、筋道を立てて順序よく考え、それを他人にわかりやすく伝える力を養うということです。

大学での勉学は、与えられた何かを繰り返し習い覚えること以上に、何が問題でその解決のためにはどうしたらよいのかについて、自分自身が考え始めるところに醍醐味があります。人間科学科目群Bグループがその糸口となることを願っています。

C 人間科学科目群Cグループ

情報学部 の1年次生および2年次生を対象に、社会人基礎力を養成する必修科目を開設しています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4. 2 専門基礎科目群と専門科目群

(1) 各専門分野に向けた学年ごとの学び方

「専門基礎科目」は、それぞれの専門分野における根幹となる科目です。「専門科目」は興味や将来の進路を考えて希望する内容を扱う科目です。4年次の「卒業研究」に関連する科目は、3年間で学んだことを活かし、さらに深めて行きます。自分なりのテーマを設定して制作を完成させたり、提案をしたり、論究したりして、集大成として学びを仕上げます。その成果として社会、企業の要求に応える、現場に強い実学的な情報デザイン能力を身に付けられます。

(2) 学修到達目標

標準教育プログラムで述べた内容をどのような順序で学び、どのような知識とスキルを修得するかについて、各授業科目の学修到達目標が学位授与の方針との対応がカリキュラムマップに示されています。

学年進行に伴う履修の流れの概念を図3に示します。

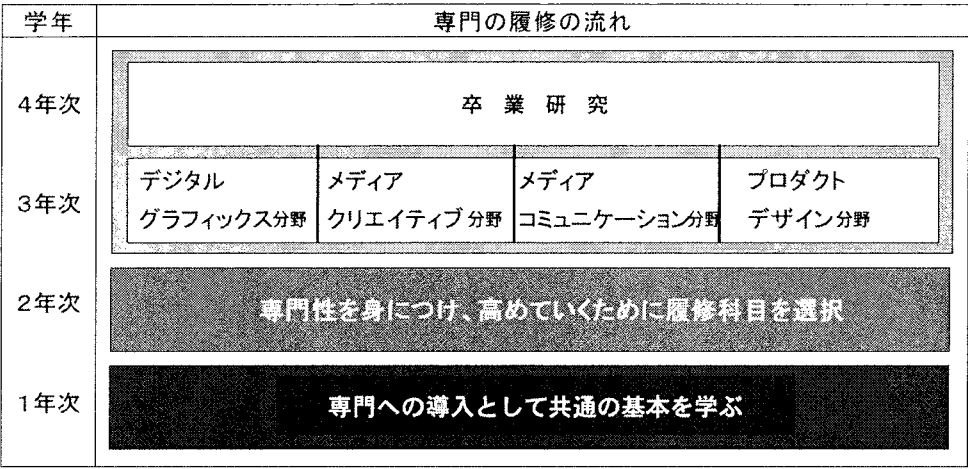


図3. 履修の進み方の全体概念図

この図3に示した概念を説明します。まず、1年次では、学科共通の基礎的な内容の専門基礎科目を履修します。また、情報デザイン学科が目指す各分野を学ぶことができる内容も含んでいますので、後の専門分野を選択する際の足がかりにもなります。

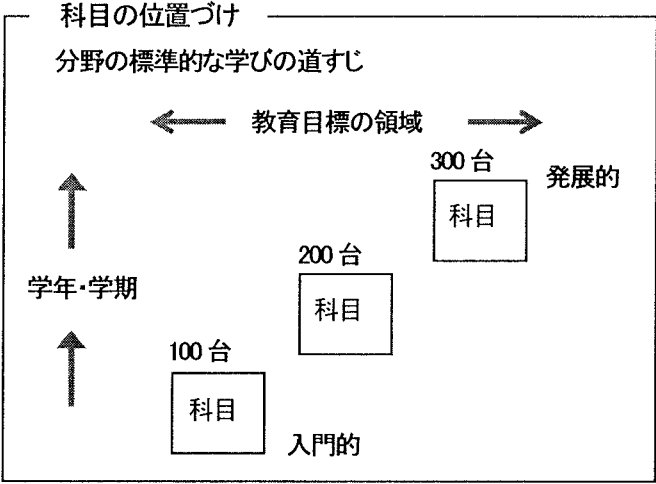
2年次では、学生ごとの興味に沿って専門性を身に付けるために1年次の学びを基にして、3年次に選択する4つの分野（「デジタルグラフィックス分野」「メディアクリエイティブ分野」「メディアコミュニケーション分野」「プロダクトデザイン分野」）の中から2分野を選択し、じょじょに専門的な学びに入っていきます。

3年次では、上記4つの分野から1つを選択し、専門分野ごとの科目を履修します。学科共通の科目や関係する分野の科目も興味と必要に応じて履修します。このようにして、専門性を高め、将来の目標に向かって学んでいきます。

次に、専門分野ごとに学ぶ内容を具体的に説明します。学科の科目一覧を図4に、その見方を図5に示します。科目には科目番号がついており、対象年次、科目の専門的位置づけ、開講期などが示されています。これにより、科目の分野・領域や目標のレベルが判ります。なお、『情報デザイン基礎実習』で学ぶ領域についてはグラフィックス関連、『造形デザイン演習』はプロダクト関連の分野で代表させてあります。

4 年 次						499 卒業研究
						402 情報デザイン 研究2
						401 情報デザイン 研究1
3 年 次		354 視覚情報デザイン実習B	364 メディアクリエイティブ実習D	372 Web デザイン実習B	384 応用CAD実習B	392 専門 세미나2
		353 視覚情報デザイン実習A	362 メディアクリエイティブ実習C	371 Web デザイン実習A	383 応用CAD実習A	391 専門 세미나1
		352 デジタルグラフィックス実習B	363 メディアクリエイティブ実習B	374 クロスワークプロジェクト	382 製品デザイン実習B	
	307 ビジネスコンピューティング	351 デジタルグラフィックス実習A	361 メディアクリエイティブ実習A	335 マーケティングプランニング	381 製品デザイン実習A	
		314 コミュニケーションデザイン論	324 メディアクリエイティブ論D	333 クリエイティブプランニング	344 空間デザイン論	
		313 視覚情報表現論	322 メディアクリエイティブ論C	337 Web デザイン論	343 材料と加工法論	
		312 デジタルデザイン論B	323 メディアクリエイティブ論B	336 メディアコミュニケーション論B	342 デジタルプレゼンテーション論	
		311 デジタルデザイン論A	321 メディアクリエイティブ論A	334 メディアコミュニケーション論A	341 プロダクトデザイン論	
	306 プログラミング4	316 メディアワークプロジェクト		332 情報デザイン論3		394 インターンシップ(学外研修)
	305 プログラミング3			331 情報デザイン論2		
2 年 次		258 CGプログラミング2				
		257 CGプログラミング1				
		256 コンピュータデザイン実習D				
		255 コンピュータデザイン実習C				
	208 プログラミング2	254 情報デザイン基礎実習F	224 映像デザイン基礎2			
	207 プログラミング1	253 情報デザイン基礎実習E	223 映像デザイン基礎1			294 情報デザイン特別活動D
	206 社会と情報3	252 情報デザイン基礎実習D	222 コンピュータサウンド2	232 情報デザイン論1	282 CAD 実習2	293 情報デザイン特別活動C
	204 自己表現4	251 情報デザイン基礎実習C	221 コンピュータサウンド1		281 CAD 実習1	292 情報デザイン特別活動B
1 年 次	203 自己表現3	211 基礎デザイン論3				291 情報デザイン特別活動A
	108 情報処理基礎	154 コンピュータデザイン実習B				
	106 社会と情報2	153 コンピュータデザイン実習A				
	105 社会と情報1	152 情報デザイン基礎実習B				
	104 自己表現2	151 情報デザイン基礎実習A				
	103 自己表現1	112 基礎デザイン論2	122 基礎音楽論		142 造形デザイン演習2	
	101 情報デザイン入門 세미나	111 基礎デザイン論1			141 造形デザイン演習1	191 コンピュータリテラシ

図 4. 科目一覧



科目の例

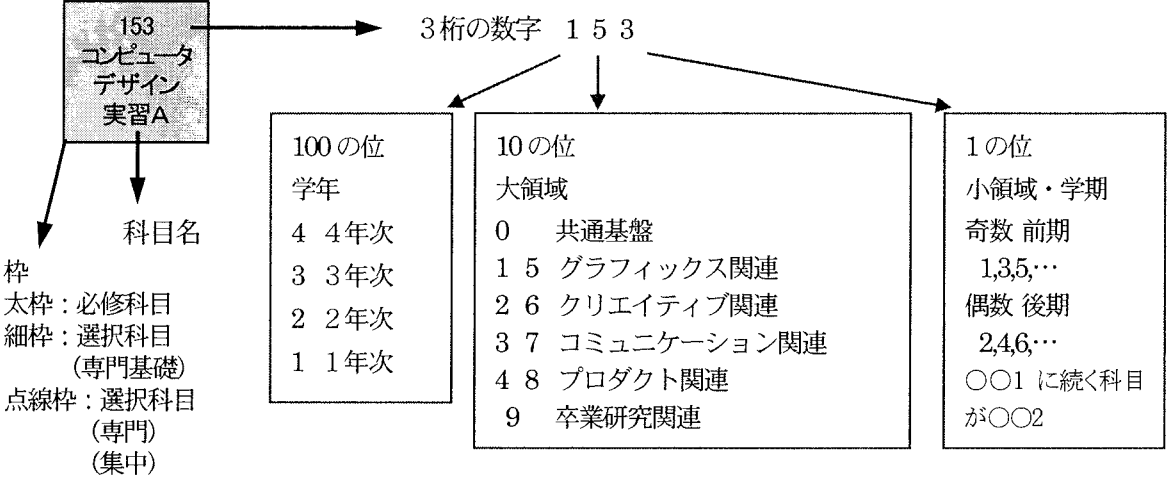


図 5. 科目の見方と位置づけ

なお、394『インターンシップ(学外研修)』は夏期に企業に出向いて行う実務的な活動の成果を評価する科目です。また、290 番台『情報デザイン特別活動A・B・C・D』は学生の自己設計に基づく自主的な活動の成果を評価する科目です。このように、本学科のカリキュラムには教室外の自発的・積極的な活動への対応も用意されています。

5. カリキュラム・フローチャート

専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを図6に示します。

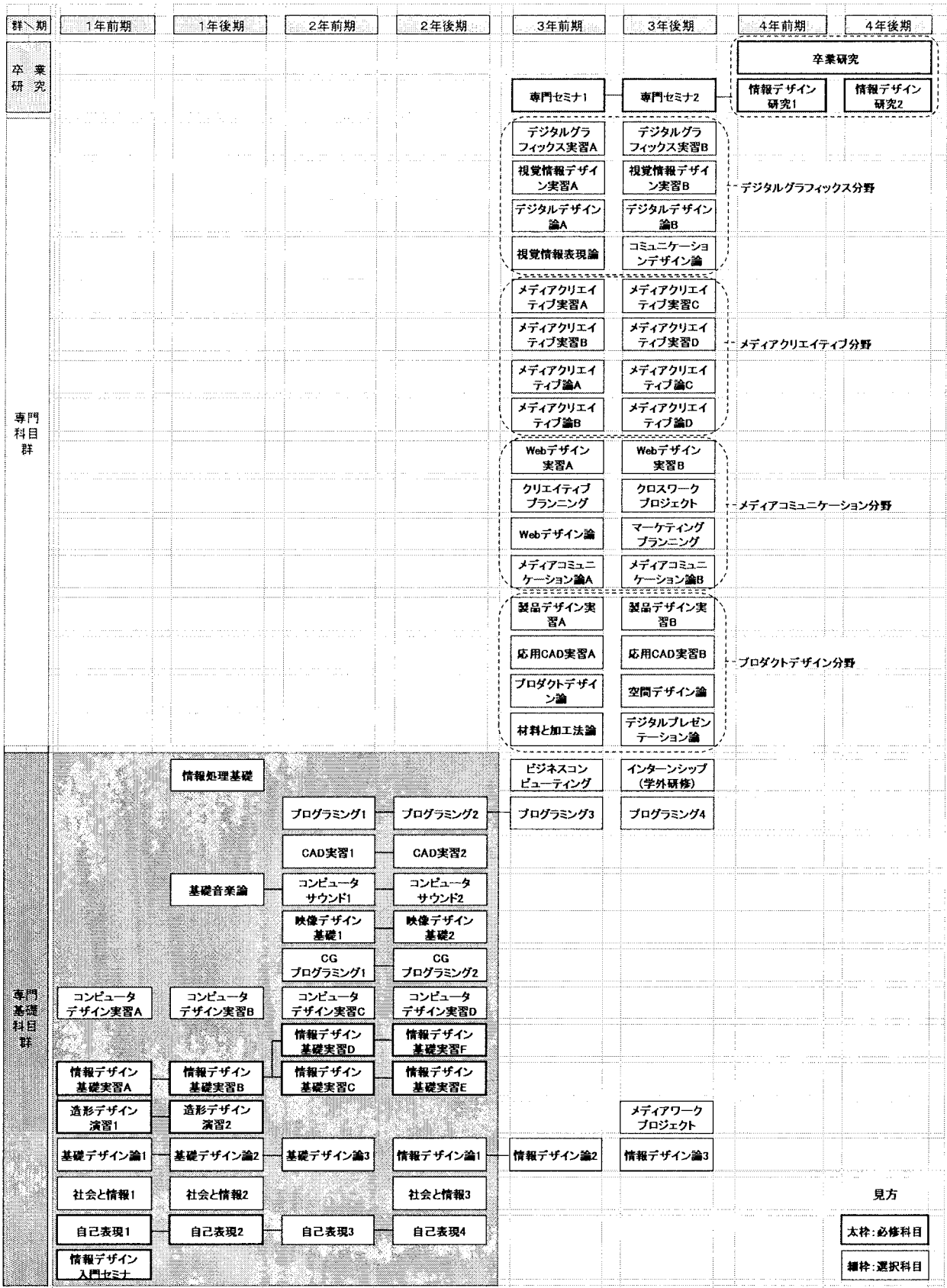


図6. 専門科目のカリキュラム・フローチャート

6. 履修モデル

学びの“道すじ”として科目の並びを示した履修モデルは、3年次から4分野に分かれて専門に取り組むことをみすえて、1年次から4つに分かれています。それぞれの興味と目標にしたがって、基本的に履修モデルにそって履修することが推奨されます。

なお、期ごとの登録単位数に上限があります。そのため、例えば2年次に開講される選択科目を上位学年の3年次になってから履修することができます。逆に、2年次用の科目を下位学年の1年次で履修することはできません。

本学科の専門基礎科目・専門科目では、ある科目の履修にあたって先に合格しておかないと履修できないという、いわゆる先修条件はありません。しかし、例えば 150 番台、250 番台の科目で履修しないものがあるのに 350 番台の科目を履修するというようなことは困難ですので、自分の興味と目標を考えて、図4.科目の一覧と以下の履修モデルを参照して、学習計画を立ててください。

1&2年次の共通科目とは異なり、3&4年次の専門科目群については、各専門分野の科目については原則としてクラス指定の科目を受講して専門性を高めます。学士(情報学)としての総合的な力が付くように、計画的に履修を進めます。

「デジタルグラフィックス分野」「メディアクリエイティブ分野」「メディアコミュニケーション分野」「プロダクトデザイン分野」という4つの分野の特徴と履修モデルを記します。

科目一覧	履修モデル	
(図4)	メディアデザイン専攻	a) デジタルグラフィックス履修モデル
専門基礎科目・ 専門科目		b) メディアクリエイティブ履修モデル
		c) メディアコミュニケーション履修モデル
	プロダクトデザイン専攻	d) プロダクトデザイン履修モデル

a) デジタルグラフィックス分野

デジタルグラフィックス分野を志望する多くは、「イラストレーションやゲーム・アニメに感心が強い」という人でしょう。しかし、視覚情報の主たる要素は文字と図です。デジタルグラフィックス分野では、1&2年次での造形デザイン系や基礎デザイン系の科目で習得した幅広い基礎的な造形力と表現力をさらに視覚情報として伝達することへと昇華させて行きます。そこには「デザインとは何か?」と問いかける学びから始まります。ただ絵を描くだけではなく、グラフィックデザインの領域である「グラフィック」「エディトリアル」「Webデザイン」「タイポグラフィ」「フォトグラフ」「イラストレーション」「キャラクターデザイン」「パッケージング」「ビクトグラム」などをコミュニケーションのための情報アイテムとして、手と頭、2D/3Dを横断するコンピュータスキルを使い、実習系科目である『デジタルグラフィックス実習A・B』『視覚情報デザイン実習A・B』の中で実践的に学んで行きます。

さらに、身近なテーマから社会性を帯びたテーマまで幅広い範囲での視覚情報デザインについて、理論系科目の中にある『デジタルデザイン論A・B』『視覚情報表現論』『コミュニケーションデザイン論』で深く追求して行きます。また、より新しい価値観やアイデアの提案など、ビジュアルデザインに関する研究も行い、私達が持っている五感すべてを活かしたデザインをテーマにグラフィックデザインを考えます。

履修モデル：情報デザイン学科デジタルグラフィックス分野

年次		専門基礎科目・専門科目						
年次	学期	● 基礎力 15単位	● 理解・発想 16単位	● 知識・創作 8単位	● 表現・制作 48単位	● 卒業研究関連 10単位		
4年次	8期					402 情報デザイン研究2	卒業研究	
	7期					401 情報デザイン研究1		
3年次	6期				314 コミュニケーションデザイン論 354 視覚情報デザイン実習B	394 インターンシップ		
	5期		332 情報デザイン論3		312 デジタルデザイン論B 352 デジタルグラフィックス実習B	392 専門ゼミナ2		
2年次	4期				313 視覚情報表現論 353 視覚情報デザイン実習A			
	3期		331 情報デザイン論2		311 デジタルデザイン論A 351 デジタルグラフィックス実習A	391 専門ゼミナ1		
1年次	2期		232 情報デザイン論1	206 社会と情報3	254 情報デザイン基礎実習F 256 コンピュータデザイン実習D 258 CGプログラミング2	204 自己表現4		
	1期	104 自己表現2 108 情報処理基礎 122 基礎音楽論			252 情報デザイン基礎実習D 255 コンピュータデザイン実習C 257 CGプログラミング1 281 CAD実習1	203 自己表現3		
1年次	2期		112 基礎デザイン論2 142 造形デザイン演習2	106 社会と情報2	211 基礎デザイン論3 251 情報デザイン基礎実習C 221 コンピュータサウンド1 223 映像デザイン基礎1			
	1期	103 自己表現1 105 社会と情報1 101 情報デザイン入門ゼミナ 111 基礎デザイン論1		141 造形デザイン演習1	153 コンピュータデザイン実習A 151 情報デザイン基礎実習A			

b)メディアクリエイティブ分野

メディアクリエイティブ分野では、「映像」「デジタルクリエイティブ」「サウンド」「言語表現」など、メディアで作品を送り出すために必要な技術を、経験豊富なプロフェッショナルの教員から実践的に学べます。デジタル環境が整った施設・機器で技術を高めるとともに、放送倫理や著作権などの知識も身に付けます。

「映像」には、テレビ、劇映画、CM、ドキュメンタリーなどさまざまな形があり、それぞれの特徴を生かしなが
ら、人々に何かを伝えていくことができます。その底辺にあるのは、映像制作者の強い思いです。人間性を磨
き、同時に制作技術を磨くことこそ映像制作の原点です。また「デジタルクリエイティブ」ではCG 動画やブ
ログラミングなどを用いて、実写では描けない世界を創造していきます。そして「サウンド」では、コンピュ
ータを用いた音楽表現とサウンドデザイン表現の双方を学んでいきます。カリキュラムでは音楽理論やMIDI 習得
に始まりAUDIO 編集、アレンジ、プログラムに至るまでを学び、「サウンドデザインとは何か？」を導き出し
ていきます。さらに、作品を構成する要素として「言語表現」も重要です。どのような言葉を選び、文章を構成し
て効果的に伝えるか。豊かなコメント力や、顔と声の表現力を磨き、話を聞き出す力や受け止める力も養って、
社会生活に必要な会話力も身に付けていきます。

履修モデル： 情報デザイン学科メディアクリエイティブ分野

年次	学期	専門基礎科目・専門科目						
		● 基礎力 15単位	● 理解・発想 12単位	● 知識・創作 8単位	● 表現・制作 52単位	● 卒業研究関連 10単位		
4 年次	8 期					402 情報デザイン研究2	卒業研究 499	
	7 期					401 情報デザイン研究1		
3 年次	6 期				324 メディアクリエイティブ論D 364 メディアクリエイティブ実習D	394 インターシップ		
	5 期				322 メディアクリエイティブ論C 362 メディアクリエイティブ実習C 323 メディアクリエイティブ論B 363 メディアクリエイティブ実習B 321 メディアクリエイティブ論A 361 メディアクリエイティブ実習A	392 専門ゼミナ2		
2 年次	4 期				254 情報デザイン基礎実習F 256 コンピュータデザイン実習D 258 CGプログラミング2			
	3 期	207 プログラミング1	232 情報デザイン論1 206 社会と情報3		253 情報デザイン基礎実習E 222 コンピュータサウンド2 224 映像デザイン基礎2 204 自己表現4 252 情報デザイン基礎実習D 255 コンピュータデザイン実習C 257 CGプログラミング1 281 CAD実習1 211 基礎デザイン論3 251 情報デザイン基礎実習C 221 コンピュータサウンド1 223 映像デザイン基礎1 203 自己表現3			
1 年次	2 期	104 自己表現2 108 情報処理基礎 122 基礎音楽論	112 基礎デザイン論2 106 社会と情報2 142 造形デザイン演習2		152 情報デザイン基礎実習B 154 コンピュータデザイン実習B			
	1 期	103 自己表現1 101 情報デザイン入門セミナー 105 社会と情報1 111 基礎デザイン論1	141 造形デザイン演習1	153 コンピュータデザイン実習A 151 情報デザイン基礎実習A				

c) メディアコミュニケーション分野

情報の発信および交流に関するコミュニケーションの創造について学びます。これまでのメディアコミュニケーションは、新聞やテレビなどを用いた、多くの人々の共通部分を主な対象にした片方向のコミュニケーションといえるものでした。しかし、今後はますます進化拡張し続ける情報技術により、受け手は単なる消費者ではなく、製品作りやブランド作りあるいは世論作りにまで参画する発信者となります。

メディアコミュニケーション分野では、このような発展を続ける情報環境に対応しうる、生活者の洞察や双方向コミュニケーションの在り方、適切なメッセージの開発や発信手段の構築などを学びます。1 & 2 年次の基礎的な学習に続き、3 & 4 年次にはそれらの個人間、ならびに経済や文化など広く社会における価値あるコミュニケーションの創造について歴史的、理論的に理解し、議論し、実践的に創作していきます。こうして、社会で活躍できる情報創造力を身に付けることができます。

履修モデル： 情報デザイン学科メディアコミュニケーション分野

年次		学期		専門基礎科目・専門科目									
				● 基礎力	● 理解・発想	● 知識・創作	● 表現・制作	● 卒業研究関連 10単位					
				17単位	18単位	10単位	42単位						
4 年次	8 期							402 情報デザイン研究2					
	7 期							401 情報デザイン研究1					
3 年次	6 期				306 プログラミング4	336 メディアコミュニケーション論B	374 クロスワークプロジェクト	372 Webデザイン実習B	394 インターンシップ				
	5 期				332 情報デザイン論3		316 メディアワークプロジェクト		392 専門 세미나2				
2 年次	4 期			208 プログラミング2	305 プログラミング3	334 メディアコミュニケーション論A	335 マーケティングプランニング	371 Webデザイン実習A					
	3 期				331 情報デザイン論2	333 クリエイティブプランニング	307 ビジネスコンピューティング	337 Webデザイン論	391 専門 세미나1				
1 年次	2 期				232 情報デザイン論1		206 社会と情報3	254 情報デザイン基礎実習F	258 CGプログラミング2	253 情報デザイン基礎実習E	256 コンピュータデザイン実習D	224 映像デザイン基礎2	204 自己表現4
	1 期			104 自己表現2	207 プログラミング1			252 情報デザイン基礎実習D	257 CGプログラミング1	251 情報デザイン基礎実習C	255 コンピュータデザイン実習C	281 CAD実習1	203 自己表現3
1 年次	2 期			108 情報処理基礎		112 基礎デザイン論2	106 社会と情報2	152 情報デザイン基礎実習B	154 コンピュータデザイン実習B				
	1 期			103 自己表現1	122 基礎音楽論	142 造形デザイン演習2							
1 年次	2 期			101 情報デザイン入門セミナー	105 社会と情報1			153 コンピュータデザイン実習A	151 情報デザイン基礎実習A				
	1 期				111 基礎デザイン論1	141 造形デザイン演習1							

d)プロダクトデザイン分野

「プロダクトデザイン」は日本語に訳すと「製品デザイン」で、この分野では製品のデザインについて学びます。日々の生活で使用する製品から、専門的な用途に使われる機器システムなどの様々な製品デザインについて学修します。製品デザインの一連の作業では、人々の生活のあり方や機器システムの活用現場を観察、調査し、デザインをする上での重要な観点や問題点を発見します。次に、その観点に沿って問題を解決するアイデアを発想し、これまでに無いデザインの案を創造し、具体化を進めていきます。

プロダクトデザイン分野の学修では、デザイン案を具体的に創造し、製品としてまとめる力を身に付けるために、1&2年次には基礎的なデザイン能力を養います。そして、3&4年次にはデザインの案を一つの製品としてまとめ上げる手法を学びます。また、今の製品デザインでは不可欠である先進の CAD や3D プリンターの活用手法も学び、実践的なデザイナーとしての能力を培っていきます。

履修モデル： 情報デザイン学科プロダクトデザイン分野

年次		専門基礎科目・専門科目						
学期		● 基礎力	● 理解・発想	● 知識・創作	● 表現・制作	● 卒業研究関連 10単位		
		15単位	18単位	10単位	44単位			
4年次	8期					402 情報デザイン研究2	499 卒業研究	
	7期					401 情報デザイン研究1		
3年次	6期				344 空間デザイン論 384 応用CAD実習B	394 インターンシップ		
	5期		305 プログラミング3	332 情報デザイン論3	316 メディアワークプロジェクト 342 デジタルプレゼンテーション論 382 製品デザイン実習B	392 専門 세미나2		
2年次	4期	208 プログラミング2		307 ビジネスコンピューティング	343 材料と加工法論 383 応用CAD実習A			
	3期	207 プログラミング1	232 情報デザイン論1	206 社会と情報3	341 プロダクトデザイン論 381 製品デザイン実習A	391 専門 세미나1		
1年次	2期	104 自己表現2 108 情報処理基礎	112 基礎デザイン論2 142 造形デザイン演習2	106 社会と情報2	254 情報デザイン基礎実習F 253 情報デザイン基礎実習E 252 情報デザイン基礎実習D 257 CGプログラミング1 281 CAD実習1	204 自己表現4		
	1期	103 自己表現1 105 社会と情報1	141 造形デザイン演習1		211 基礎デザイン論3 251 情報デザイン基礎実習C 152 情報デザイン基礎実習B 154 コンピュータデザイン実習B	203 自己表現3		

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン・プロダクトデザイン専攻 カリキュラムマップ

大学の目的
大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

学部 の 教育研究上の目的
情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

学科 の 教育研究上の目的
情報デザイン学科は、情報技術を活用した情報デザインに関わる基礎から応用までの専門知識を有し、社会の変化に対応して商品やサービスの魅力と価値を高められるデザイン能力を有する職業人を育成するとともに、情報デザインに関わる深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修	選択	自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤ－・ 세미나	1				1 [2]	スタディ・スキルズとは。ノート・テイキング。リーディングのスキルと文章要約。図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践	高校と大学の学びの違いが理解できる。 ノートの取り方が効果的にできる。 文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。 図書館の利用法がわかる。 レポートの作成の必要手順が分かる。 基本的なレポートの作成ができる。 プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。 プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。 授業科目の貢献度
		基礎英語グラマー1	1				1 [2]	この授業では、4技能（読む・聴く・書く・話す）の基礎としての文法力を固めるために体系的な文法教育をおこない、文法的な基礎力に裏打ちされたコミュニケーション能力の向上をはかることを目標とします。そのために文法法則の単なる暗記ではなく、英語による自己表現能力や運用能力の基盤としての文法力を身につけてもらうことをめざします。	品詞の性質の違いについて理解できる。 さまざまな時制を英語で適切に表現できる。 標準的な文章の主語と述語動詞を正しく指摘することができる。 5つの文型について正しく判別することができる。 文法にしたがって、正しく和訳することができる。 授業科目の貢献度
		基礎英語グラマー2	1				2 [3]	この授業では、前期に開講されている基礎英語グラマー1の内容を継続・発展させるかたちで、4技能（読む・聴く・書く・話す）の基礎としての文法力を固めるために体系的な文法教育をおこない、文法的な基礎力に裏打ちされたコミュニケーション能力の向上をはかることを目標とします。そのために文法法則の単なる暗記ではなく、英語による自己表現能力や運用能力の基盤としての文法力を確実に身につけてもらうことをめざします。	受動態をつかって英文を書くことができる。 不定詞の3つの用法について正しく判別することができる。 関係代名詞の用法ならびに種類について正しく理解することができる。 that節や関係詞節など、節を含む構造の文章を正しく和訳することができる。 これまで学習した文法項目を用いて、自分の考えを表現することができる。 授業科目の貢献度
		基礎英語リーディング1	1				1 [2]	この授業では、リーディング手法を体得してもらうとともに、語彙力の向上をはかるようにしていきます。リーディングという英語から日本語に訳すことと思うかもしれませんが、特に英語の語順のまま英文の内容を把握する能力の基礎を養成します。	英文の構造を把握しながら基礎的な英文を読み進めることができる。 英語の論理展開を理解しながら、基礎的な英文を読み、その内容を理解することができる。 基礎的な英文の意味を理解しながら、音読することができる。 基礎的な語彙（英単語および英熟語）の意味を理解できる。 英文の題材を通じて、自然環境、社会問題、異文化についての理解を深めることができる。 授業科目の貢献度

学位授与の方針	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。	I. 他者と協調・協働して、情報化社会にふさわしい倫理観を持って、適切にコミュニケーションできる。
	B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応できる素養を身につけることができる。	J. 状況を察知して、調査・分析し、他者・社会の目的を理解し、解決すべき課題を見つけることができる。
	C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。	K. 感性および論理性を養い、新たな価値が創造されるような企画、発案ができる。
	D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。	L. 形、音、色彩、広告、ことば、コンピュータ、材料など広くデザインに関する知識を身につけている。
	E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。	M. 表現・制作目標に向けて出したアイデアを効果的に使用したり、組み立てたりすることができる。
	F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。	N. グラフィック、サウンド、映像、CADなどのソフトウェアの操作法、ならびにプレゼンテーション、制作、加工方法に習熟している。
	G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。	O. 学んだことを総合的に用いて実践的な表現・制作ができる。
	H. 知とスキル（学芸技能）を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる。	

学科（専攻）の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
		10													10
		10													10
		10													10
		10													10
		10													10
		10				10									20
		10				10									10
		10				10									20
0	0	80	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8														20
12	8														20
12	8														20
12	8														20
12	8														20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8														20
12	8														20
12	8														20
12	8														20
10	8					2									20
58	40	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8														20
12	8														20
12	8														20
10	8					2									20
10	6		2			2									20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修	選択	区分自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	基礎英語リーディング2	1			2 [3]	この授業では、前期に開講されている基礎英語リーディング1の内容を継続・発展させるかたちで、リーディング手法を体得してもらうとともに、語彙力の向上をいっそうはかるようにしていきます。リーディングというと英語から日本語に訳すことと思うかもしれませんが、特に、英語の正しい発音で音読ができるようにしつつ、英語の語順のまま内容を把握する能力の基礎を養成します。	英文の構造を把握しながら、より正確に英文を読み進めることができる。 英語の論理展開を理解しながら、英文を読み、その内容をより深く理解することができる。 英文の意味を理解しながら、より流暢に音読することができる。 基礎的な語彙（英単語および英熟語）の意味を瞬時に理解できる。 英文の題材を通じて、自然環境、社会問題、異文化についての理解をより深めることができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語1 〈英語会話コース〉	1			3 [4]	この授業では、ますますグローバル化する21世紀の中でコミュニケーションのツールとして重要な英語力の向上を図ることを狙いとしています。特に、英語のリスニング力を高めることに主眼を置き、その基礎ともなる語彙力も増強してもらうことにします。	日常に使われる基礎的な英語の語彙を理解できる。 ビジネスで使われる基礎的な英語の語彙を理解できる。 提示された状況を説明する英語を聞き取り、大まかに理解することができる。 基礎的な英語の質問を聞き取り、大まかに理解することができる。 状況を大まかに推測しながら、英語を聞き取ることができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語1 〈総合英語コース〉	1			3 [4]	この授業では、1年次の基礎英語文法・基礎英語リーディングを基盤として「読む・聴く・書く・話す」など、英語の総合的運用能力の養成をはかります。また、ビジネスや日常に関する語彙力の強化をはかることにより英語によるコミュニケーション能力を高め、TOEIC等の資格試験に対しても全般的な対応ができる能力を養成します。	英語を通して得た一般常識や時事的な知識を使って、問題を解くことができる。 問題解決に必要な重要単語や重要表現の意味を理解し、身につけることができる。 まとまりのある英文を聴き、重要語句や重要表現を聴き取ることができる。 まとまりのある英文を読み、文型や語順、品詞に注意しながら、要点を把握することができる。 習得した重要単語や重要表現を使って、口頭や文書で短い質問をしたり、答えたりすることができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語1 〈キャリアコース〉	1			3 [4]	この授業では、品詞、代名詞、動詞の時制、進行形、完了などの基礎的な英文法を学習します。交通やインターネットなど身の回りの事柄に関する英語の語彙力の強化も図ります。	主語・動詞や代名詞や助動詞に注意して、英文を正しく解釈することができる。 語の形や文中での位置から品詞を見分けることができる。 動詞の時制や進行形の意味と用法を理解することができる。 完了表現の形・意味と用法を理解することができる。 交通、インターネットなど特定の場面でよく使われる単語の意味を理解することができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語2 〈英語会話コース〉	1			4 [5]	この授業では、前期のコミュニケーション英語1〈英語会話コース〉の内容を継続・発展させながら、英語のリスニング力を高めることに主眼を置き、その基礎ともなる語彙力も増強してもらうことにします。	日常に使われる英語の語彙を理解できる。 ビジネスで使われる英語の語彙を理解できる。 基礎的な英語の対話を聞き取り、大まかに理解できる。 基礎的な英語の説明文を聞き取り、大まかに理解できる。 状況を推測しながら、英語を聞き取ることができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語2 〈総合英語コース〉	1			4 [5]	この授業では、前期のコミュニケーション英語1〈総合英語コース〉の内容を継続・発展させながら、「読む・聴く・書く・話す」の4技能に裏打ちされた実社会で要求される実用的な英語力の向上をめざします。また、ビジネスや日常に関する語彙力の強化を引き続きはかることにより、英語によるコミュニケーション能力をいっそう高めます。	一般常識や時事的な知識を、英語を通して自発的に学ぶことができる。 問題解決に必要な重要単語や重要表現を身につけ、それらが使われている表現の中で、ふさわしい意味を理解することができる。 まとまりのある英文を聴き、その状況を理解しながら、要点を把握することができる。 まとまりのある英文を読み、時制や代名詞、接続詞に注意しながら、話の展開を理解することができる。 習得した重要単語や重要表現を使って、口頭や文書で、ある程度まとまった情報を伝えたり、相手からの情報を理解することができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語2 〈キャリアコース〉	1			4 [5]	この授業では、前期のコミュニケーション英語1〈キャリアコース〉の内容を継続・発展させながら、不定詞や動名詞、関係代名詞などの基礎的な英文法を学びます。ビジネスにおける人事や顧客サービスなど身の回りの事柄に関する英語の語彙力も強化します。	受動態や使役表現の意味と用法を理解することができる。 動名詞の意味と用法を理解することができる。 不定詞の意味と用法を理解することができる。 who, which, whatなど基本的な関係代名詞の意味と用法を理解することができる。 会議や接客など特定の場面でよく使われる単語の意味を理解することができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
12	8														20
12	8														20
12	8														20
10	8					2									20
10	6		2			2									20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	100
14	6														20
12	5					3									20
12	5					3									20
12	5					3									20
12	5					3									20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	100
10	7		2	1											20
12	8														20
12	8														20
12	8														20
12	2					6									20
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8														20
12	8														20
12	8														20
12	8														20
9	8					3									20
57	40	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	100
14	6														20
12	5					3									20
12	5					3									20
12	5					3									20
12	5					3									20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	100
10	6		2	2											20
12	8														20
12	8														20
12	8														20
12	2					6									20
58	32	0	2	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8														20
12	8														20
12	8														20
12	8														20
9	8					3									20
57	40	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修 必修	区分 選択	単位 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	A グループ	コミュニケーション英語3 〈検定コース〉	1			5	この授業では、基礎英語リーディング1・2、基礎英語 グラマー1・2、コミュニケーション英語1・2の学習 内容を基に、TOEIC 等の英語の資格試験に対処できる基 礎力を身につけることを目的としています。	動詞の時制や進行形について理解することができる。 名詞や冠詞などについて理解することができる。 疑問詞、形容詞、副詞などについて理解することができる。 語形や文中での位置を参考にして語の品詞を見分けることができる。 200 語程度の英文を読んで、キーワードを見つけ、概要を理解する ことができる。 繰り返し出てくる基本語彙の意味を理解し、文中で正しく解釈する ことができる。 英語の強弱のリズムやイントネーション、音のつながりなどの音変 化について理解し、それらに注意して英文を 聴くことができる。 英語の短い説明文や会話を聴いて、概要を理解することができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語3 〈キャリア支援コース〉	1			5	この授業では、基礎英語リーディング1・2、基礎英語グ ラマー1・2、コミュニケーション英語1・2を踏まえて、 卒業後のビジネスに関わる英語によるコミュニケーション 能力の養成を図ります。	100 語程度の基礎的な英文を聞き手に、内容を大まかに、伝達する ことができるように音読することができる。 身の回りの状況を簡易な英語を用いて、口頭で説明することががで きる。 英語で基礎的な質問を受け、その質問に英語で答えることができる。 提示された情報を理解し、基礎的な英語を用いて口頭で対処するこ とができる。 与えられたテーマについて、自身の意見を 100 語程度の英文で書き 表すことができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語4 〈検定コース〉	1			6	この授業では、コミュニケーション英語3 〈検定コース〉 の内容を継続・発展させながら、TOEIC 等の英語の資格 試験に対処できる基礎力を身につけることを目的として います。	不定詞、動名詞、助動詞などについて理解することができる。 関係代名詞、分詞、完了、受動態などについて理解することができる。 前置詞、接続詞、代名詞などについて理解することができる。 語形や文中での位置を参考にして語の品詞を見分けることができる。 400 語程度の英文を読んで、事実関係を把握することができる。 繰り返し出てくる基本語彙の意味を理解し、文中で正しく解釈する ことができる。 英語の強弱のリズムやイントネーション、音のつながりなどの音変 化について理解し、それらに注意して英文を聴くことができる。 英語の短い説明文や会話を聴いて、概要を理解することができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語4 〈キャリア支援コース〉	1			6	この授業では、コミュニケーション英語3 〈キャリア支 援コース〉の内容を継続・発展させながら、卒業後のビ ジネスに関わる英語によるコミュニケーション能力の養 成を図ります。	100 語程度の基礎的な英文を聞き手に、内容を伝達することができ るように正確に音読することができる。 身の回りの状況について英語を用いて、口頭で説明することができ る。 英語で質問を受け、その質問に英語で答えることができる。 提示された情報を理解し、英語を用いて口頭で対処することができ る。 与えられたテーマについて、自身の意見を 150 語程度の英文で論理 的に書き表すことができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習A 〈卓球〉	1			1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しな がら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深 さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導 したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが 20 球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートのつながりができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサービスを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習A 〈バドミントン〉	1			1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを 体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての 技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなる よう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつながりが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
7	5														12
7	5														12
7	5														12
7	5														12
7	3					2									12
7	5														12
7	5														12
7	5					4									16
56	38	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8														20
12	6					2									20
12	6					2									20
12	6					2									20
12	2					6									20
60	28	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	100
7	5														12
7	5														12
7	5														12
7	5														12
7	3					2									12
7	5														12
7	5														12
7	5					4									16
56	38	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8														20
12	6					2									20
12	6					2									20
12	6					2									20
12	2					6									20
60	28	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20													20
		15													15
		10													10
		10													10
		10													10
		15													15
					20										20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20													20
		15													15
		10													10
		10													10
		10													10
		15													15
					20										20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習A (硬式テニス)	1		1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる 授業科目の貢献度
		健康科学演習A (フットニス)	1		1	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。 自分の体と向きあうことができた。 積極的に仲間づくりができた。 動作を3つ以上考え、発表できた。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (卓球)	1		2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートをつなぎができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサーブを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (バドミントン)	1		2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (硬式テニス)	1		2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (フットニス)	1		2	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。 自分の体と向きあうことができた。 積極的に仲間づくりができた。 動作を3つ以上考え、発表できた。 授業科目の貢献度
	Bグループ	日本文学A	2		3・5	文学作品の読解を通じて、言葉と感性に磨きをかけ、人間と社会について多面的に考察する。	文学作品をはじめとする各種文章の内容を客観的に読み取ることができる。 講義内容について理解、考察したことを論理的に文章で表現できる。 文学的文章を通じて、言葉に対する感受性を磨き、自己認識を広げる。 文学作品と周囲の文化遺産（行事や風習、文化財）とを関連付けて理解できる。 講義内容を通じて、文学の中における人間社会の普遍的テーマについて考察できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
		20													20
		15													15
		10													10
		10													10
		10													10
		15													15
					20										20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		30													30
		30													30
					20										20
					20										20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20													20
		15													15
		10													10
		10													10
		10													10
		15													15
					20										20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20													20
		15													15
		10													10
		10													10
		10													10
		15													15
					20										20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20													20
		15													15
		10													10
		10													10
		10													10
		15													15
					20										20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		30													30
		30													30
					20										20
					20										20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	日本文学B	2	4・6	文学作品の読解を通じて、自ら課題を発見し、それに論理的でかつわかりやすい表現を与える。	文章の構成を正しく捉え、要旨を的確に把握することができる。 講義内容について理解、考察したことを論理的でわかりやすい文章で表現できる。 文学作品の中から、自分の力で課題を発見、追究することができる。 文学作品と周囲の文化遺産（行事や風習、文化財）とを関連付けて理解できる。 講義内容を通じて、文学の中における人間社会の普遍的テーマについて考察できる。 授業科目の貢献度
		外国文学A	2	1・3・5	外国文学の読解を通じて、作家の思考や言語感覚にふれ、自分が生きる現在とは異なる世界を経験する。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。 文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。 文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。 自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。 文学作品について、自分の見解などを適切な言葉で書くことができる。 授業科目の貢献度
		外国文学B	2	2・4・6	外国文学の精読を通じて、異なる時代・文化の深層を理解し、自分自身の考え方を相対化する視点をもつ。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。 文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。 文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。 文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。 文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。 授業科目の貢献度
		哲学A	2	1・3・5	西洋哲学史の概論を通じて、その世界観に触れるとともに、自分を知る。	プラトン哲学におけるイデア論について説明できる。 デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。 啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。 西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。 知的リフレッシュメントを味わうことができる。 授業科目の貢献度
		哲学B	2	2・4・6	モラル、道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学という学問そのものの意義について理解できる。 哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。 「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。 おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。 自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。 授業科目の貢献度
		文化人類学A	2	3・5	さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	現代における人間像について様々な角度から考えることができる。 様々な文化を比較することができる。 習慣の意味が理解できる。 形のないものの価値について考えることができる。 現代社会がかかえる問題点について考えることができる。 授業科目の貢献度
		文化人類学B	2	4・6	文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	アイデンティティとは何かについて理解できる。 文化について様々な考え方が理解できる。 現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。 「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考えることができる。 コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分(単位)必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	歴史学 A		2	1・3・5	日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	日本の近代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。 国際環境と関連づけて日本の近代史を理解できる。 西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。 歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。 過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。 授業科目の貢献度
		歴史学 B		2	2・4・6	近代日本が主体的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	日本の近現代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。 東アジアのなかでの近現代日本の位置づけが理解できる。 日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。 歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。 過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。 授業科目の貢献度
		心理学 A		2	1・3・5	人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について、理解することができる。 学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。 欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。 発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。 パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができる。 授業科目の貢献度
		心理学 B		2	2・4・6	他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己概念および自己表出（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができる。 人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができる。 対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。 集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。 集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができる。 授業科目の貢献度
		教育原理		2	1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。 近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。 教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。 近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。 授業科目の貢献度
		教育心理学		2	3	「教育」という営みをとおしてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのあり様を捉えると同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことかを理解し、認知・感情・社会性（愛着など）の発達の様相を把握することができる。 発達上の「青年期」の特徴を理解し、青年にまつわる現代的問題について心理学的な観点から考察することができる。 条件づけや観察学習、記憶の基本的なメカニズムを理解することができる。 欲求と適応（／不適応）との関係、およびフラストレーション・コンフリクトの発生メカニズムを理解することができる。 動機と動機づけの違い、および達成動機と親和動機の関連について理解することができる。 「リーダーシップ」や「ソシオメトリー」などの観点から、学級集団の特徴・構造を把握することができる。 生徒の「問題行動」の内容・実態を把握し、それらへの対応策について心理学的な観点から考察することができる。 「パーソナリティ」概念、およびそのとらえ方を理解することができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20												20
			20												20
			20												20
			20												20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30											30
				30											30
				20											20
				20											20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			10												10
			10	10											20
			10												10
			10												10
			10												10
			10												10
			10	10											20
			10												10
0	0	0	80	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 (単位) 必修 選択 自由	区分 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	政治学 A	2		1 3 5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。 自由民主主義の理論と政治制度について理解する。 議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。 政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。 自分と政治との関わりについて考えることができる。
							授業科目の貢献度
		政治学 B	2		2 4 6	現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。 現代民主主義の理論的特徴について理解する。 現代民主主義の制度的特徴について理解する。 現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。 授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
		経済学 A	2		1 3 5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的思想法を身に着ける。	経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。 資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。 経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。 経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		経済学 B	2		2 4 6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。 日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。 歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。 日本の企業の特性・構造について説明できる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		法学 A	2		3 5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	法の発生過程を説明できる。 第一次的社会規範と法の違いを説明できる。 法を解釈することの必要性を説明できる。 解釈方法の分類ができる。 社会現象に目を向け、その事に関し意見を持つことができる。 日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。
							授業科目の貢献度
		法学 B	2		4 6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。 日本国憲法の基本原則が説明できる。 日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。 基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。 表現の自由とその制約原理を説明できる。 違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。
							授業科目の貢献度
		社会学 A	2		1 3 5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	社会学のイメージをつかむ 方法論的个人主義（ヴェーバー）と方法論的集団主義（デュルケム）の違いを理解する 社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる 「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する 東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
				20											20
				20											20
				20											20
				20											20
				20											20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20											20
				20											20
				20											20
				20											20
				20											20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30											30
				10											10
				20											20
				10											10
				30											30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30											30
				20											20
				10											10
				10											10
				30											30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10											10
				20											20
				20											20
				20											20
				20											20
				10											10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10											10
				20											20
				20											20
				20											20
				10											10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30											30
				20											20
				20											20
				20											20
				10											10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30											30
				20											20
				20											20
				10											10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	社会学B	2	2・4・6	社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なった論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを目指す。	社会学が持つ分析手法（量的・質的）や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。 個人化という概念について説明できるようになること。 ネオリベラリズム（新自由主義）という概念について説明できるようになること。 非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。 グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。 授業科目の貢献度
		社会調査の方法A	2	3・5	質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。 母集団及び標本抽出について理解する。 量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイ二乗検定）について理解する。 統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。 質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。 授業科目の貢献度
		社会調査の方法B	2	4・6	社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施（調査設計、データ収集、データ分析）に必要な知識を学び、それを活用してみる。	社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。 統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。 疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。 調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。 質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。 授業科目の貢献度
		地域研究A	2	3・5	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。 地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。 授業科目の貢献度
		地域研究B	2	4・6	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、社会的・思想的・文化的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などのついで基本的な情報を理解する 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる 地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる 授業科目の貢献度
		教育社会学	2	2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なもの見方によって考察することができる。 学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な事例をもとに説明することができる。 教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。 学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。 授業科目の貢献度
		健康科学A	2	1・3・5	生命・身体の仕組みについて学ぶことによって傷害や疾病などへの理解を深める。	体の仕組みについて理解できる。 発育の仕組みについて理解できる。 年齢からからだの関係について理解できる。 健康について理解できる。 健康に対する取り組みについて理解できる。 授業科目の貢献度
		健康科学B	2	2・4・6	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。	身体の動く仕組みについて理解できる。 人体の構造について理解できる。 障害について理解できる。 傷害について理解できる。 体力について理解できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
				20											20
				20											20
				20											20
				30											30
				10											10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20											20
				20											20
				20											20
				20											20
				20											20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20											20
				20											20
				20											20
				20											20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25											25
				25											25
				25											25
				25											25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25											25
				25											25
				25											25
				25											25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25											25
				25											25
				25											25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10											10
			10	10											20
				10											10
		10	10	10											30
		10	10	10											30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		10		10											20
		10		10											20
			10	10											20
			10	10											20
			10	10											20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	認知科学 A	2	3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。
						知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。
						認知機能の神経機構について説明することができる。
						ヒューマンエラーの原因について説明することができる。
						認知科学の哲学的な問題を説明することができる。
						授業科目の貢献度
		認知科学 B	2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。
						我々が当たり前のように行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。
						記憶のメカニズムや分類について説明することができる。
						自覚できない心の働きがどのようなプロセスを経て、人間の行動に影響しているかを説明することができる。
						ヒューマンエラーが生じる理由と、それを未然に防ぐ方法について論じることができる。
						ヒトとヒト以外（ロボット、昆虫、ネアンデルタール人等）の共通点と相違点を説明することができる
						授業科目の貢献度
		環境科学 A	2	3・5	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。	地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。
						地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。
						地球環境問題対策を理解する。
						地球の進化と環境変化を結びつけて理解する。
						授業科目の貢献度
		環境科学 B	2	4・6	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。	海洋と大気を総論的に理解する。
						太陽系の惑星と地球環境の違いを理解する。
						生態資源とエネルギー資源枯渇問題を理解する。
						生命の生存条件を理解する。
						授業科目の貢献度
		地球科学 A	2	3・5	地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。	与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。
						最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。
						鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。
						水の特性から生物に与える影響が理解できる。
						古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。
						地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。
						授業科目の貢献度
		地球科学 B	2	4・6	地球科学の基本を学ぶことから、将来の地球と人間社会のあり方を考察する。	天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。
						様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。
						地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。
						日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。
						太陽系の進化から地球の未来像を把握する。
						授業科目の貢献度
		行動生物学 A	2	3・5	行動生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	行動生物学の一分野である行動生態学がどういった学問であるか説明をすることができる。
						現代生物学での細胞や遺伝に関する基本的な用語考え方を説明することができる。
						自然選択における代謝と自己増殖について説明することができる。
						性選択と自然選択の違いについて説明することができる。
						進化に関する基本的な用語を説明できる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					10										10
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
					10										10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					40										40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					40										40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					10										10
					20										20
					20										20
					10										10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	行動生物学B	2	4・6	動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的な視点から考察する。	生物の示す行動の多様性を理解することができる。
						Tinbergenの4つの「なぜ」を用いて生物の行動を考えることができる。
						生物が進化するメカニズムを理解することができる。
						ヒトの進化史を大まかに説明することができる。
						他の動物との比較でヒトの行動の進化を説明することができる。
						授業科目の貢献度
		自然科学概論A	2	1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。
						科学リテラシーの必要性を理解できる。
						近代科学の特徴を説明できる。
						20世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。
						科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。
						授業科目の貢献度
		自然科学概論B	2	2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探究する学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。
						物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。
						現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。
						現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考えることができる。
						未来に向かって、物質科学・技術と人間社会のかかわり合いを展望できる。
						授業科目の貢献度
		リベラルアーツ実践演習A	2	3・5	少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
						諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
						課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
						自らの課題に対して解決まで導くことができる。
						コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
						授業科目の貢献度
		リベラルアーツ実践演習B	2	4・6	少人数のセミナー形式での演習を通じて、自然科学・社会科学・人文科学分野における専門的な思考法・研究法・表現法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
						諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
						課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
						自らの課題に対して解決まで導くことができる。
						コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
						授業科目の貢献度
		教養総合講座A	2	3・5	社会の第一線で活躍中の実務経験豊富な講師を迎え、これからの企業人に必要不可欠なCSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）を共に考える。	現代の問題群を整理することができる。
						ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
						課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
						これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。
						授業科目の貢献度
		教養総合講座B	2	4・6	企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	現代の問題群を整理することができる。
						ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
						課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
						問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。
						授業科目の貢献度
		国際事情	2	集中講義9月	現代アジアの国際関係の基本を押さえ、今後の日本の進路選択とその羅針盤を検討する。	理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。
						問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。
						国際事情を理解し、人間学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					20										20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					40										40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
					20										20
					20										20
					20										20
					40										40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				40											40
				20											20
					40										40
0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 (単位)必修 選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Cグループ	社会実践1	1	2	「社会実践1」と「社会実践2」では、産業と社会の要請に応える人材になるために重要な「社会人基礎力」を育成することを目的としています。アクティブラーニングという学びの手法を用い、チーム作業を通して課題の解決に取り組みます。「社会実践1」では、チーム作業を通して、「課題発見」「課題解決」「発表」という連の課題解決の手順を確認し、「社会実践2」で取り組む実践的な課題解決をスムーズに行う力を身につけます。	物事に進んで取り組むことができる。 他人に働きかけ巻き込むことができる。 目的を設定し確実に行動することができる。 現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。 自分の意見を分かりやすく伝えることができる。 相手の意見を丁寧に聴くことができる。 基本的な生活習慣に基づき、規律性を持って行動することができる。 授業科目の貢献度
		社会実践2	1	3	「社会実践1」と「社会実践2」では、産業と社会の要請に応える人材になるために重要な「社会人基礎力」を育成することを目的としています。アクティブラーニングという学びの手法を用い、チーム作業を通して課題の解決に取り組みます。「社会実践2」では、本格的なPBL(Project-Based Learning)という学びの方法を用いて、「社会実践1」で身につけた課題解決の手順を実践し、企業からの課題提示に対し、チームで課題解決に取り組み、プレゼンテーションを行い、企業の評価を受けます。	物事に進んで取り組むことができる。 他人に働きかけ巻き込むことができる。 目的を設定し確実に行動することができる。 現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。 自分の意見を分かりやすく伝えることができる。 相手の意見を丁寧に聴くことができる。 基本的な生活習慣に基づき、規律性を持って行動することができる。 授業科目の貢献度
		情報デザイン入門 세미나	1	1	情報デザインを学んで行く上で必要となる、この分野の捉え方、学習方法を学び、今後の4年間に情報デザインを学ぶための心構えを身に付けます。	情報デザインの各分野についてどのようなことをおこなうかを理解できる 情報デザイン分野の学修方法を理解できる 自らの日常生活で情報デザインに関わる種々の問題が存在することが理解できる 4年間の学修の道筋が理解できる 卒業後に就職した場合のデザイン業務の内容が想像できる 授業科目の貢献度
		自己表現1	2	1	自分の思いを伝えたり、他者とのコミュニケーションを図る能力を磨きます。まず、正しい発声の仕方や表情の作り方、語彙や話題を増やす方法を学びます。	呼吸の仕方や声の出し方、口の動かし方など、話すための基本的な技術を身につけ実行できる 話す際に、顔や声の表情、視線なども大切であると理解し、練習方法を習得できる 使える言葉を増やし、情感豊かに表現する大切さを理解し、表現力を磨く努力ができる 自分自身や身の周りのこと、さらに社会に興味を持ち、話題を増やすことができる 人前で話す経験を積み、少しでも話すことに慣れることができる 授業科目の貢献度
専門基礎科目		自己表現2	2	2	思いを伝えたりコミュニケーションを図る能力を高めます。分かりやすく伝えるコツを会得し、話し言葉と書き言葉の違いを理解し、聞く力を養います。	始めに興味を引きつける、文章を短くするなど、分かりやすく伝えるコツを理解し説明できる 声を出し、顔や声の表情をより豊かにして、視線も意識しながら話すことができる 使える言葉をさらに増やすとともに、話し言葉と書き言葉の違いを理解し、使い分けられる 話を聞く力の重要性を理解し、会話を通じて話を引き出すことができる 見聞を広め、話題を増やす楽しさを実感できるとともに、多くの人に伝える喜びを感じられる 授業科目の貢献度
		自己表現3	2	3	思いを伝えたりコミュニケーションを図る能力をさらに磨きます。文章や見聞きした事柄をまとめて伝える力を養い、豊かに会話できる力の習得を目指します。	文章を要約したり、見聞きした事柄を上手くまとめて話すコツを理解し、実行できる 敬語の使い方について再認識し、さまざまな敬語を使いこなせる 他者とコミュニケーションを取りながら、身の周りの物事を取材し、協力して発表できる グループディスカッションで、自分の意見や考えを自信を持って主張できる 使える言葉を駆使し、顔や声の表情に感情を乗せて、自分の知識や思いを豊かに伝えられる 授業科目の貢献度
		自己表現4	2	4	言語表現に加え、肉体も使って自己表現する豊かな感性と表現力の獲得を目指します。身体と心のありようを知り、自由に自己を表現する力を磨きます。	話すための基本技術に加え、身体訓練など自己表現に必要な訓練を身につけ、実行できる 上記のことにより、改めて自己と向き合い、自分自身の身体と心のありようを知る 他者とのコミュニケーション作りから、他者との関係性を図り、自分の思いを的確に他者に伝えられるようにする テーマや題材を元にしての演技創作など、演劇的なワークショップ形式の演習を通して、言葉だけでなく身体を使っている表現も行い、自己を開放し、自由に自己を表現できるようにする 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
						20									20
						20									20
						20									20
						10									10
						10									10
						10									10
		10													10
0	0	10	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	100
						10									10
						10									10
						10									10
						20									20
						20									20
						20									20
		10													10
0	0	10	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	100
							10	5	5	5	5				30
							10	5	5	5	5				30
							5	5	5					5	20
							5							5	10
							5							5	10
0	0	0	0	0	0	0	35	15	15	10	10	0	0	15	100
							20								20
							10	10							20
							10			10					20
							10		10						20
							10					10			20
0	0	0	0	0	0	0	60	10	10	10	0	10	0	0	100
							10				10				20
								10		10					20
								10			10				20
								10	10						20
												10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	10	30	10	10	20	10	0	10	100
										10	10				20
								10			10				20
								10	10						20
										10		10			20
														20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	20	10	20	20	10	0	20	100
							10		10						20
										10	10				20
								10	10			10			30
										10				20	30
0	0	0	0	0	0	0	10	10	20	20	10	10	0	20	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目	社会と情報1		2	1		情報を分類したり、情報を提示する目的や対象を明確化したりといった課題を通して情報を正確に理解する方法を学びます。そして、情報格差など情報化の進展に伴う現代社会の課題について分析して考え、取り組み方を学びます。	情報リテラシとは何かを説明できる
							テクノ不安およびテクノ依存について具体例をあげて説明できる
							知的財産の主な種類と範囲について具体例をあげて説明できる
							課題解決のために6W2Hにより情報を整理できる
							情報間の関係（因果、階層、並行、包含、演繹-帰納）を見つけることができる
							情報を関係構造により分類して、適切な図示により表現できる
							授業科目の貢献度
	社会と情報2		2	2	政治経済など社会の仕組みについて、新聞などのメディアリテラシを身につけることを通して、入門的に学びます。		新聞、テレビなどの報道による社会経済問題に関心が持てる
							資本主義、自由主義、社会主義、福祉社会の特徴を理解できる
							消費者行動の特徴を理解できる
							生産者行動の特徴を理解できる
							需要と生産に関して、入門的なトピックを見つけ、レポートを書ける
							授業科目の貢献度
	社会と情報3		2	4	働くことの役割や意義を学び、社会での考えを知り、職業労働観を養います。そして、自らのキャリアモデルの獲得を図ります。		働くことの意義と役割を説明できる
							職業の歴史と現代社会における労働情勢を理解できる
							情報化社会における職業の特徴を把握できる
							国際化の進展による雇用情勢の変化を理解できる
							自分のキャリアモデルを持つことができる
							授業科目の貢献度
	造形デザイン演習1	4		1	情報デザインを実践していく上で最も基礎的な事柄を学びます。画材の特質、扱い方、立体の捉え方とその描画方法を実習を通じて体得し、基本的なデザイン技法とセンスを身に付けます。		鉛筆や紙など基本的な画材の特質を理解できる
							鉛筆を用いてフリーハンドで直線、円、楕円などが描画できる
							トーンを正確に作成し、立体表現に生かすことができる
							光と影を理解し、幾何形体を立体として捉え描画できる
							透視図法を理解し、デッサンに生かすことができる
							素材の特質を捉え表現することができる
	造形デザイン演習2	4		2	造形デザイン実習1の基礎の上に、色彩配色、形態の配置や構成方法などを理論解説の基にして自ら創作することで、体得的な理解を進めます。		基礎的な色彩理論を理解し、意図に合わせた配色と構成ができる
							平面構成の発想とプロセスを理解し、美しい構成ができる
							具象的なモチーフから発想し制作ができる
							空想的なモチーフから発想し制作ができる
							道具を的確に使用し、美しく仕上げることができる
							授業科目の貢献度
	基礎デザイン論1		2	1	デザインが大きく社会と関わりがあることを学ぶ。(環境、歴史、生命、人間、技術、産業、都市、自然など)		デザインの種類と領域が理解できる
							さまざまなデザインの目的とデザイン活動の広がりが理解できる
							デザインが我々の生活とどのように結びついているのかが理解できる
							さまざまなデザインの流れが説明できる
							デザインが生命や環境に及ぼす影響を考えることができる
							授業科目の貢献度
	基礎デザイン論2		2	2	今日あるデザインがどのように発展して来たか、またデザインの領域や種類を知るとともに、今後どのように発展して行くかを体系づけて学ぶ。		デザイン史の大きな流れが理解できる
							デザインとアートの関連付けができ、重要な思想や運動が理解できる
							デザイン史における重要な作品やデザイナーを理解できる
							他分野のデザインの歴史が理解できる
							今後のデザインにおける課題を考えることができる
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
							20								20
							20								20
							20								20
							20								20
							10								10
							10								10
0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
									20						20
									20						20
									20						20
									20						20
									20						20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
									20						20
									20						20
									20						20
									20						20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
										5		5		5	15
										5		5		5	15
										5		5		5	15
										5		5		10	20
										5		5		10	20
										5		5		5	15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	0	40	100
										10				10	20
										10				10	20
										5		5		10	20
										5		5		10	20
										5		5		10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	15	0	50	100
							10		10						20
							10		10						20
							10		10						20
							10		10						20
							10		10						20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	0	0	0	0	100
							10		10						20
							10		10						20
							10		10						20
							10		10						20
							10		10						20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修 (単位)	区分 (単位)	開講 期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目	基礎デザイン論 3	2	3			情報デザインをする上で知っておかなくてはならない各種の知識を数回のコマで学修する。学修到達目標にある4項目の内容を学ぶ。	情報デザインの対象となる制作物の種類とそれに対するデザインの役割を理解できる
							図法の理論とその利用方法を理解できる
							文字書体の種類とそれをを用いた編集デザインの基本の考え方を理解できる
							情報を伝達するためのピクトグラム、ダイアグラムの役割を理解できる
							色彩表記方法の理論を理解できる
							授業科目の貢献度
	情報デザイン論 1	2	4			メディアを産業の視点で捉え、ビジネスとしての成り立ちや在り方について学ぶ。	さまざまなメディアの種類が理解できる
							さまざまなメディアの機能が理解できる
							広告メディアの種類別の表現方法が理解できる
							ターゲットの態度変容構造が理解できる
							授業科目の貢献度
	情報デザイン基礎実習 A	2	1			情報デザインの主な分野のテーマについて入門的な実習を行い、考え方、および制作方法の初歩を学びます。	デジタルサウンドデザインについてその入門的な考え方、制作の方法が理解できる
							ムービー制作についてその入門的な考え方、制作の方法が理解できる
							Web デザインについてその入門的な考え方、制作の方法が理解できる
							製品デザインについてその入門的な考え方、制作の方法が理解できる
							授業科目の貢献度
	情報デザイン基礎実習 B	2	2			情報デザインの主な分野のテーマについて入門的な実習を行い、考え方、および制作方法の初歩を学びます。	デジタルサウンドデザインについてその入門的な考え方、制作の方法が理解できる
							ムービー制作についてその入門的な考え方、制作の方法が理解できる
							Web デザインについてその入門的な考え方、制作の方法が理解できる
							製品デザインについてその入門的な考え方、制作の方法が理解できる
							授業科目の貢献度
	情報デザイン基礎実習 C	2	3			1 年次の入門的な実習に続き、3 年次からのデザイン専門分野 4 つの中から 1 つを選択して、基本的な内容を実習します。	選択したデザイン分野の基本的な制作手法を理解し活用できる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、制作する上で自ら問題点を挙げることができる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、オリジナリティをもったコンセプトを構築できる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、その分野の典型的な制作手順を踏んで作品を完成することができる
							授業科目の貢献度
	情報デザイン基礎実習 D	2	3			1 年次の入門的な実習に続き、3 年次からのデザイン専門分野 4 つの中からもう 1 つを選択して、基本的な内容を実習します。	選択したデザイン分野の基本的な制作手法を理解し活用できる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、制作する上で自ら問題点を挙げることができる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、オリジナリティをもったコンセプトを構築できる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、その分野の典型的な制作手順を踏んで作品を完成することができる
							授業科目の貢献度
	情報デザイン基礎実習 E	2	4			2 年次前期の基本的な実習に続き、3 年次からのデザイン専門分野 4 つの中から 1 つを選択して、実習します。	選択したデザイン分野の基本的な制作手法を理解し活用できる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、制作する上で自ら問題点を挙げることができる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、オリジナリティをもったコンセプトを構築できる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、その分野の典型的な制作手順を踏んで作品を完成することができる
							授業科目の貢献度
	情報デザイン基礎実習 F	2	4			2 年次前期の基本的な実習に続き、3 年次からのデザイン専門分野 4 つの中からもう 1 つを選択して、実習します。	選択したデザイン分野の基本的な制作手法を理解し活用できる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、制作する上で自ら問題点を挙げることができる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、オリジナリティをもったコンセプトを構築できる
							選択したデザイン分野の基本的な課題について、その分野の典型的な制作手順を踏んで作品を完成することができる
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
											10	5		5	20
											10	5		5	20
											10	5		5	20
											10	5		5	20
											10	5		5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	25	0	25	100
							10	5	5	5					25
							10	5	5	5					25
							10	5	5	5					25
							10	5	5	5					25
0	0	0	0	0	0	0	40	20	20	20	0	0	0	0	100
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	20	100
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	20	100
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	20	100
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	20	100
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	20	100
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
										10	10			5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	20	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目		基礎音楽論	2	2	将来的に音楽制作が行えるように音楽理論の基礎を学ぶ。音符の種類より始まり、楽譜の読み方、音程、リズム、コード理論などを習得する。	楽譜上において音符の位置、長さを理解できる
						音程が理解できる
						コードが理解できる
						楽器について理解できる
						楽譜を読む事ができる
						授業科目の貢献度
		コンピュータサウンド1	2	3	シーケンサーを使い MIDI の概念を習得し楽譜を MIDI データとして打ち込むことを学修する。また、楽曲のアレンジ構造の基礎も習得する。	音の強弱をシーケンサー上で表現できる
						音の長さをシーケンサー上で表現できる
						MIDI における様々なコントロールを理解できる
						楽器をパートとしての役割として理解できる
						小編成なスコアをデータ入力できる
						授業科目の貢献度
		コンピュータサウンド2	2	4	オーディオ編集の基礎を学び MIDI とオーディオを統合した作品制作に取り組む。また、アプリケーションのさまざまな機能を学びアレンジ作品を完成させる。	さまざまなエフェクトの特徴を理解できる
						オーディオ編集の特徴を理解できる
						アレンジ作品を制作できる
						ミックスダウンをすることができる
						授業科目の貢献度
		映像デザイン基礎1	2	3	映画やさまざまな映像作品に触れて、作品を構成する映像・音楽・セリフなどの役割や効果について理解し、映像作品における表現の豊かさや奥深さを実感します。そして、作品を多角的に分析・考察する力を養い、自らの作品制作に役立つ知識を身につけます。	映画の誕生と歴史について理解し、映像作品の成り立ちを理解できる
						映像・音楽・セリフなどの役割や効果を理解し、表現の豊かさや奥深さを実感できる
						企業 VP やテレビ CM など、さまざまな映像作品に触れ、その構成や効果などを分析・考察できる
						作品を分析・考察する力を身につけて、自らの作品制作に生かすことができる
						授業科目の貢献度
		映像デザイン基礎2	2	4	レンズの特性とアングルの差による視覚的な効果、照明の当て方によるイメージの違い、録音技術の習得と音楽の選択方法など映像作品に与える技術的な知識を学びながら、絵コンテの制作とスケジュールの立て方を学ぶ。	撮影、照明、録音など映像制作に関わる実践的な知識と技術が理解できる
						絵コンテの制作とスケジュールの立て方がわかる
						モニタージュ理論とクレシヨフ効果が理解できる
						撮影に於けるイマジナリーラインが理解できる
						授業科目の貢献度
		コンピュータデザイン実習A	2	1	画像の基本的な知識と 2DCG ソフトウェアの使用に関して実習を交えながら学びます。これにより、2DCG ソフトウェア利用技術に関して社会で要求されるレベルに到達できます。	デジタル画像の基本が理解できる。
						グラフィックスソフトウェアの利用目的の相違が理解できる。
						画像編集ソフトの基本的な操作ができる。
						ドローソフトの基本的な操作ができる。
						それぞれのソフトウェアを相互に使いながら作品を制作できる
						授業科目の貢献度
		コンピュータデザイン実習B	2	2	『CAD 実習 1、2』と併せて受講して CAD スキルの向上を図ります。実用的な CAD の知識と技術を学ぶとともに、CAD 利用技術に関して社会で要求されるレベルに到達することを目指します。	CAD システムの概要・基本概念、CAD システムの基本機能などが理解できる
						3 次元 CAD の機能と実用的モデリング手法が理解でき、制作に生かすことができる
						3 次元 CAD データの活用がわかる
						モデリング手順に従い、正確に立体物を作成できる
						モデルの体積、表面積などを測定できる
						授業科目の貢献度
		コンピュータデザイン実習C	2	3	3DCG の概要を実習を交えながら学び、CG クリエイターとして社会で要求されるレベルに到達することを目指します。	3 D C G の基本的な流れが理解できる。
						3 D C G の発展と表現方法の違いによる利用方法を理解できる
						モデリングによる形状生成を理解し、作成できる
						レンダリングの種類とライティングやカメラワークの重要性を理解し、応用できる。
						構図やカメラワークなどの映像制作の基本とワークフローまでを理解できる
						的確なマテリアルを作成することができる
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
											20				20
											20				20
											20				20
											20				20
											20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
													20		20
													20		20
													20		20
													20		20
														20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	100
													25		25
													25		25
													10	15	25
														25	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	40	100
							20								20
										20	10				30
									10	20					30
										20					20
0	0	0	0	0	0	0	20	0	10	60	10	0	0	0	100
										10		5		10	25
										10		5		10	25
										10		5		10	25
										10		5		10	25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	0	40	100
							10						10		20
							15						5		20
													20		20
													20		20
													20		20
0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	75	0	100
							10						10		20
													20		20
													20		20
													20		20
													20		20
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	90	0	100
							5						15		20
							10						10		20
													20		20
													15		15
													15		15
													10		10
0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	85	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修	選択	区分自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目		コンピュータデザイン実習D		2		4	インターネットの効果的な利用、サイトの構築、運用、評価について実習して、基礎的な知識とスキルを習得します。	インターネットの歴史、Web の特性、Web サイトの種類、Web サイトの制作フローについて理解できる 情報の収集と整理能力の方法が理解でき、情報を視覚化できる表現方法が理解できる コンセプトメイキング、情報の組織化や構造化を理解し、画面構成、素材制作ができる テストや評価、運用まで、Web サイトを運用する技術が習得できる インターフェースとナビゲーションが理解できる 授業科目の貢献度
		CGプログラミング1		2		3	デザイナー向けのツール Processing を使い、プログラミングによる 3DCG を学びます。プログラミングと聞くとは難しい感じがするかもしれませんが、情報系のデザインアートには欠かせない表現手法です。	簡単な描画を行うことができる 感覚的にデジタルにおける色の指定ができる 基礎プログラミングによるビジュアル表現ができる 関数を使ったアニメーションを作ることができる インタラクティブを使った作品を作ることができる 授業科目の貢献度
		CGプログラミング2		2		4	3DCG ソフトを使うだけでなく、理論的な内容を習得するために、実践を交えながらモデリングやレンダリングの方法を学ぶ。	形状記述法と手続き記述法の違いを理解し、使用ソフトウェアの一連の操作を理解する。 3DCG のさまざまな立体生成の方法と的確な表現ができる。 繰り返しにより複雑な形状を作成することができる 数学関数を用いた条件分岐を使ってシーンを作成できる 幾何学グラフィックスを理解し、制作ができる 授業科目の貢献度
		CAD実習1	2(注)	2(注)		3	モノを製作して行くための表現方法としての図面の基礎的な考え方と描画方法を学ぶとともに、CAD ソフト操作の基本を修得します。(注)メディアデザイン専攻は選択、プロダクトデザイン専攻は必修	デザインプロセスにおける図面の役割を認識できる 投影法、線種、図面記号など一般的な製図法を理解できる 線種、線の太さなどを使い分けすることができる 3面図から立体をイメージすることができる 立体をイメージして3面図を適切に描くことができる 形状に必要な断面図を適切に描くことができる 授業科目の貢献度
		CAD実習2		2		4	基本形状を CAD にて描画する手法を学ぶとともに、自分が創作した図形の CAD 上での表現方法を学びます。	3DCAD のモデリングのプロセスを理解できる 3DCAD の基本操作を理解できる 2DCAD で引いた図面を 3DCAD で活用することができる イラストレーターなどの他のアプリに 2D 図面を取り込むことができる 思い描いた形をモデリングできる モデリングしたデータを用いてレンダリングを作成できる 授業科目の貢献度
		情報処理基礎		2		2	世の中のできごとについて、データを基に客観的にとらえる方法を学びます。ものごとの起こり方について正確に評価したり、関連を見つけたり、判断したりする方法を身につけます。	尺度値の区別ができる 母集団からの標本の採り方を理解できる データから適切な度数分布表を作成できる 最頻値、中央値、標準偏差を説明できる 標準正規分布におけるデータの位置を求めることができる 相関係数により、相関の強さを判断できる 授業科目の貢献度
		プログラミング1		2		3	コンピュータを用いて情報を扱うには、ソフトウェアを作成する知識と動作の理解が有益です。文法項目ごとにコンピュータプログラミングの初歩をじっくり学び、規則性を見つけ、その手順を作る力を身に付けます。	ソースコードを作り、コンパイルして、実行できる 文字列や、変数に記憶された数値を画面に表示できる キーボードから入力して数値を変数に格納できる 論理積と論理和による条件が書ける if 文による条件分岐を記述できる for 文による繰り返しで文字の表示、数の処理方法がわかる while 文による繰り返しで文字の表示、数の処理方法がわかる 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
							10						10		20
							10		10						20
									10			10			20
									10				10		20
							10		10						20
0	0	0	0	0	0	0	30	0	40	0	0	10	20	0	100
													20		20
													20		20
													20		20
													20		20
														20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	100
													20		20
													10	10	20
													10	10	20
														20	20
										10				10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	40	50	100
											5		5		10
											5		5		10
											5		5	5	15
										5	5	5	5	5	25
										5	5	5	5	5	25
											5		5	5	15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	30	10	30	20	100
											5		5	5	15
											5		5		10
											5	5	5		15
											5	5	5		15
										5	5	5	5	5	25
											5	5	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	30	20	30	15	100
									10						10
									20						20
									20						20
									20						20
									20						20
									10						10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
										10					10
										20					20
										20					20
										10					10
										20					20
										10					10
										10					10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修	区分選択	自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目		プログラミング2	2		4		プログラミング言語およびプログラミング方法に関する理解を進めます。コンピュータの動作に対する理解を深め、さらにさまざまな処理作業を順序立てる練習を積み重ねることで課題を実現する過程を作る論理的な思考力を養います。	配列を用いて、数値の繰り返し処理ができる
								配列を用いて、文字列の格納、表示、計数、置き換えができる
								ポインタに関連する「*」と「&」演算子の名前と意味がわかる
								引数がなく戻り値もない基本的なユーザー関数を作り、使える
								引数と戻り値があるユーザー関数を作り、使える
								ユーザー関数の引数にポインタを用いてアドレスを渡す方法がわかる
								授業科目の貢献度
専門科目	基幹科目	デジタルグラフィックス実習A	2		5		デジタルによるグラフィックデザインを学ぶ方法として、モーショングラフィックス、画像処理、3DCGによるイラストレーションなどを学びます	モーショングラフィックスを利用した作品を作ることができる
								ポートレート撮影した写真素材を画像処理できる
								素材を利用した画像を画像処理によって作品に展開できる
								3DCGによる制作をイラストレーションへと展開できる
								2D、3DCG素材を作品制作に生かすことができる
								授業科目の貢献度
		視覚情報デザイン実習A	2		5		視覚情報デザインを広く捉え、ロゴ、マーク、タイポグラフィ、イラストレーションなどを学び、ポスターやパッケージなどに展開し、イベントや展示などデザインの可能性へと発展させます。	文字の形を観察し、構造を理解することができる
								文字を読みやすく、コンセプトに沿って的確に構成することができる
								ロゴタイプ、マークの目的を理解し、意味を持つデザインができる
								広告の意味を理解し、その発展を考えることができる
								習得した内容を製品に展開できる
								授業科目の貢献度
		デジタルグラフィックス実習B	2		6		エディトリアルデザインと急加速するWEBの表現方法を研究し、新しい活用方法を探りながら編集制作の表現を学びます	情報の収集から展開までの一連の流れを理解できる
								エディトリアルデザインの流れを理解し、目的に応じた作品制作ができる
								レイアウトの役割、必要性、文字組などのDTPスキルを利用した作業ができる
								Webサイトの組み込みに動画や音声の編集を活用できる
								イメージだけでなく操作のしやすさ、情報の伝わりやすさなどが視覚で表現できる
								丁寧な仕上げができ、プレゼンテーションできる
								授業科目の貢献度
		視覚情報デザイン実習B	2		6		視覚情報デザインの様々な制作を考え方から学び、展開して行きます。一連の商品開発の流れを理解し、デザインの重要性を探ります。	オリジナリティのあるイラストレーション制作ができる
								イラストレーションに的確なデザインツールを使い、制作ができる
								インフォグラフィックスを理解し、わかりやすい作品が制作できる
								マーケティングを考えた購買力が高められるパッケージデザインが展開できる
								商品開発の流れが理解でき、商品のデザインができる
								アイデア展開から販売までをまとめてプレゼンテーションできる
								授業科目の貢献度
		デジタルデザイン論A	2		5		多岐にわたるデジタル表現の基本要素と応用を学びます。デザイン表現がデジタルの技術によってどのように変わったかを探り、今後の動向を考えます。	視覚情報処理を理解できる
								CGを主としたビジュアル表現の流れを理解できる
								数理的な方法を利用したデザインの展開を理解できる
								デジタル制作の利点を見出し、応用する方法を考えることができる
								今後のデジタル表現の発展を考えることができる
								授業科目の貢献度
		デジタルデザイン論B	2		6		情報化社会のデザインの方法と考え方ノウハウを学びます。CIやVIなどにより、会社や社会がどう変わっていくかを習得します。	インフォグラフィックス、Web、インターフェースが正確に理解できる
								インタラクティブ、映像、アニメーションなどのメディア技術と方法論の可能性が理解できる
								時間、運動、インターフェースによる情報デザインが理解できる
								情報デザインの骨格と今後の発展を考えることができる
								授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
										20					20
										20					20
										10					10
										20					20
										20					20
										10					10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
												10	10		20
												10	10		20
												10	10		20
												10	10		20
												10	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	45	5	100
											10	10			20
											10	10			20
										5	5	10			20
							5		5	10					20
										5		5		10	20
0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	20	25	35	0	10	100
							5			10					15
										10				10	20
												10		10	20
												5	10		15
												5	10		15
														15	15
0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	20	0	20	20	35	100
										10		10			20
													10		10
									10	5		5			20
									10	5		5			20
									5	5					10
												10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	0	30	10	10	100
										10			10		20
							10						10		20
							5			5	5				15
							10		5			5	5		25
							10				10				20
0	0	0	0	0	0	0	35	0	5	15	15	5	25	0	100
							10		5	10					25
							10		5	10					25
							10		5	10					25
							10		5	10					25
0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	40	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目	基幹科目	視覚情報表現論	2	5	視覚情報は、私たちが持っている五感すべてを生かせるようなデザインをどうやって表現するかが重要です。情報の収集から完成迄の多くの事例を習得します。	先人達の優れた視覚伝達表現の足跡をたどり、近代グラフィックデザインの事例が理解できる デザイン表現とアート表現の相互関係が理解できる 平面を中心としたさまざまな表現と展開を理解できる 情報収集を効率的に実行することができる 写真やCG、イラストレーション、さまざまな素材を生かした視覚表現の方法を知る 授業科目の貢献度
		コミュニケーションデザイン論	2	6	デザインの基本はコミュニケーションつまり対話です。コミュニケーションとデザインの重要性を習得し構築を学びます。	コミュニケーションデザインの本質を理解できる CI計画、VI計画の基本的概念が理解できる コンセプトから最終デザインまでの発展プロセスを明確に示すことができる グラフィックデザインが空間、環境に生かされている事例を知り、その重要性を理解できる コミュニケーションデザインの今後の可能性を考えることができる 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ実習A	2	5	フィールドレコーディングを体験しサンプリングソフトを学ぶ。シンセサイザーを使用したゲーム効果音制作を行う。画コンテと撮影スケジュールの作成が出来る。デジタル一眼カメラの操作を学び、撮影した素材をパソコンで編集が出来ることを目指す。	フィールドレコーディングができる サンプリングソフトを理解できる シンセサイザーを使用しゲーム効果音を作成できる サウンドアート作品を制作する 画コンテと撮影スケジュールの作成ができる デジタル一眼カメラによる撮影ができる パソコンによる編集ができる 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ実習B	2	5	CG制作とラジオ番組制作のノウハウを実践的に学びます。CG合成技術や動画編集の技術を身に付けるとともに、グループで短編ラジオ番組を制作します。	コンピュータによるCG制作ができる 映像制作におけるCG合成技術を身に付ける 映像編集ソフトで動画編集できる 番組制作での企画・構成・段取りの大切さを理解する 番組の進行台本作りを通して言語表現力を磨く 番組制作におけるチームワークの大切さを実感する 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ実習C	2	6	ループソフトを使用し種々のエフェクトを加え作品を制作する。マイキングやPAシステムを習得する。基本的な映像作品を基にさらにCG映像などを合成してより高い映像制作を目指す。	ループソフトを使い楽曲を制作できる オリジナルの楽曲やアレンジを作成できる マイクを使い音声を収録できる PAシステムを扱うことができる CG合成を含めた複合的な映像制作ができる グレイディング(色調調整)ができる 授業科目の貢献度
		クリエイティブ実習D	2	6	構成、映像制作、音楽制作のコラボレーション作業によるチーム制作でコミュニケーション能力を高める。	社会に発信できる映像作品ができる チーム制作によるコミュニケーションができる 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ論A	2	5	MIDIの概念やシンセサイザーなどのコンピュータミュージックに関すること、あるいは電子音楽に関する歴史などを学修する。	プログラムとしてのMIDIが理解できる シンセサイザーのしくみが理解できる 20世紀以降現代にいたるまで、電子音楽がどのように進歩してきたのかが理解できる 現代社会において電子音楽がどのように活用されているのかが理解できる 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ論B	2	5	映像作品を制作する際に意識すべき観客や視聴者への訴求効果、取材者としての態度・言葉遣いなどのモラルを理解し身に付けます。また、人を理解し、人と深く付き合い、生活や社会を学ぶことで、映像作品の原点を探り、伝えるテーマを形にできる表現者としての力を養います。	社会を見つめ、いま何が映像作品として求められているかが分かる 取材交渉の仕方や取材時の態度・言葉遣いなどのモラルが身に付く 題材を深く見つめ、テーマや切り口を深く掘り下げる表現者としての心構えが身に付く 調べる技術と書く技術が身に付く 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
							5		5		10				20
							5		5		10				20
							5		5		10				20
								10	10						20
									10		10				20
0	0	0	0	0	0	0	15	10	35	0	40	0	0	0	100
							5		5	5	5				20
							5		5	5	5				20
							5		5	5	5				20
							5		5	5	5				20
							5		5	5	5				20
0	0	0	0	0	0	0	25	0	25	25	25	0	0	0	100
													15		15
													10		10
													15		15
														20	20
												10			10
												10			10
													10	10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	50	30	100
											5		10		15
											5		10		15
													10	10	20
									5			10			15
										10	5				15
								10						10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	5	10	15	10	30	20	100
													10	10	20
													10	10	20
													10		10
													10		10
													10	10	20
													10	10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	40	100
												25		25	50
												25		25	50
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	100
											25				25
											25				25
											25				25
											25				25
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	100
							10		20						30
							10	20							30
										20					20
									10		10				20
0	0	0	0	0	0	0	20	20	30	20	10	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目	基幹科目	クリエイティブ論C	2	6	アニメーションや漫画、ゲームなど、日本のサブカルチャーについての理解を深め、サブカルチャーの存在意義や役割などについて考察します。	日本のサブカルチャー史を簡単に把握できる アニメーションや漫画の系譜や影響力などを理解する ゲームの系譜や影響力などを理解する サブカルチャーの存在意義や役割などについて考察できる 授業科目の貢献度
		メディアクリエイティブ論D	2	6	著作権など様々なメディアの持つ倫理について学び、その特徴を理解した上で社会問題について自らの意見を述べる事が出来る。	著作権と放送倫理について理解できる 新聞、テレビ、ラジオなど様々なメディアの特徴を理解し、メリットとデメリットの現実がわかる 現代社会におけるメディアの役割を把握し、それぞれの特性を生かした展開を考えることができる 政治、経済など社会が抱える様々な問題に対して自らの意見を持ち議論ができる 授業科目の貢献度
		Webデザイン実習A	2	5	Web デザインの専門的な実習を行い、実践的なスキルを習得します。	メソッドと多重定義を理解して使える クラスとインスタンスを理解して使える 継承の意味を理解して使える アプレットについて理解して使える グラフィカルユーザーインターフェイスに応用できる 授業科目の貢献度
		クロスワークプロジェクト	2	6	OtoO（オンライン to オフライン）コミュニケーションの企画制作を行い、専門的な制作力を高めます。	ソーシャルメディアの理解ができる ソーシャルメディア上のインタフェイスが制作できる 収集したデータを基に、課題を発見できる 課題に応じた対策を立案できる 課題に応じた対策が実施できる 授業科目の貢献度
		Webデザイン実習B	2	6	Web デザインの専門的な実習を行い、実践的なスキルを習得します。	SQL データベースの基本設定ができる JDBC によるデータベース操作ができる JSP、サーブレットの基本を理解して使える HTML、サーブレットとデータベースを連携できる JSP とデータベースを連携できる 授業科目の貢献度
		クリエイティブプランニング	2	5	マーケティング計画からの展開や、広告制作において最も重要なアイデア抽出の導き方を、実践制作を通じて学びます。	広告企画の進め方が理解できる 実際の広告企画が理解できる 戦略テーマからのクリエイティブテーマが創出できる クリエイティブテーマからの展開が理解できる 展開ごとの連動性が理解できる 授業科目の貢献度
		Webデザイン論	2	5	Web デザインの専門的な知識を習得し、理解を進めます。	情報の構造化、サイトマップの構成と設計、ゾーニングができる ナビゲーション、インタラクションに関する要件を説明できる ユーザビリティを理解できて評価できる コンテンツアクセスビリティを理解してサイトの設計、構築ができる Web サイトの運用と管理の重要性を理解できる 授業科目の貢献度
		マーケティングプランニング	2	6	広告制作活動の設計段階ともいえるマーケティング計画について重要な、訴求要素と訴求対象の考察を、実際に制作しながら学びます。	広告企画の進め方が理解できる 実際の広告企画が理解できる SWOT 分析の理解と分析ができる ターゲットの態度変容構造の設定ができる 戦略テーマの立案方法が理解できる 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
							20				10				30
									10		10				20
									10		10				20
									20	10					30
0	0	0	0	0	0	0	20	0	40	10	30	0	0	0	100
							5							5	10
							5		10					5	20
							5	10	10					5	30
							10	10	10					10	40
0	0	0	0	0	0	0	25	20	30	0	0	0	0	25	100
													20		20
													20		20
													20		20
													20		20
													20		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100
												5	5		10
									5			5	5		15
								5	5	5		5	5		25
								5	5	5		5	5		25
									5	5		5	5	5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	10	20	15	0	25	25	5	100
													20		20
													20		20
													20		20
													20		20
													20		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100
									5	5		5		5	20
									5	5		5		5	20
									5	5		5		5	20
									5	5		5		5	20
									5	5		5		5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	0	25	0	25	100
													20		20
													20		20
													20		20
													20		20
													20		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100
									5	5		5		5	20
									5	5		5		5	20
									5	5		5		5	20
									5	5		5		5	20
									5	5		5		5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	0	25	0	25	100

科目群	区分	授業科目	履修 必修	区分 選択	自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
専門科目	基幹科目	コミュニケーション論 A		2		5	メディアを介して社会と繋がるコミュニケーションで重要な、広報活動における様々な種類を実際の事例を交えながら学びます。	企業広報と宣伝の違いが理解できる 企業広報の基本が理解できる 企業の存在意義と社会的責任について理解できる 企業広報の戦略立案が理解できる 授業科目の貢献度
		メディアコミュニケーション論 B		2		6	社会で見られる現象の分析方法について学び、さらにそれに対する人間の共通的な解釈、判断の特徴を理解します。情報メディアを通して人間が思考する特徴を客観的につかみ、その原因理由や活用について考えます。	社会調査の種類とそれぞれの特徴を理解できる 先行研究を調査して、まとめることができる 質問紙調査の設計、実施、集計、分析ができる 対面調査の設計、実施、集計、分析ができる 市場調査の設計、実施、集計、分析ができる 予測の検証により、思考判断の共通性を理解できる 予測の検証により、思考判断のバイアスを理解できる 授業科目の貢献度
		製品デザイン実習 A		2		5	製品デザインの課題に実際に取り組んで、その全体的なプロセスを理解し実践する能力を修得します。テーマとしては身近な雑貨などを取り上げます。	課題を理解し、その製品の使用シーンを想定できる 課題に関わる調査と分析ができる 調査、分析結果から改善点や問題点を見つけることができる 改善点、問題点に対して複数のデザイン案を発想できる 複数デザイン案を一つのデザインにまとめ上げることができる 授業科目の貢献度
		製品デザイン実習 B		2		6	多様な製品デザインに取り組むことができる能力を修得するために、課題発見のための分析能力、そしてその課題に対する最適解創造手法などを学びます。テーマとしてはやや高度な折りたたみ自転車やスツール、幼児用玩具等に取り組めます。	異なる製品分野の特質を理解することができる 製品分野の特質に合わせたデザインの取り組み、発想を行うことができる 発想したデザイン案を比較検討し、最適なデザイン案を判断できる デザイン案に相応しい素材、生産方法を選択しデザインを完成させることができる デザイン案に応じた手段によるモデルを制作し、デザイン説明をポートフォリオにまとめることができる 授業科目の貢献度
		応用 CAD 実習 A		2		5	CAD 実習 2 で学んだことの上に、より高度な形状を CAD 上で表現することを学ぶとともにその形状を、3次元加工機等で製作する手法を学びます。	複雑な 3 次曲面をモデリングすることができる 3 D C A D で作成した形状から 2 D 図面を作成することができる 実際のサイズをイメージしながらモデリングできる サーフェスモデルをソリッドモデルにすることができる 手描きのスケッチを C A D に取り込みモデリングすることができる 意図した形状を正確にモデリングできる。 授業科目の貢献度
		応用 CAD 実習 B		2		6	CAD デザイン実習 1 で学んだことの上に、自らの創作を CAD ソフトを駆使して構成することを学ぶとともに、プレゼンテーションを意識した、魅力ある 3 次元 CG 画像の制作方法などを学びます。	製造方法や材料の特性を踏まえた上でモデリングすることができる 3 D 造型機用のデータを作成することができる 3 D 造型機を使用することができる 異なる 部品を自由にアッセンブリすることができる アイデアのコンセプトを効果的に伝えるフォトリアルなレンダリングを作成することができる プレゼン用資料として 3 D C A D を自由自在に活用することができる 授業科目の貢献度
		プロダクトデザイン論		2		5	製品デザインに携わるために必要とされるさまざまな分野〔雑貨、パッケージ、ジュエリー、家具、機器、自動車、インテリアなど〕、技術〔人間工学、ヒューマンインタフェース、ユニバーサルデザイン、エコ〕などをテーマごとに学んで行きます。	プロダクトデザインの関与する領域を理解できる プロダクトデザインのプロセスを理解できる 人間工学についてその基本的な考え方、利用方法が理解できる ヒューマンインタフェースについてその基本的な考え方、デザインの手法が理解できる ユニバーサルデザイン、エコロジーデザインについてその概念とデザイン上の配慮すべき点を理解できる 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
							10		10	5					25
							10		10	5					25
							10		10	5					25
							10		10	5					25
0	0	0	0	0	0	0	40	0	40	20	0	0	0	0	100
									20						20
									20						20
									10						10
									10						10
									10						10
									20						20
									10						10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
										10		5		5	20
									10	5		5	5	5	30
									5			5	5	5	20
												10	5	5	20
														10	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15	0	25	15	30	100
									5	5	5	5		5	25
										5		5		5	15
												5		5	10
											5	5	5	5	20
											5	5	10	10	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	10	15	25	15	30	100
												5	5		10
											5	5	5	5	20
												5	5	5	15
											5	5	5		15
											5	5	5	5	20
										5	5	5	5		20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	20	30	30	15	100
												5	5	5	15
												5	5	5	15
												5	5	5	15
										5		5	5	5	20
										5		5	5	5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	30	30	30	100
									5	5	5	5		5	25
									5	5	5	5		5	25
										5	5			5	15
										5	5			5	15
										5	10			5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	25	30	10	0	25	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目	基幹科目	材料と加工法論	2	5		製品デザインをするためには利用する材料の特質とその加工方法を理解しておくことが必要であり、基本的な材料(樹種、金属、木材等)の特質とその加工方法を学びます。	家電機器、自動車、食器などの製品についてどのような部分にどのような材料が使用されているかが理解できる
							樹脂材料の種類と性質および加工法を理解する
							金属材料の種類と性質および加工法を理解する
							セラミック、ガラスなどの種類と性質および加工法を理解する
							木材、布、紙、皮などの自然素材の種類と性質および加工法を理解する
							授業科目の貢献度
		デジタルプレゼンテーション論	2	6		製品デザインは第3者に伝えて理解を得て初めて製品化を行う事ができるが、その理解を得る手法がプレゼンテーションです。プレゼンテーション資料の作成の基本からプレゼンテーションの実践までを学ぶとともに、就活にて利用するポートフォリオの作成に取り組みます。	的確なリサーチ、資料の収集ができる
							資料の収集からデザインの構想や企画の方法へと展開することができる
							プレゼンテーションのまとめ方を工夫し、最善のプレゼンテーションを行うことができる
							プレゼンテーションの良い例を生かすことができる
							グループワークを行い、責任を持って役割をこなすことができる
							授業科目の貢献度
		空間デザイン論	2	6		モノがあれば、必ずそのモノが利用される空間が存在します。空間の構成の仕方の基本と展示デザインなどの利用方法の在り方を学びます。	空間の用途別の空間デザインの基本的な手法を理解できる
							空間デザインの要素〔素材、仕上げ、照明、設備など〕についてその種類とその基本的な活用方法を理解できる
							住宅やオフィスの特性と必要とされるデザイン配慮の考え方が理解できる
							店舗や飲食店の空間の特性と必要とされるデザイン配慮の考え方が理解できる
							非日常的な美術館、展示会などの空間の特性と必要とされるデザイン配慮の考え方が理解できる
							授業科目の貢献度
	展開科目	情報デザイン論2	2	5		メディアを広報視点で捉え、企業や産業と社会とのコミュニケーションの在り方を学ぶ。	さまざまなメディア別の産業構造が理解できる
							メディア別の経営戦略が理解できる
							メディア産業への問題提起ができる
							メディアアクセスへの心構えができる
							授業科目の貢献度
		情報デザイン論3	2	6		メディア産業における、時代の旬な情報や知見を、外部専門家（非常勤講師など）を招き学ぶ。	メディア産業の最新情報を理解できる
							デザイン業界の最新情報を理解できる
							次世代メディア産業についての展望が理解できる
							次世代デザイン業界についての展望が理解できる
							授業科目の貢献度
		ワークメディアプロジェクト	2	6		メディア・コミュニケーションをより実践に近い形式で実習する。企画と制作の両分野を学ぶ。	商業デザイン制作者として必要な基本的な考え方が理解できる
							商品特徴やターゲットを考慮した基本的なグラフィック広告を制作できる
							商品特徴やターゲットを考慮した基本的なムービー広告の企画が出来る
							市場課題やターゲットを考慮した基本的なメディア選択ができる
							授業科目の貢献度
		ビジネスコンピューティング	2	5		複数の情報処理をまとめて実行するような主に事務処理の効率化に利用できる汎用実務的スキルを習得します。	データのソート、フィルタリングができる
							マクロを記録、登録、使用できる
							出力のユーザーフォームを作ることができる
							変更修正機能を組み込んだマクロを記述できる
							アプリケーション間の連携操作を実現するマクロを記述できる
							授業科目の貢献度
		プログラミング3	2	5		ファイル処理や構造体などデータをプログラムで扱う方法を学び、データの構造や利用に関する理解が進みます。	構造体型のしくみを理解できて、メンバにアクセスできる
							構造体を記述して、関数の中で使うことができる
							共用体型と列挙型のしくみを理解できて、使える
							テキストファイルの入出力ができる
							バイナリファイルにランダムアクセス操作ができる
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
											20			20	40
											10			5	15
											10			5	15
											10			5	15
											10			5	15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	40	100
									10			5	5	5	25
									10			5		5	20
													10	5	15
													10	5	15
								20						5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	10	25	25	100
										5	5	5		5	20
										5	5	5		5	20
										5	5	5		5	20
										5	5	5		5	20
										5	5	5		5	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	25	0	25	100
							10		10	5					25
							10		10	5					25
							10		10	5					25
							10		10	5					25
0	0	0	0	0	0	0	40	0	40	20	0	0	0	0	100
							5			10	10				25
							5			10	10				25
							5			10	10				25
							5			10	10				25
0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	40	40	0	0	0	100
								5		5		5	5	5	25
								5		5		5	5	5	25
								5		5		5	5	5	25
								5		5		5	5	5	25
0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	0	20	20	20	100
									20						20
									20						20
									20						20
									20						20
									20						20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
										20					20
										20					20
										20					20
										20					20
										20					20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修	選択	区分自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目	展開科目	プログラミング4	2		6		コンピュータで問題を解決するための現実的かつ汎用的な手法の基本を学びます。具体的な手順を構成してプログラムとして実現する課題を通して、論理的思考を身に付けます。	リストの構造を理解して使える
								スタックの構造を理解して基本操作ができる
								キューの構造を理解して基本操作ができる
								線形探索と二分探索を理解できる
								バブルソート、選択ソート、挿入ソート、クイックソート、シェルソートを理解できる
								関数の再帰的呼び出しを理解して使える
								授業科目の貢献度
		インターンシップ(学外研修)	2		6		実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業生活設計など職業選択について考えます。	研修先から与えられた課題を理解できる
								研修先から与えられた課題を実行できる
								研修先から与えられた課題について結果を評価できる
								職業労働について具体像を説明できる
								授業科目の貢献度
	専門科目	専門セミナー1	1		5		卒業研究および関連活動について準備的に取り組みます。	専門分野について興味を深めることができる
								専門分野について具体的に学ぶ準備ができる
								専門分野について具体的な進路を考えることができる
								授業科目の貢献度
		専門セミナー2	1		6		卒業研究および関連活動について準備的に取り組みます。	専門分野について興味を深めることができる
								専門分野について具体的に学ぶ準備ができる
								専門分野について具体的な進路を考えることができる
								授業科目の貢献度
		情報デザイン研究1	1		7		卒業研究および関連活動について、専門的に取り組みます。	専門的なテーマを決めることができる
								専門的なテーマに関連する学習に取り組むことができる
								専門的なテーマを通して将来を考えることができる
								授業科目の貢献度
		情報デザイン研究2	1		8		卒業研究および関連活動について、専門的に取り組みます。	専門的なテーマを決めることができる
								専門的なテーマに関連する学習に取り組むことができる
								専門的なテーマを通して将来を考えることができる
								授業科目の貢献度
		卒業研究	6		7・8		専門分野の知識およびスキルのさらなる向上を図り、4年間の学びの仕上げとして、専門テーマについて追求します。	専門的なテーマの研究を計画できる
								専門的なテーマの研究を実行できる
								専門的なテーマの研究を卒業論文にまとめることができる
								専門的なテーマの研究を発表できる
								授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	合 計
										20					20
										20					20
										20					20
										20					20
										10					10
										10					10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
							10	10	5						25
							10	10	5						25
							10	10	5						25
							10	10	5						25
0	0	0	0	0	0	0	40	40	20	0	0	0	0	0	100
														30	30
														40	40
														30	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
														30	30
														40	40
														30	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
														30	30
														40	40
														30	30
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
														20	20
														30	30
														30	30
														20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100

情報学部総合情報学科経営情報専攻

学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

情報学部総合情報学科は、教育・研究を通して、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

2 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針となっています。

2. 1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦勞と喜びへと促します。

専門力の育成とは、社会に通用する生きる力、問題解決能力、コミュニケーション能力の育成を本専攻の目標にしています。長引く経済の低迷や国際競争の激化、産業の空洞化など、近年における企業を取り巻く環境は、大きく変化してきました。また、人口の減少やTPPをはじめとした自由貿易体制の移行など、企業を取り巻く環境は、今後更に変化すると思われます。こうした変化の中、企業が求める人材やその能力にも大きな変化が見られるようになりました。特に、ビジネスのグローバル化が進展する中では、語学能力だけでなく、海外においてビジネスを行う総合的な能力を有した人材が高く求められてきます。

そうした人材を育成するために、新たな時代のビジネスパーソン(企業人)になるための基礎的知識を学ぶと共に、更にグローバル化が進展する中で、企業経営に資する人材になるための分析力、考察力を学びます。

なお、本専攻はビジネス全般を学ぶ履修モデルとスポーツ関連のマネジメントを学ぶ履修モデルを設定しています。

2. 2 学位授与の方針

総合情報学科経営情報専攻では、以下の力を備えた者に学位を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応できる素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。

(専門力)

8. 幅広い教養と専門知識を実践に生かし、企業社会の中で自ら主体的に問題解決を行い経営の現場で活躍できる素養を身につけている。
9. 企業経営活動において、指導力・統率力を発揮し、ビジネス・リーダーになれる素養を身につけている。
10. 人材の育成や管理に関する専門知識と実習経験を生かし、全社的な観点から優れたマネジメントを行う経営者となりえる

素養を身につけている。

11. 生産や物流に関する専門知識を生かし、製造業やサービス業の発展に貢献できる素養を身につけている。
12. 会計に関する専門知識と実務能力を持って起業し、社会に貢献できる素養を身につけている。
13. 情報の管理に関する実技・技能を備え、マネジメント能力を地域活性化などあらゆる社会活動の面で役立てられる素養を身につけている。

3. 標準教育プログラム

標準教育プログラムとは、本学で学ぶ皆さんが、上に示した教育の目的と学位授与の方針に到達するために4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を「教養力」と「専門力」に分けて定めたもので、これは、本学の教育課程編成・実施の方針に基づき作成されています。総合情報学科経営情報専攻の標準教育プログラムは、以下の(1)～(8)になります。

(教養力)

(1) 社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2) 社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解と同時に、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(専門力)

(3) 幅広い教養と専門知識を実践に生かし、企業社会の中で自ら主体的に問題解決を行い経営の現場で活躍できる素養を習得する

企業社会の中で起きる問題を解決するためには、企業に関する組織や財務、法律、戦略、歴史などを理解することが不可欠です。また、こうした知識を習得すると共に、これらの知識(情報)を収集したり、処理したりするための情報ツールを操るスキルも必要となります。そして、これらの教養・知識・スキルを経営の現場で生かすための方法を習得する必要があります。

(4) 企業経営活動において、指導力・統率力を発揮し、ビジネス・リーダーになれる素養を習得する

企業経営活動においては、組織の中での自らの役割を認識すると同時に、リーダーとなる人材は、組織を指導・統率する能力が不可欠です。チームで行うプロジェクト科目を通して、このような能力を習得する必要があります。

(5) 人材の育成や管理に関する専門知識と実習経験を生かし、全社的な観点から優れたマネジメントを行う経営者となりえる素養を習得する

企業経営において、人材の育成と管理は重要です。人材の育成と管理に関する専門知識を学ぶと同時に、人材マネジメントに関する実習経験を通して、全社的な観点から人材マネジメントを行う能力を習得する必要があります。

(6)生産や物流に関する専門知識を生かし、製造業やサービス業の発展に貢献できる素養を習得する

企業経営において、生産や物流がどのような役割を担っているのかを認識し、これらのシステムを学び、生産や物流の視点から企業が抱える問題を捉え、その解決策を考えることのできる素養を習得する必要があります。

(7)会計に関する専門知識と実務能力を持って起業し、社会に貢献できる素養を習得する

企業経営においては、会計の重要性を認識すると共に、会計に関する専門知識と会計処理のスキルを習得する必要があります。会計に関する専門知識を持っていれば、自ら起業することも可能です。

(8)情報の管理に関する実技・技能を備え、マネジメント能力を地域活性化などあらゆる社会活動の面で役立てられる素養を習得する

企業経営において、情報の管理は不可欠です。ビジネス文書やスプレッドシートの作成や管理だけでなく、データベースや情報ネットワークに関する基礎知識とスキルの習得も必要です。これらの知識とスキルを活用したマネジメント能力を社会活動の面で役立てるための素養も習得します。

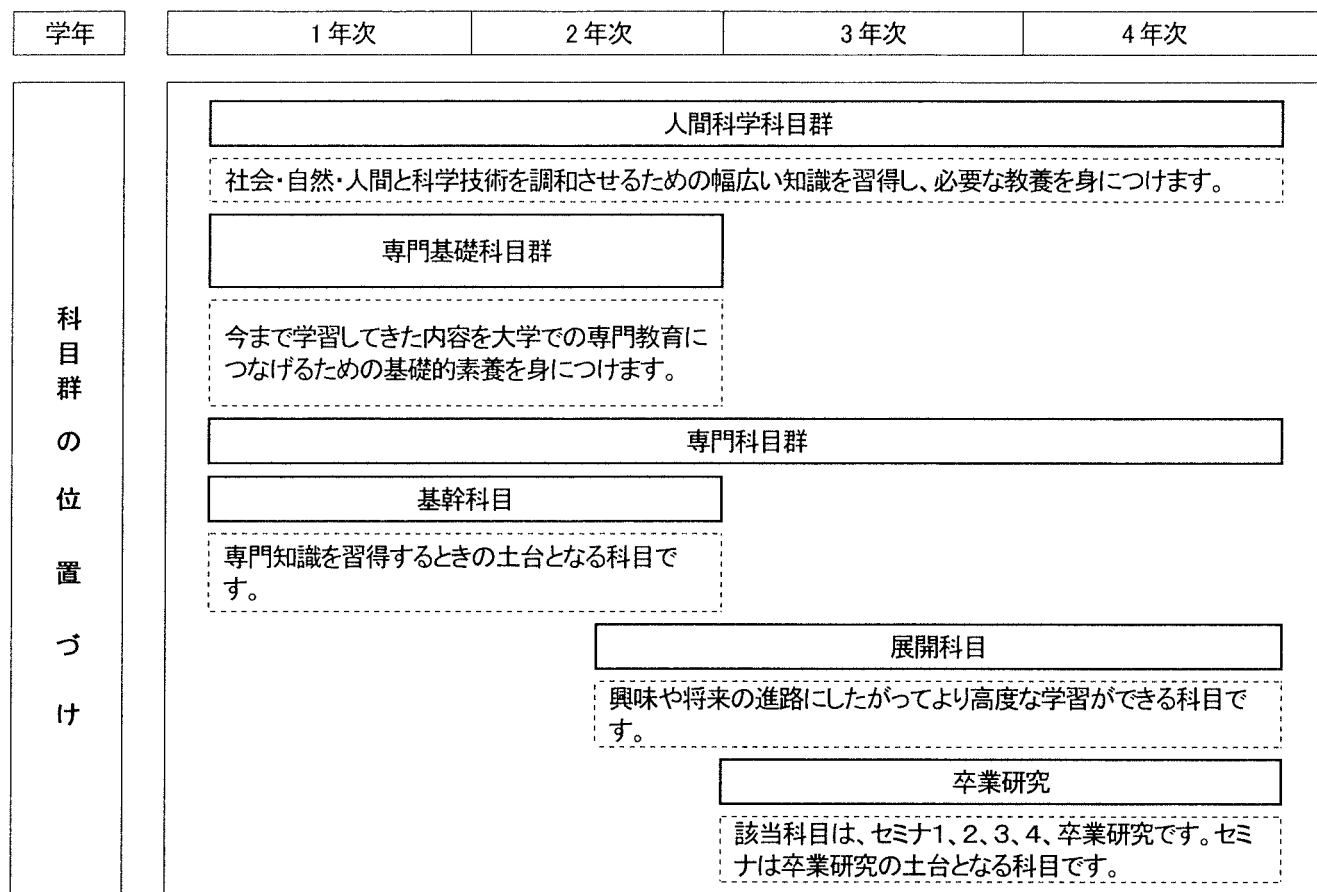
4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

第3章で説明した標準教育プログラムは、4年間で身につけることが必要な知識や能力の骨格を示したものですので、皆さんが学修を進めていくためには、学修の達成に必要な授業科目が記された教育課程が必要です。

本学の教育課程は、授業科目を順次的・体系的に配置したうえで、①授業科目の順次性・体系性と学位授与の方針との関係性を説明するためのカリキュラム・フローチャートとカリキュラムマップが準備され、②授業科目ごとに学修到達目標を定め、さらに、③皆さんが進みたい進路の参考とするため、履修モデルも準備されています。

図-1は、標準教育プログラムに基づく教育課程の概念図をまとめたものです。教育課程は、人間科学科目群、専門基礎科目群、および専門科目群の3つの群に分類されています。なお、教育課程を構成しているそれぞれの授業科目の具体的な開講期と単位数などを示したものは、別に示す「開講科目一覧」に表しています。

以下にそれぞれの授業科目の授業内容および達成目標について説明します。



図－1 総合情報学科経営情報専攻の教育課程概念図

4.1 人間科学科目群

(1)教育内容

a 人間科学科目群 Aグループ

①ファースト・イヤー・セミナ

ファースト・イヤー・セミナ(First Year Seminar, 略して FYS, 初年次演習)とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「**学習技法 (スタディ・スキルズ)**」を習得してもらう科目です。いわば「**大学での学び方**」を学ぶ授業科目です。これをまず入学当初に身につけてもらうこと、そのことが皆さん方に4年間の充実した大学での学びを保証します。

実は、皆さんが高校まで普通だと思ってきた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉強に打ち込んでそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の一半には、大学での学び方(つまり知的レベルをステップアップする方法)のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとおり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションの様々な方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんが本学の教育にスムーズに適応すること、言いかえると皆さんが手応えをもって大学生活を送ることを手助けするところにあります。しかしそれだけではありません。皆さんが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとすると、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの

必要性をきつと感じることでしょう。それらを可能にするのも、知的自己形成に資する技法です。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初歩からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

② 外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わぬ誤解やトラブルに巻き込まれることにもなりかねません。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思うかもしれませんが、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「基礎英語グラマー1・2」と「基礎英語リーディング1・2」、2年次には「コミュニケーション英語1・2」を必修科目として開講しています。「コミュニケーション英語1・2」では関心に応じたコースを選ぶことができます。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「コミュニケーション英語3・4」という選択科目を開講しています。

③ 健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとして)も運動を継続して行えるような素地を身につけることと、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④ 基礎英語 세미나

基礎英語セミナーでは、基本的な英単語を習得すること、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることになります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群Bグループ

b 人間科学科目群 Bグループ

開講が予定されている講義系と演習系科目は、すべて次世代を担う一市民としての教養を磨き高めることを目的とします。本学では「教養」として、とくに「コミュニケーション能力」と「固定観念にとらわれず自ら考えを組み立てる力」に重点を置いています。人文科学、社会科学、自然科学、総合系の諸科目を取りそろえていますから、できるだけ偏りのないように履修し、修得することが望まれます。

私たちは文字通りグローバルな激動の世の中に生きています。世界はテクノロジーを介して、距離と時間に縛られることなく緊密に結びついています。しかしその一方で、善い事も悪い事もよその国の出来事ではすまされない時代に私たちは直面しています。

世界の同時不況から日本が立ち直りかけたと思われた矢先に、ギリシアに端を発するヨーロッパの通貨危機、東日本の大震災、原発事故等によってわれわれの暮らしは大きく変容しています。ローカルな異文化衝突、民族紛争も止む気配がありません。それらは局地的に先鋭化を見せ、これが国際社会をいとも簡単に協調から敵対関係へ、あるいは資源の争奪へと巻き込みます。

具体的に皆さんに求められているのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵と活力を身につけることです。そのためには現在を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは協力しながら探り当てていく知とパワーが不可欠です。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学分野の学問が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では経済学、法学、政治学、社会学、社会調査の方法、地域研究がさまざまな社会の仕組みや国際関係を扱います。

また自然科学のアプローチから、われわれの思考や生活や身体を見直す諸科目も創設しました。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、行動生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身そのものに焦点を当てています。

2年次、3年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブ・ラーニングやPBL(問題 or 課題解決型授業)を意識した少人数科目を開設しています。

以上の科目を選択履修することによって、幅広い知識の修得と同時に、全体としてもものの見方や考え方を学んでいくように努めてもらいます。その最も基本的な目標を繰り返せば、「論理的な思考力と的確な表現力の養成」です。つまり、物事を直感だけに頼らず、筋道を立てて順序よく考え、それを他人にわかりやすく伝える力を養うということです。

大学での勉強は、与えられた何かを繰り返し習い覚えること以上に、何が問題でその解決のためにはどうしたらよいのかについて、自分自身が考え始めるところに醍醐味があります。人間科学科目群Bグループがその糸口となることを願っています。

C 人間科学科目群Cグループ

情報学部 の 1 年次生および 2 年次生を対象に、社会人基礎力を養成する必修科目を開設しています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4. 2 専門基礎科目群

専門分野の基礎となる専門基礎科目群の授業科目は、1 年次および 2 年次に開講されます。専門分野である専門科目群の授業科目は、基幹科目、展開科目、卒業研究から構成されており、基幹科目は 1 年次および 2 年次に、展開科目は 2 年次から 4 年次に、卒業研究は 4 年次に開講されます。「基幹科目」とは、専門科目の中でも根幹となる科目であり、専門知識を修得するための基礎となる科目です。また、「展開科目」とは、各人の興味や将来の進路を踏まえ、自身が希望する分野の高度な学習を行う科目です。卒業研究は 4 年間の学習の集大成の科目であり、ここでは論文を作成します。

各科目において学ぶ内容や修得する内容については、後述する「学修到達目標」のカリキュラムマップに記載されています。また、どの学期にどのような科目を履修できるかについては、履修モデルを参照してください。

(1) 専門基礎科目群の授業科目(計 17 科目)

専門分野の基礎となる授業科目で、1 年次と 2 年次に開講される科目です。

経営学概論、情報学概論、情報処理 1、情報処理 2、入門簿記、簿記原理、会計学、総合情報入門セミナー、経営実践入門、経営実践 1、経営実践 2、言語表現 1、言語表現 2、情報統計学 1、経済学入門、社会と企業 1、社会と企業 2

(2) 専門科目群の授業科目(計 50 科目)

専門科目群は、基幹科目、展開科目、卒業研究から構成されていますが、本専攻においては、基幹科目および展開科目は更に、以下の8つの領域に分類され、これらは本専攻における専門科目群の柱となっています。

- ・経営学部門
- ・情報部門
- ・会計部門
- ・プロジェクト部門
- ・国際部門
- ・キャリア開発部門
- ・法律部門
- ・スポーツ部門

①基幹科目

多くの基幹科目は、専門基礎科目群を学習した後、1年次の後期および2年次に設定されています。基幹科目のうち、専門科目群の8つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

- ・経営学部門
経営史、マーケティング概論、人材マネジメント、企業経営戦略論、交通論
- ・情報部門
データベース基礎
- ・会計部門
工業簿記、原価計算
- ・プロジェクト部門
総合情報プロジェクト演習1、総合情報プロジェクト演習2
- ・国際部門
異文化コミュニケーション1、異文化コミュニケーション2
- ・キャリア開発部門
キャリア開発1、キャリア開発2
- ・法律部門
民法、会社法
- ・スポーツ部門
コーチング1、コーチング2、スポーツライフマネジメント1、スポーツライフマネジメント2

②展開科目

基幹科目で学習した内容を基に、2年次から4年次に掛けて開講される展開科目では、専門科目の発展的な内容を修得します。展開科目のうち、専門科目群の8つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

- ・経営学部門
経営実践3、ベンチャービジネス論、物流論、中小企業論、ビジネスゲーム、環境経営論
- ・情報部門
情報統計学2、経営情報論、インターネットビジネス
- ・会計部門
管理会計論、経営分析、金融と財務
- ・プロジェクト部門
総合情報プロジェクト演習3
- ・国際部門
海外事情A、海外事情B
- ・キャリア開発部門

キャリア開発 3、キャリア開発 4、インターンシップ

- ・法律部門

労働法、知的財産権

- ・スポーツ部門

コーチング 3、スポーツマネジメント 1、スポーツマネジメント 2、スポーツマネジメント 3

③卒業研究

卒業研究は、 세미나 1、 세미나 2、 세미나 3、 세미나 4 および卒業研究から構成されており、この科目においては、各自が研究課題を設定し、その研究を行います。卒業研究は論文としてまとめ、最後に研究内容の発表を行います。

(3)学修到達目標

標準教育プログラムで述べた内容をどのような順序で学び、どのような知識を修得するのかについては、学修到達目標として図-2に示す、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

5. カリキュラム・フローチャート

専門基礎科目群の授業科目は、経営情報の基礎となる科目からなります。また、専門科目群の授業科目は、経営情報の専門科目群の柱となる 8 つのカテゴリーの基礎となる基幹科目とそれらの知識を発展させる展開科目、卒業研究からなります。図-1 にあげた専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを図-3に示します。これらの科目について概要を以下に説明します。専門科目群の学修到達目標は、カリキュラムマップにまとめて示しています。

経営情報専攻 カリキュラム・フローチャート

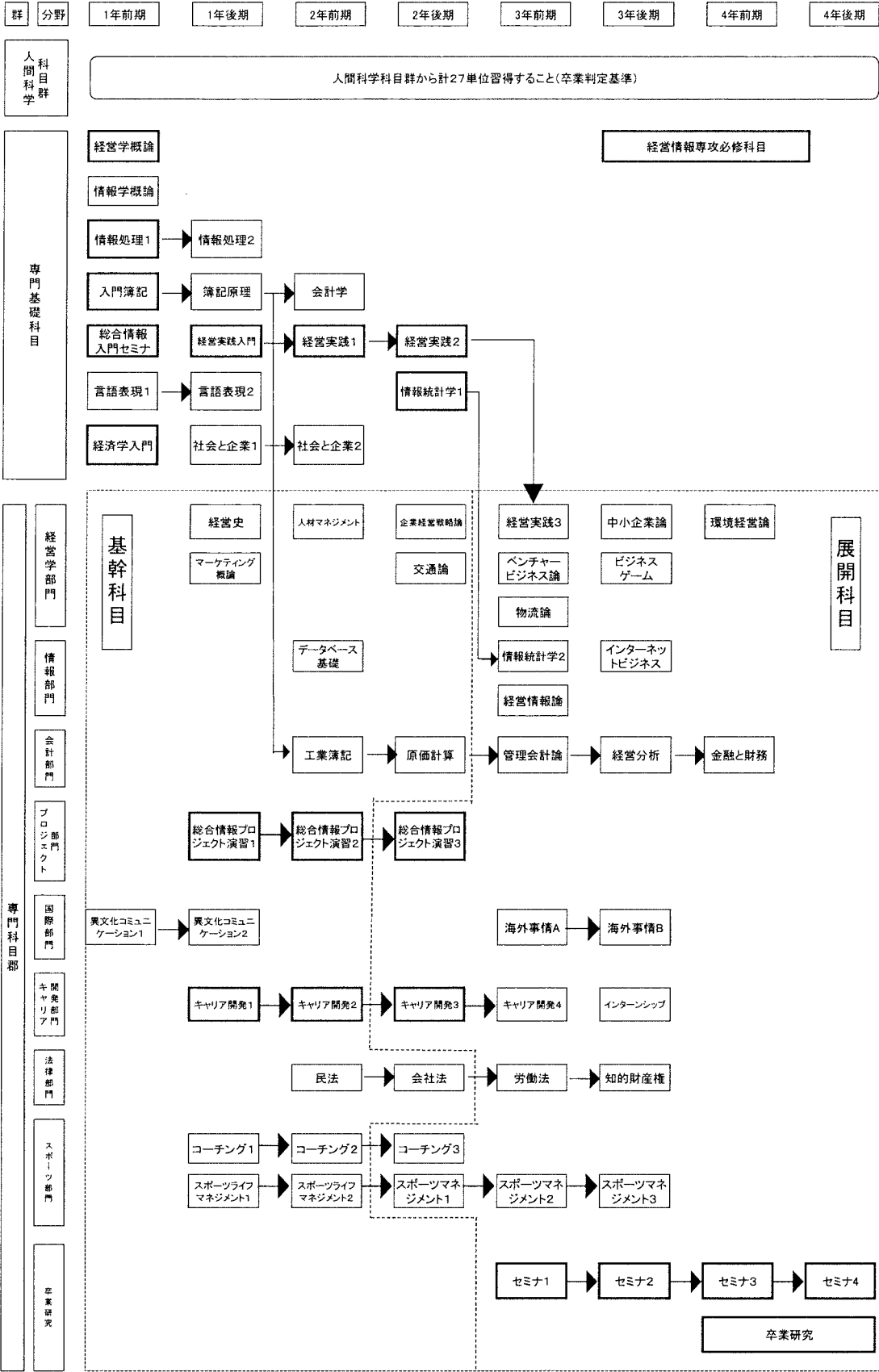


図-3 経営情報専攻 カリキュラム・フローチャート

6. 履修モデル

経営情報専攻では、大学の教育理念である、「人類社会に貢献することを目的として、時代の変化に対応できる英知と問題解決能力とを兼ね備えた想像力に富む人材を育成する」ために、「1. 学科の目的」およびの「2. 教育の目的と学位授与の方針」で述べた人材を育成するために二つの履修モデルを用意しています。一つ目は企業経営の分野で、人、物、金、情報のマネジメントを行える人材を育成するための経営情報系の履修モデルです。二つ目は、スポーツを通して組織の運営を行える人材を育成するためのスポーツマネジメント系の履修モデルです。

両モデル共に、1, 2 年次では主に基幹科目によって経営情報学を学ぶときに必要な基本知識を習得しますが、経営情報系では簿記・会計の資格取得を目指すために、1 年次から専門基礎科目及び専門科目の中の科目を履修し、3年次の受験を目指します。

スポーツマネジメント系の履修モデルでは、スポーツを通して組織の運営を行える人材を育成するためにスポーツと社会との関係を学ぶ科目を用意しています。

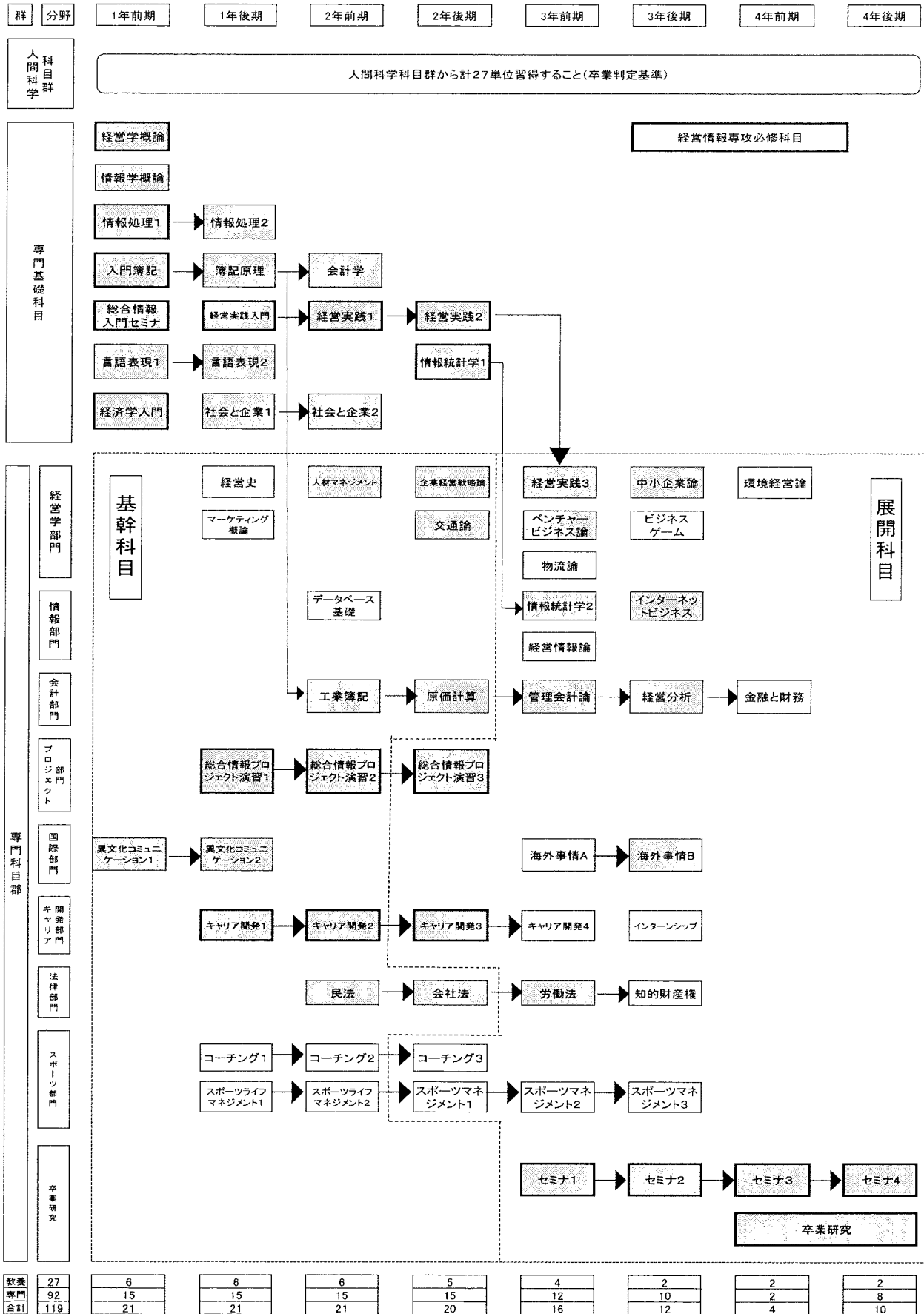
履修モデルA（経営情報系）

このモデルは、企業経営の分野で、人、物、金、情報のマネジメント能力を兼ね備えた人材を育成するための科目が配置されています。企業経営に関する基礎的理解の上に、企業経営の企画、戦略に不可欠な経営学及び経営情報処理に関する領域での実践的な学修を目指しており、・経営学部門、情報部、会計部門、プロジェクト部門、国際部門、キャリア開発部門、法律部門スポーツ部門の 8 つの分野で開講されている科目を学年進行とともに順次体系的に履修していくことで問題可決能力を兼ね備え、ビジネス界のニーズに応えたカリキュラムで、これからの社会に支持される新ビジネスの創造を目指す人材育成を目標にしています。

履修モデルB（スポーツマネジメント系）

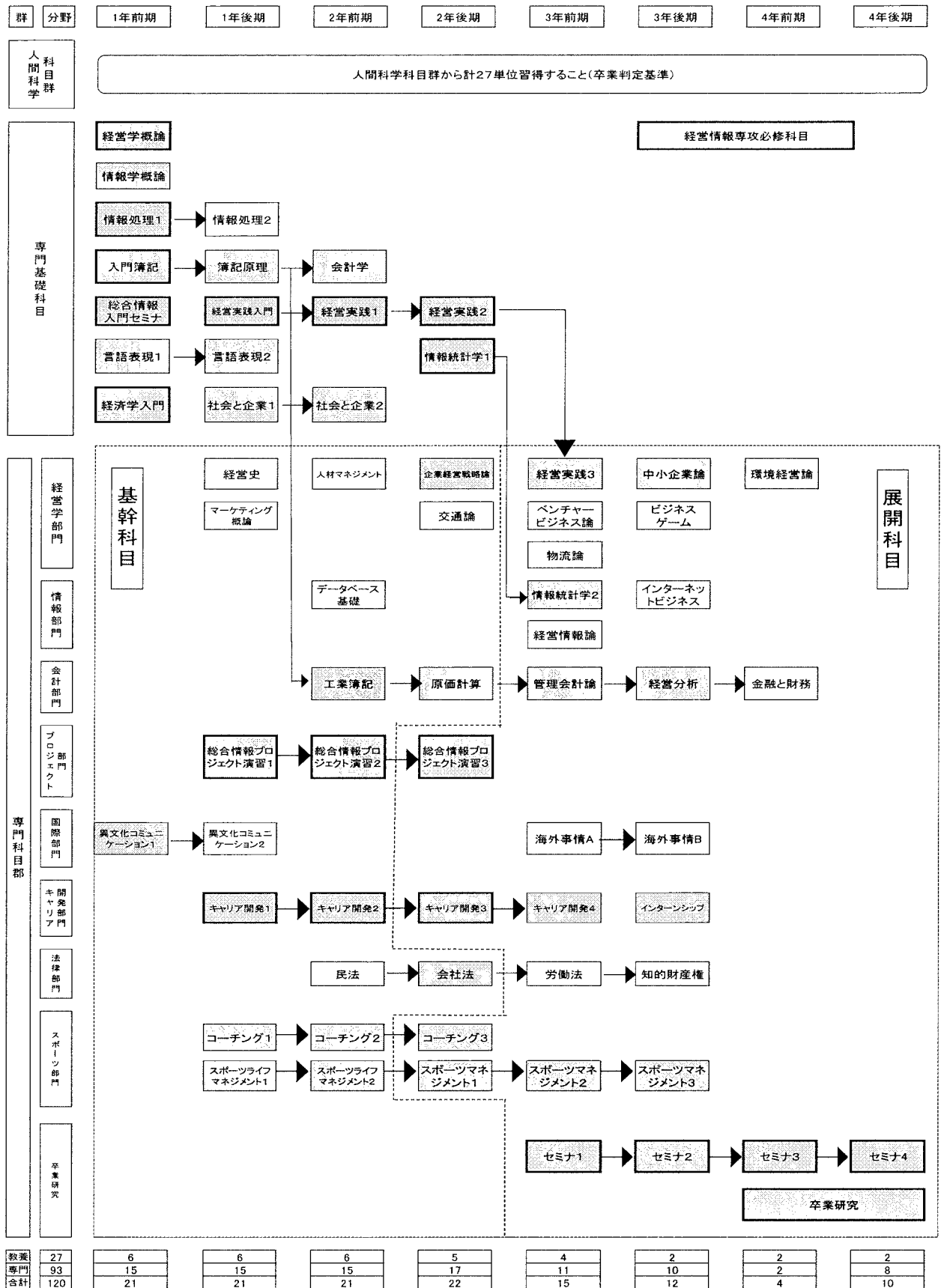
このモデルでは、スポーツを通して組織のマネジメントを行える人材を育成するための科目が配置されています。経営学の知識とスポーツ関連の理論と実践の科目を中心に学ぶことで、スポーツ実践とスポーツ指導に活用できる知識と実践スキルのノウハウを習得します。さらに、スポーツビジネス関連科目を受講することで、地域のスポーツ団体やクラブで、スポーツ指導者やコーチ、組織経営を理解したマネジメントスタッフを養成します。本モデルは、スポーツに精通し、かつ地域社会で活躍できる人材の育成を目標とします。

経営情報専攻 履修モデルA（経営情報系）



☆この図は履修モデルの一例を示したものです。実際に履修するときには、自分の考えで履修科目を選んで下さい。

経営情報専攻 履修モデルB（スポーツマネジメント系）



情報学部 総合情報学科 経営情報専攻 カリキュラムマップ

大学の目的
大同大学は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

学部の教育研究上の目的
情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

学科の教育研究上の目的
情報学部総合情報学科は、教育・研究を通して、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	必修	選択	自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤーク・セミナー	1				1 [2]	スタディ・スキルズとは。ノート・テイキング。リーディングのスキルと文章要約。図書館をどう利用するか。アカデミック・ライティングのスキルとレポート作成。プレゼンテーションのスキルと実践	高校と大学の学びの違いが理解できる。 ノートの取り方が効果的にできる。 文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。 図書館の利用法がわかる。 レポートの作成の必要手順が分かる。 基本的なレポートの作成ができる。 プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。 プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。 授業科目の貢献度
		基礎英語グラマー1	1				1 [2]	この授業では、4技能（読む・聴く・書く・話す）の基礎としての文法力を固めるために体系的な文法教育をおこない、文法的な基礎力に裏打ちされたコミュニケーション能力の向上をはかることを目標とします。そのために文法法則の単なる暗記ではなく、英語による自己表現能力や運用能力の基盤としての文法力を身につけてもらうことをめざします。	品詞の性質の違いについて理解できる。 さまざまな時制を英語で適切に表現できる。 標準的な文章の主語と述語動詞を正しく指摘することができる。 5つの文型について正しく判別することができる。 文法にしたがって、正しく和訳することができる。 授業科目の貢献度
		基礎英語グラマー2	1				2 [3]	この授業では、前期に開講されている基礎英語グラマー1の内容を継続・発展させるかたちで、4技能（読む・聴く・書く・話す）の基礎としての文法力を固めるために体系的な文法教育をおこない、文法的な基礎力に裏打ちされたコミュニケーション能力の向上をはかることを目標とします。そのために文法法則の単なる暗記ではなく、英語による自己表現能力や運用能力の基盤としての文法力を確実に身につけてもらうことをめざします。	受動態をつかって英文を書くことができる。 不定詞の3つの用法について正しく判別することができる。 関係代名詞の用法ならびに種類について正しく理解することができる。 that節や関係詞節など、節を含む構造の文章を正しく和訳することができる。 これまで学習した文法項目を用いて、自分の考えを表現することができる。 授業科目の貢献度
		基礎英語リーディング1	1				1 [2]	この授業では、リーディング手法を体得してもらうとともに、語彙力の向上をはかるようにしていきます。リーディングという英語から日本語に訳すことと思うかもしれませんが、特に英語の語順のまま英文の内容を把握する能力の基礎を養成します。	英文の構造を把握しながら基礎的な英文を読み進めることができる。 英語の論理展開を理解しながら、基礎的な英文を読み、その内容を理解することができる。 基礎的な英文の意味を理解しながら、音読することができる。 基礎的な語彙（英単語および英熟語）の意味を理解できる。 英文の題材を通じて、自然環境、社会問題、異文化についての理解を深めることができる。 授業科目の貢献度

学位授与の方針	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。	I. 企業経営活動において、指導力・統率力を発揮し、ビジネス・リーダーになれる。
	B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応できる素養を身につけることができる。	J. 専門知識と社会経験を活かし、全社的な観点から優れたマネジメントを行う経営者となりえる。
	C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。	K. 専門知識と独創性をもって起業し、社会に貢献できる。
	D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。	L. 専門知識やマネジメント能力を、地域活性化などあらゆる社会活動の面で役立てられる。
	E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。	
	F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。	
	G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。	
	H. 幅広い教養と専門知識を実践に活かし、企業社会の中で自ら主体的に問題解を行い経営の現場で活躍できる。	

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
		10										10
		10										10
		10										10
		10										10
		10										10
		10				10						20
		10										10
		10				10						20
0	0	80	0	0	0	20	0	0	0	0	0	100
12	8											20
12	8											20
12	8											20
12	8											20
12	8											20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8											20
12	8											20
12	8											20
12	8											20
10	8					2						20
58	40	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	100
12	8											20
12	8											20
12	8											20
10	8					2						20
10	6		2			2						20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修	選択	区分自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	基礎英語リーディング2	1			2 [3]	この授業では、前期に開講されている基礎英語リーディング1の内容を継続・発展させるかたちで、リーディング手法を体得してもらうとともに、語彙力の向上をいっそうはかるようにしていきます。リーディングというと英語から日本語に訳すことと思うかもしれませんが、特に、英語の正しい発音で音読ができるようにしつつ、英語の語順のまま内容を把握する能力の基礎を養成します。	英文の構造を把握しながら、より正確に英文を読み進めることができる。 英語の論理展開を理解しながら、英文を読み、その内容をより深く理解することができる。 英文の意味を理解しながら、より流暢に音読することができる。 基礎的な語彙（英単語および英熟語）の意味を瞬時に理解できる。 英文の題材を通じて、自然環境、社会問題、異文化についての理解をより深めることができる。
							授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語1 〈英語会話コース〉	1			3 [4]	この授業では、ますますグローバル化する21世紀の中でコミュニケーションのツールとして重要な英語力の向上を図ることを狙いとしています。特に、英語のリスニング力を高めることに主眼を置き、その基礎ともなる語彙力も増強してもらうことにします。	日常に使われる基礎的な英語の語彙を理解できる。 ビジネスで使われる基礎的な英語の語彙を理解できる。 提示された状況を説明する英語を聞き取り、大まかに理解することができる。 基礎的な英語の質問を聞き取り、大まかに理解することができる。 状況を大まかに推測しながら、英語を聞き取ることができる。
							授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語1 〈総合英語コース〉	1			3 [4]	この授業では、1年次の基礎英語文法・基礎英語リーディングを基盤として「読む・聴く・書く・話す」など、英語の総合的運用能力の養成をはかります。また、ビジネスや日常に関する語彙力の強化をはかることにより英語によるコミュニケーション能力を高め、TOEIC等の資格試験に対しても全般的な対応ができる能力を養成します。	英語を通して得た一般常識や時事的な知識を使って、問題を解くことができる。 問題解決に必要な重要単語や重要表現の意味を理解し、身につけることができる。 まとまりのある英文を聴き、重要語句や重要表現を聴き取ることができる。 まとまりのある英文を読み、文型や語順、品詞に注意しながら、要点を把握することができる。 習得した重要単語や重要表現を使って、口頭や文書で短い質問をしたり、答えたりすることができる。
							授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語1 〈キャリアコース〉	1			3 [4]	この授業では、品詞、代名詞、動詞の時制、進行形、完了などの基礎的な英文法を学習します。交通やインターネットなど身の回りの事柄に関する英語の語彙力の強化も図ります。	主語・動詞や代名詞や助動詞に注意して、英文を正しく解釈することができる。 語の形や文中での位置から品詞を見分けることができる。 動詞の時制や進行形の意味と用法を理解することができる。 完了表現の形・意味と用法を理解することができる。 交通、インターネットなど特定の場面でよく使われる単語の意味を理解することができる。
							授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語2 〈英語会話コース〉	1			4 [5]	この授業では、前期のコミュニケーション英語1〈英語会話コース〉の内容を継続・発展させながら、英語のリスニング力を高めることに主眼を置き、その基礎ともなる語彙力も増強してもらうことにします。	日常に使われる英語の語彙を理解できる。 ビジネスで使われる英語の語彙を理解できる。 基礎的な英語の対話を聞き取り、大まかに理解できる。 基礎的な英語の説明文を聞き取り、大まかに理解できる。 状況を推測しながら、英語を聞き取ることができる。
							授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語2 〈総合英語コース〉	1			4 [5]	この授業では、前期のコミュニケーション英語1〈総合英語コース〉の内容を継続・発展させながら、「読む・聴く・書く・話す」の4技能に裏打ちされた実社会で要求される実用的な英語力の向上をめざします。また、ビジネスや日常に関する語彙力の強化を引き続きはかることにより、英語によるコミュニケーション能力をいっそう高めます。	一般常識や時事的な知識を、英語を通して自発的に学ぶことができる。 問題解決に必要な重要単語や重要表現を身につけ、それらが使われている表現の中で、ふさわしい意味を理解することができる。 まとまりのある英文を聴き、その状況を理解しながら、要点を把握することができる。 まとまりのある英文を読み、時制や代名詞、接続詞に注意しながら、話の展開を理解することができる。 習得した重要単語や重要表現を使って、口頭や文書で、ある程度まとまった情報を伝えたり、相手からの情報を理解することができる。
							授業科目の貢献度	
		コミュニケーション英語2 〈キャリアコース〉	1			4 [5]	この授業では、前期のコミュニケーション英語1〈キャリアコース〉の内容を継続・発展させながら、不定詞や動名詞、関係代名詞などの基礎的な英文法を学びます。ビジネスにおける人事や顧客サービスなど身の回りの事柄に関する英語の語彙力も強化します。	受動態や使役表現の意味と用法を理解することができる。 動名詞の意味と用法を理解することができる。 不定詞の意味と用法を理解することができる。 who, which, whatなど基本的な関係代名詞の意味と用法を理解することができる。 会議や接客など特定の場面でよく使われる単語の意味を理解することができる。
							授業科目の貢献度	

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
12	8											20
12	8											20
12	8											20
10	8					2						20
10	6		2			2						20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	100
14	6											20
12	5					3						20
12	5					3						20
12	5					3						20
12	5					3						20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	100
10	7		2	1								20
12	8											20
12	8											20
12	8											20
12	2					6						20
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	100
12	8											20
12	8											20
12	8											20
12	8											20
9	8					3						20
57	40	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	100
14	6											20
12	5					3						20
12	5					3						20
12	5					3						20
12	5					3						20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	100
10	6		2	2								20
12	8											20
12	8											20
12	8											20
12	2					6						20
58	32	0	2	2	0	6	0	0	0	0	0	100
12	8											20
12	8											20
12	8											20
12	8											20
9	8					3						20
57	40	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修 必修	区分 選択	単位 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	A グループ	コミュニケーション英語3 〈検定コース〉	1			5	この授業では、基礎英語リーディング1・2、基礎英語グラマー1・2、コミュニケーション英語1・2の学習内容を基に、TOEIC等の英語の資格試験に対処できる基礎力を身につけることを目的としています。	動詞の時制や進行形について理解することができる。 名詞や冠詞などについて理解することができる。 疑問詞、形容詞、副詞などについて理解することができる。 語形や文中での位置を参考にして語の品詞を見分けることができる。 200語程度の英文を読んで、キーワードを見つけ、概要を理解することができる。 繰り返し出てくる基本語彙の意味を理解し、文中で正しく解釈することができる。 英語の強弱のリズムやイントネーション、音のつながりなどの音変化について理解し、それらに注意して英文を聴くことができる。 英語の短い説明文や会話を聴いて、概要を理解することができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語3 〈キャリア支援コース〉	1			5	この授業では、基礎英語リーディング1・2、基礎英語グラマー1・2、コミュニケーション英語1・2を踏まえて、卒業後のビジネスに関わる英語によるコミュニケーション能力の養成を図ります。	100語程度の基礎的な英文を聞き手に、内容を大まかに、伝達することができるように音読することができる。 身の回りの状況を簡易な英語を用いて、口頭で説明することができる。 英語で基礎的な質問を受け、その質問に英語で答えることができる。 提示された情報を理解し、基礎的な英語を用いて口頭で対処することができる。 与えられたテーマについて、自身の意見を100語程度の英文で書き表すことができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語4 〈検定コース〉	1			6	この授業では、コミュニケーション英語3〈検定コース〉の内容を継続・発展させながら、TOEIC等の英語の資格試験に対処できる基礎力を身につけることを目的としています。	不定詞、動名詞、助動詞などについて理解することができる。 関係代名詞、分詞、完了、受動態などについて理解することができる。 前置詞、接続詞、代名詞などについて理解することができる。 語形や文中での位置を参考にして語の品詞を見分けることができる。 400語程度の英文を読んで、事実関係を把握することができる。 繰り返し出てくる基本語彙の意味を理解し、文中で正しく解釈することができる。 英語の強弱のリズムやイントネーション、音のつながりなどの音変化について理解し、それらに注意して英文を聴くことができる。 英語の短い説明文や会話を聴いて、概要を理解することができる。 授業科目の貢献度
		コミュニケーション英語4 〈キャリア支援コース〉	1			6	この授業では、コミュニケーション英語3〈キャリア支援コース〉の内容を継続・発展させながら、卒業後のビジネスに関わる英語によるコミュニケーション能力の養成を図ります。	100語程度の基礎的な英文を聞き手に、内容を伝達することができるように正確に音読することができる。 身の回りの状況について英語を用いて、口頭で説明することができる。 英語で質問を受け、その質問に英語で答えることができる。 提示された情報を理解し、英語を用いて口頭で対処することができる。 与えられたテーマについて、自身の意見を150語程度の英文で論理的に書き表すことができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習A 〈卓球〉	1			1	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートのつながりができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサービスを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習A 〈バドミントン〉	1			1	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつながりが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
7	5											12
7	5											12
7	5											12
7	5											12
7	3					2						12
7	5											12
7	5											12
7	5					4						16
56	38	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	100
12	8											20
12	6					2						20
12	6					2						20
12	6					2						20
12	2					6						20
60	28	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	100
7	5											12
7	5											12
7	5											12
7	5											12
7	3					2						12
7	5											12
7	5											12
7	5					4						16
56	38	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	100
12	8											20
12	6					2						20
12	6					2						20
12	6					2						20
12	2					6						20
60	28	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	100
		20										20
		15										15
		10										10
		10										10
		10										10
		15										15
					20							20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100
		20										20
		15										15
		10										10
		10										10
		10										10
		15										15
					20							20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Aグループ	健康科学演習A (硬式テニス)	1		1	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる 授業科目の貢献度
		健康科学演習A (フットニス)	1		1	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。 自分の体と向きあうことができた。 積極的に仲間づくりができた。 動作を3つ以上考え、発表できた。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (卓球)	1		2	レクリエーションスポーツとして卓球の楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 対人ラリーが20球続けられる。 フォアハンドロングによるラリーができる。 バックハンドによるショートをつなぎができる。 相手からのボールに対してコースを決めて返球できる。 目的の位置にサーブを打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (バドミントン)	1		2	レクリエーションスポーツとしてバドミントンの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることが出来る オーバーヘッドストロークによるラリーが出来る アンダーハンドストロークが出来る ネットプレーによるつなぎが出来る スマッシュを打つ事が出来る 目的の位置にサーブを打つ事が出来る 得点の数え方および審判が出来る 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (硬式テニス)	1		2	レクリエーションスポーツとしてテニスの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	正確なグリップでラケットを握ることができる。 フォアハンドストロークによるラリーができる。 フォアハンドストロークを打つことができる。 フォアハンドボレーのつなぎ合いができる。 バックハンドボレーを打つことができる。 アンダーサーブを目的の位置に打つことができる。 得点の数え方および審判ができる。 授業科目の貢献度
		健康科学演習B (フットニス)	1		2	レクリエーションスポーツの楽しさを体験しながら、健康づくりと共に競技スポーツとしての技術の深さを知り、生涯スポーツへつながるものとなるよう指導したい。	積極的に運動ができた。 自分の体と向きあうことができた。 積極的に仲間づくりができた。 動作を3つ以上考え、発表できた。 授業科目の貢献度
	Bグループ	日本文学A	2		3・5	文学作品の読解を通じて、言葉と感性に磨きをかけ、人間と社会について多面的に考察する。	文学作品をはじめとする各種文章の内容を客観的に読み取ることができる。 講義内容について理解、考察したことを論理的に文章で表現できる。 文学的文章を通じて、言葉に対する感受性を磨き、自己認識を広げる。 文学作品と周囲の文化遺産（行事や風習、文化財）とを関連付けて理解できる。 講義内容を通じて、文学の中における人間社会の普遍的テーマについて考察できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
		20										20
		15										15
		10										10
		10										10
		10										10
		15										15
					20							20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100
		30										30
		30										30
					20							20
					20							20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	100
		20										20
		15										15
		10										10
		10										10
		10										10
		15										15
					20							20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100
		20										20
		15										15
		10										10
		10										10
		10										10
		15										15
					20							20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100
		20										20
		15										15
		10										10
		10										10
		10										10
		15										15
					20							20
0	0	80	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100
		30										30
		30										30
					20							20
					20							20
0	0	60	0	0	40	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	日本文学B	2	4・6	文学作品の読解を通じて、自ら課題を発見し、それに論理的でかつわかりやすい表現を与える。	文章の構成を正しく捉え、要旨を的確に把握することができる。 講義内容について理解、考察したことを論理的でわかりやすい文章で表現できる。 文学作品の中から、自分の力で課題を発見、追究することができる。 文学作品と周囲の文化遺産（行事や風習、文化財）とを関連付けて理解できる。 講義内容を通じて、文学の中における人間社会の普遍的テーマについて考察できる。 授業科目の貢献度
		外国文学A	2	1・3・5	外国文学の読解を通じて、作家の思考や言語感覚にふれ、自分が生きる現在とは異なる世界を経験する。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品の内容を理解することができる。 文学作品を生み出した作家について、理解を深めることができる。 文学作品が書かれた文化的な背景について、理解を深めることができる。 自分の考え方との共通点や相違点を意識しながら文学作品を読解できる。 文学作品について、自分の見解などを適切な言葉で書くことができる。 授業科目の貢献度
		外国文学B	2	2・4・6	外国文学の精読を通じて、異なる時代・文化の深層を理解し、自分自身の考え方を相対化する視点をもつ。また、それを言語化する。	活字や映像を通して文学作品のテーマを理解することができる。 文学作品を生み出した作家の思想や伝記について、理解を深めることができる。 文学作品が書かれた文化的な背景について、現代の文化との共通点や相違点を理解することができる。 文学作品の読解を通して自分の考え方を客観的に見直すことができる。 文学作品について、自分の見解などを論理的に書くことができる。 授業科目の貢献度
		哲学A	2	1・3・5	西洋哲学史の概論を通じて、その世界観に触れるとともに、自分を知る。	プラトン哲学におけるイデア論について説明できる。 デカルト哲学におけるコギトの意義について説明できる。 啓蒙思想の諸相とその功罪について説明できる。 西欧近代の日本における受容の特質について説明できる。 知的リフレッシュメントを味わうことができる。 授業科目の貢献度
		哲学B	2	2・4・6	モラル、道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学という学問そのものの意義について理解できる。 哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。 「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。 おおまかな倫理思想の流れについて理解することができる。 自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。 授業科目の貢献度
		文化人類学A	2	3・5	さまざまな文化へのアプローチを学ぶとともに、現代社会の課題について考察する。	現代における人間像について様々な角度から考えることができる。 様々な文化を比較することができる。 習慣の意味が理解できる。 形のないものの価値について考えることができる。 現代社会がかかえる問題点について考えることができる。 授業科目の貢献度
		文化人類学B	2	4・6	文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	アイデンティティとは何かについて理解できる。 文化について様々な考え方が理解できる。 現代社会における通過儀礼の意味が理解できる。 「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考えることができる。 コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修(単位)必修選択自由	区分(単位)自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	歴史学 A		2	1・3・5	日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	日本の近代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。 国際環境と関連づけて日本の近代史を理解できる。 西洋的価値観の導入により生じた明治時代の社会の変化を理解できる。 歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。 過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。 授業科目の貢献度
		歴史学 B		2	2・4・6	近代日本が主体的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	日本の近現代史について基本的な事柄を理解し、知識を身につけることができる。 東アジアのなかでの近現代日本の位置づけが理解できる。 日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。 歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。 過去の様々な事例から教訓をみつけ、現代社会にいかそうとすることができる。 授業科目の貢献度
		心理学 A		2	1・3・5	人間の心の働きと変化の様相を多角的に捉え、あらためて自分を知る。	感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について、理解することができる。 学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができる。 欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができる。 発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができる。 パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができる。 授業科目の貢献度
		心理学 B		2	2・4・6	他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	自己概念および自己表出（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができる。 人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができる。 対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができる。 集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができる。 集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができる。 授業科目の貢献度
		教育原理		2	1	西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。 近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。 教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。 近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。 授業科目の貢献度
		教育心理学		2	3	「教育」という営みをとおしてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのあり様を捉えると同時に、それらから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことかを理解し、認知・感情・社会性（愛着など）の発達の様相を把握することができる。 発達上の「青年期」の特徴を理解し、青年にまつわる現代的問題について心理学的な観点から考察することができる。 条件づけや観察学習、記憶の基本的なメカニズムを理解することができる。 欲求と適応（／不適応）との関係、およびフラストレーション・コンフリクトの発生メカニズムを理解することができる。 動機と動機づけの違い、および達成動機と親和動機の関連について理解することができる。 「リーダーシップ」や「ソシオメトリー」などの観点から、学級集団の特徴・構造を把握することができる。 生徒の「問題行動」の内容・実態を把握し、それらへの対応策について心理学的な観点から考察することができる。 「パーソナリティ」概念、およびそのとらえ方を理解することができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20									20
			20									20
			20									20
			20									20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30								30
				30								30
				20								20
				20								20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
			10									10
			10	10								20
			10									10
			10									10
			10									10
			10									10
			10	10								20
			10									10
0	0	0	80	20	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区 (単位) 必修 選択 自由	区分 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	政治学A	2		1・3・5	政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。
							自由民主主義の理論と政治制度について理解する。
							議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。
							政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。
							自分と政治との関わりについて考えることができる。
							授業科目の貢献度
		政治学B	2		2・4・6	現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。
							現代民主主義の理論的特徴について理解する。
							現代民主主義の制度的特徴について理解する。
							現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。
							授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。
							授業科目の貢献度
		経済学A	2		1・3・5	経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的思想法を身に着ける。	経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。
							資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。
							経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。
							経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。
							講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		経済学B	2		2・4・6	現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。
							日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。
							歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。
							日本の企業の特徴・構造について説明できる。
							講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。
							授業科目の貢献度
		法学A	2		3・5	法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	法の発生過程を説明できる。
							第一次的社会規範と法の違いを説明できる。
							法を解釈することの必要性を説明できる。
							解釈方法の分類ができる。
							社会現象に目を向け、その事に関し意見を持つことができる。
							日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。
							授業科目の貢献度
		法学B	2		4・6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。
							日本国憲法の基本原則が説明できる。
							日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。
							基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。
							表現の自由とその制約原理を説明できる。
							違憲立法審査権の具体的事件を説明できる。
							授業科目の貢献度
		社会学A	2		1・3・5	社会科学および社会学の方法を学び、身近な社会現象への関心を培う。また、学んだ理論を人間関係や組織の分析に生かすことを目指す。	社会学のイメージをつかむ
							方法論的个人主義（ヴェーバー）と方法論的集団主義（デュルケム）の違いを理解する
							社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる
							「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する
							東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること
							授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				30								30
				10								10
				20								20
				10								10
				30								30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				30								30
				20								20
				10								10
				10								10
				30								30
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				10								10
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
				10								10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				10								10
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
				10								10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				30								30
				20								20
				20								20
				20								20
				10								10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	社会学B	2	2・4・6	社会学が持つ量的・質的な分析方法を学ぶ。また個人と集団の間、時代間、地域間などの異なった論理を持つ主体や社会の間に存在する連続性や変動要因に着目し、理解することを目指す。	社会学が持つ分析手法（量的・質的）や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。 個人化という概念について説明できるようになること。 ネオリベラリズム（新自由主義）という概念について説明できるようになること。 非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。 グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。 授業科目の貢献度
		社会調査の方法A	2	3・5	質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。 母集団及び標本抽出について理解する。 量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイ二乗検定）について理解する。 統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。 質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。 授業科目の貢献度
		社会調査の方法B	2	4・6	社会調査の意義を理解するとともに、社会調査の実施（調査設計、データ収集、データ分析）に必要な知識を学び、それを活用してみる。	社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。 統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。 疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。 調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。 質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。 授業科目の貢献度
		地域研究A	2	3・5	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。 地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる。 授業科目の貢献度
		地域研究B	2	4・6	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、社会的・思想的・文化的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などのついで基本的な情報を理解する 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる 地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い直すことができる 授業科目の貢献度
		教育社会学	2	2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。 学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。 教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。 学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。 授業科目の貢献度
		健康科学A	2	1・3・5	生命・身体の仕組みについて学ぶことによって傷害や疾病などへの理解を深める。	体の仕組みについて理解できる。 発育の仕組みについて理解できる。 年齢とからだの関係について理解できる。 健康について理解できる。 健康に対する取り組みについて理解できる。 授業科目の貢献度
		健康科学B	2	2・4・6	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。	身体の動く仕組みについて理解できる。 人体の構造について理解できる。 障害について理解できる。 傷害について理解できる。 体力について理解できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
				20								20
				20								20
				20								20
				30								30
				10								10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
				20								20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				25								25
				25								25
				25								25
				25								25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				25								25
				25								25
				25								25
				25								25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				25								25
				25								25
				25								25
				25								25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
				10								10
			10	10								20
				10								10
		10	10	10								30
		10	10	10								30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	100
		10		10								20
		10		10								20
			10	10								20
			10	10								20
			10	10								20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	認知科学 A	2	3・5	認知科学の基本、とくに知覚や記憶のメカニズムについて習得する。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。 知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。 認知機能の神経機構について説明することができる。 ヒューマンエラーの原因について説明することができる。 認知科学の哲学的な問題を説明することができる。 授業科目の貢献度
		認知科学 B	2	4・6	認知機能と人間の行動との関係について考察する。	認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。 我々が当たり前のように行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。 記憶のメカニズムや分類について説明することができる。 自覚できない心の働きがどのようなプロセスを経て、人間の行動に影響しているかを説明することができる。 ヒューマンエラーが生じる理由と、それを未然に防ぐ方法について論じることができる。 ヒトとヒト以外（ロボット、昆虫、ネアンデルタール人等）の共通点と相違点を説明することができる 授業科目の貢献度
		環境科学 A	2	3・5	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。	地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。 地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。 地球環境問題対策を理解する。 地球の進化と環境変化を結びつけて理解する。 授業科目の貢献度
		環境科学 B	2	4・6	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。	海洋と大気を総論的に理解する。 太陽系の惑星と地球環境の違いを理解する。 生態資源とエネルギー資源枯渇問題を理解する。 生命の生存条件を理解する。 授業科目の貢献度
		地球科学 A	2	3・5	地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。	与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。 最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。 鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。 水の特性から生物に与える影響が理解できる。 古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。 地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。 授業科目の貢献度
		地球科学 B	2	4・6	地球科学の基本を学ぶことから、将来の地球と人間社会のあり方を考察する。	天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。 様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。 地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。 日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。 太陽系の進化から地球の未来像を把握する。 授業科目の貢献度
		行動生物学 A	2	3・5	行動生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。	行動生物学の一分野である行動生態学がどういった学問であるか説明をすることができる。 現代生物学での細胞や遺伝に関する基本的な用語考え方を説明することができる。 自然選択における代謝と自己増殖について説明することができる。 性選択と自然選択の違いについて説明することができる。 進化に関する基本的な用語を説明できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					10							10
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					10							10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					40							40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					40							40
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					10							10
					20							20
					20							20
					10							10
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Bグループ	行動生物学B	2	4・6	動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的な視点から考察する。	生物の示す行動の多様性を理解することができる。
						Tinbergenの4つの「なぜ」を用いて生物の行動を考えることができる。
						生物が進化するメカニズムを理解することができる。
						ヒトの進化史を大まかに説明することができる。
						他の動物との比較でヒトの行動の進化を説明することができる。
						授業科目の貢献度
		自然科学概論A	2	1・3・5	物理学はすべての自然科学の土台にあたる学問である。身近な電気や熱をはじめ、現代物理学の基本を学びながら、科学技術と生活・社会との関係についても考える。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。
						科学リテラシーの必要性を理解できる。
						近代科学の特徴を説明できる。
						20世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。
						科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。
						授業科目の貢献度
		自然科学概論B	2	2・4・6	化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。
						物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。
						現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。
						現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考えることができる。
						未来に向かって、物質科学・技術と人間社会のかかわり合いを展望できる。
						授業科目の貢献度
		リベラルアーツ実践演習A	2	3・5	少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
						諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
						課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
						自らの課題に対して解決まで導くことができる。
						コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
						授業科目の貢献度
		リベラルアーツ実践演習B	2	4・6	少人数のセミナー形式での演習を通じて、自然科学・社会科学・人文科学分野における専門的な思考法・研究法・表現法を学ぶ。	学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。
						諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。
						課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。
						自らの課題に対して解決まで導くことができる。
						コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。
						授業科目の貢献度
		教養総合講座A	2	3・5	社会の第一線で活躍中の実務経験豊富な講師を迎え、これからの企業人に必要不可欠なCSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）を共に考える。	現代の問題群を整理することができる。
						ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
						課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
						これまでの問題解決アプローチをまとめることができる。
						授業科目の貢献度
		教養総合講座B	2	4・6	企業体の危機管理の諸局面について具体的な事例を通じて学び、その上でさまざまな制約下でのビジネスモデルの創出について議論し考える。	現代の問題群を整理することができる。
						ひとつの課題を複数の視点から観察し全体像をつかむことができる。
						課題に関わる人間の権利と義務をおさえることができる。
						問題解決に向けての新たな提案や構想をもつことができる。
						授業科目の貢献度
		国際事情	2	集中講義9月	現代アジアの国際関係の基本を押さえ、今後の日本の進路選択とその羅針盤を検討する。	理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。
						問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。
						国際事情を理解し、人間学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
					20							20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					40							40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
					20							20
					20							20
					20							20
					40							40
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
				40								40
				20								20
					40							40
0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修 必修	区分 選択	開講 自由	期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	Cグループ	社会実践1	1			2	「社会実践1」と「社会実践2」では、産業と社会の要請に応える人材になるために重要な「社会人基礎力」を育成することを目的としています。アクティブラーニングという学びの手法を用い、チーム作業を通して課題の解決に取り組みます。「社会実践1」では、チーム作業を通して、「課題発見」「課題解決」「発表」という一連の課題解決の手順を確認し、「社会実践2」で取り組む実践的な課題解決をスムーズに行う力を身につけます。	物事に進んで取り組むことができる。 他人に働きかけ巻き込むことができる。 目的を設定し確実に行動することができる。 現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。 自分の意見を分かりやすく伝えることができる。 相手の意見を丁寧に聴くことができる。 基本的な生活習慣に基づき、規律性を持って行動することができる。 授業科目の貢献度
		社会実践2	1			3	「社会実践1」と「社会実践2」では、産業と社会の要請に応える人材になるために重要な「社会人基礎力」を育成することを目的としています。アクティブラーニングという学びの手法を用い、チーム作業を通して課題の解決に取り組みます。「社会実践2」では、本格的なPBL(Project-Based Learning)という学びの方法を用いて、「社会実践1」で身につけた課題解決の手順を実践し、企業からの課題提示に対し、チームで課題解決に取り組み、プレゼンテーションを行い、企業の評価を受けます。	物事に進んで取り組むことができる。 他人に働きかけ巻き込むことができる。 目的を設定し確実に行動することができる。 現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。 自分の意見を分かりやすく伝えることができる。 相手の意見を丁寧に聴くことができる。 基本的な生活習慣に基づき、規律性を持って行動することができる。 授業科目の貢献度
		総合情報入門セミナー	1			1	本セミナーは、専門課程への関心や興味を喚起する導入科目であり、学生と教員および学生間の良好なコミュニケーション形成の場でもある。授業では、学外見学会、講演会、スポーツを通じた交流などを行うとともに、総合情報学科経営情報専攻で学んだ知識を社会で活用するための将来像が早い段階から描けるようキャリアガイダンスを行う。	総合情報学科で学ぶ内容について、自身が感じる興味を説明できる。 総合情報学科で学ぶ内容が社会でどのように活かすのかを説明できる。 おおまかに自身の将来像を説明できる。 授業科目の貢献度
		言語表現1		2		1	「話す」「書く」両方の面から、他人とのコミュニケーションを円滑にしたり、自分の考えを主張するための方法を学ぶ。	価値観や考え方の違う人とも対話ができる。 コミュニケーションの双方向性が理解できる。 人前で自分の考えを表現することができる。 TPOにあわせた表現ができる。 論理的な説明の仕方が理解できる。 授業科目の貢献度
専門基礎科目群		言語表現2		2		2	リポートや小論文など、人の目に触れる文章を書くための文章力を高めるスキルを学ぶ。また、書くことで考えを深めて表現することなどを目的として、具体的に実践を行いながら書くスキルを高める。	書き言葉と話し言葉の違いが理解できる。 適切な言葉や話題を選ぶことができる。 論理的な表現ができる。 取材したり文献を引用したりして考察することができる。 簡潔かつ的確に要旨をまとめることができる。 授業科目の貢献度
		情報学概論		2		1	情報学は、情報のあらゆる学問領域をカバーする学問で、「情報の獲得、表現、蓄積、流通、検索など、情報が発生し、収集・処理され、活用される全ての過程における学問」である。この講義では、経営情報専攻において必要なビジネス情報の内容に限定し、経営戦略とIT戦略を融合させた新しい経営組織・管理・活用の概要を学ぶ。	ビジネス情報学の役割が理解できる。 データウェアハウスと業務系データベースとの違いが理解できる。 Webサービスの基礎が理解できる。 電子商取引の基礎が理解できる。 情報セキュリティの基礎が理解できる。 授業科目の貢献度
		情報処理1	2			1	Windows PCの基礎知識を身につけることを目的として、PCのハードウェア構成から大学内のPC・ネットワークを活用する方法および電子メールやレポート作成、卒業研究などで活用するソフトウェア（Microsoft Office）を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションを学ぶ。	コンピューターのハードウェアの基礎を説明できる。 電子メールの作成、送信、受信ができる。 Wordを用いて文章の作成ができる。 Excelを用いてグラフの作成や計算ができる。 PowerPointを用いてプレゼンテーションができる。 授業科目の貢献度
		情報処理2		2		2	調査から得られたデータを情報をExcelで整理・分析し、その結果をWordで要約すると共に、PowerPointで分かりやすく相手に伝えるためのより高度な技術を学ぶ。また、調査の目的設定と方法についても学ぶ。	統計処理の基礎が理解できる。 Excelを用いてデータ処理ができる。 ExcelおよびWordを用いてデータ処理の結果を文章に作成できる。 データ処理の結果について、PowerPointを用いてプレゼンテーションができる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
						20						20
						20						20
						20						20
						10						10
						10						10
						10						10
		10										10
0	0	10	0	0	0	90	0	0	0	0	0	100
						10						10
						10						10
						10						10
						20						20
						20						20
						20						20
		10										10
0	0	10	0	0	0	90	0	0	0	0	0	100
							10				10	20
							10			10	20	40
							10			10	20	40
0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	20	50	100
										10		10
										10		10
										20		20
										20		20
										20	20	40
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	20	100
										20		20
										10		10
										10	20	30
										20		20
										10	10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	30	100
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	50	100
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10	10		10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	40	10	0	10	40	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群		情報統計学Ⅰ	2	4	ビジネスで用いる基礎的統計について学習する。まず、データの単位、有効数字、作表、作図（グラフ）について学ぶ。つぎに、平均、分散、標準偏差によるデータの要約化を学ぶ。第3に、母集団から適切なサンプルを取り出す方法を学ぶ。最後に、顧客の満足度を把握する調査法を学ぶ。	データの要約と視覚化ができる。
						データの平均、分散が解析できる。
						母集団とサンプルの関連を説明できる。
						基礎的な相関分析と回帰分析が理解できる。
						授業科目の貢献度
		経営学概論	2	1	「企業とは何か」、「企業の存在意義は何か」、「企業はどのような仕組みで動いているのか」といった経営に関する基礎を学習すると共に、経営の基礎的部分である「人」、「モノ」、「金」を管理するための制度やそれに関する法規を学ぶ。その上で、企業が組織や戦略の決定を行うプロセスを解説する。また、現代の企業が抱える問題に触れ、社会や経済の変化を踏まえつつ、今後の企業経営のあり方を考える。なお、本講義においては、企業経営の理解を深めるため、多くの事例を用いる。	企業の意味や企業の存在意義を理解できる。
						企業を構成している要素とこれらの動きを理解できる。
						企業における人、モノ、金を管理する制度を理解できる。
						企業における組織と戦略の関係を理解できる。
						企業を取り巻く環境変化を把握し、今後の企業経営のあり方について説明できる。
		経済学入門	2	1	経済学の分析対象が人や人の集合であることを認識し、家計、企業、政府の約割や関係を理解した上で、様々な経済活動を市場メカニズムや政府の役割の視点から学ぶ。	授業科目の貢献度
						経済における家計と消費について理解できる。
						経済における企業と生産について理解できる。
						経済における市場メカニズムについて理解できる。
						経済における政府の役割について理解できる。
		入門簿記	2	1	複式簿記の基本的な考え方や用語等、簿記に関する基礎知識を身につけると共に、簿記の基本的な技法、商品売買取引などの基本的な会計処理方法を学ぶ。また、講義の最終段階には単純な帳簿や仕訳帳の作成ができるようになることを目標とする。	経済における新しい視点について理解できる。
						授業科目の貢献度
						複式簿記の意義・目的について概説できる。
						複式簿記の原理を利用した仕訳ができる。
						手形や有価証券の内容を理解し、これらの処理ができる。
		会計学	2	3	企業会計の基本となる考え方と、それがどのようにして実際の企業活動の記録に適用されているのかを理解してもらうことを目標とする。さらには記録された情報から、企業活動を読み取る知識も習得する。	債権・債務の内容を理解し、これらの処理ができる。
						決算における仕訳や帳簿システムについて、その基本を理解できる。
						授業科目の貢献度
						会計の意義・目的について説明できる。
						会計的なものの見方を身につけ、これを説明できる。
		簿記原理	2	2	「簿記入門」で学んだ内容を踏まえ、複式簿記の一連の手続きや商品売買取引の処理を習得する。その上で、各種取引の記帳と帳簿組織の理解に重点をおいて講義する。最終的には、各種の取引の記帳処理、決算整理の記帳処理、特殊仕訳帳制の記帳処理ができることを目標とする。	損益計算書、貸借対照表について理解できる。
						財務諸表の見方について理解ができる。
						授業科目の貢献度
						複式簿記の手続きを理解できる。
						商品売買取引の処理ができる。
		社会と企業Ⅰ	2	2	資本主義社会の仕組み、企業内の諸問題、企業が地域を変容させた事例などを学び、最終的に、学生が「企業で働くこと」について自分の答えを導き出すことを目的とする。また、企業に就職した後で発生するであろう問題を大学在学中に前もって考察しておくことで、問題発生時に自分で建設的な解決方法を導きだす論理力をつける。	決算整理の記帳処理ができる。
						特別仕訳帳制の記帳処理ができる。
						授業科目の貢献度
						個人としてビジネスを最後までやりとげることができる。
						ビジネスにおける「三方良し」を説明できる。
		社会と企業Ⅱ	2	3	ビジネスにおける学歴の必要性の有無、新しい労働形態の出現について、余剰博士問題、就職活動で利潤を得る企業の存在など、講義内で学生に問いかけながら講義を進めていく。最終的には、自身が企業で働く場合、もしくは独立して働く場合、どのようなことが起こり得るのか、具体的なビジョンを描くことができる知識を身につける。	ビジネス実施後に試算表が作成できる。
						プレゼンテーションで自分のビジネスプランを説明できる。
						授業科目の貢献度
						組織の中でビジネスを最後までやりとげることができる。
						組織の中で規則を守ることができる。
		経営実践入門	2	2	企業を経営するという方法について経営全体のフローが理解でき、自ら経営学に対する目的意識を確立し、経営学の実践を学ぶために必要な基礎的な方法ビジネスマナーを学ぶ。	組織の中で役割を果たすことができる。
						組織の中で協調して活動することができる。
						授業科目の貢献度
						経営学について興味をもつことができる。
						経営学における基本的な理論が理解できる。

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
							10		10		10	30
							10				10	20
							10				10	20
							10		10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	0	40	100
							10	10		10		30
							10					10
							10					10
							10	10				20
							10	10			10	30
0	0	0	0	0	0	0	50	30	0	10	10	100
								10		10		20
								10		10		20
								10		10		20
										10		10
								10		10	10	30
0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	50	10	100
								10			10	20
							10		10	10		30
							10					10
							10					10
							10	10	10			30
0	0	0	0	0	0	0	40	20	20	10	10	100
								10				10
								10		20	10	40
							10				10	20
									10	10	10	30
0	0	0	0	0	0	0	10	20	10	30	30	100
							10	10	10	10	10	50
							15					15
							20					20
							15					15
0	0	0	0	0	0	0	60	10	10	10	10	100
							10		10		10	30
									10		10	20
									10		10	20
									10	10	10	30
0	0	0	0	0	0	0	10	0	40	10	40	100
							10		10		10	30
									10		10	20
									10		10	20
							10			10	10	30
0	0	0	0	0	0	0	10	0	40	10	40	100
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	50	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門基礎科目群		経営実践1	2	3	経営の実践的な活動を通じ、知識を行動に変えるための基本的な技術やマナーを学び、変化する目の前の現実と向き合い、考え、判断、行動ができる人材になることを学ぶ。	知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。
						自分が理解したことを記述して端的に表現できる。
						自らのスキルを効果的に実践できる。
						習得した知識を活かし成果を上げることができる。
		経営実践2	2	4	経営の実践的な活動を通じ、グループの中で協力し、知識を行動に変えるための基本的な技術やマナーを学び、変化する目の前の現実と向き合い、考え、判断、行動ができる人材になることを学ぶ。	授業科目の貢献度
						グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。
						グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。
						グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。
		キャリア開発1	1	2	1 年次生からの「自己発見」の取り組みが、自分のキャリア形成に極めて重要であることを実践的に学ぶ。また、自分の学生生活を自己責任において確立していく大切さを学ぶと同時に、自ら発見し、自ら語ることの重要性を学ぶ。	グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。
						授業科目の貢献度
						グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。
						グループの中で自分が理解したことを記述して端的に表現できる。
		キャリア開発2	1	3	自分の個性、生き方、将来を見つめながら、次に必要な「意識と自覚」を修得する。また、自分を活かすための「自己現状分析」を行うことにより、将来を見据えた具体的な計画を立案し、目標達成までのプロセスの重要性とその実行方法について学ぶと同時に、自己表現できる能力を身に付ける。	グループの中で自らのスキルを効果的に実践できる。
						グループの中で習得した知識を活かし成果を上げることができる。
						授業科目の貢献度
						グループの中で知ったことを他人にわかりやすく伝えることができる。
		総合情報プロジェクト演習1	2	2	この科目は、3 期に開講される総合情報プロジェクト演習2の基礎になる科目で、学生個人で成果物を作成する力を身につけるものである。この科目では、総合情報学科で学ぶ内容に関連するテーマを設定し、学生が自分自身で問題を抽出する。資料調査・問題点抽出・提案に至るプロセスを通じて各個人の成果物を作成し発表するのに加え、発表会において問題意識をもって他の学生のプレゼンテーションを聞き、適切な質問を行うことができる力を養う。	キャリアデザインを行なう上での基本的な考え方を説明できる。
						自分自身で学生生活を創ることの大切さを理解できる。
						大学で学ぶ意味を考え、目標を検討することができる。
						大学での学びが、自分の将来に繋がることを理解できる。
		総合情報プロジェクト演習2	2	3	本授業では、総合情報学科で学ぶ各分野における課題を取り上げ、それらの課題を把握する手法を学び、調査、データ整理、分析を行う。得られた結果を基にして考察した内容を発表する。	社会生活を営む上で重要となる他者と協力し、関係を構築することの大切さを理解できる。
						授業科目の貢献度
						自分を知り、自分を表現できる。
						他者とかわり、関係を構築できる。
		異文化コミュニケーション1	2	1	情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。	職業観を養い、表現できる。
						自分の将来の目標・方向性を考え、行動計画の立案ができる。
						目標に向けて能動的に行動する姿勢を持つことができる。
						授業科目の貢献度
		異文化コミュニケーション2	2	2	人は、自己と他者の違い、自文化と他文化の違いを知ることにより、自分自身と自文化を理解する。異文化接触のありようを具体的かつ理論的に整理することをおとして、「違いを楽しむ」ことは重要である。この講義では、情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。	総合情報学科に関連する研究の動向が理解できる。
						総合情報学科に関連する産業界の動きが理解できる。
						授業科目の貢献度
						総合情報学科に関連する課題の抽出方法が理解できる。
						総合情報学科に関連する課題の調査、データ整理、分析の方法を理解できる。
						得られた結果を基にして考察した内容を分かりやすく説明できる。
						授業科目の貢献度
						異文化と接することの意義を理解できる。
						非ネイティブのためのビジネス英語の基礎を理解できる。
						英語圏の文化を日本語に変換して理解できる。
						日本の文化を英語に変換して発信できる。
						授業科目の貢献度
						情報コミュニケーション技術（言語翻訳技術）を活用できる。
						英語圏の文化を日本語に変換して知ることができる。
						日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信することができる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
							10		10	10		30
								10	10	10		30
									10			10
							10		10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	20	10	40	20	10	100
							10		10	10		30
								10	10			20
									10			10
							10		10	10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	20	10	40	20	10	100
							10		10			20
							10		10			20
							10		10			20
							10		10			20
							10		10			20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	0	100
							10		10			20
							10		10			20
							10		10			20
							10		10			20
							10		10			20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	50	0	0	100
							10	10	10	10	10	50
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
							10		10		10	30
							10				10	20
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	30	10	20	10	30	100
							10		10		10	30
							10		10		10	30
							10				10	20
							10				10	20
0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	0	40	100
							10	10			10	30
							10		10	10	10	40
							10			10	10	30
0	0	0	0	0	0	0	30	10	10	20	30	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)必修 選択 自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	経営史	2	2	企業経営の歴史を振り返り、経営者の経営手法や戦略の変遷を学習する。また、経営手法や経営戦略だけでなく、企業を取り巻く環境の変遷についても触れる。本講義においては、日本の企業経営の歴史を中心に取り上げるが、欧米における企業経営の歴史についても触れ、両者の歴史比較を通じて、日本の企業経営特徴を深く理解できるよう工夫する。	企業が登場してからの大きな歴史（主に15世紀以降）の流れを理解できる。 企業が登場するようになった社会や経済の変化を説明できる。 企業を取り巻く環境は、どのように変化してきたかを歴史の視点から説明できる。 企業は時代と共に、企業の形態や戦略はどのように変化してきたのかを説明できる。 日本の企業の特徴がどのように形成されてきたのかを歴史の視点から説明できる。
						授業科目の貢献度
						マーケティングに関する基本的な用語を理解できる。
						マーケティングの必要性を説明できる。
						企業経営におけるマーケティングの位置づけや役割を説明できる。
						現実に行われているマーケティングの戦略を理解できる。
		マーケティング概論	2	2	マーケティング活動の基礎知識を学習すると共に、マーケティング活動の手法（市場調査や販売方法）を学ぶ。その上で、具体的な事例を用いて、市場調査や販売方法などが販売促進や市場シェアの拡大にどれほど影響を与えているのかを考える。また、企業のイメージなどについても触れ、日々の生活の中にマーケティング活動が浸透していることの理解を深める。	特定の企業あるいは製品について、自身が有効であると思われるマーケティング活動を考えることができる。
						授業科目の貢献度
						経営における人材の重要について説明できる。
						経営における人事制度や労務管理制度の内容について説明できる。
						日本と欧米との人材に対する考え方の違いを理解できる。
						日本企業の人事制度や労務管理制度に関する近年の変化を説明できる。
		人材マネジメント	2	3	重要な経営資源である労働力を効率的に利用するための基本理論や制度を学習すると共に、日本における具体的な人事・労務管理制度の内容を学ぶ。その上で、これまで日本の雇用形態の特徴であった終身雇用、年功序列型賃金などが変化する中、今後の経済状況および産業構造の変化を踏まえつつ、今後の労働力の効率的な利用とは何かを企業および社会の視点から考える。	今後の経済や社会の動向を踏まえた人事制度や労務管理制度について説明できる。
						授業科目の貢献度
						民法の基本原則を説明できる。
						民法の内容（概要）を説明できる。
						企業経営における民法の重要性を理解できる。
						企業経営において、民法が関係する具体的事案を説明できる。
		民法	2	3	市民と市民との間の権利と義務の関係を明確にする役割を担うと共に、財産取引と身分（夫婦・相続など）を規律する意味で、民法は重要な法律である。本講義においては、総則を中心に、民法における法律用語や基礎知識を習得すると共に、民法の意義や基本原理等を学習する。その上で、民法総則の各規定について、実例をできるだけ多く取り上げながら、日々の事象を民法の視点から考える。	授業科目の貢献度
						ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験問題のデータベースに関する分野を理解できる。
						Accessを用いてSQL言語の基本を理解できる。
						授業科目の貢献度
						指導者としての役割が理解できる
						だれとでもコミュニケーションが図れる
		データベース基礎	2	3	ITパスポート試験、基本情報処理技術者試験問題のデータベースに関する分野を学ぶ。そのうち、SQL文法に理解を深める。しかし、あくまでもSELECT文の理解のためであり、ソフトウェアとしてのAccessの実技能力を得るものではない。そのため、Accessの機能のうち、SQL言語を直接用いる機能だけを利用する。	アスリート・パスウェイを描ける
						トップアスリートの必要性が理解できる
						評価方法を構築できる
						授業科目の貢献度
						指導者としての役割が理解できる
						だれとでもコミュニケーションが図れる
		コーチング1	2	2	スポーツにおける「コーチ」「指導者」とは、アスリートを成功へ導くための重要な役割を持つものである。この授業では、組織のリーダーとしての役割、必要な素養、観察能力の必要性を学び、コーチとアスリートの関わり方、トップアスリートの発掘、成長させるための育成方法・強化方法ならびにその評価方法を学ぶ。	アスリート・パスウェイを描ける
						トップアスリートの必要性が理解できる
						評価方法を構築できる
						授業科目の貢献度
						体力について理解しトレーニングの種類を説明できる
						体力測定方法を理解しそれを活用できる
		コーチング2	2	3	我々の身体は、それぞれの年代により成長する部位や発達速度が大きく異なっている。ヒトの身体の発育・成長には、トレーニングが大きな影響を及ぼす。そのトレーニング方法や、種類について理解し、特に成長の著しいジュニア期における発育発達とそのプログラム、身体的な特徴・心理的な特徴について学ぶ。	発育発達期の身体的心理的特徴を理解することができる
						スキルの獲得過程を理解することができる
						授業科目の貢献度
						スポーツと心の関係性を理解できる
						動機づけを高める原理・方法を活用できる
						コーチングの評価方法を作成できる
		コーチング3	2	4	我々は、日常生活の様々な場面で緊張や不安、喜怒哀楽などの情緒の変化を体験する。このようなヒトの心理的な変化の部分について理解することは、日常の様々な場面での対応力を育むことになる。ここではスポーツと心について学び、動機づけの重要性やコーチとしての心理を理解するとともに、メンタルマネジメントや心理的なコンディショニングについて学ぶ。	メンタルトレーニングが活用できる
						チームのやる気を高めることができる
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	50	100
							10					20
								10	10			20
									10			10
							10					10
							10		10	10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	30	10	30	10	10	100
							10	10	10	10	10	50
												0
												0
												0
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							20				20	40
0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	50	100
							10	10	10	10	10	50
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
								10	10			20
								10	10			20
									10		10	20
								20				20
									20			20
0	0	0	0	0	0	0	0	40	50	0	10	100
										10	20	30
											20	20
										10	20	30
											20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	80	100
											20	20
							10				10	20
								10	10			20
									10		10	20
								10			10	20
0	0	0	0	0	0	0	10	20	20	0	50	100

科目群	区分	授業科目	履修 必修	区分 選択	学分 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	基幹科目	マスポーツメン ト1	2			2	我々の生活の中にはスポーツが深く根付いている。文化としてのスポーツの歴史を理解し、地域社会におけるスポーツ振興の現状を学び、地域における子供から老人までの様々な年代の対象者のスポーツライフについて学ぶ。	文化としてのスポーツが理解できる 地域におけるスポーツ振興の内容が理解できる 対象に合わせたスポーツ指導が構築できる スポーツ指導における医学的知識が理解できる スポーツに必要な栄養の基礎が理解できる 授業科目の貢献度
		マスポーツメン ト2	2			3	現代社会において我が国では様々なスポーツプロモーションが行われており、スポーツに触れ合う機会が増加している。また、健康な生活を送るうえで運動と食生活の関係は密接に関わりあっている。ここでは身体の仕組みと運動の関係、栄養摂取と食生活などについて学ぶ。	社会とスポーツの関係が理解できる。 アスリートの栄養摂取と食生活のプログラムを作成できる。 運動器の仕組みが理解できる。 呼吸循環器系の仕組みが理解できる。 スポーツバイオメカニクスの基礎知識が理解できる。 授業科目の貢献度
		スポーツマ ネジメン ト1	2			4	国民がスポーツを実践する機会は極めて多くなってきている。学校体育から生涯スポーツまで長い期間スポーツを行う人々にとって、怪我や病氣スポーツでの傷害など日常生活を行う上でも大きな問題となっている。この授業ではスポーツに関わる医学的な知識の基礎を学び、障害の発生や外傷に対応できる知識を養う。	スポーツ活動中の怪我や病氣について理解できる アスリートの健康管理について理解できる コンディショニングの方法について理解できる アンチドーピングについて理解できる 授業科目の貢献度
		交通論	2			4	人や物の動きの必要性を理解し、交通の意義や交通の果たす役割、特に企業活動に対する交通の役割や意義を学ぶ。その上で、今日の交通問題とその解決策を学ぶ。	一般の財・サービスに比較した交通サービスについて理解できる。 わが国の交通事業の現状と課題について説明できる。 経済と交通の結びつきについて説明できる。 一般道路・高速道路の整備制度について理解できる。 都市間（長距離）鉄道の課題について説明できる。 空港整備制度について理解できる。 授業科目の貢献度
		情報統計学2	2			5	ビジネスで用いる応用的統計について学習する。ビジネスで使われるデータ処理の統計理論を理解し実践についてシミュレーションができる。	PPM理論を中心に商品企画で使われるデータ管理について理解できる。 売上、利益のシミュレーションが回帰分析を使い理解できる。 マーケティングに関する統計的分析技法が理解できる。 分析データを加工分析結果を分かりやすくプレゼンができる。 授業科目の貢献度
	展開科目	キャリア開 発3	1			4	自己分析を更に展開し、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力」を学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	社会で生きていくために、社会を知り、将来に向けて自分の人生を切り拓いていく考え方や基礎力を身につけ、その重要性を理解することができる。 職場や地域社会の中で、多様な人々と共生するために必要となる人間力を身につけ、その必要性を理解することができる。 授業科目の貢献度
		キャリア開 発4	1			5	キャリア開発3に続いて、社会が求めている「将来の経済を担う産業人材の確保・育成を促進するための能力」や「職場や地域社会の中で、多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎能力」を体験を通して学び、今後の就職活動に向かってチャレンジする心構えを学ぶ。	自分自身の将来像を描き、説明できる。 社会で活躍するために必要な力を身につけ、その必要性を理解することができる。 授業科目の貢献度
		総合情報 演習3 プロジェクト	2			4	本授業では、総合情報学科で学ぶ各分野の研究および産業界の動向などを学び、各自が具体的なテーマを設定し、そのテーマについて調査し、調査した内容を発表する。	総合情報学科に関連する課題を自ら抽出できる。 総合情報学科に関連する課題の調査、データ整理、分析を自ら実施できる。 得られた結果を基にして考察した内容を報告書にまとめ、その概要を説明できる。 授業科目の貢献度
		経営情報論	2			5	情報あるいは情報システムをいかに組織の経営に役立てるか、また役立つような情報システムをいかに構築するかを、情報システムを活用する組織の立場に立って学ぶ。そのためにまず、情報システムとは何か、何を狙いとして活用されるのかを論ずると共に、ここに至る発展の経緯を振り返る。また、組織が情報システムを作り上げる上での課題とそれに影響を与える情報産業との関係を理解する。	情報化社会について理解できる。 経営情報システムについて理解できる。 情報システムについて理解できる。 企業における情報システムについて理解できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
								10			10	20
										10	10	20
											10	20
											20	20
											20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10	100	100
							10				20	30
											20	20
											20	20
											20	20
											10	10
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	90	100
											30	30
											20	20
											30	30
											20	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	100
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							5				5	10
							5				5	10
0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	50	100
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10		10	10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	40	0	10	10	40	100
							10	10	10	10	10	50
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
							10	10	10	10	10	50
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
							10		10	10	10	40
							10		10		10	30
							10		10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	10	30	100
							10			10	10	30
							10				10	20
							10				10	20
							10		10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	10	10	40	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	管理会計論	2	5	企業経営者は変化に応じて会社を柔軟にマネジメントしなければならない。利益の向上、市場シェア獲得、製品（サービス）提供を通じた社会貢献など種々の目的を達成しつつ、経営資源の効率的なアウトプットが求められる目的実現には適切な経営計画と末端までおよび統制が不可欠である。管理会計は企業の経営戦略立案や意思決定に関わる重要なツールであり、その理論、手法を理解する。	管理会計と財務会計の違いや管理会計の意義が理解できる。 管理会計の業績評価、意思決定に関する財務分析、予算統制が理解できる。 短期利益計画、事業部の業績評価が理解できる。 経営意思決定に関する理論と技法が理解できる。 管理会計と経営戦略の理論的接点が理解できる。 授業科目の貢献度
						問題発見力を身につけるために現実から問題を見出す力を身につける。 目標を設定し、現実主体的な関わりができる力を身につける。 情報を見極める力を身につけ多面的に物事を見ることが出来る力を身につける 情報を取捨選択し、わかりやすく表現する能力を身につける。 論理的に根拠に基づいて結論を導き出す能力を身につける 授業科目の貢献度
						経営分析する意義が理解できる。 経営分析を行ういくつかの手法について説明できる。 企業経営の分析を行ういくつかの基準について説明できる。 財務諸表から企業経営の健全度を把握できる。 キャッシュフロー分析から企業経営の健全度を把握できる。 授業科目の貢献度
						ベンチャービジネスのビジネスモデルの理論やベンチャービジネスの特徴を学習する。その上で、具体的に起業するための方法（経理や財務、法律への対応）や、ベンチャービジネスを行うために必要な人材（リーダー像）、ベンチャービジネスに必要な経営などを学ぶ。なお、起業の方法などについては、バーチャルとして体験できるような講義を行う。 ベンチャービジネスの内容や存在意義、魅力を説明できる。 これまでのベンチャービジネスの事例をいくつか説明できる。 具体的にベンチャービジネスを行うための方法を説明できる。 ベンチャービジネスに必要な経営方法について説明できる。 授業科目の貢献度
						インターネットビジネスの基礎を学習すると共に、インターネットビジネスを成功させるためのビジネスチャンス（社会や経済の変化）を踏まえながら新しいインターネットビジネスを考える。なお、講義においては、インターネットビジネスを展開している具体的な企業や業種ごと事例を用いて説明すると共に、これらの比較を通じて、インターネットビジネスの本質や可能性を考察する。 インターネットビジネスの内容について説明できる。 具体的なインターネットビジネスの事例を説明できる。 インターネットビジネスの利点と問題点を説明できる。 インターネットビジネスにおける決済システムについて説明できる。 授業科目の貢献度
						企業戦略とは何か理解できる。 競争戦略について理解できる。 事業戦略について理解できる。 「戦略」を学ぶことによって、意志決定の重要性が理解できる。 授業科目の貢献度
		物流論	2	5	物流コストや物流コストと深い関係のある在庫費用に関する費用構造や費用発生メカニズムを学習する。また、事例を通じて、具体的な物流コストの削減や適切な在庫管理を学ぶと共に、今後の社会および経済の変化を踏まえ、新たな物流コストの削減や適切な在庫管理を考える。	人や物を輸送する必要性が理解できる 交通に関する基礎データを把握している 企業活動に対する交通の役割や意義が理解できる 社会や経済の変化と交通へのニーズの変化が理解できる 客観的に、今日における交通問題に対する解決策を提案できる 授業科目の貢献度
						中小企業の歴史的変遷について理解できる。 日本の下請システムが理解できる。 産業集積と構造と役割について理解できる。 ベンチャー企業について理解できる。 事業創造と企業の成長プロセスが理解できる。 授業科目の貢献度
		中小企業論	2	6	中小企業は、これまで日本の産業経済において重要な位置を占めており、近年では、ベンチャー企業による技術革新や雇用創出効果が注目されている。こうした中小企業やベンチャー企業に関する理論と事例を学ぶ。	中小企業の歴史的変遷について理解できる。 日本の下請システムが理解できる。 産業集積と構造と役割について理解できる。 ベンチャー企業について理解できる。 事業創造と企業の成長プロセスが理解できる。 授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
								10				10
							10			10	10	30
							10		10	5	5	30
									10	5	5	20
								5	5			10
0	0	0	0	0	0	0	20	15	25	20	20	100
							10					10
							10		10			20
								10	10			20
									10			10
							10		10	10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	30	10	40	10	10	100
								10				10
							10				10	20
							10		5		5	20
							10		10			20
							10		10	10		30
0	0	0	0	0	0	0	40	10	25	10	15	100
							10		10		10	30
							10				10	20
							10				10	20
							10		10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	0	40	100
							10	10				20
								10				10
							20			20	10	50
									20			20
0	0	0	0	0	0	0	30	20	20	20	10	100
							10		10		10	30
							10				10	20
							10				10	20
							10		10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	0	40	100
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10		10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	0	40	100
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10		10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	50	100
							10		5		10	25
							10				5	15
							10				5	15
							10				10	20
							10		5		10	25
0	0	0	0	0	0	0	50	0	10	0	40	100

科目群	区分	授業科目	履修区 分 (単位)	必修 選択 自由	開 講 期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	ビジネスゲーム		2	6	企業における業務は有機的に関係しながら、その企業のビジネス全体を支えている。財務計画や、販売計画、生産計画、調達計画などもそれぞれ限られた範囲での視点ではなく、企業が置かれている環境や、企業内それぞれの機能との連携を考慮しながら企業全体へのインパクトを考え策定することが必要である。ビジネスゲーム演習を行うことによって、企業のメカニズムを疑似体験し、事業計画・戦略の重要性を認識するとともに、より有効な計画策定に必要な視点とグループによる意思決定プロセスについて学ぶ。	企業の業務の流れがビジネスゲームを通して理解できる。 ビジネスゲーム演習のフローが理解できる。 意思決定の方法が理解できる。 業績評価の方法が理解できる。 ビジネスで成功するための計画策定からオペレーションまでが理解できる。
						授業科目の貢献度	
		スポーツマネジメント2		2	5	スポーツにおいて、成果を上げるためにはPDCAは必須である。特に計画的に物事をマネジメントすることや、安全管理などは指導者にとっては必須である。またスポーツ実践中の事故や人権などの法的な知識も備えておく必要がある。ここでは指導計画や活動中の安全管理、スポーツ指導者の法的責任を理解することを学ぶ。	指導計画を組み立て安全にスポーツを行うことができる トレーニング理論を理解し計画し実践できる アスリートの外傷や傷害について理解できる リハビリテーションについて理解し計画を作成できる
						授業科目の貢献度	
		スポーツマネジメント3		2	6	日本はこれまで学校スポーツに依存してきた、企業スポーツに後押しされながら発展してきた。しかし、時代の流れとともに、少子化や景気の動向に左右されスポーツ人口の減少等の問題が出てきている。この授業では地域スポーツに目を向け、総合型地域スポーツクラブの採井や組織のマネジメント、指導者の育成などについて学ぶ。	総合型スポーツクラブを立ち上げることができる プログラム立案やイベント企画ができる 良い組織を構築することができる
						授業科目の貢献度	
		会社法		2	4	株式会社を対象に、株主総会・取締役会・代表取締役・監査役・委員会等設置会社などについて法律と現実とを対比させながら、企業の設立および運営の過程を具体的に学習する。その上で、具体的な企業運営として、資金調達や資本構成、計算、利益処分、会社組織の変更、清算などについても法律と現実との対比通じて学ぶ。	商法および会社法の存在意義とその内容（概要）を説明できる。 企業の設立に関連する法規について説明できる。 企業組織に関連する法規について説明できる。 企業の運営に関連する法規について説明できる。
						授業科目の貢献度	
		工業簿記		2	3	工業簿記（製造業における簿記）の基礎理念や内容、特徴を学習する。商業簿記は企業の外部活動に限られている一方で、工業簿記は企業の外部活動と内部活動の両方が含まれている。こうした違いなどを理解することを通じ、製造業の財務諸表の特徴を学ぶ。また、製造業における費用項目や原価計算の内容を把握することを通じて、製造業の企業経営のあり方や、製造業に対する企業診断の基礎を会得する。	工業簿記の基本理念について説明できる。 工業簿記の内容（仕組み）について理解できる。 製造業の財務諸表の特徴について説明できる。 製造業における費用項目や原価計算の特徴を理解できる。
						授業科目の貢献度	
		原価計算		2	4	財務諸表を作成するに当たり、原価計算は必要不可欠である。本講義では、原価計算の理論や実際の計算過程を学習する。その上で、原価計算は経営管理の有効な情報提供ツールであることの理解を深め、原価計算の分野で論じられている新たなトピックスについて紹介し、今後の原価計算の動きを説明する。	原価計算の仕組みを説明できる。 原価の内容やその意義について理解できる。 簡単な原価計算ができる。 原価計算における近年の動きを説明できる。
						授業科目の貢献度	
		金融と財務		2	7	本講義では、金（カネ）の側面から経営に焦点を当て、企業における金の管理の基礎を学習する。その上で、貸借対照表と損益計算書の関係や、そこから見られる企業活動の見方を学ぶ。近年においては、資金調達の変化や新たな財務指標などが見られていることを踏まえ、新たな手法および基準の中で「金」を管理する基礎についても会得する。	金融および財務の内容が理解できる。 貸借対照表と損益計算書の関係が理解できる 企業における資金調達方法と近年における資金調達の変化が理解できる 企業のグローバル化に伴う金融や財務の内容が理解できる
						授業科目の貢献度	
		労働法		2	5	労働法の基本理念、基礎概念、法規制の基本的内容について学習する。その上で、具体的な事例を用いて、賃金や労働時間、福利厚生などの労働環境の実情を学ぶと共に、労働環境に関する今日の問題やその解決策を考える。	労働者に関わる法律の必要性（意義）が理解できる 労働者保護や労働契約、労働組合に関わる法律の概要が理解できる 労働者保護や労働契約、労働組合に関する具体的な団体交渉や判例を説明できる 労働を取り巻く今日的な問題に対して、解決に関する自身の意見を述べることができる
						授業科目の貢献度	
		知的財産権		2	6	人間の独創的な知的創造活動について、その創始者に一定期間の権利保護をあたえるのが知的財産権制度である。知的財産権という言葉は、文化的創造物を保護する著作権まで幅広く含む概念である。このうち産業財産権と呼ばれる特許権、実用新案権、意匠権、商標権を中心として学ぶ。産業財産権制度は、独占権の付与により、模倣防止を図り、研究開発の奨励、商取引の信用を維持して、産業の発展に寄与することを学ぶ。	知的財産権の種類が理解できる。 企業における知的財産権の重要性が理解できる。 意匠権について説明できる。 著作権について説明できる。
						授業科目の貢献度	

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	20
0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	50	100
									10		10	20
									10	10	10	30
									10		20	30
									10		10	20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	10	50	100
								10		10	10	30
								10	10	10	10	40
								10	10	10		30
0	0	0	0	0	0	0	0	30	20	30	20	100
							10			10		20
							10	10				20
							10		20			30
							10		20			30
0	0	0	0	0	0	0	40	10	40	10	0	100
								10				10
								10	10		5	25
								10	10	5	5	30
							10	10	10	5		35
0	0	0	0	0	0	0	10	40	30	10	10	100
								10				10
								10	10	5	10	35
							10		10	10	10	40
								10		5		15
0	0	0	0	0	0	0	10	30	20	20	20	100
								10	5	5		20
							10		10	5	5	30
							10		10	5	5	30
							10		5		5	20
0	0	0	0	0	0	0	30	10	30	15	15	100
							10		10		10	30
							10		5		10	25
							10				10	20
							10		5		10	25
0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	0	40	100
							10		10		10	30
							10				10	20
							10				10	20
							10		10		10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	0	40	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位) 必修選択自由	開講期	学修内容	学修到達目標
専門科目群	展開科目	環境経営論	2	7	企業の存続・成長と地球環境保全との両立に関する先行理論を解説しながら、実際に私たちが環境経営を進める上で、どのような取り組みが必要かについて学ぶ。そこでは、環境経営の概念の捉え方をはじめ、事業レベル、製品・サービスのレベル、工場などの拠点レベルで、それぞれ資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理といった各論がどのように実施されているか、先進企業等の具体的事例を参照する。	環境経営の概念について説明できる。 事業レベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。 製品・サービスのレベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。 工場などの拠点レベルでの資源リサイクル、省エネルギー、化学物質の管理が理解できる。
						授業科目の貢献度
		海外事情 A	2	5	本講義は、非英語圏の国での海外研修と渡航前後の5回の春期集中講義から成り立っている。海外研修先の最低限必要な言語を事前に修得し、現地の方々と直接交流を図ることで実践的な語学力の向上のみならず、より一層の異文化理解と国際感覚の体得を目的とする。渡航までに、研修先の国の基本的な知識を身につけておく。また、日本の伝統・文化を研修先の国の言語を用いて自己発信できるようにする。	非英語圏の研修先国の風俗習慣、文化、歴史など基本的な事項を理解できる。 日本の伝統・文化などの基本的事項を研修先国の言語で説明できる。
						授業科目の貢献度
		海外事情 B	2	6	本授業は、異文化理解と国際感覚の体得を目的とする。渡航までに、アメリカの基本的な知識を身につけておく。また、日本の伝統・文化についてもしっかりと見識を深め、英語で自己発信できるようにする。	海外の風俗習慣、文化、歴史など基本的な事項を理解できる。 日本の伝統・文化などの基本的事項を英語で説明できる。 アメリカでの生活のための基本的な英会話ができる。
						授業科目の貢献度
		インターンシップ (学外研修)	2	6	企業におけるインターンシップを行う。	実習先企業の業務を理解できる。 実務で発生する問題点と解決策の一例を説明できる。 机上の知識と現実の問題との格差を説明できる。 将来の進路に対する自分の考え方を述べることができる。
						授業科目の貢献度
	卒業研究	セミナー 1	2	5	本講義は、卒業研究を行うために必要な基礎知識を取得する。授業は卒業研究の研究室単位で行われる。「セミナー I」では、卒業研究の行う基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の基礎となる理論・学説を理解できる。 卒業研究の研究方法を理解できる。
						授業科目の貢献度
		セミナー 2	2	6	卒業研究と平行して行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、「セミナー 2」では、その基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の基礎となる理論・学説をより深く理解できる。 卒業研究の研究方法をより深く理解できる。
						授業科目の貢献度
		セミナー 3	2	7	「セミナー 2」と同様、卒業研究と平行して行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナー 3 でもその基礎となる理論・学説や研究方法などについて授業が行われる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。 卒業研究のまとめ方を理解できる。
						授業科目の貢献度
		セミナー 4	2	8	「セミナー 3」と同様、卒業研究と平行して行われる授業である。そのため、授業は卒業研究の研究室単位で行われる。卒業研究では各指導教員の下で研究論文をまとめることになるが、セミナー 4 では、卒業論文についての研究成果発表が中心となる。授業の内容は、各卒業研究の指導教員の研究専門分野によって異なる。	卒業研究の内容について論理的に発表できる。 研究成果を根拠を基にわかりやすく表現できる。
						授業科目の貢献度
		卒業研究	6	7・8	卒業研究は、これまでの授業を通して知り得た総合情報学の各研究分野の中から、最も興味のある分野を選択し、教員の指導を受けながら研究論文を作成する。	卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。 卒業研究のまとめ方を理解できる。 卒業論文を作成し、専門的な研究成果を発表できる。
						授業科目の貢献度

学科 (専攻) の学位授与の方針												
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	合 計
							10		10		10	30
							10				10	20
							10				10	20
							10				10	30
0	0	0	0	0	0	0	40	0	10	0	40	100
							10	10	10	10	10	50
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
							10	5	5	5	10	35
							10		5	5	10	30
							10	5	5	5	10	35
0	0	0	0	0	0	0	30	10	15	15	30	100
							10		5		10	25
							10		5		10	25
							10		5		10	25
							10		5		10	25
0	0	0	0	0	0	0	40	0	20	0	40	100
							10	10	10	10	10	50
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
							10	10	10	10	10	50
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
							10	10	10	10	10	50
							10	10	10	10	10	50
0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	20	100
							5	5	5	5	5	25
							10	5	10	5	10	40
							10	5	5	5	10	35
0	0	0	0	0	0	0	25	15	20	15	25	100

開講科目一覽

■ 情報システム学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
						1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期		
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナ	1			2	[2]								
		基礎英語セミナ			1	2	[2]								
		基礎英語グラマー1	1			2	[2]								
		基礎英語グラマー2	1				2	[2]							
		基礎英語リーディング1	1			2	[2]								
		基礎英語リーディング2	1				2	[2]							
		コミュニケーション英語1	1					2	[2]						
		コミュニケーション英語2	1						2	[2]					
		コミュニケーション英語3		1						2					
		コミュニケーション英語4		1							2				
		ドイツ語入門1			1	2									
		ドイツ語入門2			1		2								
	健康科学演習A	1			2										
	健康科学演習B	1				2									
	Bグループ	人間・歴史文化ニ関するの理解	日本文学A		2				2		2				
			日本文学B		2					2		2			
			外国文学A		2		2		2		2		2		
			外国文学B		2			2		2		2			
			哲学A		2		2		2		2		2		
			哲学B		2			2		2		2			
			文化人類学A		2			2		2		2			
			文化人類学B		2				2			2			
			歴史学A		2		2		2		2				
			歴史学B		2			2		2		2			
			心理学A		2		2		2		2				
			心理学B		2			2		2		2			
			教育原理		2		2								
			教育心理学		2				2						
		国際情勢と社会のしくみ	政治学A		2		2		2		2		2		
			政治学B		2			2		2			2		
			経済学A		2		2		2		2				
			経済学B		2			2		2		2			
			法学A		2				2		2				
			法学B		2					2			2		
			社会学A		2		2		2		2				
			社会学B		2			2		2			2		
			社会調査の方法A		2				2		2			2	
社会調査の方法B				2					2			2			
地域研究A				2				2		2					
地域研究B		2					2			2					
教育社会学		2			2										
科学的なものの見方と環境問題	健康科学A		2		2		2		2						
	健康科学B		2			2		2		2					
	認知科学A		2				2		2						
	認知科学B		2					2		2					
	環境科学A		2				2		2						
	環境科学B		2					2		2					
	自然科学概論A		2		2		2		2						
	自然科学概論B		2			2		2		2					
	行動生物学A		2				2		2		2				
	行動生物学B		2					2			2				
	地球科学A		2				2		2						
	地球科学B		2					2		2					

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区 分			授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
							1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
				必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
人間科学科目群	Bグループ	学問への複眼的 アプローチ	国際事情		2		◎		◎		◎			集中	
			リベラルアーツ実践演習A		2			2		2					
			リベラルアーツ実践演習B		2				2		2				
			教養総合講座A		2			2		2					
			教養総合講座B		2				2		2				
	Cグループ	社会実践1	1			2									
		社会実践2	1				2								
合 計			11	90	3	32	30 [8]	46 [4]	42 [2]	42 [2]	42				
			104												

(注)1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

区 分	授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
					1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
		必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期		
専門基礎科目群	基礎数学 세미나			1	2	[2]							履修者指定	
	基礎理科 세미나			1	2	[2]								
	情報システム入門 세미나	1			2									
	情報概論	2			2									
	情報処理基礎	2			2									
	コンピュータハードウェア基礎	2				2								
	プログラミング入門		2		2									
	情報ネットワーク概論		2			2								
	基礎電気回路		2		2									
	数学基礎		2		2	(2)								
	解析学1		2		2	(2)								
	解析学2		2			2	(2)							
	解析学3		2				2	(2)						
	常微分方程式		2					2	(2)					
	線形代数1		2		2									
	線形代数2		2			2								
	線形代数3		2				2							
	情報数学		2			2								
	確率・統計		2				2							
	情報統計学		2					2						
	力学		2		2									
	電磁気学		2			2								
	現代物理学1			2			2							
	現代物理学2			2				2						
	小 計		7	32	6	22	12	8	6					
			45				(4)	(2)	(2)	(2)				
							[4]							
専門科目群	基幹科目	プログラミング1	2			2	(2)							
		プログラミング2	2				2	(2)						
		アルゴリズムとデータ構造1		2				2						
		アルゴリズムとデータ構造2		2					2					
		数値計算法		2						2				
		コンピュータアーキテクチャ1		2			2							
		コンピュータアーキテクチャ2		2				2						
		オペレーティングシステム		2			2							
		情報ネットワーク1		2			2							
		情報ネットワーク2		2				2						
		情報理論		2				2						
		オートマトン・言語理論		2					2					
		電気回路1		2		2								
		電気回路2		2				2						
		情報演習A	4				4							
		情報演習B	4						4					
		情報演習C	4							4	(4)			
		情報演習D	4							(4)	4			
	展開科目	オブジェクト指向プログラミング		2				2						
		ソフトウェア工学		2					2					
		データベース		2						2				
		コンパイラ構成法		2						2				
		信号処理基礎		2					2					
		ディジタル信号処理		2						2				
		音声画像処理		2							2			
		パターン情報処理		2						2				
		制御工学		2						2				
		通信工学		2								2		
		人工知能		2							2			
		ソフトコンピューティング		2								2		
		ディジタル回路		2						2				
		電子回路		2							2			

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
						1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期		
専 門 科 目 群	展 開 科 目	コンピュータセンシング		2						2					
		コンピュータコントロール		2							2				
		組込システムプログラミング		2							2				
		リアルタイムシステム		2								2			
		コンピュータ最新技術		2								2			
		ネットワークプログラミング		2						2					
		コンピュータシステム		2							2				
		情報セキュリティ		2							2				
		マルチメディアソフトウェア		2							2				
		CAD		2								2			
	関 連 科 目	技術者倫理		2								2			
		知的財産権論		2									2		
		インターンシップ(学外研修)		2							◎			集中	
	卒 業 研 究	세미나1	2									2			
		세미나2	2										2		
		卒業研究	6									◎	◎		
	小 計		30	78			4	14 (2)	16 (2)	22 (4)	26 (4)	14	4		
			108												
	自 由 科 目	幾何学1			2					2					
		幾何学2			2						2				
数理統計学2				2						2					
応用解析1				2			2								
応用解析2				2				2							
応用解析3				2							2				
応用解析4				2								2			
代数系入門				2								2			
情報化社会と情報倫理				2								2			
情報化社会と職業				2								2			
小 計				20			2	2	2	4	2	8			
		20													
合 計		37	110	26	22	16 (4) [4]	24 (4)	24 (4)	24 (6)	30 (4)	16	12			
		173													

(注) 1. 毎週授業時間数の()は、同一科目を複数期に開講することを示す。
2. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。
3. 「卒業研究」の単位認定は、8 期とする。

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
						1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次			
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期		
専門基礎科目群		基礎数学セミナー			1	2	[2]							履修者指定	
		基礎理科セミナー			1	2	[2]								
		情報システム入門セミナー	1			2									
		情報概論	2			2									
		情報処理基礎	2			2									
		コンピュータハードウェア基礎	2				2								
		プログラミング入門		2		2									
		情報ネットワーク概論		2			2								
		基礎電気回路		2		2									
		数学基礎		2		2	(2)								
		解析学1		2		2	(2)								
		解析学2		2			2	(2)							
		解析学3		2				2	(2)						
		常微分方程式		2					2	(2)					
		線形代数1		2		2									
		線形代数2		2			2								
		線形代数3		2				2							
		情報数学		2			2								
		確率・統計		2				2							
		情報統計学		2					2						
	力学		2		2										
	電磁気学		2			2									
	現代物理学1			2			2								
	現代物理学2			2				2							
	小 計	7	32	6	22	12	8	6							
		45				(4)	(2)	(2)	(2)						
専門科目群	基幹科目	プログラミング1	2				2	(2)							
		プログラミング2	2					2	(2)						
		アルゴリズムとデータ構造1		2					2						
		アルゴリズムとデータ構造2		2						2					
		数値計算法		2							2				
		コンピュータアーキテクチャ1		2				2							
		コンピュータアーキテクチャ2		2					2						
		オペレーティングシステム		2				2							
		情報ネットワーク1		2				2							
		情報ネットワーク2		2					2						
		情報理論		2					2						
		オートマトン・言語理論		2						2					
		電気回路1		2			2								
		電気回路2		2				2							
		情報演習 A	4					4							
	情報演習 B	4						4							
	情報演習 C	4							4	(4)					
	情報演習 D	4							(4)	4					
	展開科目	オブジェクト指向プログラミング		2					2						
		ソフトウェア工学		2						2					
		データベース		2							2				
		コンパイラ構成法		2							2				
		信号処理基礎		2						2					
		デジタル信号処理		2							2				
		音声画像処理		2								2			
		パターン情報処理		2								2			
		制御工学		2							2				
		通信工学		2									2		
		人工知能		2									2		
		ソフトコンピューティング		2									2		
デジタル回路			2							2					
電子回路			2								2				

(次ページにつづく)

区 分		授 業 科 目	単 位 数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
						1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
専 門 科 目 群	展 開 科 目	組込システムプログラミング		2						2				
		リアルタイムシステム		2							2			
		ネットワークシステム		2					2					
		ネットワークコンテンツ		2						2				
		ネットワークプログラミング		2					2					
		コンピュータシステム		2						2				
		情報セキュリティ		2						2				
		ネットワーク最新技術		2							2			
		マルチメディアソフトウェア		2						2				
		CAD		2							2			
	関 連 科 目	技術者倫理		2							2		集中	
		知的財産権論		2								2		
		インターンシップ(学外研修)		2						◎				
	卒 業 研 究	세미나1	2								2			
		세미나2	2									2		
		卒業研究	6								◎	◎		
	小 計		30	78		4	14 (2)	16 (2)	22 (4)	26 (4)	14	4		
			108											
	自 由 科 目		幾何学1			2				2				
			幾何学2			2					2			
数理統計学2					2					2				
応用解析1					2		2							
応用解析2					2			2						
応用解析3					2						2			
応用解析4					2							2		
代数系入門					2							2		
情報化社会と情報倫理					2							2		
情報化社会と職業					2							2		
小 計				20		2	2	2	4	2	8			
		20												
合 計		37	110	26	22	16 (4)	24 (4)	24 (4)	24 (6)	30 (4)	16	12		
		173												[4]

(注) 1. 毎週授業時間数の()は、同一科目を複数期に開講することを示す。

2. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

3. 「卒業研究」の単位認定は、8 期とする。

本学を卒業するために必要な単位数は 124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
 4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

卒業研究履修・卒業基準

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
18 生	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	情報システム入門セミナー	基礎英語セミナー 基礎数学セミナー 基礎理科セミナー

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。
 注2) 基礎英語セミナー、基礎数学セミナー、基礎理科セミナーの3科目については、卒業研究履修基準の必要単位数(100単位)には含まませんが、合格していることが必要です。
 <不合格者>4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	科目群	必要単位数	
18 生	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 11 単位を含め 27 単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から 2 単位以上	
	専門基礎科目群	必修科目 7 単位を含め 17 単位以上	左記条件を満たし 97 単位以上
	専門科目群	必修科目 30 単位	

<不合格者>次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

他学部・他学科および学科内他専攻履修

【他学部・他学科履修】

工学部の各学科、情報デザイン学科及び総合情報学科の専門基礎科目群及び専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

【学科内他専攻履修】

開講科目一覧表における、自専攻に開講していない他専攻科目の単位を修得した場合、6単位を上限とし、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。

先修条件について

カリキュラムを体系的、段階的に進めるために、授業科目によっては履修申請に際して、必要な要件(「先修条件」)がつく科目があります。下記の科目については、先修条件科目の単位の修得が条件になっていますので、先修条件の科目の単位を修得しないと履修申請することができませんので、注意してください。

学年	区分	先修条件を設定している科目			先修条件科目		
		科目名	期	必選	科目名	期	必選
18 生	専門科目群	プログラミング2	3[4]	必	プログラミング1	2[3]	必
		オブジェクト指向プログラミング	4	選	プログラミング2	3[4]	必

■ 情報デザイン学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
						1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期		
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・ 세미나	1			2	[2]								
		基礎英語 세미나			1	2	[2]								
		基礎英語 グラマー1	1			2	[2]								
		基礎英語 グラマー2	1				2	[2]							
		基礎英語 リーディング1	1			2	[2]								
		基礎英語 リーディング2	1				2	[2]							
		コミュニケーション英語1	1					2	[2]						
		コミュニケーション英語2	1						2	[2]					
		コミュニケーション英語3		1						2					
		コミュニケーション英語4		1							2				
		ドイツ語入門1			1	2									
		ドイツ語入門2			1		2								
	健康科学演習A	1			2										
	健康科学演習B	1				2									
	Bグループ	人間・歴史文化についての理解	日本文学A		2				2		2				
			日本文学B		2					2		2			
			外国文学A		2		2		2		2				
			外国文学B		2			2		2		2			
			哲学A		2		2		2		2				
			哲学B		2			2		2		2			
			文化人類学A		2				2		2				
			文化人類学B		2					2		2			
			歴史学A		2		2		2		2				
			歴史学B		2			2		2		2			
			心理学A		2		2		2		2				
			心理学B		2			2		2		2			
			教育原理		2		2								
			教育心理学		2				2						
		国際情勢と社会のしくみ	政治学A		2		2		2		2				
			政治学B		2			2		2		2			
			経済学A		2		2		2		2				
			経済学B		2			2		2		2			
			法学A		2				2		2				
			法学B		2					2		2			
			社会学A		2		2		2		2				
			社会学B		2			2		2		2			
			社会調査の方法A		2				2		2		2		
			社会調査の方法B		2					2		2			
			地域研究A		2				2		2				
			地域研究B		2					2		2			
			教育社会学		2				2						
科学的なものの見方と環境問題			健康科学A		2		2		2		2				
		健康科学B		2			2		2		2				
		認知科学A		2				2		2					
		認知科学B		2					2		2				
		環境科学A		2				2		2					
		環境科学B		2					2		2				
		自然科学概論A		2		2		2		2					
		自然科学概論B		2			2		2		2				
		行動生物学A		2				2		2		2			
		行動生物学B		2					2		2				
		地球科学A		2				2		2					
		地球科学B		2					2		2				

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区 分			授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
							1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
				必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
人間科学 科目群	B グループ	学問への複眼的 アプローチ	国際事情		2		◎		◎		◎			集中	
			リベラルアーツ実践演習A		2			2		2					
			リベラルアーツ実践演習B		2			2		2					
			教養総合講座A		2			2		2					
			教養総合講座B		2			2		2					
	Cグループ	社会実践1	1				2								
社会実践2		1					2								
合 計				11	90	3	32	30 [8]	46 [4]	42 [2]	42 [2]	42			
				104											

(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

(注)1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
						1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
専 門 基 礎 科 目 群	情報デザイン入門 세미나	1			2									
	自己表現1	2			2									
	自己表現2	2				2								
	自己表現3		2				2							
	自己表現4		2					2						
	社会と情報1		2		2									
	社会と情報2		2			2								
	社会と情報3		2					2						
	造形デザイン演習1	4			4									
	造形デザイン演習2	4				4								
	基礎デザイン論1		2		2									
	基礎デザイン論2		2			2								
	基礎デザイン論3		2					2						
	情報デザイン論1		2						2					
	情報デザイン基礎実習A	2			4									
	情報デザイン基礎実習B	2				4								
	情報デザイン基礎実習C	2					4							
	情報デザイン基礎実習D	2					4							
	情報デザイン基礎実習E	2							4					
	情報デザイン基礎実習F	2							4					
	基礎音楽論		2				2							
	コンピュータサウンド1		2					2						
	コンピュータサウンド2		2						2					
	映像デザイン基礎1		2					2						
	映像デザイン基礎2		2						2					
	コンピュータデザイン実習A		2			4								
	コンピュータデザイン実習B		2				4							
	コンピュータデザイン実習C		2					4						
	コンピュータデザイン実習D		2						4					
	CGプログラミング1		2					2						
	CGプログラミング2		2						2					
	CAD実習1		2					4						
	CAD実習2		2						4					
	情報処理基礎		2				2							
	プログラミング1		2					2						
	プログラミング2		2						2					
コンピュータリテラシ			2		2									
情報デザイン特別活動A			1				◎						集中	
情報デザイン特別活動B			1				◎						集中	
情報デザイン特別活動C			1					◎					集中	
情報デザイン特別活動D			1					◎					集中	
現代物理学1			2				2							
現代物理学2			2					2						
小 計		25	50	10	22	22	30	32						
		85												
専 門 科 目 群	基 幹 科 目	デジタルグラフィックス実習A	2						4					
		デジタルグラフィックス実習B	2								4			
		視覚情報デザイン実習A	2						4					
		視覚情報デザイン実習B	2								4			
		デジタルデザイン論A	2						2					
		デジタルデザイン論B	2								2			
		視覚情報表現論	2						2					
		コミュニケーションデザイン論	2								2			
		メディアクリエイティブ実習A	2						4					
		メディアクリエイティブ実習B	2						4					
		メディアクリエイティブ実習C	2								4			
		メディアクリエイティブ実習D	2								4			
		メディアクリエイティブ論A	2						2					
		メディアクリエイティブ論B	2						2					
		メディアクリエイティブ論C	2								2			
		メディアクリエイティブ論D	2								2			

(次ページにつづく)

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
						1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
専門科目群	基幹科目	Webデザイン論		2						2				
		Webデザイン実習A		2						4				
		Webデザイン実習B		2							4			
		クロスワークプロジェクト		2							2			
		クリエイティブプランニング		2						2				
		マーケティングプランニング		2							2			
		メディアコミュニケーション論A		2						2				
		メディアコミュニケーション論B		2							2			
		製品デザイン実習A		2						4				
		製品デザイン実習B		2							4			
		応用CAD実習A		2						4				
		応用CAD実習B		2							4			
		プロダクトデザイン論		2						2				
		材料と加工法論		2						2				
		デジタルプレゼンテーション論		2							2			
		空間デザイン論		2							2			
		情報デザイン論2		2						2				
		情報デザイン論3		2							2			
	メディアワークプロジェクト		2							2				
	プログラミング3		2						2					
	プログラミング4		2							2				
	ビジネスコンピューティング		2						2					
	関連科目	インターンシップ(学外研修)		2							◎			集中
	卒業研究	専門 세미나1	1							2				
		専門 세미나2	1								2			
		情報デザイン研究1	1									2		
		情報デザイン研究2	1										2	
		卒業研究	6								◎		◎	
小 計		10	78						54	54	2	2		
		88												
合 計		35	128	10	22	22	30	32	54	54	2	2		
		173												

(注)1. 「卒業研究」の単位認定は、8 期とする。
(注)2. 「情報デザイン特別活動A・B・C・D」は申請に基づく集中科目とする。

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
						1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
専門基礎科目群	情報デザイン入門セミナ	1			2								集中 集中 集中 集中	
	自己表現1	2			2									
	自己表現2	2				2								
	自己表現3		2				2							
	自己表現4		2					2						
	社会と情報1		2		2									
	社会と情報2		2			2								
	社会と情報3		2					2						
	造形デザイン演習1	4			4									
	造形デザイン演習2	4				4								
	基礎デザイン論1		2		2									
	基礎デザイン論2		2			2								
	基礎デザイン論3		2				2							
	情報デザイン論1		2					2						
	情報デザイン基礎実習A	2			4									
	情報デザイン基礎実習B	2				4								
	情報デザイン基礎実習C	2					4							
	情報デザイン基礎実習D	2					4							
	情報デザイン基礎実習E	2							4					
	情報デザイン基礎実習F	2							4					
	基礎音楽論		2			2								
	コンピュータサウンド1		2					2						
	コンピュータサウンド2		2						2					
	映像デザイン基礎1		2					2						
	映像デザイン基礎2		2						2					
	コンピュータデザイン実習A		2			4								
	コンピュータデザイン実習B		2				4							
	コンピュータデザイン実習C		2					4						
	コンピュータデザイン実習D		2						4					
	CGプログラミング1		2					2						
	CGプログラミング2		2						2					
	CAD実習1	2						4						
	CAD実習2		2						4					
	情報処理基礎		2				2							
	プログラミング1		2					2						
プログラミング2		2						2						
コンピュータリテラシ			2		2									
情報デザイン特別活動A			1				◎							
情報デザイン特別活動B			1				◎							
情報デザイン特別活動C			1					◎						
情報デザイン特別活動D			1					◎						
現代物理学1			2				2							
現代物理学2			2					2						
小 計		27	48	10	22	22	30	32						
		85												
専門科目群	基幹科目	デジタルグラフィックス実習A		2						4				
		デジタルグラフィックス実習B		2								4		
		視覚情報デザイン実習A		2						4				
		視覚情報デザイン実習B		2							4			
		デジタルデザイン論A		2						2				
		デジタルデザイン論B		2							2			
		視覚情報表現論		2						2				
		コミュニケーションデザイン論		2							2			
		メディアクリエイティブ実習A		2						4				
		メディアクリエイティブ実習B		2						4				
		メディアクリエイティブ実習C		2							4			
		メディアクリエイティブ実習D		2							4			
		メディアクリエイティブ論A		2						2				
		メディアクリエイティブ論B		2						2				
		メディアクリエイティブ論C		2							2			
		メディアクリエイティブ論D		2							2			

(次ページにつづく)

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
						1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
専門科目群	基幹科目	Webデザイン論		2						2				
		Webデザイン実習A		2						4				
		Webデザイン実習B		2								4		
		クロスワークプロジェクト		2								2		
		クリエイティブプランニング		2							2			
		マーケティングプランニング		2								2		
		メディアコミュニケーション論A		2							2			
		メディアコミュニケーション論B		2								2		
		製品デザイン実習A		2							4			
		製品デザイン実習B		2								4		
		応用CAD実習A		2							4			
		応用CAD実習B		2								4		
		プロダクトデザイン論		2							2			
		材料と加工法論		2							2			
		デジタルプレゼンテーション論		2									2	
		空間デザイン論		2									2	
		情報デザイン論2		2							2			
		情報デザイン論3		2								2		
		メディアワークプロジェクト		2								2		
		プログラミング3		2							2			
		プログラミング4		2								2		
		ビジネスコンピューティング		2							2			
	関連科目	インターンシップ(学外研修)		2							◎			集中
	卒業研究	専門 세미나1	1							2				
		専門 세미나2	1								2			
		情報デザイン研究1	1									2		
		情報デザイン研究2	1										2	
		卒業研究	6									◎		◎
小 計		10	78						54	54	2	2		
		88												
合 計			37	126	10	22	22	30	32	54	54	2	2	
			173											

(注) 1. 「卒業研究」の単位認定は、8 期とする。

(注) 2. 「情報デザイン特別活動A・B・C・D」は申請に基づく集中科目とする。

本学を卒業するために必要な単位数は 124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
 4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
18 生	卒業要件として認められる単位のうち、104単位以上修得すること。	情報デザイン入門 세미나	基礎英語 세미나

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。

注2) 基礎英語セミナーの科目については、卒業研究履修基準の必要単位数(104単位)には含みませんが、合格していることが必要です。

<不合格者>4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	学科・専攻名	科目群	必要単位数	
18 生	情報デザイン学科 各専攻	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 11 単位を含め 27 単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から 2 単位以上	
	情報デザイン学科 メディアデザイン専攻	専門基礎科目群	必修科目 25 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	必修科目 10 単位	
	情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻	専門基礎科目群	必修科目 27 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	必修科目 10 単位	

<不合格者>次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

【他学部・他学科履修】

工学部の各学科、情報システム学科及び総合情報学科の専門基礎科目群および専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

総合情報学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
						1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期		
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナ	1			2	[2]								
		基礎英語セミナ			1	2	[2]								
		基礎英語グラマー1	1			2	[2]								
		基礎英語グラマー2	1				2	[2]							
		基礎英語リーディング1	1			2	[2]								
		基礎英語リーディング2	1				2	[2]							
		コミュニケーション英語1	1					2	[2]						
		コミュニケーション英語2	1						2	[2]					
		コミュニケーション英語3		1							2				
		コミュニケーション英語4		1								2			
		ドイツ語入門1			1	2									
	ドイツ語入門2			1		2									
	健康科学演習A	1			2										
	健康科学演習B	1				2									
	Bグループ	人間・歴史文化・こころの理解	日本文学A		2				2		2				
			日本文学B		2					2			2		
			外国文学A		2		2		2		2				
			外国文学B		2			2		2			2		
			哲学A		2		2		2		2				
			哲学B		2			2		2			2		
			文化人類学A		2				2		2			2	
			文化人類学B		2					2			2		
			歴史学A		2		2		2		2				
			歴史学B		2			2		2			2		
			心理学A		2		2		2		2				
			心理学B		2			2		2			2		
			教育原理		2		2								
			教育心理学		2				2						
		国際情勢と社会のしくみ	政治学A		2		2		2		2				
			政治学B		2			2		2			2		
			経済学A		2		2		2		2				
			経済学B		2			2		2			2		
			法学A		2				2		2				
			法学B		2					2			2		
			社会学A		2		2		2		2				
			社会学B		2			2		2			2		
			社会調査の方法A		2				2		2			2	
			社会調査の方法B		2					2				2	
			地域研究A		2				2			2			
			地域研究B		2					2				2	
		教育社会学		2			2								
		科学的なものの見方と環境問題	健康科学A		2		2		2		2				
			健康科学B		2			2		2			2		
			認知科学A		2				2		2				
			認知科学B		2					2			2		
			環境科学A		2				2		2				
			環境科学B		2					2			2		
自然科学概論A				2		2		2		2					
自然科学概論B				2			2		2			2			
行動生物学A				2				2		2			2		
行動生物学B			2					2				2			
地球科学A			2				2		2						
地球科学B		2					2			2					

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区 分			授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
							1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
				必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
人間科学科目群	Bグループ	学問への複眼的 アプローチ	国際事情		2			◎		◎					集中
			リベラルアーツ実践演習A		2				2		2				
			リベラルアーツ実践演習B		2				2		2				
			教養総合講座A		2				2		2				
			教養総合講座B		2				2		2				
	Cグループ		社会実践1	1				2							
			社会実践2	1					2						
	合 計			11	90	3	32	30 [8]	46 [4]	42 [2]	42 [2]	42			
			104												

(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

区 分	授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
					1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
専門基礎科目群	総合情報入門セミナー	1			2								
	言語表現1		2		2								
	言語表現2		2			2							
	情報学概論		2		2								
	情報処理1	2			2								
	情報処理2		2			2							
	情報統計学1	2						2					
	経営学概論	2			2								
	経済学入門	2			2								
	入門簿記	2			2								
	簿記原理		2			2							
	会計学		2				2						
	社会と企業1		2			2							
	社会と企業2		2				2						
	経営実践入門	2				2							
	経営実践1	2					2						
	経営実践2	2						2					
	現代物理学1			2			2						
	現代物理学2			2				2					
		小 計	17	16	4	14	10	8	6				
		37											
専門科目群	基幹科目	キャリア開発1	1			2							
		キャリア開発2	1					2					
		総合情報プロジェクト演習1	2			2							
		総合情報プロジェクト演習2	2					2					
		異文化コミュニケーション1		2		2							
		異文化コミュニケーション2		2			2						
		経営史		2			2						
		マーケティング概論		2			2						
		人材マネジメント		2				2					
		民法		2				2					
		データベース基礎		2				2					
		コーチング1		2			2						
		コーチング2		2				2					
		コーチング3		2					2				
		スポーツライフマネジメント1		2			2						
		スポーツライフマネジメント2		2				2					
		スポーツマネジメント1		2					2				
		交通論		2					2				
		情報統計学2		2						2			
	展開科目	キャリア開発3	1					2					
		キャリア開発4		1					2				
		総合情報プロジェクト演習3	2						2				
		経営情報論		2						2			
		工業簿記		2				2					
		原価計算		2					2				
		金融と財務		2							2		
		管理会計論		2						2			
		経営実践3		2						2			
		経営分析		2							2		
		ベンチャービジネス論		2						2			
インターネットビジネス		2							2				
企業経営戦略論		2					2						
物流論		2						2					
中小企業論		2							2				
ビジネスゲーム		2							2				
スポーツマネジメント2		2						2					
スポーツマネジメント3		2							2				

(次ページにつづく)

区 分		授 業 科 目	単位数			毎 週 授 業 時 間 数								備 考
						1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
			必修	選択	自由	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
専門科目群	展開科目	会社法		2					2					集中 集中 集中
		労働法		2						2				
		知的財産権		2							2			
		環境経営論		2								2		
		海外事情A		2					◎					
		海外事情B		2						◎				
		インターンシップ(学外研修)		2						◎				
	卒業研究	セミナ1	2							2				
		セミナ2	2								2			
		セミナ3	2									2		
		セミナ4	2										2	
		卒業研究	6									◎	◎	
小 計		23	75		2	14	16	16	20	14	6	2		
		98												
合 計		40	91	4	16	24	24	22	20	14	6	2		
		135												

(注)1.「卒業研究」の単位認定は、8 期とする。

本学を卒業するために必要な単位数は 124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。
4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

卒業研究履修・卒業基準

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
18 生	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	総合情報入門 세미나	基礎英語 세미나

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。
注2) 基礎英語 세미나の科目については、卒業研究履修基準の必要単位数(100単位)には含みませんが、合格していることが必要です。
＜不合格者＞4 年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	学科・専攻名	科目群	必要単位数	
18 生	総合情報学科 経営情報専攻	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 11 単位を含め 27 単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から 2 単位以上	
		専門基礎科目群	必修科目 17 単位	左記条件を満たし 97 単位以上
		専門科目群	必修科目 23 単位	

＜不合格者＞次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

他学部・他学科および学科内他専攻履修

【他学部・他学科履修】

工学部の各学科、情報システム学科及び情報デザイン学科の専門基礎科目群および専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

教職課程

1. 教職課程について

卒業後、教育職員を志望するものは、「教育職員免許法」に定める教育職員免許状を取得する必要があります。そのためには、卒業に必要な所定の単位を修得するとともに、所要条件を満たし、かつ所定の単位修得し、申請することが必要になります。

2. 修得できる免許状について

教職課程を履修し、卒業と同時に申請し修得できる免許状は、下記のとおりです。

コース	免許状の種類	免許教科	対象学科
数学コース	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数学	情報システム学科
情報コース	高等学校教諭一種免許状	情報	情報システム学科

3. 教職課程の科目区分・必要単位数

教職課程科目は、【教員免許修得のための必修科目】【教職に関する科目】【教科に関する科目】に大別され、それぞれの必要単位数は、下記のとおりになります。

教職課程科目の科目区分と必要単位数

(数字は単位数)

コース	教員免許修得のための必修科目 (教育職員免許法施行規則第66条の6)	教職に 関する科目	教科に 関する科目
数学コース	10単位 【表1】	中学 35単位※ 【表2-1】	中学 28単位 【表2-2】
		高校 27単位 【表2-1】	高校 36単位 【表2-3】
情報コース		高校 27単位 【表3-1】	高校 36単位 【表3-2】

※「数学コース」履修者において、中学校教諭一種の免許状を修得しようとする者は、教職課程科目の履修の他に、社会福祉施設と盲・聾・養護学校で、計 7 日以上「介護等体験実習」を行う必要があります。「介護等体験実習」とは、障害者、高齢者に対する介護、介助、これらの人たちとの交流等の体験を指します。「介護等体験実習」の参加に際しては、実習費として1万円が必要になります。

また、「介護等体験実習」を終了した者は、施設長からの体験証明書を免許状の申請に添えて教育委員会に提出しなければなりません。

4. 「教育実習A」および「教育実習B」の履修前提条件と実習期間について

1. 履修前提条件について

4年次に実施される「教育実習A」、「教育実習B」を履修するには、条件が定められており、原則として、3年次までの「教職に関する科目」のうち下表に掲げる科目を全て修得しなければ、実習に行くことはできません。

「教育実習A」および「教育実習B」の履修に必要な科目一覧		
学年	前 期	後 期
1 年	教職論 教育原理	教育社会学
2 年	教育心理学	教育方法論 教育課程論
3 年	教育実習指導(4年次と併せて1単位) 数学科教育法1(数学コース) 情報科教育法1(情報コース) 道徳教育研究 (数学コースの中学校教諭免許状修得希望者)	教育相談の理論と方法 数学科教育法2(数学コース) 情報科教育法2(情報コース)

※4年次には、「教育実習A」、「教育実習B」のほかにも、履修する必要のある科目がありますので、注意してください。

2. 実習期間について

免許状の種類により必要な教育実習期間が異なりますので、下記を参考にしてください。

- (1)高等学校一種免許状を修得しようとする者は、2週間の教育実習を必要とし「教育実習B」を履修しなければならない。
- (2)中学校一種免許状を修得しようとする者は、3～4週間の教育実習を必要とし「教育実習A」「教育実習B」の両科目を履修しなければならない。

【表1】 教員免許修得のための必修科目

科 目(単位数)	必要単位数	備 考 ※注1
「法学A」(2 単位) 「法学B」(2 単位)	計 4 単位	「日本国憲法」に対応する科目
「健康科学演習A」(1 単位) 「健康科学演習B」(1 単位)	計 2 単位	「体育」に対応する科目
「コミュニケーション英語1」 英語会話コース(1 単位) 「コミュニケーション英語2」 英語会話コース(1 単位) 「コミュニケーション英語3」(1 単位) 「コミュニケーション英語4」(1 単位)	左記科目の中から 計 2 単位	「外国語コミュニケーション」に 対応する科目
「プログラミング入門」(2 単位)	計 2 単位	「情報機器の操作」に対応する科目

※注1教育職員免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号(文部省令で定める修得すべき科目)および施行規則 66 条の 6 関係

【表2-1】 教職に関する科目

授業科目		単位数		毎 週 授 業 単 位 数								備 考
				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		必修	選択	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
第二欄	教職論	2		2								
第三欄	教育原理 ★	2		2								
	教育心理学 ★	2				2						
	教育社会学 ★	2			2							
第四欄	教育課程論	2					2					
	数学科教育法1	2						2				
	数学科教育法2	2							2			
	数学科教育法3	2								2		
	数学科教育法4	2									2	
	道德教育研究	2						2				
	特別活動研究	2									2	
	教育方法論	2					2					
	生徒・進路指導論	2								2		
	教育相談の理論と方法	2							2			
第五欄	教育実習指導	1						1		1		
	教育実習A	2								2		
	教育実習B	2								2		
第六欄	教職実践演習(中等)	2									2	
	中学校教免	35		4	2	2	4	5	4	9	6	
	高校教免	27										
(注)												
1. ★印の科目は人間科学科目群Bグループの卒業に必要な単位数に含むことができる。												
中1種免許は 35 単位必修												
高1種免許は 27 単位必修												

【表2-2】教科に関する科目

中学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		単位数								備 考	
	必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次		免許法における科目区分	
			1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
線形代数1	2		2								代数学	「免許法」で定められた最低修得単位数20単位・必修
線形代数2	2			2							代数学	
幾何学1	2						2				幾何学	
解析学1	2		2	(2)							解析学	
解析学2	2			2	(2)						解析学	
解析学3	2				2	(2)					解析学	
常微分方程式	2					2	(2)				解析学	
応用解析1	2				2						解析学	
確率・統計	2				2						「確率論・統計学」	
プログラミング1	2			2	(2)						コンピュータ	
線形代数3		2			2						代数学	必修1科目2単位を含む合計4科目8単位以上修得すること。
代数系入門		2								2	代数学	
幾何学2		2						2			幾何学	
応用解析2	2					2					解析学	
応用解析3		2							2		解析学	
応用解析4		2								2	解析学	
数理統計学2		2						2			「確率論・統計学」	
情報統計学		2				2					コンピュータ	
数値計算法		2						2			コンピュータ	
情報理論		2				2					コンピュータ	
オートマトン・言語理論		2					2				コンピュータ	
合 計	22	20	4	6 (2)	8 (4)	8 (2)	4 (2)	6	2	4		

【表2-3】教科に関する科目

高等学校教諭一種免許状

授業科目	単位数		単位数								備 考	
	必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次		免許法における科目区分	
			1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
線形代数1	2		2								代数学	「免許法」で定められた最低修得単位数20単位・必修
線形代数2	2			2							代数学	
幾何学1	2						2				幾何学	
解析学1	2		2	(2)							解析学	
解析学2	2			2	(2)						解析学	
解析学3	2				2	(2)					解析学	
常微分方程式	2					2	(2)				解析学	
応用解析1	2				2						解析学	
確率・統計	2				2						「確率論・統計学」	
プログラミング1	2			2	(2)						コンピュータ	
線形代数3		2			2						代数学	必修1科目2単位を含む合計8科目16単位以上修得すること。
代数系入門		2								2	代数学	
幾何学2		2						2			幾何学	
応用解析2	2					2					解析学	
応用解析3		2							2		解析学	
応用解析4		2								2	解析学	
数理統計学2		2						2			「確率論・統計学」	
情報統計学		2				2					コンピュータ	
数値計算法		2						2			コンピュータ	
情報理論		2				2					コンピュータ	
オートマトン・言語理論		2					2				コンピュータ	
合 計	22	20	4	6 (2)	8 (4)	8 (2)	4 (2)	6	2	4		

【表1】 教員免許修得のための必修科目

科 目(単位数)	必要単位数	備 考 ※注1
「法学A」(2 単位) 「法学B」(2 単位)	計 4 単位	「日本国憲法」に対応する科目
「健康科学演習A」(1 単位) 「健康科学演習B」(1 単位)	計 2 単位	「体育」に対応する科目
「コミュニケーション英語1」 英語会話コース(1 単位) 「コミュニケーション英語2」 英語会話コース(1 単位) 「コミュニケーション英語3」(1 単位) 「コミュニケーション英語4」(1 単位)	左記科目の中から 計 2 単位	「外国語コミュニケーション」に 対応する科目
「プログラミング入門」(2 単位)	計 2 単位	「情報機器の操作」に対応する科目

※注1教育職員免許法第 5 条別表第 1 備考第 4 号(文部省令で定める修得すべき科目)および施行規則 66 条の 6 関係

【表3-1】 教職に関する科目

授業科目		単位数		毎 週 授 業 単 位 数								備 考
				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		必修	選択	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	
第二欄	教職論	2		2								
第三欄	教育原理 ★	2		2								
	教育心理学 ★	2				2						
	教育社会学 ★	2			2							
第四欄	教育課程論	2					2					情報機器及び教材の活用を含む
	情報科教育法1	2						2				
	情報科教育法2	2							2			
	特別活動研究	2									2	
	教育方法論	2					2					
	生徒・進路指導論	2								2		
	教育相談の理論と方法	2							2			
第五欄	教育実習指導	1						1		1		
	教育実習B	2								2		
第六欄	教職実践演習(中等)	2									2	
合 計		27		4	2	2	4	3	4	5	4	
(注) 1. ★印の科目は人間科学科目群Bグループの卒業に必要な単位数に含むことができる。												

【表3-2】教科に関する科目

授業科目	単位数		毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
			1年次		2年次		3年次		4年次		免許法における 科目区分	
	必修	選択	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
知的財産権論		2								2	情報社会と 情報倫理	左記の科目中から 必修科目を含む合 計36単位以上修 得すること
情報化社会と情報倫理	2									2		
プログラミング2	2				2	(2)					コンピュータ 及び情報処理	
コンピュータアーキテクチャ1	2				2							
コンピュータアーキテクチャ2		2				2						
アルゴリズムとデータ構造1	2					2						
アルゴリズムとデータ構造2		2					2					
情報演習D	4						4	(4)				
コンパイル構成法		2						2				
デジタル回路		2					2					
コンピュータセンシング		2					2					
オブジェクト指向プログラミング		2				2						
オペレーティングシステム	2				2						情報システム	
ソフトウェア工学		2					2					
データベース	2							2				
リアルタイムシステム		2							2			
コンピュータシステム		2						2				
情報ネットワーク概論	2			2							情報通信 ネットワーク	
情報ネットワーク1	2				2							
ネットワークプログラミング		2					2					
通信工学		2							2			
ネットワークシステム		2					2					
音声画像処理		2						2			マルチメディア 表現及び技術	
マルチメディアソフトウェア	2							2				
CAD	2								2			
情報化社会と職業	2									2	情報と職業	
合 計	26	28		2	8	6 (2)	16	10 (4)	6	6		

規 程

学則	198
再入学規程	209
科目等履修生規程	211
特別聴講学生規程	212
研究生規程	214
委託学生規程	215
委託生規程	216
外国人留学生規程	218
プレイスメントテスト要項	220
工学部履修規程	222
情報学部履修規程	227
特別再履修の取扱いに関する要項	232
クラス指定科目の履修の取扱いに関する要項	233
教室利用に関する要項	234
緊急時における授業等の取扱いに関する要項	235
学生の授業欠席に関する取扱要項	237
GPA制度要項	240
他の大学等における授業科目の履修等に関する規程	242
大学以外の教育施設等における学修に関する規程	244
入学前の既修得単位等の認定に関する規程	247
他の研究所等における卒業研究の実施に関する規程	250
転学部及び転学科に関する要項	252
転専攻に関する要項	254
学籍異動に関する取扱規程	256
学生懲戒規程	258
学生の懲戒に係る調査小委員会内規	261
学生納付金の納付手続に関する規程	262
提携教育ローン規程	264
提携教育ローン利子補給奨学規程	265
提携教育ローン利子補給奨学細則	266
科目等履修生等の納付金等に関する規程	267
学位規程	269
学生の厚生補導に関する規程	272
貸与奨学規程	273
貸与奨学規程細則	275
学業奨励生規程	277
学業奨励生規程細則	278
入学時特別奨学規程	279
入学時スポーツ特別奨学規程	280
在学生学業特別奨学規程	282
在学生スポーツ特別奨学規程	283
私費外国人留学生学生納付金減免に関する規程	285
学生表彰規程	286
学生表彰規程実施細則	287
クラブ活動表彰基準要項	289
厚生施設使用規則	291
木曽駒ゼミナーハウス使用細則	293
木曽駒ゼミナーハウス使用者心得	295
運動施設使用規則	296
大同学園運動施設使用規則	297
課外活動に関する規程	298
課外活動援助に関する内規	299
クラブ顧問・監督・コーチ等に関する細則	301
顧問会議内規	302
石井記念体育館使用者心得	303
第2滝春グラウンド使用者心得	304
図書館利用規則	305
図書館利用細則	307
情報センター利用規程	310
情報センター利用細則	313
学習支援センター利用要項	318
環境美化の心得	320
施設利用の心得	321
環境美化の心得及び施設利用の心得違反に対する処罰要項	323
大同学園ハラスメント規程（抜粋）	324

（平成30年3月8日現在において、平成30年4月1日施行予定の規程等を記載）

大同大学学則

(昭和 39 年 4 月 1 日制定)

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 大同大学(以下「本学」という。)は、教育基本法並びに建学の精神と理念に則り、深い専門の学芸の教育研究を通じて、豊かな教養と専門的能力を有する質の高い職業人を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

(自己点検等)

第 2 条 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 本学は、教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による認証評価を受けるものとする。

3 前 2 項の点検及び評価並びに認証評価に関する事項は、別に定める。

(情報の積極的な提供)

第 2 条の 2 本学は、教育研究活動等の状況について、積極的に情報を提供する。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第 2 条の 3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

第 2 章 組織

(学部、学科)

第 3 条 本学に次の学部学科を置く。

工学部 機械工学科

工学部 機械システム工学科

工学部 電気電子工学科

工学部 建築学科

情報学部 情報システム学科

情報学部 情報デザイン学科

情報学部 総合情報学科

2 本学の学部の目的は、それぞれ次のとおりとする。

(1) 工学部は、豊かな教養及び工学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、工学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

(2) 情報学部は、豊かな教養及び情報学に関連する基礎から応用までの十分な学問的知識を有し、創造力に富み主体的に行動できる質の高い専門職業人を育成するとともに、情報学を中心とする分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。

3 本学の学科の目的は、それぞれ次のとおりとする。

(1) 工学部機械工学科は、機械工学に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、深い研究を通じて自ら学び、考え、行動できる人材を育成することを目的とする。

(2) 工学部機械システム工学科は、機械及び周辺技術を融合した「人にやさしい機械」づくりのための教育・研究を通じて、実務で役に立つ創造性に富んだ人材を育成し、社会と産業の発展に寄与することを目的とする。

- (3) 工学部電気電子工学科は、電気工学と電子工学に関する基礎から応用までの知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、研究を通して電気電子工学分野の発展に貢献することを目的とする。
- (4) 工学部建築学科は、建築及び都市環境の創造、生産、維持活動に関する知識と技術を有し、豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、建築・インテリア及び土木・環境分野の深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。
- (5) 情報学部情報システム学科は、情報処理システムや情報通信システムに関する知識と技術を有し、研究から得られる多彩な知恵と創造力をもつて、社会の多方面で活躍できる人材を育成することを目的とする。
- (6) 情報学部情報デザイン学科は、情報技術を活用した情報デザインに関わる基礎から応用までの専門知識を有し、社会の変化に対応して商品やサービスの魅力と価値を高められるデザイン能力を有する職業人を育成するとともに、情報デザインに関わる深い研究を通して新たな知識を創造することを目的とする。
- (7) 情報学部総合情報学科は、教育・研究を通して、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(大学院)

第4条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関しては、第2条の3及び第5条から第47条までの規定は適用せず、大学院に関する学則は、別に定める。

第3章 修業年限及び収容定員

(修業年限、在学年限)

第5条 本学学部の修業年限は、4年とし、在学年限は、8年とする。

(収容定員)

第6条 本学の収容定員は、次のとおりとする。

	学 科	収容定員	入学定員
工学部	機械工学科	480 名	120 名
工学部	機械システム工学科	440 名	110 名
工学部	電気電子工学科	360 名	90 名
工学部	建築学科	660 名	165 名
工学部	合 計	1,940 名	485 名
情報学部	情報システム学科	480 名	120 名
情報学部	情報デザイン学科	440 名	110 名
情報学部	総合情報学科	300 名	75 名
情報学部	合 計	1,220 名	305 名
	総 計	3,160 名	790 名

第4章 学年、学期及び休業日

(学年)

第7条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期及び授業期間)

第8条 学年を分けて、次の2学期とする。

前 期 4月1日から9月30日まで

後 期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、必要に応じて学期の期間を変更することがある。

3 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週にわたることを原則とする。

4 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合には、この期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 開学記念日5月10日

(4) 春季休業3月21日から4月2日まで

(5) 夏季休業8月1日から9月30日まで

(6) 冬季休業12月21日から1月9日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。

3 臨時の休業日は、その都度これを定める。

第5章 教育課程

(教育課程の編成)

第10条 教育課程は、本学の学部及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

3 各授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に区分し、これを各年次に配当して編成するものとする。

(授業科目及び単位数)

第10条の2 工学部及び情報学部の授業科目は、人間科学科目群の科目、専門基礎科目群の科目及び専門科目群の科目とする。

2 各学部学科の科目群の区分、授業科目、単位数及び授業科目の区分は、別表(1)及び別表(1)の2に定める。

(単位の計算方法)

第11条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により単位数を計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲の授業をもつて1単位とする。

(2) 実験、実習(製図を含む)及び実技については、30時間の授業をもつて1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、本学が定める時間の授業をもつて1単位とすることができる。

(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習(製図を含む)又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもつて1単位とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究については、その学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(授業の方法)

第 11 条の 2 授業は、講義、演習、実験、実習（製図を含む）若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 前項の授業は、外国において履修させることができる。

- 3 第 1 項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業の一部を校舎及び付属施設以外の場所で行うことができる。

(成績評価基準等の明示等)

第 11 条の 3 授業の方法及び内容並びに 1 年間の授業の計画は、学生に対してあらかじめ明示するものとする。

- 2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第 12 条 削除

(教職課程)

第 12 条の 2 本学に、教育職員免許法に基づく教員の免許状授与の所要資格を取得するための課程を置く。

- 2 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 3 教育職員免許状の取得に関する授業科目、単位数及び授業科目の区分は、別表 (2) のとおりとする。

- 4 各学部学科において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類及び免許教科は、別表 (2) の 2 のとおりとする。

第 6 章 履修の方法及び卒業の要件等

(履修の方法)

第 13 条 授業科目の履修の方法に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の授与及び成績の評価)

第 14 条 授業科目を履修した学生に対しては、学修状態を審査して、単位を与えるものとする。ただし、第 11 条第 2 項の授業科目については、本学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

- 2 授業科目の成績の評価は、当該授業科目の担当教員が行う。

- 3 成績は、秀、優、良、可又は不可の評語をもつて評価し、秀、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。

- 4 前項の規定にかかわらず、せけ及び卒業研究は、合格又は不合格をもつて評価する。

第 15 条 削除

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 16 条 教授会の審議を経て、学長が教育上有益として認めたものは、学生が本学に入学した後に他の大学又は短期大学との協議に基づき履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、本学の学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 17 条 本学の学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が

別に定める学修を、教授会の審議を経て、学長が教育上有益として認めたものは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第18条 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)のうち、教授会の審議を経て、学長が教育上有益と認めたものは、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が本学に入学する前に行つた前条第1項に規定する学修のうち、教授会の審議を経て、学長が教育上有益と認めたものを、本学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により、修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第16条第1項(同条第2項において準用する場合を含む。)及び前条第1項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(卒業の要件)

第19条 卒業の要件は、大学に4年以上在学し、124単位以上を修得することとする。

2 各学部学科の定める卒業の要件は、別に定める。

(学位授与)

第19条の2 本学を卒業した者に、学士の学位を授与する。

2 学位授与に関し必要な事項は、別に定める。

第7章 入学、学籍の異動

(入学時期)

第20条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第21条 本学に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育による12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により、他の大学に入学した者で、その後本学において、大学教

育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

- (9) 個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

(入学志願の手続)

第22条 入学志願者は、指定の期間内に入学検定料を納付のうえ、入学願書等、所定の書類を提出しなければならない。

(入学試験)

第23条 入学志願者に対しては、入学試験を行い、合格者を決定する。

2 入学試験に関する事項は、別に定める。

(入学手続及び入学許可)

第24条 前条の入学試験の結果に基づき、合格通知を受けた者で、本学に入学しようとする者は、指定の期間内に入学金、授業料等を納付のうえ、所定の書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に入学を許可する。

(再入学)

第25条 本学を退学した者及び第33条第1項第4号に定める除籍者で、再び入学を願い出たときは、選考のうえ原則として同一学科の相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定にかかわらず、懲戒による退学者の再入学は許可しない。

3 再入学に関する事項は、別に定める。

(転入学、編入学)

第26条 他の大学の学生で、当該大学の許可を得て本学に入学を志願する者があるときは選考のうえ相当年次に転入学を許可することがある。

2 次の各号の一に該当する者で、本学に入学を志願する者があるときは選考のうえ相当年次に編入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者

(2) 大学を途中退学した者

(3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(4) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)

(5) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)

(6) その他法令により編入学を認められた者

3 前2項に定めるほか転入学及び編入学に関する事項は、別に定める。

(転学部及び転学科)

第27条 本学の学生が他の学部に転学部を願い出たとき又は同一学部の他の学科に転学科を願い出たときは、選考のうえ許可することがある。

(転学)

第28条 学生が他の大学に転学しようとするときは、転学願を提出し、学長の許可を得て転学することができる。

(留学)

第 29 条 学生が第 16 条第 2 項の規定に基づき留学しようとするときは、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(休学)

第 30 条 病気その他やむを得ない事由により 2 か月以上修学できない場合には、休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 休学は、1 年以内とする。ただし、特別の事情があるときは、学長の許可を得て更に 1 年以内に限り休学することができる。

3 休学期間は、通算して 4 年を超えてはならない。

4 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第 31 条 休学期間内においてその事由が消滅したときには、復学願を提出し、学長の許可を得て復学することができる。

(退学)

第 32 条 学生が退学しようとするときは、退学願を提出し、学長の許可を得て退学することができる。ただし、懲戒による退学を除くものとする。

(除籍)

第 33 条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

- (1) 在学年限を超えた者
- (2) 長期にわたる欠席又は疾病その他の事由により成業の見込みがないと認められた者
- (3) 死亡又は行方不明となつた者
- (4) 学生納付金の納付を怠り、催告されてもなお納付しない者
- (5) 他の大学、短期大学又は高等専門学校に正規課程の学生として在籍していることが明らかになつた者

(復籍)

第 34 条 前条第 1 項第 4 号により除籍された者が除籍日の翌日から起算して 1 ヶ月以内に未納の学納金及び別に定める復籍料を納入の上復籍を願い出た場合は、復籍を許可することができる。

2 前項の規定による復籍日は、除籍日の翌日とする。

3 第 1 項の規定により復籍した者の再度の復籍は認めない。

第 8 章 入学検定料・学生納付金

(入学検定料)

第 35 条 入学検定料の額は、別表 (5) に定める。

2 すでに納付した入学検定料は、返付しない。

(学生納付金)

第 35 条の 2 学生納付金とは、次のものをいう。

- (1) 入学金
- (2) 授業料及び施設設備費 (以下「授業料等」という。)
- (3) その他諸納付金

2 学生納付金の額は、別表 (5) に定める。

3 すでに納付した学生納付金は、原則として返付しない。

4 停学を命ぜられた者は、停学期間中であっても学生納付金を納付しなければならない。

5 学生納付金の納付手続きに関する事項は、別に定める。

(学生納付金の特別な取扱等)

第 35 条の 3 編入学、転入学及び再入学を許可された者は、別表 (5) に定める入学金を納付しなければならない。

2 卒業研究を修得した者であつて、修業年限を越え、なお在学する者は、授業料等の納付に代え、別表 (5) に定める学生納付金の特例を受けることができる。

3 復籍を許可された者は、別表 (5) に定める復籍料を納付しなければならない。

(学生納付金の免除)

第 36 条 休学を許可された者の休学期間中の学生納付金は、別表 (5) に定める在籍料とし、授業料等を免除する。ただし、学期の途中に休学又は復学する場合には、この限りではない。

2 学生納付金の納付期限の延長を許可され、学生納付金が未納の状態にある者が退学する場合は、未納の学生納付金を免除する。

3 学生納付金が未納の状態にある者で第 33 条第 3 号又は第 4 号により除籍となつた者は、未納の学生納付金を免除する。

4 学生納付金の納付が極めて困難な者であつて、学業に精励し、人格、操行優秀な者に対しては、願い出により選考のうえ学生納付金の一部又は全部を免除することができる。

第 9 章 奨学生

(奨学生)

第 37 条 本学に、奨学生制度を設ける。

2 奨学生制度に関する事項は、別に定める。

第 10 章 賞罰

(表彰)

第 38 条 学長は、他の模範となる学生を表彰することがある。

2 表彰に関する事項は、別に定める。

(懲戒)

第 39 条 学長は、学生が法令若しくは本学の規則に違反したとき又は学生の本分に反する行為をしたときは、懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者についてこれを行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

4 前 3 項に規定するほか、学生の懲戒に関する事項は別に定める。

第 11 章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生、委託学生、委託生、外国人留学生

(科目等履修生)

第 40 条 本学の授業科目の履修を願い出た者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ科目等履修生として入学を許可することがある。

(特別聴講学生)

第 40 条の 2 他の大学の学生で、本学の授業科目の履修を願い出た者があるときは、当該他の大学との

協議に基づき、教授会の審議を経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。

(研究生)

第 41 条 本学において特定の専門事項につき研究を願い出た者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ研究生として入学を許可することがある。

(委託学生)

第 42 条 会社等からの委託により、本学の学生として入学することを願い出た者があるときは、選考のうえ委託学生として入学を許可することがある。

(委託生)

第 42 条の 2 会社等からの委託により、本学の授業科目の履修を願い出た者があるときは、選考のうえ委託生として入学を許可することがある。

(外国人留学生)

第 43 条 外国人で、本学に入学を願い出た者があるときは、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

(関係規程)

第 44 条 前 6 条に規定する科目等履修生、特別聴講学生、研究生、委託学生、委託生及び外国人留学生に関する事項は、別に定める。

第 12 章 職員組織

(職員組織)

第 45 条 本学に次の職員を置く。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 教授、准教授、講師、助教、助手、技術職員、事務職員

(職制、業務処理)

第 46 条 本学の職制及び業務処理に関する事項は、別に定める。

第 13 章 教授会

(教授会)

第 47 条 本学に、教授会を置く。

2 教授会に関する事項は、別に定める。

第 14 章 図書館及びセンター

(図書館及びセンター)

第 48 条 本学に図書館及び創造製作センター並びに次の各号に掲げる附属施設を置く。

- (1) 授業開発センター
- (2) 学習支援センター
- (3) 研究支援センター

2 図書館及びセンターに関する事項は、別に定める。

第 15 章 公開講座

(公開講座)

第 49 条 本学は、地域社会の教育文化の発展に貢献するため、公開講座を設ける。

第 16 章 厚生補導等

(厚生補導)

第 50 条 学生の厚生補導に関する規程は、別に定める。

(厚生施設等)

第 50 条の 2 本学に、厚生施設等を設ける。

2 厚生施設等に関する事項は、別に定める。

(学校医)

第 51 条 学生の保健及び衛生のため、学校医を委嘱する。

2 学校医は、毎年身体検査を行うとともに、保健及び衛生について指導する。

(学生会)

第 52 条 本学は、学生会の設立を許可し、自治精神の涵養及びその実践を促進する。

< 省 略 >

<別表 5 を除き省略>

別表 (5) 入学検定料・学生納付金 (第 35 条・第 35 条の 2・第 35 条の 3・第 36 条関係)

1. 入学検定料

納付金種別	金 額
入学検定料	35,000 円

入学検定料の減額に関することは、別に定める。

2. 学生納付金

(1) 入学金

第 24 条に規定する入学並びに第 26 条に規定する編入学及び転入学は 300,000 円とし、
第 25 条に規定する再入学は 150,000 円とする。

(2) 授業料及び施設設備費

①工学部

納付金種別	金 額			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
授業料	890,000 円	910,000 円	930,000 円	950,000 円
施設設備費	315,000 円	325,000 円	335,000 円	345,000 円
計	1,205,000 円	1,235,000 円	1,265,000 円	1,295,000 円

②情報学部

ア 情報システム学科及び情報デザイン学科

納付金種別	金 額			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
授業料	890,000 円	910,000 円	930,000 円	950,000 円
施設設備費	315,000 円	325,000 円	335,000 円	345,000 円
計	1,205,000 円	1,235,000 円	1,265,000 円	1,295,000 円

イ 総合情報学科

納付金種別	金 額			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
授業料	690,000 円	710,000 円	730,000 円	750,000 円
施設設備費	315,000 円	325,000 円	335,000 円	345,000 円
計	1,005,000 円	1,035,000 円	1,065,000 円	1,095,000 円

(3) その他諸納付金

①復籍料

30,000 円とする。

②学生納付金の特例

履修登録 1 単位あたり 40,000 円とする。

③休学時の在籍料

年額 60,000 円とする。

ただし、前期又は後期の休学を許可された場合の在籍料は、年額の 2 分の 1 とする。

④教職課程履修料

1 免許毎 18,000 円とする。

大同大学再入学規程

(平成 23 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 25 条第 3 項の規定に基づく再入学については、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第 2 条 再入学試験の出願資格を有する者は、次の各号の一に該当する者で、退学又は除籍日の翌日から起算して 5 年以内の者とする。

- (1) 学則第 32 条により退学した者
- (2) 学則第 33 条第 1 項第 4 号により除籍された者

(出願できる学科)

第 3 条 再入学試験を出願できる学科は、在学時に所属した学科とする。

2 前項の規定にかかわらず、組織の改廃等に伴い在学時の所属学科が存在しない場合には、同系の学科に出願することができる。

(入学時期)

第 4 条 再入学の時期は、学年の始めとする。

(入学年次)

第 5 条 再入学の入学年次は、退学時又は除籍時の年次とする。

2 前項の規定にかかわらず、選考の結果、退学時又は除籍時の年次に再入学させることが適当でないと認められる者については、相当年次に再入学させることがある。

(出願手続)

第 6 条 再入学試験を出願する者は、入学検定料を指定の期日までに振込み、再入学試験要項に定める書類を所定の期間内に願出しなければならない。

(選考)

第 7 条 再入学試験出願者の選考は、書類審査、面接試験等による総合評価により行い、教授会の審議を経て学長が決定する。

2 前項の規定のほか選考の実施に関し必要な事項は、再入学試験要項に定める。

(入学手続)

第 8 条 再入学試験に合格し大同大学に入学しようとする者は、指定の期日までに所定の書類を提出し、学生納付金等を納付しなければならない。

(入学許可)

第 9 条 学長は、前条の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(既修得単位の認定)

第 10 条 再入学した者の大同大学において既に修得した授業科目及び単位の認定については、許可学年次の学生に適用されている教育課程の科目及び単位数として、当該学科及び教養部で審査の上、教授会の審議を経て、学長が行う。

2 前項の授業科目の成績評価は、次の各号のとおりとする。

- (1) 再入学した者の退学又は除籍以前の教育課程が、許可学年次の学生に適用されている教育課程と同一の場合には、転載する。

(2) 再入学した者の退学又は除籍以前の教育課程が、許可学年次の学生に適用されている教育課程と同一でない場合には、認定と記載する。

(在学年限)

第 11 条 再入学した者の在学年限は、学則第 5 条に規定する期間から、退学又は除籍以前の在学期間を差し引いた期間とする。

2 退学又は除籍以前の在学期間に 6 ヶ月未満の端数があるときは、その端数を切り捨てる。

(休学期間)

第 12 条 再入学した者の休学期間は、学則第 30 条第 3 項に規定する期間から、退学又は除籍以前の休学期間を差し引いた期間とする。

(履修指導)

第 13 条 再入学した者は、卒業までに修得すべき授業科目等について指導教員から履修指導を受けなければならない。

(適用学則等)

第 14 条 再入学した者には、許可学年次の学生に適用している学則及び諸規程を適用する。

(規程の改廃)

第 15 条 この規程の改廃は、第 1 条から第 4 条、第 6 条から第 9 条、第 14 条及び第 15 条にあつては、入試・広報委員会の、第 5 条及び第 10 条から第 13 条にあつては、教務委員会の審議をそれぞれ経るものとする。

附 則

< 省 略 >

大同大学科目等履修生規程

(平成 5 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則 (以下「学則」という。) 第 44 条の規定に基づく大同大学 (以下「本学」という。) の科目等履修生については、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第 2 条 科目等履修生の出願資格は、高等学校以上を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

2 教育職員の免許その他法令に定める資格を得るために科目等履修生として出願する者は、その基礎資格を有する者とする。

(出願手続)

第 3 条 科目等履修生を出願する者は、入学検定料を納付のうえ、次の各号の書類を提出しなければならない。

- (1) 入学願書 (本学所定の用紙)
- (2) 履歴書
- (3) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書
- (4) 健康診断書 (本学所定の用紙)

(選考方法)

第 3 条の 2 出願者が履修を希望する授業科目を担当する学科等は、書類による選考を行う。

(入学許可)

第 4 条 科目等履修生の入学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。

(入学時期及履修期間)

第 5 条 科目等履修生の入学の時期は、学期の始めとする。

2 科目等履修生の履修期間は、1 年以内とする。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。

(入学検定料及び納付金)

第 6 条 入学を許可された者は、所定の手続きをとり、登録料及び授業料 (以下「納付金」という。) を所定の期限までに納付しなければならない。

2 入学検定料及び納付金並びにその免除については、別に定める。

(単位の授与)

第 7 条 科目等履修生が履修した授業科目に合格した場合には、所定の単位を授与する。

(単位修得証明書)

第 8 条 前条の規定により単位を認定された者に対しては、本人の申請により、単位修得証明書を発行する。

(規定の準用)

第 9 条 この規定に定めるもののほか、本学の学則及び諸規程を準用する。

附 則

< 省 略 >

大同大学特別聴講学生規程

(平成 23 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 44 条の規定に基づく大同大学(以下「本学」という。)の特別聴講学生(以下「聴講学生」という。)に関する事項については、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第 2 条 本学が開避難所講する一又は複数の授業科目について、聴講学生として履修を志願することができる者は、本学との間に授業科目の履修に関する協定を締結した他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学(以下「他の大学等」という。)に在籍し、当該大学が本学における聴講学生として履修を志願することを許可した者とする。

2 前項に規定する授業科目とは、次に掲げる各号に規定する授業科目とする。

- (1) 学則第 10 条の 2 第 2 項及び第 12 条の 2 第 3 項に規定する各教育課程表の授業科目
- (2) 他の大学等との個別の協議に基づき本学が特別に開設する授業科目

(受入時期)

第 3 条 聴講学生の受入時期は、学期の始めとする。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めた場合は、学期の始めとしないことができる。

(出願手続)

第 4 条 聴講学生として履修を志願するもの(以下「志願者」という。)は、所定の願書に履修を志願する授業科目の名称、単位数及び履修期間を記入し、志願者が属する大学等の長が発行した出願許可書を添えて、学長に願出するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、第 2 条第 2 項第 2 号の授業科目の履修を志願する場合にあっては、他の大学等との協議に基づく出願手続とすることができる。

(受入許可)

第 5 条 聴講学生の受入許可は、他の大学等からの依頼に基づき、聴講授業科目担当教員の承認を得た者について、選考のうえ、教授会の審議を経て学長が行なう。

2 学長は、聴講学生の受入を許可したときは、志願者が属する大学等の学長を経て本人に通知するものとする。

3 学長は、受入を許可した者に、その身分を証する証明書を交付することができる。

(履修手続)

第 6 条 前条の許可を受けた者は、所定の履修手続を行わなければならない。

(在籍期間)

第 7 条 聴講学生の在籍期間は、履修する授業科目の履修期間とする。

(成績評価)

第 8 条 聴講学生が履修した授業科目の成績の評価については、本学学則第 14 条を準用する。

2 学長は、前項の成績評価について、聴講学生が属する大学等の学長を経て本人に通知するものとする。

(履修中止)

第 9 条 聴講学生が病気その他の理由により聴講学生としての履修を中止しようとするときは、本学学長に願出、その許可を受けなければならない。

(入学検定料及び納付金)

第10条 聴講学生の入学検定料及び納付金については、別に定める。

(学則等諸規程の準用)

第11条 聴講学生については、本規程に定めるものの他、必要に応じ、本学学生に関する規定を準用する。

附 則

< 省 略 >

大同大学研究生規程

(昭和 42 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則 (以下「学則」という。) 第 44 条の規定に基づく大同大学 (以下「本学」という。) の研究生については、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第 2 条 研究生の出願資格は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(予備審査)

第 3 条 研究生を出願する者は、予備審査を受審しなければならない。

2 予備審査を受審する者は、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

- (1) 研究題目・研究内容
- (2) 出願理由説明書
- (3) 履歴書
- (4) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書

3 研究生を受け入れる当該学科等は、前項に定める書類により予備審査を行う。

(出願手続)

第 3 条の 2 前条第 3 項に規定する予備審査に合格した者は、入学検定料を納付のうえ、次の各号の書類を提出しなければならない。

- (1) 入学願書 (本学所定の用紙)
- (2) 履歴書
- (3) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書
- (4) 健康診断書 (本学所定の用紙)

(選考方法)

第 3 条の 3 出願者を受け入れる当該学科等は、書類及び面接等による選考を行う。

(入学許可)

第 4 条 研究生の入学は、教授会の審議を経て、学長が許可する。

(入学時期及び研究期間)

第 5 条 研究生の入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別の事情がある場合はこの限りでない。

2 研究生の研究期間は、1 年以内とする。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。

(入学検定料及び納付金)

第 6 条 入学を許可された者は、所定の手続きをとり、登録料及び授業料 (以下「納付金」という。) を所定の期限までに納付しなければならない。

2 入学検定料及び納付金並びにその免除については、別に定める。

(規定の準用)

第 7 条 この規程に定めるもののほか、本学の学則及び諸規程を準用する。

附 則

< 省 略 >

大同大学委託学生規程

(平成 12 年 10 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則 (以下「学則」という。) 第 44 条の規定に基づき、大同大学 (以下「本学」という。) の委託学生について、必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規程において委託学生とは、企業等 (以下「委託企業等」という。) からの委託により、当該委託企業等の従業員等を、その身分を保持させたまま、本学の学部学生として入学し修学する者をいう。

(出願資格)

第 3 条 委託学生の入学資格は、学則第 21 条による。

(入学志願の手続)

第 4 条 委託企業等は、委託学生として本学に入学させようとする者があるときは、学則第 35 条に規定する入学検定料を納付のうえ、次の各号の書類を指定の期間内に提出しなければならない。

- (1) 入学願書
- (2) 調査書
- (3) 委託企業等の推薦書
- (4) 委託企業等における経歴書

(入学試験)

第 5 条 入学志願者に対しては、入学試験を行い、合格者を決定する。

(入学手続及び入学許可)

第 6 条 委託企業等は、当該入学志願者の合格通知を受領したとき、指定の期間内に学則第 35 条の 2 に規定する学生納付金を納付のうえ、所定の書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続が完了した者に、入学を許可する。

(修学の状況等)

第 7 条 委託学生の修学の状況について、委託企業等の要請があつたときは、成績及び出欠状況等を委託企業等に通知するものとする。

2 春季又は夏季等の休業期間中等において、委託企業等から特別の研究指導等の要請があつたときは、研究指導等を行うことができる。

(受託の取止め)

第 8 条 委託学生が学修意欲に乏しく、修学が困難と認められる場合には、学長は、当該委託企業等と協議のうえ、教授会の審議を経て、受託を取止めることができる。

(委託の取止め)

第 9 条 委託企業等が委託学生の委託を取止めることを願い出た場合は、学長は、教授会の審議を経て、委託の取止めを承認することができる。

(規程の改廃)

第 10 条 この規程の改廃は、入試・広報委員会の審議を経るものとする。

附 則

< 省 略 >

大同大学委託生規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則(以下「学則」という。)第 44 条の規定に基づき、大同大学(以下「本学」という。)の委託生について、必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規程において委託生とは、企業等(以下「委託企業等」という。)からの委託により、当該委託企業等の従業員等を、その身分を保持させたまま、本学が開講する授業科目を履修する者をいう。

2 委託生の修業年限は、1 年又は 2 年とする。

(出願資格)

第 3 条 委託生の出願資格は、高等学校を卒業又はこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(出願手続)

第 4 条 委託企業等は、委託生として本学に入学させようとする者があるときは、入学検定料を納付のうえ、次の各号の書類を指定の期間内に提出しなければならない。

(1) 入学願書

(2) 調査書

(3) 委託企業等の推薦書

(4) 委託企業等における経歴書

(選考方法)

第 5 条 出願者を受け入れる当該学科等は、書類及び面接等による選考を行う。

2 学長は、前項の選考結果に基づき、教授会の審議を経て、合格者を決定する。

(入学手続及び入学許可)

第 6 条 委託企業等は、当該出願者の合格通知を受領したとき、指定の期間内に納付金を納付のうえ、所定の書類を提出しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きが完了した者に、委託生として入学を許可する。

(入学時期)

第 7 条 委託生の入学時期は、学年の始めとする。

(授業科目の履修)

第 8 条 委託生は、履修しようとする授業科目を、本学の教育課程表から選択し、学期ごとに申請しなければならない。

(修了の要件等)

第 9 条 委託生の修了の要件は、履修した授業科目の成績評価を受け、修了判定に合格することとする。

2 学長は、前項の修了判定に合格した者に、修了証書を授与する。

(入学検定料及び納付金)

第 10 条 委託生の入学検定料及び納付金については、別に定める。

(修学の状況等)

第 11 条 委託生の修学の状況について、委託企業等から要請があったときは、成績及び出欠状況等を

委託企業等に通知するものとする。

- 2 春季又は夏季等の休業期間中等において、委託企業等から特別の研究指導等の要請があったときは、研究指導等を行うことができる。

(受託の取止め)

第12条 委託生が学修意欲に乏しく、修学が困難と認められる場合には、学長は、当該委託企業等と協議のうえ、教授会の審議を経て、受託を取止めることができる。

(委託の取止め)

第13条 委託企業等が委託生の委託を取止めることを願い出た場合は、学長は、教授会の審議を経て、取止めを了承することができる。

(規程の準用)

第14条 委託生には、この規程に定めるもののほか、学則及び諸規程を準用する。

(所管事務)

第15条 委託生に関する事務は、教務室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学外国人留学生規程

(昭和 62 年 5 月 12 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則 (以下「学則」という。) 第 44 条の規定に基づき、大同大学 (以下「本学」という。) の外国人留学生に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 外国人留学生とは、出入国管理及び難民認定法 (昭和 26 年 10 月 4 日政令第 319 号) 別表第 1 に規定する「留学」の在留資格により、本学に入学を許可された者をいう。

(外国人留学生の区分)

第 3 条 外国人留学生の区分は、次の各号のとおりとする。

- (1) 学則第 24 条により入学を許可された者 (以下「学部学生」という。)
- (2) 科目等履修生
- (3) 特別聴講学生
- (4) 研究生

(学部学生の入学志願の手続)

第 4 条 学部学生として入学を志願する者は、学則第 22 条に定めるほか、次の各号に定める書類を添えて願出しなければならない。

- (1) 履歴書
- (2) 最終出身学校の卒業 (修了) 証明書及び学業成績証明書
- (3) 独立行政法人日本学生支援機構の行う日本留学試験において、本学が別に指定する科目を受験していることが証明できる書類
- (4) 志願理由説明書
- (5) 在留資格を証明する書類
- (6) 身元保証書

(学部学生の選考)

第 5 条 学部学生の入学志願者の選考は、書類審査及び面接試験による総合評価により行い、教授会の審議を経て学長が決定する。

2 前項に定めるほか、選考の実施に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生の出願手続)

第 6 条 科目等履修生の出願手続は、大同大学科目等履修生規程第 3 条の規定によるほか、次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 在留資格を証明する書類
- (2) 身元保証書

(特別聴講学生の出願手続)

第 7 条 特別聴講学生の出願手続は、大同大学特別聴講学生規程第 4 条の規定によるほか、次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 在留資格を証明する書類
- (2) 身元保証書

(研究生の出願手続)

第8条 研究生の出願手続は、大同大学研究生規程第3条の2の規定によるほか、次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 在留資格を証明する書類

(2) 身元保証書

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、第1条から第3条及び第9条にあっては入試委員会及び教務委員会の、第4条及び第5条にあっては入試・広報委員会の、第6条から第8条にあっては教務委員会の審議をそれぞれ経るものとする。

附 則

< 省 略 >

プレイスメントテスト要項

(平成 17 年 12 月 12 日制定)

(趣旨)

1. この要項は、プレイスメントテストの目的、位置付け、実施科目、運営方法等について定める。

(目的・位置付け)

2. プレイスメントテストは、本学に入学した学部学生の基礎学力を正確に把握するとともに、その結果を習熟度別教育、リメディアル教育、授業内容の見直し等に活用することにより、本学教育の一層の改善に資することを目的に、全学共通に実施する。

(対象学生)

3. プレイスメントテストは、本学学部に入学者が受験するものとする。

(実施科目)

4. プレイスメントテストの実施科目は、英語、数学、理科（物理および化学）とする。

(受験科目)

5. 第 3 項の対象学生が受験する科目は、次のとおりとする。

学部	学科	専攻	科目
工学部	機械工学科		英語、数学、理科（物理および化学）
	機械システム工学科		
	電気電子工学科		
	建築学科	建築専攻	
		インテリアデザイン専攻	
		土木・環境専攻	
		かおりデザイン専攻	
情報学部	情報システム学科	コンピュータサイエンス専攻	英語、数学
		情報ネットワーク専攻	
	情報デザイン学科	メディアデザイン専攻	
		プロダクトデザイン専攻	
	総合情報学科	経営情報専攻	

(配点・試験時間・試験内容等)

6. 試験時間・試験内容は、次表のとおりとする。

時限	教科	試験時間	試験範囲の目安
第 1 時限	英語	30 分	「コミュニケーション英語Ⅰ」
第 2 時限	数学	70 分	「数学Ⅰ」(数と式、図形と計量[三角比]、二次関数)、「数学A」(場合の数と確率)、「数学Ⅱ」(いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分の考え)、「数学B」(数列、ベクトル)
第 3 時限	理科	50 分	「物理基礎」「物理」「化学基礎」

試験問題の作成に当たっては、経年変化が捉えられるよう配慮するものとする。

(実施日)

7. プレイスメントテストの実施日については、別に定める。

(テスト結果の管理及び利活用)

8. テスト結果は、指導教員に通知するものとする。
9. テスト結果（データ）は、教務部において厳格に管理するものとする。
10. テスト結果（データ）は、本テストの目的以外には利活用できないものとする。
11. テスト結果（データ）の利活用をしようとする者は、教務部所定の申請書により申請し、教務部長の承認を受けなければならない。

附 則

< 省 略 >

大同大学工学部履修規程

(平成 16 年 4 月 1 日施行)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則 (以下「学則」という。) 第 13 条の規定に基づき平成 13 年度以降の工学部入学生、授業科目の履修及び単位の修得方法について必要な事項を定める。

第 2 条 削除

(単位の計算方法)

第 3 条 学則第 11 条第 1 項第 1 号に規定する講義及び演習の授業科目は、15 時間の授業をもつて 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる授業科目にあつては、当該授業による教育効果等を考慮し、当該各号に掲げる授業時間をもつて 1 単位とする。

(1) 次の表の右欄に掲げる授業科目にあつては、30 時間の授業をもつて 1 単位とする。

区 分	授 業 科 目
人間科学科目群	ファーストyearゼミ、基礎英語ゼミ、基礎英語グラマー 1、基礎英語グラマー 2、基礎英語リーディング 1、基礎英語リーディング 2、コミュニケーション英語 1、コミュニケーション英語 2、コミュニケーション英語 3、コミュニケーション英語 4、ドイツ語入門 1、ドイツ語入門 2、健康科学演習 A、健康科学演習 B
専門基礎科目群	基礎数学ゼミ、基礎理科ゼミ (以上、全学科)、情報リテラシ (以上、建築学科)
専門科目群	機械入門ゼミ、機械ゼミ (以上、機械工学科)、機械システム入門ゼミ (以上、機械システム工学科)、電気電子入門ゼミ (以上、電気電子工学科)、建築・インテリア入門ゼミ、土木・環境入門ゼミ、エレクトロニクス、かおりデザイン入門ゼミ、キャリア開発 1、キャリア開発 2、キャリア開発 3、キャリア開発 4 (以上、建築学科)

(2) 次の表の右欄に掲げる授業科目にあつては、20 時間の授業をもつて 1 単位とする。

区 分	授 業 科 目
専門科目群	建築設計 1、建築設計 2、建築設計 3、建築設計 4、建築設計 5、インテリア設計 1、インテリア設計 2、インテリア設計 3、インテリア設計 4、都市環境設計、ランドスケープ設計、ビオトープ設計、道路空間設計 (以上、建築学科)

3 学則第 11 条第 2 項に規定する卒業研究については、単位数を 6 単位とする。

(履修申請)

第 4 条 履修申請は、所定の期間内に定められた方法で自己の責任によって行わなければならない。

2 正当な理由がなく、所定の期間内に履修申請を行わなかった授業科目は、履修を許可しない。

3 不合格となつた授業科目の単位を修得しようとする者は、あらためて履修申請し、再履修しなければならない。

4 履修申請した授業科目は、必ず「履修申請確認表」で確認しなければならない。

(履修申請の変更)

第 4 条の 2 履修申請した授業科目は、所定の期間内に定められた方法によつて、変更することができる。

2 前項の規定にかかわらず、授業科目によつては履修申請を変更できないことがある。

3 正当な理由がなく、所定の期間内に履修申請の変更を行わなかった授業科目は、履修申請の変更を許可しない。

4 履修申請を変更した授業科目は、必ず「履修申請確認表」で確認しなければならない。

(履修登録単位数の制限)

第 5 条 各学期に、人間科学科目群、専門基礎科目群及び専門科目群の中から履修登録できる単位数は、22 単位を上限とする。

2 前項に定める上限単位数には、次の各号に定める科目又は授業の単位は含めないものとする。

- (1) 自由科目
- (2) 定期に開講しない授業科目
- (3) 定期に開講しない授業

3 前 2 項の規定にかかわらず、次の各号に定める単位数については、それぞれ上限単位数に加え履修登録することができる。

- (1) 既に履修した授業科目のうち、評価が「不可」又は「不合格」となつた科目を再履修する場合については、4 単位まで。
- (2) 前学期において優れた成績をもつて単位を修得した場合には、4 単位まで。

4 前項第 1 号及び第 2 号に関する規程は、別に定める。

(履修の制限)

第 5 条の 2 授業科目の履修は、次の制限に従わなければならない。

- (1) 上級年次に開講される授業科目を履修することはできない。
- (2) 同一時限に開講されている授業科目を重複して履修することはできない。
- (3) 既に履修し、単位を付与された授業科目については再履修することはできない。
- (4) 先修条件が設定される授業科目にあつては、先修条件を満たさなければ当該授業科目を履修することはできない。
- (5) 履修クラスが設定される授業科目にあつては、原則該当のクラスを履修しなければならない。

(履修区分)

第 5 条の 3 次の表の左欄に掲げる学科に専門科目の履修上の区分として、右欄に掲げる専攻を設ける

学科	専攻
建築学科	建築専攻、インテリアデザイン専攻、土木・環境専攻、かおりデザイン専攻

2 前項に掲げる学科に所属する者は、いずれかの専攻を履修しなければならない。

3 同一学科内の他の専攻に転専攻を希望する者は、転専攻を願い出なければならない。

4 転専攻に関し必要な事項は、別に定める。

(開講科目)

第 6 条 学則第 10 条の 2 第 2 項別表 (1) 及び学則第 12 条の 2 第 3 項別表 (2) に規定する各授業科目の週授業時間数、履修年次及び開講期については、それぞれ別表 (1) 及び別表 (1) の 2 のとおりとする。

2 授業科目によつては、教務委員会の審議により、年度によつて開講しないことがある。

(他学部及び他学科等授業科目の履修)

第 7 条 学生は、所属する学部の学科の開講する科目 (第 5 条の 3 第 1 項各号の学科にあつては専攻の開講する科目) のほか、所属する学部の他の学科 (第 5 条の 3 第 1 項各号の学科にあつては他の専攻) 及び他の学部の学科の開講する次の各号に定める科目を履修することができる。

(1) 専門基礎科目群の科目(工学部各学科の専門基礎科目群の自然科学系及び工学基礎系の同一名称科目を除く)

(2) 専門科目群の科目

2 前項に定める科目の履修を希望する者は、当該科目を開講する学科等の長の許可を受けなければならない。

3 前項において履修を許可された科目の履修及び修得単位の各取扱については、別表(4)のとおりとする。

(履修人員の制限)

第8条 開講される各授業科目の履修人員は、講義室等の収容人員の都合により制限することがある。

(授業出席の義務)

第8条の2 学生は、授業担当教員の指示に基づき、履修登録した授業に出席しなければならない。

2 授業出席回数が不足した場合には、単位を修得できないことがある。

(授業欠席の特別な取扱)

第8条の3 学生が、やむを得ない事由により授業を欠席する場合には、授業欠席の特別な取り扱いを認めることがある。

2 前項に規定する学生の授業欠席の特別な取り扱いに関する事項は、別に定める。

(休講)

第8条の4 大学又は授業担当教員の事情により、授業を休講する場合がある。

2 前項に規定する休講については、原則として補講を行う。

3 暴風警報の発令、公共交通機関の運休、東海地震予知情報の発令等に伴う授業の休講に関する規程は、別に定める。

(緊急時の授業休講)

第8条の5 気象警報が発令された場合等の緊急時に授業を休講することがある。

2 前項に規定する授業休講の取り扱いに関する事項は、別に定める。

(学修状態の審査)

第9条 学則第14条第1項に規定する学修状態の審査は、試験によるものとする。

2 前項に規定する試験の方法は、筆記試験またはレポート等とする。

3 第1項の規定にかかわらず、学生の学修状況の総合的な審査をもつて、試験に代えることができる。

(試験の種類)

第10条 試験は、期末試験、追試験、特別追試験とする。

2 期末試験は、各学期末に行う試験をいう。

3 前項に規定する期末試験を分け、通常期末試験及び特別期末試験とする。

4 追試験は、病気(次項に定める公認欠席を除く)、事故、公共交通機関の延着その他やむを得ない理由により期末試験を受験できなかった者に対し行う試験をいう。

5 特別追試験は、期末試験の時間割において、受験科目が同一時限に重なり受験できない科目がある場合及び公認欠席により期末試験を受験できなかった者に対し行う試験をいう。

6 追試験及び特別追試験を受験しようとする者は、所定の手続きを指定の期間に行わなければならない。

7 追試験、特別追試験を受験しなかった者に対する追試験、特別追試験は行わない。

(受験資格)

第 11 条 次の各号に該当する者は、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする科目を履修申請していない者
- (2) 学生証を携帯していない者
- (3) 試験開始後 30 分以上遅刻した者
- (4) 学納金を未納の者

(受験の遵守事項)

第 12 条 第 10 条に定める試験を受験しようとする者は、試験室において、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- (1) 試験室においては、監督者の指示に従わなければならない。
- (2) 試験開始 30 分経過後は、試験室に入室することができない。
- (3) 試験室では、学生証を机上に置かなければならない。学生証を所持しない者は、受験することができない。
- (4) 筆記用具及び許可された物を除くすべての携帯品は、監督者が指定する場所に置かなければならない。
- (5) 携帯電話等は電源を切り、鞆等の中にしまわなければならない。(時計としての使用も不可。)
- (6) 試験中に質問その他の用件があるときは、挙手し監督者に申し出なければならない。
- (7) 答案用紙は、解答の有無にかかわらず学籍番号及び氏名を記入しなければならない。また、監督者が指定する場所に提出し、試験室外に持ち出してはならない。

(不正行為)

第 13 条 第 10 条の受験に際し次の各号の一に該当する行為を行つた者は、不正行為者とみなし、学生証、答案及び証拠となる物件を取り上げ退場を命じる。

- (1) 他人に受験を依頼すること又はこれを引き受けること。
- (2) 監督者の許可なく行動すること、又、監督者の制止を無視して行動すること。
- (3) 持ち込みを許可されていない物品(ノート、メモ、教科書、参考書等)及び電子機器(電子辞書、パソコン等)を使用すること。
- (4) 他の学生の答案を参照すること又は他の学生に答案を参照させること。
- (5) 言語・動作又は通信機器等により学生同士で互いに連絡すること。
- (6) 許可なく他の学生に物品を貸与すること。
- (7) 他の学生の不正行為を助けること。
- (8) 試験開始後 30 分以内に退室すること。
- (9) 監督者の指示に違反すること。
- (10) 身体、所持品及び机等身の回りの物品に文字等を記載し試験中に参照すること又はそれを参照できるような状態で受験すること。
- (11) 他人と答案の交換を行うこと。
- (12) その他不正行為とみなされる行為を行うこと。

2 不正行為を行つた者に対しては、当該学期に履修した授業の内、第 10 条に定める試験を実施した授業は不合格とし、かつ、学則第 39 条により、懲戒する。

3 前項において不合格となつた科目の成績評価の評語は、欠席とする。

(成績評価の基準)

第 14 条 学則第 14 条第 3 項の成績評価の基準は、原則として次による。

秀	100 点より 90 点まで
優	89 点より 80 点まで
良	79 点より 70 点まで
可	69 点より 60 点まで
不可	59 点以下

2 前項の規定にかかわらず、試験を欠席または棄権した場合の評語は、欠席とする。

(試験結果の発表及び成績評価の確認)

第 15 条 試験の結果は、「試験結果通知書」によつて通知する。

2 前項の試験結果通知書において、成績評価に疑問がある者は、所定の期間内に教務部長に成績評価の確認を願い出ることができる。

(学修指導)

第 15 条の 2 学生の学業成績が、学科の定める基準を下回る場合には、指導教員による学修指導を受けなければならない。

(卒業研究履修基準)

第 16 条 卒業研究を履修するためには、別表 (2) の条件を満たさなければならない。

(卒業の要件)

第 17 条 卒業に必要な単位数は、学則第 19 条のとおりとし、各学科の定める卒業の要件は別表 (3) のとおりとする。

2 卒業の要件として認めることができる授業科目の区分は、必修科目及び選択科目とする。

(細則)

第 18 条 この規程に定めるもののほか、履修に関する事項は、細則に定める。

附 則

< 省 略 >

別 表

< 省 略 >

大同大学情報学部履修規程

(平成 18 年 3 月 9 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則 (以下「学則」という。) 第 13 条の規定に基づき平成 14 年度以降の情報学部入学生の、授業科目の履修及び単位の修得方法について必要な事項を定める。

第 2 条 削除

(単位の計算方法)

第 3 条 学則第 11 条第 1 項第 1 号に規定する講義及び演習の授業科目は、15 時間の授業をもつて 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の表の右欄に掲げる授業科目にあつては、当該授業による教育効果等を考慮し、30 時間の授業をもつて 1 単位とする。

区分	授業科目
人間科学科目群	ファーストイヤーゼミナ、基礎英語ゼミナ、基礎英語文法 1、基礎英語文法 2、基礎英語リーディング 1、基礎英語リーディング 2、コミュニケーション英語 1、コミュニケーション英語 2、コミュニケーション英語 3、コミュニケーション英語 4、ドイツ語入門 1、ドイツ語入門 2、健康科学演習 A、健康科学演習 B、社会実践 1、社会実践 2
専門基礎科目群	情報システム入門ゼミナ、基礎数学ゼミナ、基礎理科ゼミナ (以上、情報システム学科)、情報デザイン入門ゼミナ、情報デザイン特別活動 A、情報デザイン特別活動 B、情報デザイン特別活動 C、情報デザイン特別活動 D、専門ゼミナ 1、専門ゼミナ 2、情報デザイン研究 1、情報デザイン研究 2 (以上、情報デザイン学科)、総合情報入門ゼミナ (以上、総合情報学科)
専門科目群	キャリア開発 1、キャリア開発 2、キャリア開発 3、キャリア開発 4 (以上、総合情報学科)

3 学則第 11 条第 2 項に規定する卒業研究については、単位数を 6 単位とする。

(履修申請)

第 4 条 履修申請は、所定の期間内に定められた方法で自己の責任によつて行わなければならない。

2 正当な理由がなく、所定の期間内に履修申請を行わなかった授業科目は、履修を許可しない。

3 不合格となつた授業科目の単位を修得しようとする者は、あらためて履修申請し、再履修しなければならない。

4 履修申請した授業科目は、必ず「履修申請確認表」で確認しなければならない。

(履修申請の変更)

第 4 条の 2 履修申請した授業科目は、所定の期間内に定められた方法によつて、変更することができる。

2 前項の規定にかかわらず、授業科目によつては履修申請を変更できないことがある。

3 正当な理由がなく、所定の期間内に履修申請の変更を行わなかった授業科目は、履修申請の変更を許可しない。

4 履修申請を変更した授業科目は、必ず「履修申請確認表」で確認しなければならない。

(履修登録単位数の制限)

第 5 条 各学期に、人間科学科目群、専門基礎科目群及び専門科目群の中から履修登録できる単位数は、22 単位を上限とする。

2 前項に定める上限単位数には、次の各号に定める科目又は授業の単位は含めないものとする。

- (4) 自由科目
- (5) 定期に開講しない授業科目
- (6) 定期に開講しない授業

3 前2項の規定にかかわらず、次の各号に定める単位数については、それぞれ上限単位数に加え履修登録することができる。

- (1) 既に履修した授業科目のうち、評価が「不可」又は「不合格」となった科目を再履修する場合については、4単位まで。
- (2) 前学期において優れた成績をもつて単位を修得した場合には、4単位まで。

4 前項第1号及び第2号に関する規程は、別に定める。

(履修の制限)

第5条の2 授業科目の履修は、次の制限に従わなければならない。

- (1) 上級年次に開講される授業科目を履修することはできない。
- (2) 同一時限に開講されている授業科目を重複して履修することはできない。
- (3) 既に履修し、単位を付与された授業科目については再履修することはできない。
- (4) 先修条件が設定されている授業科目にあつては、先修条件を満たさなければ当該授業科目を履修することはできない。
- (5) 履修クラスが設定されている授業科目にあつては、原則該当のクラスを履修しなければならない。

(履修区分)

第5条の3 次の表の左欄に掲げる学科に専門科目の履修上の区分として、右欄に掲げる専攻を設ける。

学科	専攻
情報システム学科	コンピュータサイエンス専攻及び情報ネットワーク専攻
情報デザイン学科	メディアデザイン専攻及びプロダクトデザイン専攻
総合情報学科	経営情報専攻

2 前項に掲げる学科に所属する者は、いずれかの専攻を履修しなければならない。

3 同一学科内の他の専攻に転専攻を希望する者は、転専攻を願い出なければならない。

4 転専攻に関し必要な事項は、別に定める。

(開講科目)

第6条 学則第10条の2第2項別表(1)の2及び学則第12条の2第3項別表(2)に規定する各授業科目の週授業時間数、履修年次及び開講期については、それぞれ別表(1)及び別表(1)の2のとおりとする。

2 授業科目によつては、教務委員会の審議により、年度によつて開講しないことがある。

(他学部及び他学科等授業科目の履修)

第7条 学生は、所属する学部の学科の開講する科目(第5条の3第1項各号の学科にあつては専攻の開講する科目)のほか、所属する学部の他の学科(第5条の3第1項各号の学科にあつては他の専攻)及び他の学部の学科の開講する次の各号に定める科目を履修することができる。

- (1) 専門基礎科目群の科目
- (2) 専門科目群の科目

2 前項に定める科目の履修を希望する者は、当該科目を開講する学科等の長の許可を受けなければならない。

3 前項において履修を許可された科目の履修及び修得単位の各取扱については、別表(4)のとおりとする。

(履修人員の制限)

第8条 開講される各授業科目の履修人員は、講義室等の収容人員の都合により制限することがある。

(授業出席の義務)

第8条の2 学生は、授業担当教員の指示に基づき、履修登録した授業に出席しなければならない。

2 授業出席回数が不足した場合には、単位を修得できないことがある。

(授業欠席の特別な取扱)

第8条の3 学生が、やむを得ない事由により授業を欠席する場合には、授業欠席の特別な取り扱いを認めることがある。

2 前項に規定する学生の授業欠席の特別な取り扱いに関する事項は、別に定める。

(休講)

第8条の4 大学又は授業担当教員の事情により、授業を休講する場合がある。

2 前項に規定する休講については、原則として補講を行う。

3 暴風警報の発令、公共交通機関の運休、東海地震予知情報の発令等に伴う授業の休講に関する規程は、別に定める。

(緊急時の授業休講)

第8条の5 気象警報が発令された場合等の緊急時に授業を休講することがある。

2 前項に規定する授業休講の取り扱いに関する事項は、別に定める。

(学修状態の審査)

第9条 学則第14条第1項に規定する学修状態の審査は、試験によるものとする。

2 前項に規定する試験の方法は、筆記試験またはレポート等とする。

3 第1項の規定にかかわらず、学生の学修状況の総合的な審査をもつて、試験に代えることができる。

(試験の種類)

第10条 試験は、期末試験、追試験、特別追試験とする。

2 期末試験は、各学期末に行う試験をいう。

3 前項に規定する期末試験を分け、通常期末試験及び特別期末試験とする。

4 追試験は、病气(次項に定める公認欠席を除く)、事故、公共交通機関の延着その他やむを得ない理由により期末試験を受験できなかった者に対し行う試験をいう。

5 特別追試験は、期末試験の時間割において、受験科目が同一時限に重なって受験できない科目がある場合及び公認欠席で期末試験を受験できなかった者に対し行う試験をいう。

6 追試験及び特別追試験を受験しようとする者は、所定の手続きを指定の期間に行わなければならない。

7 追試験、特別追試験を受験しなかった者に対する追試験、特別追試験は行わない。

(受験資格)

第11条 次の各号に該当する者は、試験を受けることができない。

(1) 試験を受けようとする科目を履修申請していない者

- (2) 学生証を携帯していない者
- (3) 試験開始後 30 分以上遅刻した者
- (4) 学納金を未納の者

(受験の遵守事項)

第 12 条 第 10 条に定める試験を受験しようとする者は、試験室において、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- (1) 試験室においては、監督者の指示に従わなければならない。
- (2) 試験開始 30 分経過後は、試験室に入室することができない。
- (3) 試験室では、学生証を机の上に置かなければならない。学生証を所持しない者は、受験することができない。
- (4) 筆記用具及び許可された物を除くすべての携帯品は、監督者が指定する場所に置かなければならない。
- (5) 携帯電話等は電源を切り、鞆等の中にしまわなければならない。(時計としての使用も不可)
- (6) 試験中に質問その他の用件があるときは挙手し監督者に申し出なければならない。
- (7) 答案用紙は、解答の有無にかかわらず学籍番号及び氏名を記入しなければならない。また、監督者が指定する場所に提出し、試験室外に持ち出してはならない。

(不正行為)

第 13 条 第 10 条の受験に際し次の各号の一に該当する行為を行った者は、不正行為者とみなし、学生証、答案及び証拠となる物件を取り上げ退場を命じる。

- (1) 他人に受験を依頼すること又はこれを引き受けること。
 - (2) 監督者の許可なく行動すること、又、監督者の制止を無視して行動すること。
 - (3) 持ち込みを許可されていない物品 (ノート、メモ、教科書、参考書等) 及び電子機器 (電子辞書、パソコン等) を使用すること。
 - (4) 他の学生答案を参照すること又は他の学生に答案を参照させること。
 - (5) 言語・動作又は通信機器等により学生同士で互いに連絡すること。
 - (6) 許可なく他の学生に物品を貸与すること。
 - (7) 他の学生不正行為を助けること。
 - (8) 試験開始後 30 分以内に退室すること。
 - (9) 監督者の指示に違反すること。
 - (10) 身体、所持品及び机等身の回りの物品に文字等を記載し試験中に参照すること又はそれを参照できるような状態で受験すること。
 - (11) 他人と答案の交換を行うこと。
 - (12) その他不正行為とみなされる行為を行うこと。
- 2 不正行為を行った者に対しては、当該学期に履修した授業の内第 10 条に定める試験を実施した授業は不合格とし、かつ学則第 39 条により、懲戒する。
- 3 前項において不合格となつた科目の成績評価の評語は、欠席とする。

(成績評価の基準)

第 14 条 学則第 14 条第 3 項の成績評価の基準は、原則として次による。

秀 100 点より 90 点まで

優	89 点より 80 点まで
良	79 点より 70 点まで
可	69 点より 60 点まで
不可	59 点以下

2 前項の規定にかかわらず、試験を欠席または棄権した場合の評語は、欠席とする。

(試験結果の発表及び成績評価の確認)

第 15 条 試験の結果は、「試験結果通知書」によつて通知する。

2 前項の試験結果通知書において、成績評価に疑問がある者は、所定の期間内に教務部長に成績評価の確認を願い出ることができる。

(学修指導)

第 15 条の 2 学生の学業成績が、学科の定める基準を下回る場合には、指導教員による学修指導を受けなければならない。

(卒業研究履修基準)

第 16 条 卒業研究を履修するためには、別表 (2) の条件を満たさなければならない。

(卒業の要件)

第 17 条 卒業に必要な単位数は、学則第 19 条のとおりとし、各学科の定める卒業の要件は別表 (3) のとおりとする。

2 卒業の要件として認めることができる授業科目の区分は、必修科目及び選択科目とする。

(細則)

第 18 条 この規程に定めるもののほか、履修に関する事項は、細則に定める。

附 則

< 省 略 >

別 表

< 省 略 >

特別再履修の取扱いに関する要項

(趣旨)

第 1 条 大同大学工学部履修規程第 5 条第 3 項第 1 号及び大同大学情報学部履修規程第 5 条第 3 項第 1 号の規定に基づく 4 単位の履修（以下「特別再履修」という。）の取扱いについては、この要項の定めるところによる。

(履修登録の制限)

第 2 条 削除

(対象外科目)

第 3 条 特別再履修の対象としない科目は、人間科学科目群の B グループの科目とする。

(履修の手続)

第 4 条 特別再履修の科目を履修する場合は、大同大学工学部履修規程第 4 条及び第 4 条の 2 並びに大同大学情報学部履修規程第 4 条及び第 4 条の 2 の規定の定めに従い履修申請しなければならない。

(成績の評価)

第 5 条 特別再履修した科目の成績評価は、学則第 14 条の定めによる。

(単位の授与)

第 6 条 合格した授業科目の単位は、学則第 14 条の定めによる。

(雑則)

第 7 条 この要項に定めるもののほか必要な事項が生じた場合は、教務委員会の審議を経て教務部長が定める。

附 則

< 省 略 >

クラス指定科目の履修の取扱いに関する要項

(平成 19 年 4 月 1 日制定)

1. この要項は、クラスの指定がある科目の履修の取り扱いについて定める。
2. クラスとは、次のものを言う。
 - (1) 標準クラス
入学時に編成されるクラスを言う。
 - (2) 特別クラス
授業運営上の理由から、標準クラスを分割・結合して編成するクラスを言う。
 - (3) 特殊クラス
 - ・ 習熟度別クラス
当該科目の要求する習熟度や、履修歴によって編成されるクラスを言う。
 - ・ 再履修クラス
再履修者を履修させることを目的に開講した授業を言う。
 - ・ 履修希望申請クラス
予め学生の履修希望を申請させ履修者の調整を行ったクラスを言う。
3. クラスの指定がある科目については、指定されたクラスを履修しなければならない。
4. 前項の規定にかかわらず、指定されたクラスの開講曜日時限が必修科目と重なる場合には、指定されたクラスを変更し、他のクラスの履修を許可することができる。ただし、履修希望申請クラスについては、クラスの変更はできないものとする。
5. 前項に定める他のクラスの履修許可は、受け入れクラスの授業担当教員が行うものとする。
6. この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

教室利用に関する要項

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

1. この要項は、大同大学(以下「本学」という。)の教務室が管理している教室(以下「教室」という。)の円滑な利用を図るために必要な事項を定める。なお、本学以外の者による教室利用については、別に定める。

(教室)

2. この要項における教室は、教務室が発行する「教務関係要覧」の「教室等の収容定員、設備・備品等」の項に記載されている教室並びに大学院の各講義室及び各ゼミ室をいう。

なお、次の各号の施設は教室に含めない。

- (1) 大同大学情報センター利用細則第 3 条に基づく演習室及び同細則第 6 条に基づくサテライト
- (2) 学科教室が管理している製図室及び実験室等

(利用資格)

3. 教室を利用できる者は、次の者とする。

- (1) 本学の職員
- (2) 本学の学生
- (3) 教務部長が利用を認めた者

(利用目的)

4. 教室は、本学において開講される授業及び授業に関連すること、入学試験、本学が主催又は共催する行事及びその他教務部長が認めた場合に利用できる。

(利用の優先順位)

5. 教室の利用の優先順位は原則、授業、入学試験、本学が主催又は共催する行事、授業に関連する利用の順とする。

(利用手続)

6. 教室を利用しようとする者は、授業及び授業に関連することを除き、あらかじめ教務部長に利用申請をすること。

なお、学生の教室利用申請については、別に定める。

(利用者の遵守事項)

7. 利用者は、教室の利用にあたって、次の事項を遵守すること。

- (1) 喫煙・飲食をしないこと。
- (2) 携帯電話等通信用電子機器を使用しないこと。
- (3) 教室の美化と備品及び用具の保全に留意すること。異常があった場合、速やかに教務室へ届け出ること。
- (4) 授業において必要に応じて教員が指示をする場合、それに従うこと。

8. この要項は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(参考)

本要項における教室：B0201～B0206、B0209～B0211、B0401～B0408、B0410、C0101、D0122、D0311、D0312、
F0101、F0102、F0301～F0305、S0203～S0206、S0302～S0305、
4101、4227、4228、4309、4311、4313、4314、4316、4401、8506、A0911～A0914、A1214

緊急時における授業等の取扱に関する要項

(平成 24 年 2 月 6 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この要項は、気象警報、地震、公共交通機関のストライキ、その他緊急時における授業及び期末試験並びに課外活動等、学生の大学での諸活動の取り扱いに関して必要な事項を定める。

(気象警報の発令)

第 2 条 愛知県西部のいずれかの地域に暴風警報が発令された場合の授業及び期末試験の取り扱いについては、次の各号のとおりとする。

(1) 午前 7 時現在において、暴風警報が発令中の場合は、午前中の授業は休講、期末試験は延期又は中止とする。

(2) 午前 10 時現在において、暴風警報が発令中の場合は、午後の授業は休講、期末試験は延期又は中止とする。

2 愛知県西部のいずれかの地域に暴風警報の発令が予想される場合には、学長、副学長、学生部長及び教務部長の協議により、同警報発令前に授業にあっては休講、期末試験にあっては延期又は中止することができる。

3 愛知県西部のいずれかの地域に大雨警報又は大雪警報が発令され、授業及び期末試験の実施並びに通学が困難又はそのおそれがある場合には、学長、副学長、学生部長及び教務部長の協議により、授業にあっては休講、期末試験にあっては延期又は中止することができる。

4 前 3 項の規定中の愛知県西部とは、気象庁の発表する警報及び注意報の分類の定めによるものとする。

(「東海地震注意情報」又は「東海地震予知情報」等の発令)

第 3 条 大規模地震対策特別措置法に基づく「東海地震注意情報」の発表又は「東海地震予知情報」の発表或いは「警戒宣言」が発令中の場合は、授業にあっては休講とし、期末試験にあっては延期又は中止とする。

2 「東海地震注意情報」の発表又は「警戒宣言」の発令が解除された場合は、原則としてその翌日から授業及び期末試験を再開する。

(避難指示の発令)

第 4 条 大学周辺に当該地方公共団体から避難指示が発令され、授業及び期末試験の実施並びに通学が困難又はそのおそれがある場合は、学長、副学長、学生部長及び教務部長の協議により、授業にあっては休講、期末試験にあっては延期又は中止することができる。

(交通機関の運休)

第 5 条 名古屋鉄道常滑線において、ストライキ又は自然災害等により運休する場合の授業及び期末試験の取り扱いについては、次の各号のとおりとする。

(1) 午前 7 時現在において運休中の場合は、午前中の授業は休講、期末試験は延期又は中止する。

(2) 午前 10 時現在において運休中の場合は、午後の授業は休講、期末試験は延期又は中止する。

(その他の緊急事態時の取扱)

第 6 条 前 4 条に規定するほか、授業及び期末試験の実施に支障が生ずる場合又は生ずることが予想される場合若しくは学生の安全に支障が生ずる場合又は生ずることが予想される場合には、授業及び期末試験の取り扱いについて、学長、副学長、学生部長及び教務部長の協議により、必要な措置を

講ずることができる。

(授業等実施中の取扱)

第 7 条 授業及び期末試験が行われている場合に前 5 条に規定する状況が発生した場合には、ただちに、授業及び期末試験を中止し、速やかに学生を下校させるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、学生の下校が困難又は危険が生ずる場合には、学内の施設で待機させるものとする。

(気象警報等情報の確認)

第 8 条 第 2 条第 1 項、第 3 条及び第 5 条に規定する警報等発令及び交通機関の運休に係る情報は、次の各号に掲げる省庁等の発表に基づくものとする。

(1) 第 2 条第 1 項及び第 3 条は、気象庁とする。

(2) 第 5 条は、名古屋鉄道とする。

(連絡方法)

第 9 条 授業の休講及び期末試験の延期又は中止に伴う学生への周知は、その状況に応じて、学生掲示板、大学ホームページ、電子メール等により行なう。

(授業及び期末試験以外の取扱)

第 10 条 課外活動等学生の大同大学での諸活動の取り扱いについては、第 2 条から第 9 条の規定を準用する。

(雑則)

第 11 条 この要項の改廃は、第 1 条から第 9 条にあっては教務委員会の、第 10 条にあっては学生委員会の審議をそれぞれ経るものとする。

附 則

< 省 略 >

学生の授業欠席に関する取扱要項

(平成 24 年 2 月 6 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学工学部履修規程及び大同大学情報学部履修規程のそれぞれ第 8 条の 3 第 2 項の規定に基づく大同大学学生の公認欠席並びにその他やむを得ない事由により授業を欠席した場合の各取り扱いについては、この要項の定めるところによる。

(授業欠席の区分)

第 2 条 次の各号に掲げるやむを得ない事由で授業を欠席し、第 3 条に規定する授業欠席の取り扱いを受けようとする者は、第 5 条に規定する所定の手続きを行わなければならない。

- (1) 学生が学校保健安全法施行規則第 18 条に定める感染症により授業出席の停止を指示された場合
- (2) 学生の配偶者及び一親等から三親等までの親族の死亡による忌引の場合
- (3) 風水害により学生の住居が損壊した場合
- (4) 学生が教職課程における教育実習又は介護等体験実習に出席する場合及び当該実習先の指定による事前訪問に出席する場合
- (5) 学生が本学における学修成果を学会等で発表する場合
- (6) 卒業研究を履修している学生が学会等で発表する場合
- (7) 学生が大学院の入学試験を受験する場合
- (8) 学生が就職試験を受験する場合
- (9) 学生が教員採用試験を受験する場合
- (10) 学生が大同大学課外活動に関する規程第 2 条に規定する課外活動で公式の大会等に参加する場合
- (11) 学長が特に必要と認めた場合
- (12) 学生の病気又は怪我の場合
- (13) 学生の通学経路における公共交通機関の運行休止又は遅延による場合
- (14) 学生の居住地又は通学経路において、当該地方自治体による避難指示が発令された場合

2 前項第 1 号から第 3 号に規定する事由による授業の欠席を公認欠席、第 4 号から第 11 号に規定する事由による授業の欠席を準公認欠席、第 12 号から第 14 号に規定する事由による授業の欠席を特定欠席と称する。

(授業欠席の取扱)

第 3 条 当該授業の担当教員は、次の各号に基づき学生の授業欠席を取り扱うものとする。

- (1) 公認欠席の場合は、欠席したものとして取り扱わない。
- (2) 準公認欠席の場合は、単位修得に必要な授業出席時間数が不足する場合に考慮の対象とする。
- (3) 特定欠席の場合は、当該授業の担当教員の定めるところによる。

(公認欠席及び準公認欠席の日数)

第 4 条 公認欠席及び準公認欠席を認める限度日数は、次の各号のとおりとする。

- (1) 第 2 条第 1 項第 1 号については、医療機関の発行する診断書による日数とする。
- (2) 第 2 条第 1 項第 2 号については、次のとおりとする。

①配偶者及び一親等（父母、子供等）の場合は 7 日以内

②二親等（祖父母、兄弟姉妹等）の場合は3日以内

③三親等（曾祖父母、伯叔父母等）の場合は1日

(3) 第2条第1項第3号については、罹災証明書に基づき学生部長がその都度定める。

(4) 第2条第1項第4号については、実習にあっては当該実習期間、事前訪問にあっては指定された事前訪問日とする。

(5) 第2条第1項第5号及び第6号については、当該発表の当日とする。

(6) 第2条第1項第7号から第9号については、当該試験の当日とする。

(7) 第2条第1項第10号については、当該大会等の開催期間とする。

(10) 第2条第1項第11号については、欠席理由書に基づき学長がその都度定める。

2 前項の規定にかかわらず、第6条第3項に規定する所管部長がやむを得ない事由があると認めた場合には、前項に定める限度日数に最小限の日数を加えることができる。

（授業欠席の手続き）

第5条 第2条第1項に規定する事由により授業を欠席し、第3条に規定する授業欠席の取り扱いを受けようとする者は、所定の書類に次項に定める書類を添え、当該事由が発生する前に届け出なければならない。ただし、次条第3項に規定する所管部長がやむを得ない事由があると認めた場合には、当該事由による授業の欠席後1週間以内に届け出ることができる。

2 添付する書類は、次のとおりとする。

(1) 第2条第1項第1号については、医療機関の発行する診断書。

(2) 第2条第1項第2号については、医療機関の発行する死亡診断書又は埋葬許可書等。

(3) 第2条第1項第3号については、当該地方自治体の発行する罹災証明書。

(4) 第2条第1項第5号については、学科長等の証明書。

(5) 第2条第1項第6号については、卒業研究指導教員の証明書。

(6) 第2条第1項第7号については、受験票等受験を証明できる書類。

(7) 第2条第1項第10号については、大会開催要項等証明できる書類及び活動参加者名簿。

(8) 第2条第1項第11号については、欠席理由書。

(9) 第2条第1項第12号については、医療機関の発行する診断書。

(10) 第2条第1項第13号については、当該公共交通機関が発行する証明書。

(11) 第2条第1項第14号については、当該地方自治体による避難指示発令内容が確認できる書類。

3 前項第7号の事由により授業の欠席を届け出る者は、予めクラブ顧問の承認を得なければならない。

（届け出の認定）

第6条 届け出の認定は、授業欠席の事由を所管する部長等（以下「所管部長」という。）の承認を経て、教務部長が行う。

2 前項の規定にかかわらず、第2条第1項第11号については、教務部長に代わり学長が認定する。

3 所管部長は、次のとおりとする。

(1) 第2条第1項第1号から第3号及び第10号から第14号については、学生部長とする。

(2) 第2条第1項第4号から第6号及び第9号については、教務部長とする。

(3) 第2条第1項第7号及び第8号については、キャリアセンター長とする。

（認定の通知）

第7条 所管部長は、届け出が認定されたときは、届出者を經由し当該授業担当教員に通知するものとする。

(要項の改廃)

第8条 この要項の改廃は、教務委員会の審議を経て、教務部長が行う。

附 則

< 省 略 >

G P A 制度要項

(制定 平成 18 年 3 月 8 日)

(趣旨)

第 1 条 この要項は、G P A (Grade Point Average、平均等級点) 制度の目的、適用する学生、G P A 算出の対象とする科目、等級点、G P A の算出式、G P A 値の利用等について定める。

(目的)

第 2 条 学生に履修に対する責任を意識付けるとともに、学生個々人が自己の学修成果を「質」の面から客観的に知ること、きめ細かな学業成績評価を行うこと、及び G P A 値を種々の制度に利用すること、により学生の学習意欲の高揚を図り、以って、本学学生の一層の学力向上と社会に対する本学学生の「質」の保証に資することを目的とする。

(適用する学生)

第 3 条 G P A 制度の対象とする学生は、平成 15 年度以降入学の学部学生とする。

(G P A 算出の対象とする科目)

第 4 条 G P A 算出の対象とする科目は、本学学部学科カリキュラムの全ての科目のうち、次の各号の要件をすべて満たす科目とする。

- (1) 5 段階評価によって成績を認定する科目。
- (2) 卒業に必要な単位数に算入することができる科目。

(等級点)

第 5 条 等級点は、学則第 14 条、工学部履修規程第 14 条及び情報学部履修規程第 14 条に定める成績評価の基準に基づき、次のとおり定める。なお、「欠席」の場合の等級点については、「不可」の評価に準じるものとする。

区分	合 格				不合格
評 語	秀	優	良	可	不可
評価点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
等級点	4	3	2	1	0

(G P A 値の種類と明示)

第 6 条 G P A 値は、「学期」及び「累積」(1 年次からの累計) の 2 種類とし、成績を記す書類(成績・履修状況一覧表及び試験結果通知書)に履修登録単位及び取得単位とともに原則明示する。ただし、再入学学生、編入学学生、転入学学生、転学部・転学科、転専攻学生等及び平成 15 年度から平成 17 年度までに第 1 年次に入学した学生については、「学期」の G P A 値のみ算出及び明示するものとする。

(G P A の算出式と履修登録単位)

第 7 条 G P A は、次の (1) 及び (2) に示す計算式により、小数点第 4 位を四捨五入して算出するものとする。

(1) 学期 G P A

$$\frac{\{(\text{その学期に履修登録した科目で得た等級点}) \times (\text{その科目の単位数})\} \text{の合計}}{\text{その学期に履修登録した科目の単位数の合計 (「欠席」を含む)}}$$

その学期に履修登録した科目の単位数の合計 (「欠席」を含む)

(2) 累積GPA

$\{(\text{各学期に履修登録した科目で得た等級点}) \times (\text{その科目の単位数})\}$ の合計

各学期に履修登録した科目の単位数の合計（「欠席」を含む）

- 2 不合格または欠席となった科目を再履修し合格の評価を得た場合、再履修前の不合格または欠席評価の単位は、前項第 2 号に定める累積GPAの計算式における「各学期に履修登録した科目の単位数」に含むものとする。

第 8 条 第 1 年次～第 3 年次における各期の履修登録においては、原則 15 単位以上履修するよう指導するものとする。

（適正な成績評価）

第 9 条 <省略>

（GPA 値の利用）

第 10 条 GPA 値は、履修指導、学修指導、学業成績優秀者の履修登録単位上限の緩和などに用いるものとする。

第 11 条 <省略>

第 12 条 GPA 値の利用は、教育改革実行委員会が定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学他の大学等における授業科目の履修等に関する規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則（以下「学則」という。）第 16 条の規定に基づく他の大学又は短期大学若しくは外国の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）における授業科目の履修等については、この規程の定めるところによる。

(他大学等との協議)

第 2 条 他大学等との協議は、次の各号に掲げる事項について、教授会の審議を経て、学長が行う。

- (1) 履修する授業科目の範囲
- (2) 履修期間
- (3) 対象となる学生
- (4) 履修の手続き
- (5) 学生の身分の取扱い
- (6) 授業料等の費用に関する取扱い
- (7) その他の必要事項

(願出手続)

第 3 条 前条により他大学等において授業科目を履修しようとする者は、所属する学科の長の承諾を得て、次の各号に掲げる書類を所定の期間内に学長に提出しなければならない。

- (1) 他大学等の授業科目の履修願い
- (2) 他大学等の要求する書類

2 外国の大学又は短期大学において授業科目を履修しようとする者は、学則第 29 条の定めるところにより、前項各号の書類に加え、留学願いを所定の期間内に学長に提出しなければならない。

(許可)

第 4 条 学長は、前条の願出があったときは、教授会の審議を経て、当該学生の授業科目の履修について当該他大学等に依頼し、その承諾を得たうえ、これを許可する。

(派遣期間)

第 5 条 前条の許可を受けた学生（以下「派遣学生」という。）の他大学等への派遣期間は、1 年以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、教育上特に必要と認めるときは、学長は、教授会の審議を経て、さらに 1 年以内に限り、その期間を延長することができる。

3 派遣学生の他大学等への派遣期間は、在学年数に算入する。

(履修終了の報告)

第 6 条 派遣学生は、他大学等における派遣期間が終了したときは、直ちに履修報告書及び当該他大学等の交付する成績証明書等を学長に提出しなければならない。

(単位認定の範囲)

第 7 条 派遣学生の他大学等における授業科目の履修により修得した単位は、学則第 16 条第 1 項、第 17 条第 2 項及び第 18 条第 3 項に規定する単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(単位認定の申請)

第8条 他大学等における授業科目の履修により修得した単位について、本学の単位認定を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、他大学等における授業科目の履修に係る単位認定申請書に成績証明書、その他必要書類を添えて、学長に申請しなければならない。

2 単位の認定を受けようとする授業科目には、申請する当該学期に履修している授業科目を含めることはできない。

（単位認定）

第9条 派遣学生から前条第1項の申請があったときは、当該学科において認定の可否について審査する。ただし、教養部が開講する授業科目については、教養部において審査する。

2 学長は、前項の審査結果に基づき、教授会の審議を経て、単位を認定する。

3 前項により単位認定を受けた授業科目の成績の評語は、「認定」とする。

4 学長は、第2項により単位認定を行ったときは、単位認定通知書により当該申請者に通知する。

（学生納付金）

第10条 派遣学生は、派遣期間中においても、学則第35条の2に規定する学生納付金を納付しなければならない。

（災害保険等への加入）

第11条 派遣学生は、学生教育研究災害傷害保険及び学長が加入の必要があると認めたその他の災害保険等に加入しなければならない。

（派遣許可の取消し）

第12条 学長は、派遣学生が次の各号の一に該当する場合は、当該他大学等と協議のうえ、教授会の審議を経て、派遣の許可を取り消すことができる。

（1）成業の見込みがないと認められるとき

（2）当該他大学等の規則等に違反し、学生としての本分に反する行為があると認められるとき

（雑則）

第13条 この規程に定めるもののほか、他の大学等における授業科目の履修等に関し必要な事項は、教務委員会の審議を経て、別に定める。

（所管事務）

第14条 他の大学又は短期大学における授業科目の履修等に関する事務は、教務室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学大学以外の教育施設等における学修に関する規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則（以下「学則」という。）第 17 条の規定に基づく大学以外の教育施設等における学修については、この規程の定めるところによる。

(大学以外の教育施設等における学修の範囲)

第 2 条 大学以外の教育施設等における学修は、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修若しくは次の各号に掲げる文部科学大臣が別に定める学修とする。

- (1) 大学の専攻科における学修
- (2) 高等専門学校の課程における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- (3) 専修学校の専門課程のうち修業年限が 2 年以上のものにおける学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの
- (4) 次に掲げる学校以外の教育施設で学校教育に類する教育を行うものにおける学修で、大学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

ア 防衛大学校

イ 職業能力開発短期大学校、職業能力開発 大学校及び職業能力開発総合大学校（旧職業訓練短期大学校、旧職業訓練大学校及旧職業訓練短期大学校を含む。）

ウ 水産大学校（水産講習所を含む）

エ 国立看護大学校

オ 気象大学校

カ 海上保安大学校

(5) アメリカ合衆国の営利を目的としない法人であるエデュケーショナル・テスト・サービスが英語の能力を判定するために実施するトフル（以下「TOEFL」という。）及びトイック（以下「TOEIC」という。）における学修のうち、本学において、大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

(6) 次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査であって、前号に規定する学修と同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、本学において、大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

ア 審査を行う者が国又は民法(明治 29 年法律第 89 号)第 34 条の規定による法人その他の団体であること

イ 審査の内容が、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 52 条に規定する大学の目的に照らし適切なものであること

ウ 審査が全国的な規模において、毎年 1 回以上行われるものであること

エ 審査の実施の方法が、適切かつ公正であること

2 前項第 6 号に規定する学修は、次の各号に掲げる学修とする。

- (1) 国際連合公用語・英語検定試験
- (2) ケンブリッジ大学英語能力検定試験
- (3) 実用英語技能検定

(4) 工業英語能力検定試験

- 3 第1項第5号及び前項に規定する学修に係る単位認定対象授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。
- 4 第1項に規定する学修により認定することができる単位は、学則第17条第2項及び第18条第3項に規定する単位を超えない範囲とする。

(単位認定の申請)

- 第3条 前条に規定する学修について単位の認定を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、各学期の授業開始後一週間以内に、大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定申請書に成績証明書、その他必要書類を添えて、学長に申請しなければならない。ただし、前条第1項第5号及び第6号に規定する学修にあっては、成績証明書に代え認定証等の原本を添付するものとする。
- 2 前項の認定証等の認定等の日付は、申請の日から起算して2年以内でなければならない。
 - 3 単位の認定を受けようとする授業科目には、申請する当該学期に履修している授業科目を含めることはできない。

(単位認定)

- 第4条 前条の申請があったときは、当該学科において単位認定の可否について審査する。ただし、教養部が開講する授業科目については、教養部において審査する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第2条第1項第5号及び同条第2項に規定する学修については、第2条第3項別表及び次の各号に基づき、教養部の外国語教系が審査を行う。
 - (1) 既に認定された単位に係る学修と同等の学修とみなされる学修については、単位を認定することはできない。
 - (2) 同一の学修について新たな級位又は得点以上を得た場合には、重複分に対して単位を認定することはできない。
 - 3 学長は、前2項の審査結果に基づき、教授会の審議を経て、単位を認定する。
 - 4 前項の規定により単位授与の認定を受けた授業科目の成績の評語は、「認定」とする。
 - 5 学長は、第3項により単位認定を行ったときは、単位認定通知書により当該申請者に通知する。

(雑則)

- 第5条 この規程に定めるもののほか、大学以外の教育施設等における学修に関し必要な事項は、教務委員会の審議を経て、別に定める。

(所管事務)

- 第6条 大学以外の教育施設等における学修に関する事務は、教務室が行う。

附 則

< 省 略 >

別表 単位認定対象授業科目及び単位数

本学における授業科目の履修とみなす学修の種類		級位又は得点等	認定する単位数の限度	授 業 科 目 名
TOEFL	PBT	500 点以上	4	基礎英語グラマー1 基礎英語グラマー2 基礎英語リーディング 1 基礎英語リーディング 2 コミュニケーション英語 1 コミュニケーション英語 2 コミュニケーション英語 3 コミュニケーション英語 4
		450～499 点	3	
		400～449 点	2	
	iBT	61 点以上	4	
		45～60 点	3	
		32～44 点	2	
TOEIC		600 点以上	5	
		500～599 点	4	
		400～499 点	2	
国際連合公用語・英語検定試験		特A級	8	
		A級	6	
		B級	4	
ケンブリッジ大学英語能力検定試験		CAE	8	
		FCE	6	
実用英語技能検定		1 級	8	
		準 1 級	6	
		2 級	4	
		準 2 級	2	
工業英語能力検定試験		3 級	4	
		4 級	2	

大同大学入学前の既修得単位等の認定に関する規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 18 条の規定に基づく入学前の既修得単位等の認定については、この規程の定めるところによる。

(単位認定することができる入学前の既修得単位等)

第 2 条 単位を認定することができる入学前の既修得単位等は、次の各号のとおりとする。

(1) 大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)

(2) 大学以外の教育施設等における学修

2 前項第 2 号に規定する学修は、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修若しくは次の各号に掲げる文部科学大臣が別に定める学修とする。

(1) 大学の専攻科における学修

(2) 高等専門学校の課程における学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

(3) 専修学校の専門課程のうち修業年限が 2 年以上のものにおける学修で、本学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

(4) 次に掲げる学校以外の教育施設で学校教育に類する教育を行うものにおける学修で、大学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

ア 防衛大学校

イ 職業能力開発短期大学校、職業能力開発 大学校及び職業能力開発総合大学校(旧職業訓練短期大学校、旧職業訓練大学校及旧職業訓練短期大学校を含む。)

ウ 水産大学校(水産講習所を含む)

エ 国立看護大学校

オ 気象大学校

カ 海上保安大学校

(5) アメリカ合衆国の営利を目的としない法人であるエデュケーショナル・テスト・サービスが英語の能力を判定するために実施するトフル(以下「TOEFL」という。)及びトーイック(以下「TOEIC」という。)における学修のうち、本学において、大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

(6) 次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査であって、前号に規定する学修と同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、本学において、大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

ア 審査を行う者が国又は民法(明治 29 年法律第 89 号)第 34 条の規定による法人その他の団体であること

イ 審査の内容が、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 52 条に規定する大学の目的に照らし適切なものであること

ウ 審査が全国的な規模において、毎年 1 回以上行われるものであること

エ 審査の実施の方法が、適切かつ公正であること

- 3 前項第 6 号に規定する学修は、次の各号に掲げる学修とする。
- (1) 国際連合公用語・英語検定試験
 - (2) ケンブリッジ大学英語能力検定試験
 - (3) 実用英語技能検定
 - (4) 工業英語能力検定試験
- 4 第 2 項第 5 号及び前項に規定する学修に係る単位認定対象授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。
- 5 第 1 項の規定により認定することのできる単位は、学則第 18 条第 3 項に規定する単位を超えない範囲とする。

(単位認定の申請)

- 第 3 条 前条に規定する学修について単位の認定を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、入学年度の前期の授業開始後一週間以内に、入学前の既修得単位等の認定に係る単位認定申請書に成績証明書、その他必要書類を添えて、学長に申請しなければならない。ただし前条第 2 項第 5 号及び第 6 号に規定する学修にあっては、成績証明書に代え認定証等の原本を添付するものとする。
- 2 前項の認定証等の認定等の日付は、申請の日から起算して 2 年以内でなければならない。
- 3 単位の認定を受けようとする授業科目には、申請する当該学期に履修している授業科目を含めることはできない。

(単位認定)

- 第 4 条 前条の申請があったときは、当該学科において単位認定の可否について審査する。ただし、教養部が開講する授業科目については、教養部において審査する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第 2 条第 2 項第 5 号及び同条第 3 項に規定する学修については、第 2 条第 4 項別表及び次の各号に基づき、教養部の外国語系が審査を行う。
- (1) 既に認定された単位に係る学修と同等の学修とみなされる学修については、単位を認定することはできない。
 - (2) 同一の学修について新たな級位又は得点以上を得た場合には、重複分に対して単位を認定することはできない。
- 3 学長は、前 2 項の審査結果に基づき、教授会の審議を経て、単位を認定する。
- 4 前項の規定により単位授与の認定を受けた授業科目の成績の評語は、「認定」とする。
- 5 学長は、第 3 項により単位認定を行ったときは、単位認定通知書により当該申請者に通知する。

(雑則)

- 第 5 条 この規程に定めるもののほか、入学前の既修得単位等の認定に関し必要な事項は、教務委員会の審議を経て、別に定める。

(所管事務)

- 第 6 条 入学前の既修得単位等の認定に関する事務は、教務室が行う。

附 則

< 省 略 >

別表 単位認定対象授業科目及び単位数

本学における授業科目の履修とみなす学修の種類		級位又は得点等	認定する単位数の限度	授 業 科 目 名
TOEFL	PBT	500 点以上	4	基礎英語グラマー1 基礎英語グラマー2 基礎英語リーディング 1 基礎英語リーディング 2 コミュニケーション英語 1 コミュニケーション英語 2 コミュニケーション英語 3 コミュニケーション英語 4
		450～499 点	3	
		400～449 点	2	
	iBT	61 点以上	4	
		45～60 点	3	
		32～44 点	2	
TOEIC		600 点以上	5	
		500～599 点	4	
		400～499 点	2	
国際連合公用語・英語検定試験		特 A 級	8	
		A 級	6	
		B 級	4	
ケンブリッジ大学英語能力検定試験		CAE	8	
		FCE	6	
実用英語技能検定		1 級	8	
		準 1 級	6	
		2 級	4	
		準 2 級	2	
工業英語能力検定試験		3 級	4	
		4 級	2	

大同大学他の研究所等における卒業研究の実施に関する規程

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学（以下「本学」という。）の学部学生が、他の研究所等（以下「研究所等」という。）において、大同大学学則（以下「学則」という。）第 10 条の 2 別表 (1) 及び別表 (1) の 2 に規定する各教育課程表における卒業研究を、卒業研究を指導する教員（以下「主指導教員」という。）の下で実施する場合の必要事項については、この規程の定めるところによる。

(対象とする学部学科)

第 2 条 卒業研究を主指導教員の指導の下、研究所等で実施させることができる学部学科は、本学の全ての学部学科とする。

(研究所等)

第 3 条 研究所等は、教授会の審議を経て、学長が認めた研究所等とする。

(協定等の締結)

第 4 条 卒業研究を研究所等で実施させようとするときは、本学と研究所等との間で、次の各号に掲げる事項を定めた協定等を締結する。

- (1) 学生の受入人数等に関する事項
- (2) 研究所等内における学生の指導に関する事項
- (3) 学生の修学に関する事項
- (4) 経費負担に関する事項
- (5) その他卒業研究を実施するうえで必要な事項

2 協定等は、教務委員会の審議を経て、学長が締結する。

(願出手続)

第 5 条 研究所等における卒業研究の実施を認めた学生の主指導教員は、当該学科長の承諾を得たうえ、次の各号に掲げる書類を所定の期間内に学長に提出しなければならない。

- (1) 研究所等卒業研究実施願い
- (2) 研究所等の要求する書類

(許可)

第 6 条 学長は、前条の願い出があったときは、教授会の審議を経て、当該学生の卒業研究の実施について当該研究所等に依頼し、その承諾を得たうえ、これを許可する。

(派遣期間)

第 7 条 前条の許可を受けた学生（以下「卒業研究派遣学生」という。）の研究所等での卒業研究を実施する期間（以下「派遣期間」という。）は、1 年以内とする。

2 卒業研究派遣学生の派遣期間は、在学年数に算入する。

(主指導教員の業務)

第 8 条 卒業研究派遣学生の主指導教員は、当該学生の派遣期間において、次に掲げる業務を行わなければならない。

- (1) 卒業研究派遣学生の修学指導に関すること
- (2) 卒業研究派遣学生の進学又は就職指導に関すること
- (3) その他卒業研究派遣学生の厚生補導に必要な業務に関すること

(卒業研究実施終了の報告)

第 9 条 卒業研究派遣学生は、研究所等における卒業研究の実施が終了したときは、直ちに所定の書類により学長に報告しなければならない。

(学生納付金)

第 10 条 卒業研究派遣学生は、派遣期間中においても、学則第 35 条の 2 第 1 項に規定する学生納付金を納付しなければならない。

(災害保険等への加入)

第 11 条 卒業研究派遣学生は、学生教育研究災害傷害保険及び学長が加入の必要があると認めたその他の災害保険等に参加しなければならない。

(派遣許可の取消し)

第 12 条 学長は、卒業研究派遣学生が次の各号の一に該当する場合は、当該研究所等と協議のうえ、教授会の審議を経て、派遣の許可を取り消すことができる。

(1) 成業の見込みがないと認められるとき

(2) 当該研究所等の規則等に違反し、学生としての本分に反する行為があると認められるとき

(雑則)

第 13 条 この規程に定めるほか、研究所等における卒業研究の実施に関し必要な事項は、教務委員会の審議を経て、教務部長が定める。

(所管事務)

第 14 条 研究所等における卒業研究の実施に関する事務取扱主管室は、教務室とする。

附 則

< 省 略 >

転学部及び転学科に関する要項

(平成 15 年 3 月 6 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則（以下「学則」という。）第 27 条の規定に基づく転学部及び転学科（以下「転学部等」という。）については、この要項の定めるところによる。

(受入の要件)

第 2 条 転学部等は、受け入れ先の学科において、教育上支障がないと認めた場合に、これを許可することができる。

(出願資格)

第 3 条 転学部等を出願することができる者は、本学の第 1 年次又は第 2 年次に在籍する者で、所属学科長の承認を得た者とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する者にあつては、転学部等を出願することはできない。

(1) 休学中の者

(2) 過去に転学部等を許可された者

(時期)

第 4 条 転学部等の時期は、学年の始めとする。

(出願手続)

第 5 条 転学部等を出願しようとする者は、指定の期日までに検定料を納付のうえ、次の各号に掲げる書類を、所定の期日までに学長に提出しなければならない。

(1) 所定の願書

(2) 所属学科長の承諾書

(3) 理由書

(4) 成績証明書

(5) 検定料納付書（写）

2 前項に規定する出願に当たっては、第 2 条に規定する受入の要件に関して、事前に教務室に相談しなければならない。

(選考)

第 6 条 転学部等の選考は、出願書類及び学力試験又は面接等により、受入年次を含めて、当該受入学科（以下「受入学科」という。）が行うものとする。

(許可)

第 7 条 転学部等の許可は、教務委員会の審議を経て、学長がこれを行う。

2 学長は、転学部等の選考結果を出願者に通知する。

(在学年限)

第 8 条 転学部等を許可された者の残りの在学年限は、学則第 5 条に規定する在学年限から当該者が既に在学した期間を差し引いた期間とする。

(既修得単位の認定及び成績評価)

第 9 条 転学部等を許可された者の在籍学部・学科において既に修得した単位（以下「既修得単位」という。）を受入学科の教育課程表の授業科目として単位認定する場合においては、当該既修得単位

の認定は、受入学科及び教養部の各系で審査の上、教授会の審議を経て、学長がこれを行う。

- 2 転学部等を許可された者の既修得単位を受入学科の教育課程表の授業科目として単位認定しない場合においては、当該既修得単位の取扱は、受入学部の履修規程別表(4)「所属学部他学科、他学部の学科及び同一学科内の他専攻の履修」に規定する「所属学部の他の学科又は他の学部の学科の授業科目の各取扱」を適用する。
- 3 第1項の規定により単位認定を受けた場合の授業科目の成績評価は、「認定」とする。ただし、次の各号に掲げる授業科目の成績評価は、転載する。
 - (1) 全学共通科目
 - (2) 全学共通科目扱いの科目
- 4 第2項の規定による場合の成績評価は、転載する。
(適用学則等)

第10条 転学部等を許可された者は、許可学年次の学生に適用している学則及び諸規程を適用する。

附 則

< 省 略 >

転専攻に関する要項

(平成 25 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この要項は、大同大学工学部履修規程及び大同大学情報学部履修規程（以下「規程」という。）

第 5 条の 3 第 4 項の規定に基づく転専攻に関し、必要な事項を定める。

(受入の要件)

第 2 条 転専攻は、当該学科において、教育上支障がないと認めた場合に、これを許可することができる。

(出願資格)

第 3 条 転専攻を出願することができる者は、本学の第 1 年次又は第 2 年次に在籍する者で、所属学科長の承認を得た者とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する者にあつては、転専攻を出願することはできない。

(1) 休学中の者

(2) 過去に転専攻を許可された者

(時期)

第 4 条 転専攻の時期は、学年の始めとする。

(出願手続)

第 5 条 転専攻を出願しようとする者は、指定の期日までに検定料を納付のうえ、次の各号に掲げる書類を、所定の期日までに学長に提出しなければならない。

(1) 所定の願書

(2) 所属学科長の承諾書

(3) 理由書

(4) 成績証明書

(5) 検定料納付書（写）

2 前項に規定する出願に当たっては、第 2 条に規定する受入の要件に関して、事前に教務室に相談しなければならない。

(選考)

第 6 条 転専攻の選考は、出願書類及び学力試験又は面接等により、受入年次を含めて、当該学科が行うものとする。

(許可)

第 7 条 転専攻の許可は、教務委員会の審議を経て、学長がこれを行う。

2 学長は、転専攻の選考結果を出願者に通知する。

(在学年限)

第 8 条 転専攻を許可された者の残りの在学年限は、学則第 5 条に規定する在学年限から当該者が既に在学した期間を差し引いた期間とする。

(既修得単位の認定及び成績評価)

第 9 条 転専攻を許可された者の当該専攻において既に修得した単位（以下「既修得単位」という。）を受入専攻の開講科目一覧の授業科目として単位認定する場合においては、当該既修得単位の認定

は、受入学科及び教養部の各系で審査の上、教授会の審議を経て、学長がこれを行う。

- 2 転専攻を許可された者の既修得単位を受入専攻の開講科目一覧の授業科目として単位認定しない場合においては、当該既修得単位の取扱は、当該学部の履修規程別表(4)「所属学部 of 他学科、他学部 of 学科及び同一学科内 of 他専攻 of 履修」に規定する「同一学科内 of 他 of 専攻 of 開講する授業科目 of 各取扱」を適用する。
- 3 第1項の規定により単位認定を受けた授業科目の成績評価は「認定」とする。ただし、次の各号に掲げる授業科目の成績評価は、転載する。
 - (1) 全学共通科目
 - (2) 専門基礎科目群及び専門科目群の授業科目のうち当該学科共通の授業科目
- 4 第2項の規定による場合 of 成績評価は、転載する。

(適用学則等)

第10条 転専攻を許可された者は、許可学年次 of 学生に適用している学則及び諸規程を適用する。

附 則

< 省 略 >

大同大学学籍異動に関する取扱規程

(平成 27 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 28 条から第 34 条及び大同大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第 31 条から第 37 条に基づく、学部及び大学院の学生の学籍異動(転学、留学、休学、復学、退学、除籍、復籍)の取扱いについては、この規程の定めるところによる。

(転学)

第 2 条 転学を願い出る者は、所定の期日までに保証人連署による転学願を提出しなければならない。

2 転学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(留学)

第 3 条 留学を願い出る者は、所定の期日までに保証人連署による留学願を提出しなければならない。

2 留学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(休学)

第 4 条 学則第 30 条及び大学院学則第 33 条に規定するやむを得ない事由は、次の各号のとおりとする。

(1) 修学心不足

(2) 精神的事由

(3) 負傷

(4) 進路検討

(5) 経済的困難

(6) 履修不要

(7) 学長が特に必要と認めた事由

2 休学を願い出る者は、次の各号に掲げる区分及び期限に従い、学部の学生にあっては主指導教員と、大学院の学生にあっては指導教員と面談のうえ、保証人連署による休学願を提出しなければならない。

(1) 前期又は 1 年の休学を希望する者 原則、前年度の 3 月末日まで

(2) 後期の休学を希望する者 原則、当該年度の 9 月末日まで

3 次の各号に掲げる休学事由に該当する場合は、当該各号に掲げる書類を休学願に添えて提出しなければならない。

(1) 病気 医師による診断書

(2) 負傷 医師による診断書

(3) 学長が特に必要と認めた事由 学長が認めたことを証明する書類

4 休学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(復学)

第5条 復学を願い出る者は、次の各号に掲げる区分及び期限に従い、学部の学生にあっては主指導教員と、大学院の学生にあっては指導教員と面談のうえ、保証人連署による復学願を提出しなければならない。

(1) 前期末に休学期間が終了する者 原則、当該年度の9月末日まで

(2) 後期末に休学期間が終了する者 原則、当該年度の3月末日まで

2 学則第31条又は大学院学則第34条の規定にかかわらず、第4条第3項第1号又は第2号の事由により休学した者にあっては、修学に支障のない旨を証明する医師の診断書を復学願に添えて、提出しなければならない。

3 復学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(退学)

第6条 退学を願い出る者は、次の各号に掲げる区分及び期限に従い、学部の学生にあっては主指導教員と、大学院の学生にあっては指導教員と面談のうえ、保証人連署による退学願を提出しなければならない。

(1) 前期に退学を希望する者 原則、当該年度の9月末日まで

(2) 後期に退学を希望する者 原則、当該年度の3月末日まで

2 退学の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(除籍)

第7条 除籍にかかる事由が発生した場合には、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が決定し、その結果を除籍者に通知するものとする。

(復籍)

第8条 復籍を願い出る者は、所定の期日までに保証人連署による復籍願を提出しなければならない。

2 復籍の許可は、教務委員会又は大学院運営委員会の審議を経て、学長が行い、その結果を願出者に通知するものとする。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、教務委員会及び大学院運営委員会の審議を経るものとする。

附 則

< 省 略 >

大同大学学生懲戒規程

(平成 27 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大同大学学則（以下「学則」という。）第 39 条第 4 項及び大同大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第 42 条第 4 項の規定に基づき、大同大学（以下「本学」という。）の学部及び大学院の学生の懲戒について必要な事項を定める。

(懲戒の内容)

第 2 条 懲戒の種類は学則第 39 条第 2 項及び大学院学則第 42 条第 2 項のとおりとし、その内容は、次の各号のとおりとする。

- (1) 退学 学生の身分を失わせること
- (2) 停学 一定の期間、教育課程の履修及び課外活動を禁止すること
- (3) 訓告 文書又は口頭により注意を与え、将来を戒めること

2 停学は、有期又は無期とし、有期の停学とは、期限を付して命じる停学をいい、無期の停学とは、期限を付さずに命じる停学をいう。

(厳重注意)

第 3 条 学長は、前条に規定する懲戒のほか、教育的指導の観点から、文書又は口頭により、厳重注意を行うことができる。

(懲戒対象行為)

第 4 条 懲戒の対象となる行為は、次の各号のとおりとする。

- (1) 刑罰法規に抵触する行為
- (2) 交通法規に違反する行為
- (3) 人権を侵害する行為
- (4) 情報倫理に反する行為
- (5) 論文等の作成における学問的倫理に反する行為
- (6) 本学の規則に違反する行為
- (7) 試験等における不正行為
- (8) 本学の教育研究等の業務を妨害する行為
- (9) その他、学生の本分に反すると認められる行為

(懲戒の量定)

第 5 条 懲戒処分の量定は、次に掲げる行為者の状態等並びに行為の悪質性及び重大性を総合的に判断して行う。

- (1) 非違行為の動機、態様及び結果
- (2) 故意又は過失の別及びその程度
- (3) 過去の非違行為の有無
- (4) 日常における生活態度及び非違行為後の対応

2 退学については、学則第 39 条第 3 項及び大学院学則第 42 条第 3 項の規定を考慮しなければならない。

(懲戒処分の手続)

第 6 条 学長は、学生が第 4 条に該当する行為を行ったと認められるとき、学部の学生にあっては学生委員会に、大学院の学生にあっては大学院運営委員会に、当該学生に対する懲戒処分の当否についての審査を命ずる。

2 学生委員会及び大学院運営委員会は、当該事案を調査の上、第 4 条及び第 5 条に基づき、懲戒の要否及び懲戒の種類等について審査し、その結果を学長に報告する。

3 学長は、当該委員会の報告を受け、懲戒処分を行う。

4 学長は、必要があると認めるときは、当該委員会に対して再審査を求めることができる。

(懲戒処分の通知)

第 7 条 学長は、懲戒処分を行う学生に対して、懲戒通知書（別記様式 1）を交付して行うとともに、その保証人に対し当該通知書の写しを送付するものとする。

2 学長は、懲戒処分の内容を告示（別記様式 2）により学内に公示する。

(異議申し立て)

第 8 条 懲戒処分を受けた学生は、懲戒通知書の交付日から 20 日以内に、事実誤認、新事実の発見その他正当な理由がある場合は、その証拠となる資料を添えて、文書により学長に異議申し立てを行うことができる。

(自宅謹慎)

第 9 条 学長は、当該事案が退学又は停学に該当することが明白であると認めるときは、懲戒処分の決定前に、当該学生に対して自宅謹慎を命ずることができる。

2 自宅謹慎の期間は、停学の期間に算入できるものとする。

(指導監督者)

第 10 条 停学中の学生に対する教育上及び生活上の指導を行うため、指導監督者を置く。

2 指導監督者は、学部の学生にあっては当該学生の主指導教員とし、大学院の学生にあっては、指導教員とする。

3 指導監督者は、当該学生の生活状況を把握し、適宜、学長に報告しなければならない。

(無期停学の解除)

第 11 条 学生委員会又は大学院運営委員会は、無期停学の学生について、指導監督者の要請に基づき、停学解除の妥当性について審議を行う。

2 学長は、学生委員会又は大学院運営委員会の審議を経て停学を解除できる。

3 学長は、無期停学解除の通知を、停学処分解除通知書（別記様式 3）により当該学生に行うとともに、その保証人に対し当該通知書の写しを送付するものとする。

(懲戒の記録)

第 12 条 懲戒処分が行われた場合は、学籍簿に記録するものとする。

(規程の改廃)

第 13 条 この規程の改廃は、学生委員会及び大学院運営委員会の審議を経るものとする。

(雑則)

第 14 条 この規程に定めるもののほか、学生の懲戒の実施に関し必要な事項は、学生委員会及び大学院

運営委員会の審議を経て、別に定める。

(所管事務)

第15条 学生の懲戒に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

< 別記様式1・別記様式2・別記様式3は省略>

大同大学学生の懲戒に係る調査小委員会内規

(平成 27 年 7 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学生委員会規程第 10 条に基づき、学生委員会に、学生の懲戒に係る調査小委員会（以下「小委員会」という。）を置き、小委員会に関することは、この内規の定めるところによる。

(任務)

第 2 条 小委員会は、学生の懲戒の対象となる事案が発生した場合、その事案の調査を行い、学生委員会委員長に報告する。

(組織)

第 3 条 小委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 学生委員会副委員長
- (2) 当該懲戒の対象となる学生（以下「当該学生」という。）が所属する学科の長又は専攻主任
- (3) 当該学生の指導教員
- (4) 学生室長

2 前項の委員のほか主査の必要と認める者を委員とすることができる。

(主査及び副主査)

第 4 条 小委員会に主査及び副主査を置く。

2 主査は、前条第 1 項第 1 号の者をもって充て、副主査は、同第 2 号の者をもって充てる。

(調査)

第 5 条 事案に係る調査は、次の各号のとおり行う。

- (1) 主査は、事案の発生後、直ちに小委員会を招集し、当該学生及び関係者から事情聴取を行う。
- (2) 事情聴取を行う際は、当該学生又は関係者の了解を得た上で、その内容を録音するものとし、かつ、必要と認められる場合は、当該学生又は関係者から資料の提出を求めることができる。
- (3) 主査は、事情聴取した内容を学生の懲戒対象事案調書（別記様式 1）として記録し、当該学生又は関係者から、その内容について承認を得るものとする。
- (4) 主査は、当該学生に弁明書による弁明の機会を与える。ただし、弁明書を提出しなかった場合は、弁明の権利を放棄したものとみなす。

2 前項第 1 号の規定にかかわらず、懲戒対象事案が大同大学学生懲戒規程第 4 条第 7 号に規定する試験等における不正行為の場合にあっては、主査の判断により、複数の小委員会委員により行うことができる。

(報告)

第 6 条 主査は、学生の懲戒対象事案調査報告書（別記様式 2）を作成し、学生の懲戒対象事案調書を付して、学生委員会委員長に提出する。

2 学生委員会委員長は、必要があると認めるときは、小委員会に対して再調査を求めることができる。

(内規の改廃)

第 7 条 この内規の改廃は、学生委員会の審議を経て、学長が行う。

(事務局)

第 8 条 小委員会の事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学学生納付金の納付手続に関する規程

(平成 5 年 8 月 10 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 35 条の 2 第 5 項及び大同大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第 38 条の 2 第 5 項に基づく学生納付金(以下「学納金」という。)の納付手続について、必要な事項を定める。

(納付方法)

第 2 条 学納金の納付方法は、銀行振込とする。

2 前項の規定にかかわらず、休学の場合の学納金の納付方法は、別に定める。

(納付期限)

第 3 条 学納金の納付は、前期及び後期の 2 回とし、それぞれ定められた額を所定の期日までに納付しなければならない。

2 学納金の納付期限は、次のとおりとする。ただし、納付期限の日が銀行休業日にあたる場合は、翌営業日をもってその期限とする。

(1) 前期納付期限 3 月 31 日

ただし、卒業又は大学院修了対象者のうち卒業又は修了できなかつた者については、4 月 30 日とする。

(2) 後期納付期限 9 月 30 日

ただし、卒業又は大学院修了対象者のうち卒業又は修了できなかつた者については、10 月 31 日とする。

3 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者の学納金に関する納付期限は、当該各号のとおりとする。

(1) 新入生の入学金及び前期分学納金 入学手続時

(2) 休学学生の学納金 休学手続時

(納付期限の延長)

第 4 条 前条第 2 項に規定する納付期限までに学納金の納付ができない学生には、学長が認めた場合に限り、納付期限の延長を許可する。

2 前項の許可を受けようとする者は、保証人と連署のうえ、願いを原則として納付期限までに学長宛に提出しなければならない。

3 納付期限の延長は、次の期日を限度とする。

(1) 前期延長納付期限 5 月 31 日

(2) 後期延長納付期限 11 月 30 日

4 前条第 3 項の規定にかかわらず、特別な事情がある場合には、学長の許可を得て、納付期限の期日を延長することができる。

(催告)

第 5 条 学納金の滞納に対する催告は、次のとおり行う。ただし、前条第 2 項及び第 4 項により、納付期限の延長を許可された者は除く。

(1) 納付期限から 1 週間後に文書により催告する。

(2) 前号の催告を受けてもなお納付がない場合は、納付期限から 3 週間後に配達記録付きの郵便に

より催告する。

(除籍)

第 6 条 次の各号の一に該当する者は、学則第 33 条第 4 号又は大学院学則第 36 条第 4 号により除籍する。

- (1) 前条の催告を受けてもなお納付しない者
- (2) 第 4 条第 2 項に規定する手続を納付期限から 1 か月以内に行わない者
- (3) 第 4 条第 3 項に規定する延長納付期限までに納付しない者

附 則

<省 略>

大同大学提携教育ローン規程

(平成 26 年 10 月 1 日制定)

(目的)

第 1 条 大同大学（以下「本学」という。）に、経済的理由により学生納付金の納付が困難な学生に対し、別に定める金融機関（以下「提携金融機関」という。）と本学が契約する教育ローン（以下「提携教育ローン」という。）制度を設ける。

(資格)

第 2 条 提携教育ローンを利用できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 学部又は大学院に在籍する正規学生の保護者（父母又はそれに準ずる者）
- (2) 学部又は大学院の正規課程に入学を予定する者の保護者（父母又はそれに準ずる者）

(利用限度額)

第 3 条 提携教育ローンの一回当たりの利用金額は、前期又は後期の学生納付金額を上限とする。

2 累計利用金額の上限は、提携金融機関との契約による。

(利子)

第 4 条 提携教育ローンの利子は、提携金融機関との契約による。

(返済)

第 5 条 提携教育ローンの利用者は、提携金融機関に元金及び利子を返済しなければならない。

(申請)

第 6 条 提携教育ローンの利用を希望する者は、所定の手続きにより申請し、学長の承認を得なければならない。

(所管事務)

第 7 条 提携教育ローンに関する事務は、学生室が行う。

附 則

<省 略>

大同大学提携教育ローン利子補給奨学規程

(平成 26 年 10 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 37 条第 2 項及び大同大学大学院学則第 40 条第 2 項の規定に基づく、提携教育ローン利子補給奨学（以下「利子補給奨学」という。）については、この規程の定めるところによる。

(目的)

第 2 条 利子補給奨学は、経済的に困窮して学生納付金の納付が困難となり、提携教育ローンを利用する学生に対し、その利子の全部又は一部を給付することにより、経済的負担の軽減を図ることを目的とする。

(資格)

第 3 条 利子補給奨学による奨学金（以下「利子補給奨学金」という。）の給付を受けることができる者は、提携教育ローンを利用し、かつ、最短修業年限以内に在籍している者とする。

(利子補給奨学金)

第 4 条 利子補給奨学金は、当該年度までの累計利用金額に係る当該年度の支払利子額に別表の給付率を乗じて算出した金額とし、千円未満は切捨てる。ただし、場合により、給付額を減ずることがある。

2 利子補給奨学金の上限は、1 年度につき 18 万円とする。

(申請)

第 5 条 利子補給奨学金の給付を受けようとする者は、毎年度所定の期間内に所定の必要書類を添えて、学長に申請しなければならない。

(選考及び決定)

第 6 条 利子補給奨学金受給者の選考は、学部にあつては学生委員会の、大学院にあつては大学院運営委員会の審議を経て、学長が決定する。

(利子補給奨学金の給付)

第 7 条 利子補給奨学金の給付は、申請のあった指定口座に所定の時期に振り込むことによって行う。

(雑則)

第 8 条 利子補給奨学の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

(所管事務)

第 9 条 利子補給奨学に関する事務は、学生室が行う。

附 則

<省 略>

別表

区 分	主たる家計支持者の年間総収入	給付率
給与所得者	841 万円以上	50%
	841 万円未満	100%
給与所得者以外	355 万円以上	50%
	355 万円未満	100%

※給与所得者は源泉徴収票の支払い金額とし、給与所得者以外は確定申告書等の所得金額とする。

大同大学提携教育ローン利子補給奨学細則

(平成 26 年 10 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学提携教育ローン利子補給奨学規程（以下「奨学規程」という。）第 8 条に基づく利子補給奨学の取扱いについては、この細則の定めるところによる。

(基準とする所得)

第 2 条 奨学規程の別表に規定する給与所得者及び給与所得者以外の所得は、私立大学等経常費補助金特別補助における「入学科・授業料減免等の給付事業」の家計基準を準用する。

(給付額の減額)

第 3 条 奨学規程第 4 条第 1 項のただし書に規定する「給付額を減ずることがある」とは、当該年度の利子補給奨学金の申請総額が予算額を超えるときをいう。

2 給付額の減額を行う場合の給付額は、次の計算式による。ただし、千円未満は切捨てるものとする。

$$\text{申請者の申請金額} \times \text{予算額} / \text{申請総額}$$

(申請)

第 4 条 奨学規程第 5 条に規定する所定の期間は、12 月から 1 月末日までとし、所定の必要書類は、次の各号のとおりとする。

- (1) 提携教育ローン利子補給奨学金受給申請書
- (2) 所得を証する書類
- (3) 金融機関等が発行した返済計画書等（借入者・返済期間・利息が明記されたもの）

(給付時期)

第 5 条 奨学規程第 7 条に規定する所定の給付時期は、申請があった年度の 3 月とする。

附 則

<省 略>

大同大学科目等履修生等の納付金等に関する規程

(平成 12 年 10 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学科目等履修生規程第 6 条第 2 項、大同大学特別聴講学生規程第 10 条、大同大学研究生規程第 6 条第 2 項、大同大学大学院科目等履修生規程第 6 条第 2 項、大同大学大学院研究生規程第 6 条第 2 項、大同大学大学院特別聴講学生規程第 9 条第 1 項及び大同大学大学院特別研究学生規程第 7 条第 1 項の規定に基づく入学検定料及び納付金並びに大同大学委託学生及び委託生規程第 7 条第 2 項の規定に基づく入学検定料及び委託費については、この規程の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 科目等履修生、特別聴講学生及び研究生の納付金とは、登録料及び授業料をいう。
2 委託学生及び委託生の委託費とは、入学金、授業料、及び施設設備費をいう。

(金額)

第 3 条 入学検定料、納付金及び委託費の金額は、別表のとおりとする。

(納付方法)

第 4 条 納付金及び委託費の納付方法は、銀行振込とする。

(納付期限)

第 5 条 納付金及び委託費の納付期限は、前期にあつては 4 月末日、後期にあつては 10 月末日とし、納付期限日が銀行の休業日に当たる場合は、翌営業日をもつてその期限とする。

(入学検定料等の返付)

第 6 条 すでに納付した入学検定料、納付金及び委託費は、原則として返付しない。

(入学検定料及び納付金の免除)

第 7 条 科目等履修生及び研究生について、大同工業大学若しくは大同大学の卒業生又は大同工業大学大学院若しくは大同大学大学院の修了生の場合は、届出により登録料を免除する。

附 則

<省略>

別表 入学検定料及び納付金並びに委託費

(1) 科目等履修生

納付金等		金 額	
		学 部	大学院
入学検定料		10,000 円	10,000 円
納付金	登録料	30,000 円	30,000 円
	授業料 (1 単位当たり)	20,000 円	20,000 円

(2) 特別聴講学生

納付金等		金 額	
		学 部	大学院
入学検定料		原則として徴収しない	
納付金	登録料		
	授業料		

(3) 研究生

納付金等		金 額	
		学 部	大学院
入学検定料		10,000 円	10,000 円
納付金	登録料	50,000 円	50,000 円
	授業料	305,000 円	305,000 円

(4) 特別研究学生

納付金等		金 額	
		大学院	
入学検定料		原則として徴収しない	
納付金	登録料		
	授業料		

(5) 委託学生

入学検定料と委託費は、入学年度に係る学部学生の「入学検定料」及び「学生納付金」と同額とする。

(6) 委託生

入学検定料と委託費は、入学年度に係る学部学生の「入学検定料」及び「学生納付金」と同額とする。ただし、「入学金」については、1 年委託生は 4 分の 1、2 年委託生は 2 分の 1 の額とする。

大同大学学位規程

(平成 2 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、学位規則(昭和 28 年文部省令第 9 号)第 13 条及び大同大学学則(以下「学則」という。)第 19 条第 3 項並びに大同大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第 22 条第 3 項の規定に基づき、大同大学(以下「本学」という。)が授与する学位について必要事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第 2 条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

学 部

工学部 工学

情報学部 情報

大学院 工学研究科

修士課程

機械工学専攻 工学

電気・電子工学専攻 工学

建築学専攻 工学

都市環境デザイン学専攻 工学

博士後期課程

材料・環境工学専攻 工学

大学院 情報学研究科

修士課程

情報学専攻 情報

(学士の学位授与の要件)

第 3 条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第 4 条 修士の学位は、本学大学院の修士課程を修了した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第 4 条の 2 博士の学位は、本学大学院の博士課程後期 3 年の課程(以下「博士後期課程」という。)を修了した者に授与する。

2 前項に定める者のほか、大学院学則第 22 条第 2 項の定めるところにより、学位論文の審査及び試験に合格し、かつ、博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを認めた者に博士の学位を授与する。

(学位論文の提出)

第 5 条 本学大学院修士課程の学位論文(以下「修士論文」と称する。)及び博士後期課程の学位論文(以下「博士論文」と称する。)は、学長に提出するものとする。

2 本学大学院修士課程及び博士後期課程における修士論文及び博士論文を提出できる者は、修了に必要な在学期間を満たした者又は見込みの者で課程修了に必要な所定の単位を修得した者又は修得見込みの者で、かつ必要な研究指導を受けた者でなければならない。

3 前条第 2 項の規定により学位の授与を申請する者は、学位審査申請書に履歴書、論文目録、論文内容要旨及び第 13 条第 1 項に定める論文審査手数料を添えて、博士論文を学長に提出するものとする。

4 提出論文は、一編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

5 受理した論文は、返付しない。

(審査の付託)

第 6 条 修士論文及び博士論文を受理したとき大学院教授会は、大学院担当教員より審査委員を選出し、審査委員会を組織する。

(論文審査及び試験)

第 7 条 審査委員会は、修士論文及び博士論文の審査並びに試験を担当する。

(審査結果の報告)

第 8 条 審査委員会は、論文の審査及び試験を終了したとき、その結果を文書をもつて大学院教授会に報告しなければならない。

(大学院教授会の議決)

第 9 条 所定の単位を修得し研究指導を受けた者に対して、大学院教授会は、前条の報告に基づいて審議し、学位授与の認定について議決する。

(学位の授与)

第 10 条 学長は、前条に基づいて、学位を授与できると認めた者に対し学位記を授与し、学位を授与できない者に対しては、その旨を本人に通知する。

(学位論文要旨等の公表)

第 10 条の 2 本学において博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から 3 か月以内に、当該博士の学位授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第 10 条の 3 本学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から 1 年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、本学において博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学はその学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前 2 項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

4 前 3 項の規定により当該学位論文を公表する場合には、本学において審査した論文である旨を明記するものとする。

(学位の名称)

第 11 条 学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、大同大学を付記するものとする。

2 学位記の様式は、別記様式第 1 号、第 2 号、第 3 号及び第 4 号とする。

(学位授与の取消し)

第 12 条 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があつたとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、学士の学位にあっては教授会、修士及び博士の学位に

あつては大学院教授会の審議を経て、学位の授与を取消し、学位記を返付させる。

(論文審査手数料)

第 13 条 第 5 条第 2 項に定める論文審査手数料は、次のとおりとする。

150,000 円

2 納付した論文審査手数料は、返付しない。

(その他)

第 14 条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

別記様式第 1 号 サイズ (A4)

第 号	
学 位 記	
(本籍〔都道府県名〕)	
大学印	(氏名)
年 月 日生	
本学〇〇学部〇〇学科所定の課程を修め本学を卒業したので学士 (〇〇) の学位を授与する	
年 月 日	
大同大学長 氏 名	印

別記様式第 2 号 サイズ (A4)

修第 号	
学 位 記	
(本籍〔都道府県名〕)	
大学印	(氏名)
年 月 日生	
本学大学院〇〇学研究科〇〇〇専攻の修士課程を修了したので修士 (〇〇) の学位を授与する	
年 月 日	
大同大学長 氏 名	印

別記様式第 3 号 サイズ (A3)

博第 号	年 月 日	大同大学長 氏 名	印	(本籍〔都道府県名〕)	大学印	(氏名)	年 月 日生	学 位 記
								本学大学院工学研究科〇〇〇専攻の博士後期課程を修了したので博士 (工学) の学位を授与する

別記様式第 4 号 サイズ (A3)

論博第 号	年 月 日	大同大学長 氏 名	印	(本籍〔都道府県名〕)	大学印	(氏名)	年 月 日生	学 位 記
								本学大学院工学研究科に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので博士 (工学) の学位を授与する

大同大学学生の厚生補導に関する規程

(平成 23 年 9 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 50 条の規定に基づく学生の厚生補導については、この規程の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 学生の厚生補導とは、次の各号に掲げる事項について指導、助言等を行うことをいう。

- (1) 修学に関すること
- (2) 課外活動に関すること
- (3) 保健に関すること
- (4) 学生相談に関すること
- (5) 奨学に関すること
- (6) 福利厚生に関すること
- (7) 就職指導に関すること
- (8) その他厚生補導に関すること

(厚生補導の実施体制)

第 3 条 学生の厚生補導は、学長が指名する副学長が統括及び調整する。

2 学生の厚生補導は、学生部長が掌理するものとする。

3 学生の厚生補導は、主指導教員が行う。

4 主指導教員の行う学生の厚生補導の支援及び事務取扱は、前条第 1 号にあつては教務室が、同条第 2 号から第 6 号にあつては学生室が、同条第 7 号にあつてはキャリア支援室が、それぞれ行う。

5 学生の厚生補導の事務取扱主管室は、学生室とする。

(雑則)

第 4 条 この規程に定めるもののほか、学生の厚生補導に関し必要な事項は、大学運営委員会の審議を経て、別に定める。

附 則

第 1 条 この規程は、平成 23 年 9 月 1 日から施行する。

第 2 条 平成 20 年度までに入学した学生の厚生補導の実施については、第 3 条第 3 項の主指導教員を、指導教員と読み替える。

大同大学貸与奨学規程

(平成 9 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則(以下「学則」という。)第 37 条第 2 項に基づく学業奨励のために、修学心が旺盛でありながら経済的事由により修学困難な学生に対し、奨学金を貸与し、学業の継続を支援することを目的とする貸与奨学については、この規程の定めるところによる。

(種類)

第 2 条 奨学貸与の奨学生(以下「奨学生」という。)の種類は、一般貸与奨学生及び緊急時貸与奨学生とする。

(資格)

第 3 条 奨学生の資格は、経済的事由により修学困難のため、奨学金の貸与が必要であると認められる者のうち、次の条件を充たす者とする。

- (1) 一般貸与奨学生:日本学生支援機構又はその他諸団体の奨学生でない者
- (2) 緊急時貸与奨学生:学生納付金の延納が許可されている者で、かつ日本学生支援機構又は大同大学が紹介する教育ローン制度に申請した者のうち、学生納付金の延長納付期限までに納付できないことが見込まれる者

(奨学金及び利息)

第 4 条 奨学金は無利息とし、その貸与額は、次のとおりとする。

- (1) 一般貸与奨学生:月額 30,000 円
- (2) 緊急時貸与奨学生:学則第 35 条の 2 第 2 項別表 (5) に定める授業料、施設設備費及び実験実習費の年額の 2 分の 1 相当額

(貸与期間等)

第 5 条 一般貸与奨学生の貸与期間は、採用時から最短修業年限までとする。

2 緊急時貸与奨学生への貸与は、在籍期間中の 1 学期限りとする。

(採用人員)

第 6 条 奨学生の採用人員は、次のとおりとする。

- (1) 一般貸与奨学生:各年次 12 名以内
- (2) 緊急時貸与奨学生:毎年度 12 名程度

(申請手続)

第 7 条 奨学生を希望する者は、所定の申請書及び必要とする書類を添えて、学長に願い出るものとする。

(選考)

第 8 条 奨学生の選考は、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

(誓約書)

第 9 条 奨学金の貸与が決定された者は、連帯保証人 1 名と連署した誓約書を学長に提出しなければならない。

(借用証書)

第 10 条 奨学生が次の事由に該当するときは、奨学金借用証書を学長に提出しなければならない。

- (1) 一般貸与奨学生:大学を卒業又はその他の事由により奨学生の資格を失ったとき

(2) 緊急時貸与奨学生:奨学生決定通知を受けたとき

(打切)

第 11 条 奨学生が次の各号の一に該当するときは、学長は奨学金の貸与を打ち切ることができる。

(1) 休学、退学又は除籍のとき

(2) 学則違反をしたとき

(3) 学業成績又は性行が不良となつたとき

(4) 第 3 条第 1 号の規定により、奨学生となることができなくなつたとき

(5) その他奨学生として、適当でないと認められる事由が生じたとき

(返還)

第 12 条 奨学生は、大学の籍を離れた翌年度から奨学金の返還を行うものとする。

2 返還期間は、次の各号のとおりとする。

(1) 一般貸与奨学生: 10 年以内

(2) 緊急時貸与奨学生: 5 年以内

(届出)

第 13 条 奨学生又は奨学生であつた者が次の各号に該当するときは、遅滞なく届け出なければならない。

(1) 休学、退学又は復学しようとするとき

(2) 奨学金を辞退しようとするとき

(3) 本人又は連帯保証人の氏名、住所、その他重要な事項に変更があつたとき

(免除と猶予)

第 14 条 奨学生が著しい障害その他重大な理由又は死亡により、奨学金を返還することが困難となつた場合には、学長は、本人又は連帯保証人の願い出により、第 12 条の規定にかかわらず、その返還額の全部又は一部を免除又は猶予することができる。

(細則)

第 15 条 この規程の実施に関する必要な細則は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学貸与奨学規程細則

(平成 9 年 4 月 1 日制定)

(趣 旨)

第 1 条 大同大学貸与奨学規程(以下「奨学規程」という。)第 15 条の規程に基づく貸与奨学の実施に関する必要な事項については、この細則の定めるところによる。

(申請書類)

第 2 条 一般貸与奨学生(以下「一般奨学生」という。)及び緊急時貸与奨学生(以下「緊急時奨学生」という。)の申請に必要な書類は、次のとおりとする。

- (1) 貸与奨学申請書
- (2) 所得を証する書類
- (3) その他大学が必要とする書類

なお、緊急時奨学生は、緊急に貸与を必要とする事実を証する書類を添付するものとする。

(申請時期)

第 3 条 奨学生の申請時期は、次のとおりとする。

- (1) 一般奨学生 : 毎年 4 月とする。ただし、採用人員に余裕がある場合は、10 月に実施する。
- (2) 緊急時奨学生 : 毎年 5 月及び 11 月とする。

(選考方法)

第 4 条 奨学規程第 8 条に定める奨学生の選考の方法は、次のとおりとする。

- (1) 一般奨学生 : 日本学生支援機構奨学生推薦基準を準用する。
- (2) 緊急時奨学生 : 日本学生支援機構の選考基準項目に関する評価点の算出方法を準用し、かつ申請書類、成績等を参考に、総合的に判断する。

(決定通知)

第 5 条 学長は、奨学生として採用を決定したときは、本人と連帯保証人に、文書をもって通知する。

(誓約書)

第 6 条 奨学生決定の通知を受けた者は、通知を受けた日から 10 日以内に誓約書を学長に提出しなければならない。

(貸与方法)

第 7 条 奨学金の貸与方法は、次のとおりとする。

- (1) 一般奨学生 : 奨学金は、毎月 20 日に学生本人名義の銀行口座に振り込む。ただし、当日が銀行休業日に当たるときは、その前日とする。なお、奨学金の振込口座は必ず学生本人の名義とし、採用決定の際振込口座届を提出しなければならない。
- (2) 緊急時奨学生 : 奨学金は、学生納付金納入時に学生納付金に充当することとする。

(打切通知)

第 8 条 学長は、奨学金の貸与を打ち切ったときは、本人と連帯保証人に文書をもって通知する。

(返還方法)

第 9 条 奨学規程第 12 条に定める貸与額(以下「返還額」という。)の返還期間及び返還月賦額は、別表の定めるところにより、元金均等割とし、毎月 16 日に郵便局又は銀行の預貯金口座振替によって返還する。当日が金融機関の休業日の場合は、翌営業日とする。

2 本人の都合により返還期間の短縮又は返還時期の繰り上げを行うことができる。

3 返還を猶予された者の返還方法は、その都度定める。

(振替案内)

第10条 本人又は連帯保証人に、毎年4月に返還額の残額と次回振替額を記した振替案内を送付する。

(延滞利息)

第11条 奨学生であった者が、正当な理由がなく返還額を延滞したときは、返済期日を6か月経過する毎に、延滞した額の5% (年額) 日割計算を延滞利息として徴収する。なお、延滞利息には、利息を課さないこととする。

(返還の督促)

第12条 奨学生であった者が、正当な理由がなく返還額を延滞したときは督促する。

2 前項の規定による督促は、次の各号の一に該当するときは、その者の連帯保証人にも行う。

(1) 奨学生であった者の住所の変更の届出がない等の理由により、その所在が不明のとき。

(2) 前項の規定による督促を重ねても奨学生であった者が返還を行わないとき。

(3) その他の事情があるとき。

3 督促に関する事務の詳細は、別の要領に定める。

(返還の強制)

第13条 奨学生であった者又は連帯保証人が、前条の規定による督促にも応じず、返還額を著しく延滞したときは、法令の定める手続きにより、未返還額を返還請求するものとする。

(返還額の未納処理)

第14条 返還額の未納処理については、別の基準に定める。

(所 管)

第15条 奨学生に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学学業奨励生規程

(平成 9 年 4 月 1 日制定)

(目的)

第 1 条 大同大学学生の学業奨励のために学業奨励生規程を定める。

(資格)

第 2 条 学業奨励生 (以下「奨励生」という。) の資格は、大同大学に在学する学生で、学業、人物共に優れ、他の学生の模範とするに足るものとする。

(奨励金)

第 3 条 奨励金は、5 千円とし、相当額の金品を贈る。

(期間)

第 4 条 奨励生の期間は、1 年とし、選考により継続することができる。

(人数)

第 5 条 奨励生の人数は、別に定める。

(選考)

第 6 条 奨励生の選考は、第 2 条の資格を有する者のうちから、学科の推薦により、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

(事務局)

第 7 条 奨学生に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学学業奨励生規程細則

(平成9年4月1日制定)

(対象)

第1条 学業奨励生(以下「奨励生」という。)の対象年次は、2年次生、3年次生、4年次生とする。

(採用人員)

第2条 奨励生の採用人員は、各学科(専攻)、各年次上位1割以内とする。

(選考)

第3条 奨励生は、前年度における学業成績及び人物評価の総合評価により、選考する。成績基準は、別に定める。

(決定時期)

第4条 奨励生の決定時期は、毎年度始めとする。

附 則

< 省 略 >

大同大学入学時特別奨学規程

(平成 13 年 2 月 26 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 37 条第 2 項に基づく学業奨励及び優秀な人材の育成を目的とする入学時特別奨学については、この規程の定めるところによる。

(資格)

第 2 条 入学時特別奨学金(以下「特別奨学金」という。)を受けることができる者(以下「特奨生」という。)の資格は、次のとおりとする。

- (1) M 方式入学試験、前期入学試験又は大学入試センター試験利用前期入学試験において、特に優秀な成績であること
- (2) 学力が優秀であること
- (3) 心身ともに健康であること

(特別奨学金の額)

第 3 条 特別奨学金は、年額 60 万円とする。

(特別奨学金の給付)

第 4 条 特別奨学金の給付期間は、入学年度から最短修業年限とする。

2 給付の方法は、学生納付金納入時に、前条の額を免除することとする。

(採用人員)

第 5 条 特奨生の採用人員は、毎年度 60 名程度とする。

(選考及び採用)

第 6 条 特奨生の選考は、入試・広報委員会が行う。

2 特奨生の採用は、前項の選考結果に基づき、教授会の審議を経て、学長が決定する。

3 特奨生の選考に関する事項は、別に定める。

(誓約書)

第 7 条 特奨生として入学が決定した者は、連帯保証人 1 名と連署した誓約書を学長に提出しなければならない。

(取消)

第 8 条 特奨生が次の各号の一に該当するときは、学生委員会の審議を経て、学長がその資格を取消すものとする。

- (1) 休学、退学又は除籍のとき
- (2) 学則違反をしたとき
- (3) 学業成績が特奨生として不振と判断したとき
- (4) 出席状況が特奨生として不良と判断したとき

(停止・返還)

第 9 条 前条の規程により特奨生の資格を取消したときは奨学金の給付を停止し、事情によつては、当該期の交付額を返還させることがある。

2 特奨生が疾病又は経済的事由等によりやむを得ず休学する場合は、奨学金の給付を停止し、復学したときに奨学金の給付を復活する。

(雑則)

第 10 条 この規程の施行に関し必要な事項は、入試・広報委員会の審議を経て、学長がこれを定める。

(事務)

第 11 条 選考に関する事務は、入試・広報室が行い、以降の事務は学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学入学時スポーツ特別奨学規程

(平成 14 年 11 月 20 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 37 条第 2 項に基づくスポーツクラブの強化及び活性化を目的とする入学時スポーツ特別奨学については、この規程の定めるところによる。

(種類)

第 2 条 入学時スポーツ特別奨学の奨学金(以下「入学時スポーツ奨学金」という。)を受けることができる者(以下「入学時スポーツ特奨生」という。)の種類は、次のとおりとする。

- (1) 第 1 種入学時スポーツ特奨生
- (2) 第 2 種入学時スポーツ特奨生

(資格)

第 3 条 入学時スポーツ特奨生の資格は、次のとおりとする。

- (1) 高等学校におけるスポーツ競技歴が特に優秀であり、かつ学業成績優秀で本学が実施する クラブ推薦入学試験による入学者
- (2) 人物に優れ、他の学生の模範となる者

(入学時スポーツ奨学金の額)

第 4 条 入学時スポーツ奨学金は、次のとおりとする。

- (1) 第 1 種入学時スポーツ特奨生:年額 60 万円とする。
- (2) 第 2 種スポーツ特奨生:入学金相当額

(入学時スポーツ奨学金の給付)

第 5 条 入学時スポーツ奨学金の給付期間は、次のとおりとする。

- (1) 第 1 種入学時スポーツ特奨生:入学時から最短修業年限
- (2) 第 2 種入学時スポーツ特奨生:入学時

2 給付の方法は、学生納付金納入時に、前条の額を免除することとする。

(採用人員)

第 6 条 入学時スポーツ特奨生の採用人員は、毎年若干名とする。

(選考及び採用)

第 7 条 入学時スポーツ特奨生の選考は、入試・広報委員会が行う。

2 入学時スポーツ奨学生の採用は、前項の選考結果に基づき、教授会の審議を経て、学長が決定する。

3 入学時スポーツ特奨生の選考に関する事項は、別に定める。

(誓約書)

第 8 条 入学時スポーツ特奨生として採用が決定した者は、連帯保証人 1 名と連署した誓約書を学長に提出しなければならない。

(取消)

第 9 条 第 1 種入学時スポーツ特奨生が次の各号の一に該当するときは、学生委員会の審議を経て、学長がその資格を取消すものとする。

- (1) 休学、退学又は除籍のとき

(2) 学則違反をしたとき

(3) 学業成績が入学時ｽﾎｰﾂ特奨生として不振と判断したとき

(4) 当該ｸﾗﾌﾞを退部したとき

(5) 当該ｸﾗﾌﾞの顧問及び監督が入学時ｽﾎｰﾂ特奨生として不適当であると判断したとき

2 前項第 1 号について、疾病又は経済的事由等によりやむを得ず休学する場合は、入学時ｽﾎｰﾂ奨学金の給付を停止し、復学したときに奨学金の給付を復活する。

(停止・返還)

第 10 条 前条の規定により入学時ｽﾎｰﾂ特奨生の資格を取消したときは、事情によっては、当該期の交付額を返還させることがある。

(雑則)

第 11 条 この規程の施行に関し必要な事項は、入試・広報委員会の審議を経て、学長がこれを定める。

(事務)

第 12 条 選考に関する事務は、入試・広報室が行い、以降の事務は学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学在学生学業特別奨学規程

(平成 18 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 37 条第 2 項に基づく学業奨励及び優秀な人材の育成を目的とする在学生学業特別奨学については、この規程の定めるところによる。

(資格)

第 2 条 在学生学業特別奨学金(以下「在学生特別奨学金」という)を受けることができる者(以下「在学特奨生」という)の資格は、次のとおりとする。

(1) 2 年次、3 年次及び 4 年次に在学する学生で、学業、人物共に優れ、他の学生の模範となるに足ること

(2) 入学時特別奨学生に採用されていないこと

(3) 入学時 4 年次生については、卒業研究履修基準を充足していること

(在学生特別奨学金の額)

第 3 条 在学生特別奨学金は、年間 22 万円とする。

(在学生特別奨学金の給付)

第 4 条 在学生特別奨学金の給付期間は 1 年とする。

2 給付の方法は、当該年度の後期学納金（授業料及び施設協力費）納入時に、前条の額を免除する。

(採用人員)

第 5 条 採用人員は、若干名とする。

(選考)

第 6 条 在学特奨生の選考は、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

2 在学特奨生の選考に関する事項は、別に定める。

(取消)

第 7 条 在学特奨生が次の各号の一に該当するときは、学生委員会の審議を経て、学長がその資格を取消すものとする。

(1) 休学、退学又は除籍のとき

(2) 学則違反をしたとき

(返還)

第 8 条 前条の規定により在学特奨生の資格を取消したときは、事情によっては、当該期の交付額を返還させることがある。

(補則)

第 9 条 この規程の施行に関する必要な事項は、学長がこれを定める。

(事務)

第 10 条 選考に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学在学生スポーツ特別奨学規程

(平成 18 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 37 条第 2 項に基づくスポーツクラブの強化及び活性化を目的とする在学生スポーツ特別奨学については、この規程の定めるところによる。

(資格)

第 2 条 在学生スポーツ特別奨学の奨学金(以下「在学生スポーツ奨学金」という)を受けることができる者(以下「在学生スポーツ特奨生」という)の資格は、次のとおりとする。

- (1) 入学後にスポーツ競技成績が特に優秀かつ学業に意欲があり、クラブの顧問及び監督の推薦する者
- (2) 入学時スポーツ特別奨学生に採用されていない者
- (3) 人物に優れ、他の学生の模範となる者

(在学生スポーツ奨学金の額)

第 3 条 在学生スポーツ奨学金は、年間 22 万円とする。

(在学生スポーツ奨学金の給付)

第 4 条 在学生スポーツ奨学金の給付期間は、採用年度から最短修業年限とする。

2 給付の方法は、後期学生納付金納入時に、前条の額を免除する。

(採用人員)

第 5 条 在学生スポーツ特奨生の採用人員は、毎年若干名とする。

(選考)

第 6 条 在学生スポーツ特奨生の選考は、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

2 在学生スポーツ特奨生の選考に関する事項は、別に定める。

(取消)

第 7 条 在学生スポーツ特奨生が次の各号の一に該当するときは、学生委員会の審議を経て、学長がその資格を取消すものとする。

- (1) 休学、退学又は除籍のとき
- (2) 学則違反をしたとき
- (3) 学業成績が在学生スポーツ特奨生として不振と判断したとき
- (4) 当該クラブを退部したとき
- (5) 当該クラブの顧問及び監督が在学生スポーツ特奨生として不適当であると判断したとき

2 前項第 1 号について、疾病又は経済的事由等によりやむを得ず休学する場合は、在学生スポーツ奨学金の給付を停止し、復学したときに奨学金の給付を復活する。

(返還)

第 8 条 前条の規定により在学生スポーツ特奨生の資格を取消したときは、在学生スポーツ奨学金の給付を停止し、事情によっては、当該期の交付額を返還させることがある。

(補則)

第 9 条 この規程の施行に関する必要な事項は、学長がこれを定める。

(事務)

第 10 条 選考に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学私費外国人留学生学生納付金減免に関する規程

(平成 5 年 4 月 1 日制定)

(目的)

第 1 条 向学の意思を有しながら、経済的理由により修学が困難であると認められる私費外国人留学生(以下「私費留学生」という。)に、経済的負担を軽減することを目的としてこの規程を定める。

(対象者)

第 2 条 大同大学学則第 43 条又は大同大学大学院学則第 45 条により入学を許可された私費留学生を対象とする。ただし、次の各号の一に該当する者を除く。

- (1) 学業継続の意思がないと認められる者
- (2) 学業成績が不振で、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 3 年次生から 4 年次生に進級する際に、卒業研究履修基準に満たない者、ただし、病気その他やむを得ない事由により卒業研究履修基準に満たない者は除く。
- (4) 経済的に修学が困難と認められない者。

2 前項第 4 号において、経済的に修学が困難と認められない者とは、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 仕送りが平均月額 90,000 円(学生納付金として仕送られた額を除く)を越える者
- (2) 在日している扶養者の年収が 500 万円以上の者

(減免額)

第 3 条 学生納付金の減免額は、学部又は大学院の当該授業料年額の 3 割相当額とする。

(期間)

第 4 条 減免期間は、申請した当該年度とする。

(手続)

第 5 条 授業料の減免を受けようとする者は、所定の申請書を学長に提出しなければならない。

2 減免を受けようとする者は、毎年度申請しなければならない。

(選考及び決定)

第 6 条 私費留学生に対する減免の選考は、面接及び書類審査により行う。

2 選考は、学部の場合にあつては学生部長が、大学院の場合にあつては大学院研究科長が、それぞれ行う。

3 減免者の決定は、前項の選考結果に基づき、学部にあつては学生委員会の、大学院にあつては大学院運営委員会の審議を経て、学長が行う。

(取消)

第 7 条 学生としての本分に著しく反した行為があつた場合、減免を取り消す。

附 則

< 省 略 >

大同大学学生表彰規程

(昭和 63 年 3 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 38 条第 2 項に基づく学生の表彰（以下「表彰」という。）については、この規程の定めるところによる。

(対象)

第 2 条 表彰は、次の各号に該当する個人又は団体に対して行う。

- (1) 各学科の最高年次に在籍する学生で、学業、人物共に優れ、他の学生の模範と認められたもの
- (2) 課外活動において、特に優秀な成績をおさめたもの
- (3) 研究活動において、特に顕著な業績をおさめたもの
- (4) 特に顕著な功績、善行があつたもの

(表彰の種類)

第 3 条 表彰の種類は、次の各号のとおりとする。

- (1) 大同大学学長賞
- (2) 大同大学奨励賞

(決定)

第 4 条 表彰は、学生委員会の審議を経て学長が決定する。

(委任)

第 5 条 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学学生表彰規程実施細則

(昭和 63 年 3 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この細則は、大同大学学生表彰規程 (以下「表彰規程」という。) 第 5 条に基づき、大同大学の学生の表彰 (以下「表彰」という。) に関し必要な事項を定める。

(対象)

第 2 条 表彰の対象は、表彰規程の定めるところにより、次の各号に該当する個人又は団体とする。

- (1) 各学科の最高年次に在籍する学生で、学業、人物共に優れ、他の学生の模範と認められたもの
- (2) 課外活動において、特に優秀な成績をおさめたもの
- (3) 研究活動において、特に顕著な業績をおさめたもの
- (4) 特に顕著な功績、善行があつたもの

(対象とするものの定義)

第 3 条 前条第 1 号に規定するものとは、学業奨励生及び在学生学業特別奨学生のいずれかを 2 年次から 4 年次まで継続したものとする。

2 前条第 2 号に規定するものとは、次の各号のとおりとする。

- (1) 国際大会の出場者又は全国大会の入賞者又はこれに準ずる成績をおさめたもの。
- (2) 在学期間を通じて課外活動の発展に特に貢献したもの。

3 前条第 3 号に規定するものとは、次の各号のとおりとする。

- (1) 国際的又は全国的な学会等で本学の名誉を高める顕著な業績をおさめたもの。
- (2) 卒業後、在学中の研究活動業績により、特に顕著な功績があつたもの。

4 前条第 4 号に規定するものとは、次の各号のとおりとする。

- (1) 学内又は学外における社会貢献等の活動実績が、本学の名誉を高める模範的な行為として認められたもの。
- (2) 前号及び第 1 項から第 3 項に掲げるほか、特に優れた業績又は功績があつたもの。

(表彰の種類等)

第 4 条 表彰の種類は、表彰規程の定めるところにより、次の各号のとおりとする。

- (1) 大同大学学長賞 (以下「学長賞」という。)
- (2) 大同大学奨励賞 (以下「奨励賞」という。)

2 学長賞は、次の各号に該当するものに授与する。

- (1) 第 3 条第 1 項に該当するもの
- (2) 第 3 条第 2 項第 2 号に該当するもの

3 奨励賞は、次の各号に該当するものに授与する。

- (1) 第 3 条第 2 項第 1 号に該当するもの
- (2) 第 3 条第 3 項に該当するもの
- (3) 第 3 条第 4 項に該当するもの

4 受賞者には、表彰状及び副賞を授与する。

(授与数及び回数)

第 5 条 賞を授与するものの数は、制限しない。ただし、前条第 2 項第 1 号については、各学科 2 名以内、専攻を有する学科については、各専攻 1 名以内とする。

2 賞を授与する回数は、制限しない。ただし、学長賞にあつては在学中 1 回とする。

(選考方法)

第 6 条 表彰の選考は、第 3 条から第 5 条の規定に則つた学科等からの推薦に基づき行う。

2 学科等からの推薦は、次の表のとおりとする。

賞の区分	推薦する者
第 3 条第 1 項	学科又は専攻
第 3 条第 2 項第 1 号	所属クラブの顧問又は監督
第 3 条第 2 項第 2 号	学生部及び所属クラブの顧問又は監督
第 3 条第 3 項	学科又は専攻
第 3 条第 4 項	学科、専攻又は学生部

3 推薦の時期は、原則として、次の各号のとおりとする。

- (1) 学長賞の推薦は毎年 2 月とする。
- (2) 奨励賞の推薦は随時とする。ただし、推薦理由となる事由が発生した日より 2 ヶ月以内とする。

(表彰時期)

第 7 条 表彰の時期は、次の各号のとおりとする。

- (1) 学長賞の表彰は、学位授与式にて行うものとする。
- (2) 奨励賞の表彰は、その都度速やかに行うものとする。

3 前項の規定にかかわらず、学長が特に必要があると認めた場合は、随時行うことができる。

(委任)

第 8 条 この細則に定めるもののほか、表彰に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学クラブ活動表彰基準要項

(趣旨)

第1条 大同大学表彰規程内規第2条第2号に基づき大同大学クラブ活動表彰基準を設ける。

(対象)

第2条 表彰の対象となる個人又は団体は、大同大学クラブ委員会(以下「クラブ委員会」という。)に認可されたクラブに所属し、クラブ活動実績、人物共に優れ、他の学生の模範とするに足るものとする。

2 表彰対象となる個人又は団体は、クラブ委員会にクラブ活動結果報告書及びその他の書類を提出しているものとする。

(奨励金及び表彰クラブ数)

第3条 団体表彰：最優秀賞3万円、優秀賞2万円、奨励賞1万円、特別賞1万円の、各クラブへクラブ活動費として支給する。

2 個人表彰：個人賞5千円相当の金品を支給する。

3 表彰クラブ数は、特に制限は設けないものとする。

4 団体表彰は各賞を重複せず、基準が重複した場合は、最も上位の内容で表彰することとする。

(表彰基準)

第4条 表彰基準は、原則として、次のようにする。

(1) 最優秀賞

ア 国際大会に出場

イ 全国大会で入賞または全国大会に準ずる大会で入賞(運動系クラブは上位3位までとする)

ウ その他、クラブの発展がめざましく、学生部の推薦のあったクラブ

(2) 優秀賞

ア 下部団体から、最上部団体へ昇格

イ 全国大会に準ずる大会で入賞

ウ 最上部団体に所属し、地区大会で優勝

エ その他、クラブの発展がめざましく、学生部の推薦のあったクラブ

(3) 奨励賞

ア 下部団体から、上部団体へ昇格

イ 地区大会で優勝

ウ 社会貢献活動等の活動が顕著

エ 昨年度の表彰内容よりも好成績を残す

オ その他、クラブの発展がめざましく、学生部の推薦のあったクラブ

(4) 個人表彰

ア 県等で組織する団体の代表選手に選出

イ 各大会等で個人賞の受賞(個人や各店舗などが主催する小規模の大会は除く)

ウ その他、クラブの発展に貢献し、学生部の推薦のあったもの

(選考)

第5条 表彰クラブの選考は、第2条の対象クラブのうちから学生委員会の議を経て学生部長が決定する。

(決定時期)

第 6 条 表彰クラブの決定は 1 2 月の学生委員会とし、表彰は 1 月のクラブ活動報告会とする

(課外活動の発展)

第 7 条 第 6 条に規定するクラブ活動報告会において、在学期間を通じて 2 回以上個人表彰を受賞したものについては、課外活動の発展に特に貢献したものとして、大同大学表彰規程内規第 2 条第 2 号イに基づき、表彰候補者として学生委員会に推薦する。

(事務局)

第 8 条 クラブ表彰に関する事務は、学生室が行う。

大同大学厚生施設使用規則

(昭和 47 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 50 条第 2 項の規定に基づく大同大学の厚生施設 (以下「厚生施設」という。) については、この規則の定めるところによる。

(厚生施設)

第 2 条 厚生施設は、次の施設をいう。

- (1) 学生ホール
- (2) 自習室
- (3) ロッカー室
- (4) シャワー室
- (5) 食堂
- (6) 売店
- (7) カフェ&バー
- (8) ミーティングルーム
- (9) 木曽駒ゼミナール

(使用の目的)

第 3 条 厚生施設は、学生及び職員が研修、休憩、談話、食事、自習その他会合等にそれぞれの目的に沿って使用することができる。

(使用の許可)

第 4 条 前項以外の目的で厚生施設を使用するときは、使用責任者が事前に学生部長の許可を得るものとする。

(使用上の注意事項)

第 5 条 厚生施設を使用するときは、次の事項を守らなければならない。なお、違反した場合には使用を取り消し、許可しないことがある。

- (1) 施設、設備、機器、備品等の保全に努めること
- (2) 施設内外の美化整頓に努めること
- (3) 火気の使用及び喫煙は、所定の場所とし、火災予防に努めること
- (4) 電気、水道を使用するときは、節約に努めること
- (5) 他の使用者に迷惑を及ぼさないこと
- (6) 職員の指示は、必ず守ること
- (7) 上記のほか別に定める各施設の使用に関する心得等を遵守すること

(使用時間)

第 6 条 厚生施設の使用時間は、別表のとおりとする。ただし、休業日及び授業が行われない日は、その都度定める。

(木曽駒ゼミナール)

第 7 条 第 2 条第 9 号の木曽駒ゼミナールの使用規則は、別に定める。

(事務)

第 8 条 厚生施設の運営に関する事務は学生室が行う。

附 則
 < 省 略 >
 別 表
 平日

施設名	滝春校舎	白水校舎
学生ホール	8時40分～21時00分	8時40分～21時00分
自習室	8時40分～21時00分	
ロッカ-室	8時40分～17時50分	
食堂	10時00分～14時00分	
	16時00分～18時00分	
売店	8時30分～18時00分	
カフェ&カレー	9時00分～19時00分	

ただし、上記施設の時間外、土曜日、日曜日及び祝祭日等については、学生部長の許可をうけて使用することができる。また、ミーティングルームは、学生部長の許可をうけて使用することができる。

大同大学木曽駒ゼミナール使用細則

(昭和 44 年 7 月 9 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学厚生施設使用規則第 1 条による木曽駒ゼミナール(以下「ゼミナール」という。)の使用等については、この細則による。

(使用許可等)

第 2 条 ゼミナールを使用しようとする者は、所定の使用願を使用予定日の 1 か月前から 5 日前(郵送の場合 10 日前)までに学生室に提出し、学生部長の許可を受け、使用許可書の交付を受けなければならない。ただし、必要やむを得ない事情のある場合は、その日限を短縮することができる。

2 使用願の申し込み責任者は、本学園の学生、職員及び卒業生とする。

3 本学園の学生及び職員(第 9 条該当者を除く。)における夏季休業中の使用願は、2 か月前から受け付ける。

(使用限度)

第 3 条 ゼミナールの使用は、引き続き 7 日間を限度とする。ただし、学生部長が特別の事情があると認めた場合は、この限りではない。

(使用料等の納付)

第 4 条 使用の許可を受けた者は、別表に定める使用料及び食費は、到着した日にゼミナール管理人に納めなければならない。

(使用の取消し)

第 5 条 使用の取消しは、学生室に次の取消料を添えて願出なければならない。

申 出 日	取 消 料
使用日の 3 日前まで	徴収しない
使用日の 2 日前以降	食費の全額

2 天災その他不可抗力により使用することができなくなったときは、学生室に使用予定日から 3 日以内に申し出ることとする。その際の取消料は、徴収しないものとする。

(使用の制限)

第 6 条 ゼミナールを使用する者(以下使用者という。)は、この規則及び使用者心得を守らなければならない。

第 7 条 使用者は、当該使用にかかる施設及び備品を滅失若しくは破損し、又は許可条件に違反したことにより損害を与えたときは、損害を賠償しなければならない。

第 8 条 次に掲げる者は、管理人によりその使用を断られることがある。

- (1) 使用許可書を持参しない者
- (2) 使用許可期限を超過した者
- (3) この規則及び使用者心得に違反した者
- (4) その他管理人の指示に従わない者

(使用者の範囲)

第 9 条 ゼミナールに余裕があるときは、本学園の学生、職員及び卒業生の紹介した者の使用も認める。

(休業日)

第 10 条 休業日は次のとおりとし、掲示によって知らせる。

- (1) 年間の休業日は、年度当初にこれを定める。
- (2) 臨時の休業日は、そのたびにこれを定める。

附 則

< 省 略 >

別表

	使用料 (1人1泊)	食費 (1人1食)	
		朝 食	夕 食
学園内 [学園の学生・生徒]	1,500 円	540 円	定食 2,160 円 特別食 3,100 円 バーベキュー 1,080 円 (夏季のみ)
学園内 [学園の職員]	2,600 円		
上記が同伴する家族	2,600 円		
学園内の退職職員・卒業生 [上記が同伴する家族を含む]	3,650 円		
学 園 外	4,500 円		

※上記の使用料・食費は、消費税を含んだ金額です。

※幼児については、使用料を徴収しない。ただし、寝具を使用する場合は、リネン代を徴収する。

※1泊は、15時から翌日の10時とする。

大同大学木曽駒ゼミナール使用者心得

(昭和 44 年 7 月 9 日制定)

1. ゼミナールに到着の際、使用許可書を管理人に渡し、使用料及び食費を納入すること。
2. 所定の場所以外での喫煙及び火気の使用をしないこと。
3. 敷地の内外をとわず立木類土石の切損をしないこと。
4. 常に建物内及び外部周辺の清潔、整頓、衛生並びに盗難防止等に留意し、かつ他人に迷惑を及ぼすことのないように注意すること。
5. 食事、入浴、施設備品の使用等については、管理人の指示により秩序よく行い、汚損、破損しないように注意すること。なお、食事時間等は原則として、次のとおりとする。

イ.	食事時間	朝食	7 時 30 分～8 時 00 分
		夕食	18 時 00 分～20 時 00 分
ロ.	入浴時間		16 時 00 分～21 時 00 分
ハ.	門限		21 時 00 分
ニ.	ホール消灯		22 時 00 分
6. 登山計画のある場合は、登山の計画、登山者の氏名等を管理人に報告すること。
7. 退出の際は、使用の室を整頓したうえで管理人に申し出ること。

附 則

< 省 略 >

大同大学運動施設使用規則

(昭和 50 年 9 月 8 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学学則第 50 条第 2 項の規定に基づく大同大学 (以下「本学」という。) の運動施設 (以下「運動施設」という。) については、この規則の定めるところによる。

(運動施設)

第 2 条 運動施設は、次の施設をいう。

- (1) 東小山運動場
- (2) 元浜運動場
- (3) 石井記念体育館

(使用の順位)

第 3 条 運動施設は、本学の授業及び本学学生の課外活動に使用することとし、本学の授業の使用が優先する。

2 前項の使用に支障をきたさない範囲において、前項以外の目的に使用することができる。

(使用の許可)

第 4 条 運動施設を使用するときは、使用責任者が事前に学生部長の許可を得るものとする。

(使用上の注意事項)

第 5 条 運動施設を使用するときは、次の事項を守らなければならない。なお、違反した場合には使用を取り消し、許可しないことがある。

- (1) 施設、設備、機器、備品等の保全に努めること
- (2) 施設内外の美化整頓に努めること
- (3) 火気の使用及び喫煙は、所定の場所とし、火災予防に努めること
- (4) 電気、水道を使用するときは、節約に努めること
- (5) 他の使用者に迷惑を及ぼさないこと
- (6) 担当職員の指示は、必ず守ること
- (7) 上記のほか別に定める各施設の使用に関する心得等を遵守すること

(事務)

第 6 条 運動施設の運営に関する事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同学園運動施設使用規則

(昭和 55 年 2 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同学園運動施設管理運営委員会規程第 6 条に定める大同学園運動施設 (以下「運動施設」という。)の使用は、この規則の定めるところによる。

(使用の目的)

第 2 条 運動施設は、本学園の学生・生徒の正課体育、学校行事及び特別課外活動等に使用することを原則とする。

(使用の許可)

第 3 条 運動施設を使用する時は、使用責任者が事前に運動施設使用願を提出し、管理責任者の許可を得るものとする。

(使用上の注意)

第 4 条 運動施設の使用は、管理責任者の指示に従わなければならない。なお、違反した場合には使用を禁止することがある。

第 5 条 運動施設・器具を破損した時は、速やかに管理責任者に届け出なければならない。なお、故意又は過失により、運動施設又は器具を破損した場合は、相当の弁償をさせることがある。

(運動施設の使用調整)

第 6 条 運動施設を使用するための調整は、次による。

- (1) 正課体育上の場合は、運動施設管理運営委員会において調整を行う。
- (2) その他の場合は、本部総務室で調整を行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学課外活動に関する規程

(昭和 63 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学 (以下「本学」という。) における学生の課外活動については、この規程の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 課外活動とは、学生会執行委員会、その他の学生会諸機関及び下部組織の行う日常活動並びに学生の文化及び体育関係諸団体の活動等、正課外の学生活動をいう。

(制限)

第 3 条 学生は、課外活動を行うにあたり、本学の教育と研究の妨げとならないよう、また学生としての本分を逸脱しないよう活動の節度を守らなければならない。

(諸団体の加入及び脱退)

第 4 条 課外活動団体の学外諸団体への加入、脱退は、学生部長の承認を必要とする。

(顧問等)

第 5 条 部、同好会、研究会 (以下「クラブ」という。) の指導及び助言を行うため顧問を置かなければならない。

2 顧問を補佐し技術面の指導を行う技術指導員として、監督を置くことができる。

3 技術指導員補佐として、コーチ、トレーナー、アドバイザー (以下「コーチ等」という。) を置くことができる。

4 顧問、監督、コーチ等に関する細則は、別にこれを定める。

(顧問委員会)

第 6 条 課外活動の健全な発展とその活動の円滑を期するため、顧問会議を置く。

2 顧問会議の内規は、別に定める。

(援助)

第 7 条 課外活動の健全な発展、推進、奨励とその活動の円滑を期するため、本学は、必要な援助をすることができる。

2 課外活動援助に関する内規は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学課外活動援助に関する内規

(昭和 63 年 3 月 18 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学課外活動に関する規程第 7 条第 2 項に基づく課外活動援助については、この内規に定めるところによる。

(対象)

第 2 条 援助の対象は、次のとおりとする。

- (1) 学生連盟等の連盟等登録費
- (2) 大会等参加費
- (3) クラブ員の大会参加旅費
- (4) 顧問・監督・コーチ等の旅費
- (5) 物品購入費
- (6) 懇親会費用
- (7) クラブ活動報告会の費用
- (8) 祝勝会等の開催援助については、別に定める。
- (9) スカートの運行援助については、別に定める。
- (10) その他学生委員会にて必要と認めたもの
(連盟等登録費)

第 3 条 連盟登録費については、クラブ活動上加入が必須の連盟・団体及び協会等の登録にかかる費用を全額援助する。

2 前項に規定するクラブ活動上加入が必須の連盟・団体及び協会等とは、クラブが県大会、地区大会および全国大会に出場するために登録が必要な連盟・団体及び協会等をいう。

3 前項に規定する連盟・団体及び協会等以外の登録にかかる費用の援助については学生委員会で審議の上、決定する。

(大会等参加費)

第 4 条 大会等参加費については、西日本大会以上又はそれに準ずる規模でおこなわれる公式の大会若しくは発表会等の参加費を全額援助する。

2 申請は原則 1 クラブ 2 大会を限度とする。それ以上に申請する場合は学生部長の承認を必要とする。
(クラブ員の大会参加旅費)

第 5 条 クラブ員の大会参加旅費については、西日本大会以上又はそれに準ずる規模でおこなわれる公式の大会若しくは発表会等への参加にかかる旅費を参加者 1 名につき、1 日あたり 5,000 円を限度として援助する。

2 申請できる期間の範囲は、前日会議及び試合出場期間とする。ただし、片道 100km を超える場所で午前中に試合がある場合はその前日を、試合終了後現地を出発して 21 時までには大学に到着ができないと見込まれる場合その翌日を、申請期間に含めることができる。

3 申請できる人数は、次の各号のいずれかとする。

- (1) 大会要項等に定められている人数
- (2) 大会要項等に定められていない場合、実際に登録した人数

4 申請は原則 1 クラブ 2 大会を限度とする。それ以上に申請する場合は学生部長の承認を必要とする。
(顧問・監督・コーチ等の旅費)

第6条 顧問・監督・コーチ等の旅費については、大同学園旅費規程を準用し、交通費、宿泊費、日当相当を援助する。ただし、引率を必要とする期間に限る。

2 前項に規定する引率とは、学生が学外で活動する際に、指導・助言を目的として活動する場合をいう。

3 第1項に規定する引率を必要とする期間とは、学生が月間活動計画書により届出した学外活動期間とし、次の各号のいずれかとする。

(1) 合宿の場合は、月間活動計画書により届出されている期間。

(2) 試合の場合は、前日会議及び試合出場期間とする。ただし、試合終了後現地を出発して21時までで大学に到着ができないと見込まれる場合その翌日を含む。

(物品購入費)

第7条 物品購入費については、クラブ活動に要する1基、1個、1組、または1台の取得価格が10万円以上で耐用年数1年以上の物品の購入費を各クラブの活動状況を判断し、60%援助する。

2 ユニフォームの購入については、大会出場用ユニフォームの購入にかかる費用の50%を援助する。ただし、4年に1度申請できるものとする。

(懇親会費用)

第8条 懇親会費用については、次の各号を充たす懇親会の費用を参加者1名につき1,500円を上限に援助する。

(1) 月間活動計画書で届出があること。

(2) クラブ活動活性化のため顧問同席のもとで実施していること。

2 懇親会費用の援助申請は、年間に1回限りとする。

3 懇親会費では飲食費・食材費のみを対象とする。

(クラブ活動報告会費用)

第9条 クラブ活動報告会費用については、クラブ委員会主催によるクラブ活動報告会に関わる費用を全額援助する。

(申請)

第10条 援助を希望するクラブ等は、所定の援助申請書類を学生室に提出する。ただし、第8条については、顧問が申請する。

(決定)

第11条 第3条及び第7条第1項の援助金額は、学生委員会で審議し、決定する。

附 則

< 省 略 >

大同大学クラブ 顧問・監督・コーチ等に関する細則

(昭和 63 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学課外活動に関する規程第 5 条 2 項に基づく顧問、監督、コーチ等については、この細則の定めるところによる。

(選任)

第 2 条 顧問及び監督は、本学専任職員の中から選任する。コーチ等の選任は、本学専任職員とは限らないものとする。

(任期)

第 3 条 顧問、監督、コーチ等の任期は、2 年を越えないものとする。ただし、再任を妨げない。

(制限)

第 4 条 顧問は、原則として 3 クラブ 以上の顧問を兼ねない。

2 監督については、他のクラブ の監督を兼ねることはできないものとする。

(委嘱の要請)

第 5 条 顧問、監督、コーチ等の委嘱の要請は、再任、新任に関わらず、クラブ 委員会を通じて任期終了一か月前までに学生部長に提出する。

(委嘱)

第 6 条 顧問は、本学専任職員の中から各クラブ の要請に基づき、学生部長が委嘱する。

2 監督・コーチ等は、本学専任職員（コーチ等の場合は、本学専任職員とは限らない）から、学生部長が委嘱する。

附 則

< 省 略 >

顧問会議内規

(昭和 63 年 6 月 21 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学課外活動に関する規程第 6 条 2 項に基づく顧問会議（以下「会議」という。）については、この内規の定めるところによる。

(任務)

第 2 条 会議は、クラブ活動の推進・奨励に関することを協議する。

(組織)

第 3 条 会議は次の構成員をもって組織する。

1. 学生部長
2. 学生部次長
3. 学生室長
4. 顧問
5. クラブ委員会の中から若干名

(議長)

第 4 条 会議に議長を置く。

2 議長は、学生部長とする。

(招集)

第 5 条 会議は、学生部長が必要と認めたとき、これを招集する。

(事務局)

第 6 条 会議の事務は、学生室が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学石井記念体育館使用者心得

(平成 11 年 3 月 1 日制定)

1. 休館日は土・日・祝日及び学生部長が必要と認めた日とする。ただし、学生部長の許可を得た場合には使用することができる。
2. 使用時間は、午前 8 時 40 分から午後 8 時 45 分までとする。ただし、学生部長が必要と認めた場合には変更する。
3. 使用は、あらかじめ A 棟学生室へ申し出て許可を受けること。ただし、当日の使用申請は管理室へ申し出て許可を得ること。
4. 館内では、上履き専用の履物(運動靴等)を使用すること。ただし、学生部長が認めた場合には、この限りではない。
5. トレーニングマシンの使用については、必ず各器具備え付けの使用マニュアルに従って使用すること。フリーウェイトについては必ず二人以上で使用すること。
6. 館内では、喫煙を禁止する。
7. 他の使用者に迷惑を及ぼさないこと。
8. 使用後は、整理整頓を心がけ、必ず清掃を行うこと。
9. 建物や施設、器具類を破損した場合は、速やかに体育館管理室へ届け出ること。場合によっては相当の弁償をしなければならない。
10. 使用にあたっては、学生室及び体育館管理室の指示に従うこと。

以上の心得を守らないときは、事後の使用を認めないことがある。

附 則

< 省 略 >

大同大学第2 滝春グラウンド使用者心得

(平成 26 年 1 月 27 日制定)

1. 許可された使用目的を遵守すること。
2. 使用時間は、午前 9 時 00 分から午後 8 時 00 分までとする。ただし、学生部長が必要と認めた場合には変更する。
 - 2-1. 16 時以降の使用に関しては、原則クラブ活動の使用を優先する。
3. 使用は、あらかじめ学生室へ申し出て許可を受けること。
4. 鍵の受渡は使用する都度、学生室にて行う。
 - 4-1. 返却時間が学生室の取扱時間外であれば、防災センターに返却すること。
5. 雨、天候不順等により地盤が軟弱な場合は使用しないこと。
6. グラウンドは、全面喫煙を禁止とする。クラブハウス内も同様である。
7. 他の使用者およびグラウンド周囲に迷惑を及ぼさないこと。
8. 備え付けの器具、物品等は施設外に持ち出さないこと。
9. 使用後は、整理整頓、整備を心がけ、必ず清掃を行い原状に復すること。
10. 火器等管理上適当でないものを持ち込まないこと。
11. 建物や施設、器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。
12. 使用にあたっては、学生室の指示に従うこと。
13. ここに定めるもののほか、例外的取り扱いについては、その都度定める。

以上の心得を守らないときは、事後の使用を認めないことがある。

大同大学図書館利用規則

(平成 2 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 大同大学図書館規程第 7 条に基づく大同大学 (以下「本学」という。) 図書館の利用に関するこ
とは、この規則の定めるところによる。

(利用者の範囲)

第 2 条 図書館を利用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本学の職員
- (2) 本学の学部学生
- (3) 本学の大学院学生
- (4) 本学の卒業生
- (5) 館長の特に許可した者

(開館・休館)

第 3 条 図書館は、次のとおり開館および休館する。

- (1) 開館時間

8 時 45 分～21 時 00 分ただし、館長が必要と認めた場合は変更することがある。

- (2) 休館日

次の日を休館とする。

ア 本学学則に定める休業日及び土曜日 (春、夏、冬季休業日については、その都度これを掲示
する。)

イ 館長が必要と認めた日 (その都度これを掲示する。)

(閲覧)

第 4 条 図書館資料は、館内の所定の場所または閲覧室等にて自由に閲覧できる。

2 閲覧後の図書館資料は、必ず所定の位置に戻すこと。

(貸出・返却)

第 5 条 図書館資料の館外貸出 (以下「貸出」という。) を希望する場合は、所定の手続きを取るこ
と。

2 貸出手続きには、学生証等を必ず呈示すること。

第 6 条 貸出を禁止する図書館資料は、次のとおりとする。

- (1) 参考図書
- (2) 雑誌
- (3) 新聞
- (4) AV 資料
- (5) 地図
- (6) その他館長が必要と認めた図書館資料

第 7 条 貸出対象者、冊数および期間は、次のとおりとし、期間内に返却すること。

- | | | |
|--------------|---------|-------------|
| (1) 本学の職員 | 100 冊以内 | 当年度 2 月末日まで |
| (2) 本学の学部学生 | 10 冊以内 | 2 週間以内 |
| (3) 本学の大学院学生 | 30 冊以内 | 3 ヶ月以内 |
| (4) 本学の卒業生 | 3 冊以内 | 1 週間以内 |

2 貸出期間の更新は、返却期日までに手続きをすること。

3 春、夏、冬季休業日の学生の貸出期間は、延長する。その都度これを掲示する。

4 館長が特に必要と認めた場合は、冊数の増減および期間の延長・短縮等を行うことがある。

5 第2条に定める利用者がその資格を失ったときは、貸出期間中であつても直ちに貸出資料を返却しなければならない。

第8条 貸出中の図書館資料については、貸出または閲覧予約の手続きができる。

第9条 貸出中の図書館資料については、次の注意事項を厳守し、違反した場合にはその責を負うこと。

(1) 延滞しないこと

(2) 転貸借しないこと

(3) 紛失、汚損しないこと

(文献複写)

第10条 図書館における文献複写は、教育又は研究の用に供することを目的とし、所定の手続きを経て行うこと。

2 文献複写は、著作権法に抵触しない範囲で行うものとし、また館長が不相当と認めた資料は複写できない。

(相互利用)

第11条 本学の職員、学部学生及び大学院学生の他大学等図書館利用については、当該機関の定めるところにより、館長が必要に応じ依頼することができる。

2 本学以外の図書館等からの利用申込については、館長が本学における研究及び教育に支障がないと認めた場合、本規則の定めるところにより応ずる。

(施設利用)

第12条 図書館施設の利用については、各施設の目的に応じ自由に利用できる。ただし、所定の手続きを必要とする施設もある。

(情報検索)

第13条 本学所蔵資料の検索については、所定の機器を使用して行うことができる。

第14条 他機関の提供する情報検索システムの利用については、所定の手続きをとること。

(遵守事項および罰則)

第15条 利用者は、諸規則ならびに館長の指示する事項を遵守し、館員の指導に従うこと。

2 前項を遵守できない者については、図書館の利用を制限し、又は学則により罰することがある。

(補則)

第16条 この規則に定めるもののほか図書館の利用に関する必要な事項については、図書委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学図書館利用細則

(平成 2 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この細則は、大同大学図書館利用規則 (以下「利用規則」という。) 第 16 条の規定に基づき、大同大学図書館の円滑な利用を図るため必要な事項を定めることを目的とする。

(利用者の範囲)

第 2 条 利用規則第 2 条に定める利用者の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 本学の職員 (以下「職員」という。) に含む者
 - ア 招へい研究者
- (2) 本学の学部学生 (以下「学生」という。) に含む者
 - ア 学部の科目等履修生、研究生、委託学生、委託生及び外国人留学生
- (3) 本学の大学院学生 (以下「大学院生」という。) に含む者
 - ア 大学院の科目等履修生、研究生、委託学生、委託生及び外国人留学生
- (4) 本学の卒業生 (以下「卒業生」という。) に含む者
 - ア 修了生
- (5) 館長の特に許可した者
 - ア 第 1 号の職員を除く学園職員
 - イ 本学の非常勤講師
 - ウ 本学に在職していた者
 - エ 他大学の学生及び職員
 - オ 諸団体、企業等に所属する者等 (その都度審査する。)
 - カ その他の 18 歳未満を除く社会人 (その都度審査する。)
 - キ 高等学校在学学生

2 前項第 5 号のイからキの利用者は、その都度身分証明書等を提示し、許可を受ける。

イからカうちの希望者に、利用許可証 (兼貸出許可証) を交付する。この許可証の有効期限は 1 年間とする。

(開館・休館)

第 3 条 利用規則第 3 条に定める開館日において、館長が必要と認めた場合、利用細則第 2 条第 2 項第 5 号エ、オ、カ、キに該当する利用者の利用を制限することがある。(その都度掲示する。)

2 利用規則第 3 条第 2 号に定める休業日のうち春、夏、冬季休業日については、土曜日を除く平日は開館とし、開館時間は図書委員会の審議を経て、館長が定める。ただし、館長が必要と認めた場合変更することがある。

(閲覧)

第 4 条 プラザ・コーナー及び AV ランジ等の資料は、許可なく所定の場所から持ち出して閲覧することができない。

2 閲覧後の図書館資料は、元の位置に戻すこと。ただし、図書返却台に置くこともできる。

(貸出・返却)

第 5 条 第 2 条第 1 項第 5 号に該当する者への貸出は、次のとおりとする。

- (1) アの該当者 20 冊以内 1 か月以内

(2) イ、ウの該当者 10 冊以内 1 か月以内

(3) エ、オ、カの該当者 3 冊以内 1 週間以内

第 6 条 貸出期間の更新は、一回とする。ただし、貸出又は、閲覧予約のない場合に限る。

第 7 条 貸出を禁止する図書館資料の特別貸出は、次のとおりとする。

(1) 参考図書

ア 職員・大学院生 5 冊以内 1 週間以内

(2) 新着雑誌

ア 職員・大学院生 3 冊以内 3 日以内

(3) 製本雑誌

ア 職員・大学院生 5 冊以内 1 週間以内

第 8 条 貸出又は閲覧予約手続者への連絡は、掲示等で行う。なお、予約の効力は、連絡後 5 日間とする。

第 9 条 貸出違反者の責任事項は、原則として次のとおりとする。

(1) 延滞： 超過日数に相当する期間の貸出停止

(2) 転貸借： 1 か月の貸出停止

(3) 紛失、汚損： 指定若しくは代替りの図書又は相当時価による弁償

(文献複写)

第 10 条 文献複写は、所定の機器で行うこと。

2 利用規則第 2 条第 4 号及び第 5 号の利用者の文献複写については、図書館事務室で所定の手続きを経て行うことができる。

第 11 条 文献複写料金は、モノクロ 1 枚 10 円、カラー 1 枚 50 円とする。ただし、他大学等からの文献複写依頼による複写料金は、モノクロ 1 枚 40 円、カラー 1 枚 100 円とする。

(相互利用)

第 12 条 利用規則第 11 条に基づく相互利用を円滑に運用するため、館長は、他大学図書館等と協定を結ぶことができる。

(施設利用)

第 13 条 AV ラウンジは、AV プレーズ備付機器を使用し、配架資料に限り自由に利用できる。

第 14 条 グループ プレーズは、備付機器及び資料を使用し、定員 5 名以内で所定の手続きを経て利用できる。

第 15 条 プラザ・コーナーは、新聞・軽雑誌類の閲覧及び休憩に利用できる。

第 16 条 グループ 閲覧室は、定員 8 名以内のグループが図書資料を使用するセミナー等の目的に利用できる。

2 利用者は、利用時間を予約表に記入する。

3 利用時間は、1 回 1 時間 30 分以内とし、他に利用者のない場合には延長することができる。

4 利用予約は、グループの責任者により 1 か月前からすることができる。ただし、職員が責任者の場合は、6 か月前からとする。

第 17 条 グループ AV 室は、定員 30 名以内のグループが備付機器を使用し、AV 資料によるセミナー等の目的に利用できる。

2 利用責任者は職員とし、利用申し込みを行う。

3 利用予約は、利用責任者により 6 か月前からすることができる。

第 18 条 学習閲覧室は、他の利用者の迷惑にならない範囲で、共同学習にも自由に利用できる。

第 19 条 研究者閲覧室は、職員及び大学院生が図書資料の閲覧又は研究等に利用できる。

第 20 条 研究個室は、職員及び大学院生が図書資料の閲覧又は研究等に 1 週間以内継続して利用できる。

2 利用予約は、6 か月前からすることができる。

第 21 条 マイクロ資料室は、職員及び大学院生が備付機器を使用し、マイクロフィルム等の閲覧に利用できる。
(情報検索)

第 22 条 本学図書館と契約している他機関の提供する情報検索システムの利用は、次のとおりとする。

- (1) 利用者は、所定の申込書を提出する。
- (2) 情報検索料金は、当該システム提供機関との契約に基づき、利用者が負担する。
- (3) British Library Document Supply Service(BLDSS)の利用については、別に定める。

(遵守事項)

第 23 条 利用者は、次の事項を遵守する。

- (1) 図書館資料を破損したり、書き込み等により汚損しないこと
- (2) 図書館資料を許可なく館外に持ち出さないこと
- (3) 館内の設備、機器等を破損したり、所定の位置から移動しないこと
- (4) 談笑、音読、集会、娯楽行為等他の利用者に迷惑をかけないこと
- (5) 館内で喫煙又は飲食しないこと また携帯電話の電源を切ること
- (6) 印刷物を配布したり、貼り紙をしないこと
- (7) 下駄、スパイク等で入館しないこと

(細則の改廃)

第 24 条 本細則の改廃については、図書委員会の審議を経て、館長が行う。

附 則

< 省 略 >

大同大学情報センター利用規程

(平成 11 年 4 月 1 日制定)

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 大同大学情報センター規程第 8 条の規定に基づく大同大学(以下「本学」という。)の情報センター(以下、「センター」という。)の施設、教育・研究用電子計算機システム(以下、「電算機システム」という。)及び大同大学キャンパスネットワーク(以下、「キャンパスネットワーク」という。)の利用については、この規程の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 この規程において、センターの施設とは、センターが管理運営する演習室等をいい、電算機システムとは、センターが管理運営する電算機システムをいい、キャンパスネットワークとは、全学の利用に供する目的で敷設された通信網及び通信サービスシステムをいう。

2 第 1 項に規定する演習室等は次のものをいう。

- (1) コンピュータ演習室
- (2) コンピュータ自習室
- (3) その他施設

3 第 1 項に規定する電算機システムとは、センターの施設及び別に定めるサライに設置された電算機システムをいう。

4 第 1 項に規定するキャンパスネットワークは、次の情報通信装置及び設備で構成する。

- (1) 外部機関との接続にかかる回線及び関連機器
- (2) 本学校舎間及び各建物間を接続する機関ネットワークにかかる通信回線並びにその接続装置
- (3) 各建物内各室に設置する情報コンセントまでの通信回線及びその接続装置
- (4) 前各号の回線上で稼働するネットワークサービスを提供するための機器

(利用範囲)

第 3 条 センターの施設、電算機システム及びキャンパスネットワークは、学術研究、教育及び本学の運営上必要な業務以外に利用することはできない。

(利用資格)

第 4 条 センターの施設、電算機システム及びキャンパスネットワークを利用できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 本学の職員
- (2) 本学の学生
- (3) センター長が必要と認めた者

(利用申請)

第 5 条 センターの施設、電算機システム及びキャンパスネットワークを利用しようとする者は、所定の利用申請手続を行わなければならない。

2 前項の規定にかかわらずセンター長が特に認めた場合には、所定の申請手続を省略することがある。

3 利用者は、申請内容に変更が生じた場合は、速やかに変更の申請手続を行わなければならない。

(利用報告)

第 6 条 センター長は、必要に応じ利用者にセンター利用状況の報告を求めることができる。

(利用者の遵守事項)

第 7 条 利用者は、センターの施設、電算機システム及びキャンパスネットワークを利用するにあたって、次のことを遵守

しなければならない。

- (1) 他人の正常な使用を阻害してはならない。
- (2) 公序良俗に反してはならない。
- (3) センター職員の指示に従わなければならない。

2 利用者は、電算機システムを利用するにあつて、次のことを遵守しなければならない。

- (1) ユーザー名、パスワードを厳重に管理し、他に漏らしてはならない。
- (2) 電算機システム及び他の利用者のファイル等に障害を与える利用をしてはならない。

3 利用者は、キャンパスネットワークを利用するにあつて、次のことを遵守しなければならない。

- (1) 他人の特許権、商標権、著作権等の知的財産権を侵害してはならない。
- (2) 他人の名誉を毀損してはならない。
- (3) ユーザー名、パスワードを厳重に管理し、他に漏らしてはならない。
- (4) 第三者に対するいやがらせ及び脅迫的な情報、不確かな内容の情報を発信してはならない。
- (5) Web ページ等を悪用して、社会通念に反する情報を発信してはならない。

(利用違反時の処置)

第 8 条 利用者が、前条の定めに違反した場合、又はセンターの運営に支障を生じせしめた場合、センター長は利用者に利用方法の是正勧告をする。

2 利用者が是正勧告に従わない場合、センター長は利用者の利用承認を取り消すことができる。

第 2 章 センターの施設

(開館時間)

第 9 条 センターの施設は、次のとおり開館、閉館する。

(1) 開館時間

8 時 30 分～18 時 00 分までとする。ただし、自習室については原則 20 時 45 分までとする。なお、情報教育センター長(以下、「センター長」という。)が必要と認めた場合は変更することがある。

(2) 休館日

次の日を休館とする。

ア、本学学則に規定する休業日及び土曜日。ただし、春、夏、冬季休業日については、その都度これを掲示する。

イ、センター長が必要と認めた日(その都度これを掲示する。)

第 3 章 電算機システム

(電算機システムを利用できる施設)

第 10 条 電算機システムは、センターの施設及びサライトにおいて利用することができる。

(電算機システムの利用時間)

第 11 条 電算機システムの利用時間は、次のとおりとする。

- (1) センターの施設の電算機システムの利用時間は、その開館時間とする。
- (2) サライト電算機システムの利用時間は、施設を管理運営する部局が規定する。

第 4 章 キャンパスネットワーク

(利用時間)

第 12 条 キャンパスネットワークは常時利用できる。やむを得ず停止する場合は、事前に掲示するものとする。

第 5 章 雑則

(細則)

第 13 条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関する細則は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

大同大学情報センター利用細則

(平成 11 年 4 月 1 日制定)

第1章 総 則

(趣旨)

第 1 条 大同大学情報センター利用規程 (以下、「利用規程」という。) 第 13 条の規定に基づく情報センター (以下、「センター」という。) の施設、教育・研究用電子計算機システム (以下、「電算機システム」という。) 及び大同大学キャンパスネットワーク (以下、「キャンパスネットワーク」という。) の利用に関する細目は、この細則の規定するところによる。

(利用違反時の処置)

- 第 2 条 利用規程第 8 条第 2 項で規定するところにより利用承認を取り消された者については、次のとおりとする。
- (1) 教育職員の場合は、学長ならびに当該教育教員の所属する学部長、教養部長及び学科長に報告する。
 - (2) 事務職員の場合は、法人本部長に報告する。
 - (3) 学生の場合は、学生部長に報告する。

第2章 センターの施設

(センターの施設)

第 3 条 センターの施設及びその利用目的は、次のとおりとする。

施設名	室番号	利用目的
コンピュータ演習室 1	B0302	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 2	B0303	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 3	B0304	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 4	B0305	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 5	B0306	電算機システムを利用した授業及び自由利用
コンピュータ演習室 6	B0308	電算機システムを利用した授業
コンピュータ演習室 7	B0307	電算機システムを利用した授業
コンピュータ自習室 B	4403B	電算機システムを利用した授業及び自由利用
コンピュータ自習室 C	4403C	自由利用

- 2 利用者は、第1項に規定する利用目的に従い施設を利用しなければならない。
- 3 第1項に規定する施設の内、授業として利用目的が規定された施設の利用申請及び変更申請は、教務室が行うものとする。
- 4 講習会、資格検定等で第1項に規定する施設を利用する者は、教務室の承認を経て所定の申請手続きを行わなければならない。

第3章 電算機システム

(利用申請)

第 4 条 利用規程第 5 条第 1 項に規定する利用申請手続の内、電算機システムの申請手続を行わなければ

ならない者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 本学の非常勤講師
 - (2) 本学の学外 TA
 - (3) センター長が指定する者
- (ファイル容量の制限)

第 5 条 本学の教育職員及び学生が使用できるファイル容量は、次のとおりとする。

- (1) 本学の教育職員 1GB
 - (2) 本学の学生 1GB
- (電算機システムの利用)

第 6 条 電算機システムは、第 3 条第 1 項に規定する施設及びセンター以外の部局が管理運営する次のサライトにおいて利用することができる。

- (1) 第 3 条第 1 項に規定する施設
 - (2) センター以外の部局が管理運営する施設 (以下、「サライト」という。)
- 2 前項第 2 号に規定するサライトは、その利用目的に応じ、次のとおり区分する。
- (1) 自由利用を目的としたサライト (以下、「サライト A」という。)
 - (2) 授業利用を目的としたサライト (以下、「サライト B」という。)
- 3 サライト A は、次のとおりとする。

サライト名	室番号	部屋名等
サライト A-1	A0214	自習室
サライト A-2	―――	図書館 1F
サライト A-3	―――	白水学生ホール

4 サライト B は、次のとおりとする。

サライト名	室番号	部屋名等
サライト B-1	E0201	情報演習室Ⅱ
サライト B-2	E0202	情報演習室Ⅲ
サライト B-3	E0203	情報演習室Ⅳ
サライト B-4	E0302	情報演習室Ⅴ
サライト B-5	E0303	情報演習室Ⅵ
サライト B-6	8503	CAD 演習室
サライト B-7	S0405	ロボット実習室 A
サライト B-8	S0406	ロボット実習室 B

- 5 前項に規定する施設の授業利用に係る利用申請及び変更申請は、教務室が行うものとする。
- 6 第 4 項に規定するサライト B にあつては、第 2 項第 2 号の規定にかかわらず、授業利用のない場合に限り、その管理運営する部局の定めるところにより、自由利用を認めることができる。
- (プリンターの利用)

第 7 条 本学の学生は、プリンターを次の目的で利用することができる。

- (1) 授業中及び授業に関連する利用
 - (2) クラブ活動等学生の諸活動に関連する利用
- 2 第 1 項の規定にかかわらずセンター長は、多量に印刷した利用者に対してその理由を確認することができる。
- 3 第 1 項第 2 号の規定にかかわらずカープリンターの利用については、必要に応じセンター長が印刷の制限を設

けることがある。

(アプリケーションソフトの利用)

第 8 条 次の全ての条件を満たすアプリケーションソフトは、授業に影響を与えないことを条件に、所定の手続きにより研究目的で利用することができる。

(1) フローティングライセンス契約である

(2) 販売元が同ライセンス契約において、研究目的での利用を認めている

2 アプリケーションソフトを研究目的で使用する場合は、ソフトウェア利用申請書にて情報センター長の承認を得る。

3 アプリケーションソフトが学部の授業で使用されなくなつた時点で利用者に広報し、次のライセンス契約の更新をしない。

第4章 キャンパスネットワーク

(ネットワークサービス)

第 9 条 利用規程第 2 条第 4 項第 4 号に規定するネットワークサービスとは、次のものをいう。

(1) WAN、LAN の利用

(2) 電子メール

(3) World Wide Web (以下、「Web」という。)を利用した情報公開

(4) 遠隔通信による接続

(5) Web を利用した情報の閲覧

(機器等の接続)

第 10 条 キャンパスネットワークに機器等を接続できる者は、本学の職員及びセンター長が必要と認めた者とする。

2 前項に規定するセンター長が認めた者の範囲は、次のとおりとする。

(1) 本学の非常勤講師

(2) 本学の大学院学生

(3) 本学で開催する学会等の講師

3 キャンパスネットワークに機器等を接続しようとする者は、様式-1 によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。ただし、無線ネットワークに接続し、インターネットのみを利用する場合は、様式 8 によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。ただし、本学の授業用 ID を所有している者は申請を省略できる。

4 接続許可を受けた者は次のことを遵守しなければならない。

(1) コンピュータウイルス感染防止対策等のセキュリティ対策を行うこと。

(2) キャンパスネットワークまたはキャンパスネットワークに接続されている他の機器へ悪影響を与えないこと。

(3) キャンパスネットワークに接続した機器についてセンター長から是正指示があつた場合は、その指示に従うこと。

(4) 検疫システム実施の依頼があつた場合は実施すること。

5 第 1 項の機器等には、次のものは含めないものとする。

(1) 本学の非常勤講師の個人所有の機器

(2) 本学の大学院生の個人所有の機器

(3) 前 2 号にかかわらず無線ネットワークに接続し、インターネットのみを利用する場合は個人所有の機器も認める。

(電子メール)

第 11 条 電子メールを利用しようとする本学の職員は、様式-2 によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。

- 2 本学の学生の電子メールは入学と同時に利用することができる。
- 3 大同大学名誉教授の称号を授与された者は、退職後も所定の手続きにより電子メールを継続利用することができる。
- 4 前項の所定の手続きは次のとおりとする。
 - (1) 利用期限が切れる前に、継続の意思表示を情報センター長に行う。特に様式は定めない。
 - (2) 継続期間は1年とする。

(Web を利用した情報公開)

第12条 Web を利用し情報公開ができるのは、利用規程第4条の規定に関わらず次の者とする。

- (1) 学外に公開する場合は、本学の職員
 - (2) 学内に公開する場合は、本学の職員及び本学の学生
- 2 Web を利用した情報公開を行おうとする者は、様式-3 によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。
- 3 前項により許可を受けた者は、センター長が指定する情報倫理に関する講習会を受講しなければならない。
- 4 利用できる Web サーバーのファイル容量は、次のとおりとする。

- (1) 本学の職員 50MB
- (2) 本学の学生 5MB

(遠隔ログインによる接続)

第13条 遠隔ログインを行おうとする本学の職員及び学生は、様式-4 によりセンター長に申請し、許可を受けなければならない。

- (1) キャンパスネットワークに接続した機器から、学外の機関に設置してあるコンピュータ等に遠隔ログインするとき。
- (2) 学外からインターネットを経由して、キャンパスネットワークに接続された機器に遠隔ログインするとき。

(Web を利用した情報の閲覧)

第14条 キャンパスネットワークの利用者は、キャンパスネットワークに接続されている端末から、Web を利用した情報の閲覧をすることができる。

(認証ネットワークの管理)

第14条の2 教育職員の研究室等に敷設した LAN (以下、「認証ネットワーク」という。) をキャンパスネットワークに接続する者は、次のことを遵守しなければならない。

- (1) 認証ネットワークに接続する端末の MAC アドレス、端末名、端末の状況を認証サーバへ所定の方法で登録し、認証を受けること。
- (2) 認証ネットワークに接続する端末の利用者は研究室等の管理者の指示に従うこと。
- (3) 特別な理由がある場合を除き、認証ネットワークを利用して独自無線局を構築しないこと。
- (4) 前号の特別な理由とは教育、研究などで使用するために情報センターへ申請を行い、センター長が認めた場合をいう。

(プライベート LAN の管理)

第15条 教育職員の研究室等に敷設した LAN で前条の認証ネットワークに属さない LAN (以下、「プライベート LAN」という。) をキャンパスネットワークに接続する者は、次のことを遵守しなければならない。

- (1) プライベート LAN に接続する端末のホスト名は、「室番号+識別番号(自由)」とすること。
- (2) プライベート LAN に障害が生じた場合は、キャンパスネットワークに影響を及ぼさないように直ちに処置するとともに、センターに連絡しなければならない。

2 前項第2号において、キャンパスネットワークに影響を及ぼした場合は、障害報告書をセンター長に提出しなければならない。

3 センター長は、障害の状況を情報委員会に報告するものとする。

第5章 雑則

(細則の改廃)

第16条 本細則の改廃については、情報委員会の審議を経て、情報センター長がこれを行う。

附 則

< 省 略 >

学習支援センター利用要項

(平成 24 年 3 月 1 日制定)

(目的)

第 1 条 この要項は、学習支援センター（以下「センター」という。）の利用について必要な事項を定める。

(開館及び休館)

第 2 条 センターの開館時間及び休館日は、次のとおりとする。

(1) 開館時間

9 時 00 分～17 時 50 分 ただし、学習支援センター長（以下「センター長」という。）が認めた場合は変更することがある。

(2) 休館日

(ア) 本学学則に定める休業日及び土曜日。ただし、春季、夏季及び冬季休業日については、センター長がその都度これを定める。

(イ) センター長が必要と認めた日

(利用できる者)

第 3 条 センターを利用できる者（以下「利用者」という。）は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 本学の 2 年次までの学部学生

(2) 本学の 3 年次以上の学部学生でセンター長が必要と認めた者

(3) その他センター長が必要と認めた者

(利用の範囲)

第 4 条 利用者は、大学での授業内容の前提となる高校までの学習範囲について、センターの講師より学習指導を受けることができる。

2 利用者は、センターの講師の指導の下、センターに備え付けの電子教材を利用することができる。

3 利用者は、センターの講師等による学習相談を受けることができる。

(学習指導の時間及び期間)

第 5 条 利用者は、第 2 条第 2 号に規定する休館日を除き、第 1 時限から第 5 時限までの各時限で学習指導を受けることができる。

2 前項に規定する学習指導は、各学期約 3 カ月に亘り継続的に受講することを原則とする。

3 前 2 項に規定するほか、学習指導時間に関し必要な事項は、センター長が定める。

(学習指導の手続)

第 6 条 学習指導を受けようとする利用者は、所定の書式によりあらかじめ申し込みしなければならない。

2 センター長が特に認めた場合には、前項に規定する申し込みを省略することができる。

(学習指導の出席義務)

第 7 条 学習指導の受講を許可された者は、指定の学習指導時間に出席しなければならない。

2 前項に規定する指導時間において、欠席または遅刻する場合は、理由の如何に関わらず、必ずセンターに連絡しなければならない。

3 センターに連絡することなく欠席した場合には、受講の許可を取り消すことがある。

(利用者の遵守事項)

第8条 利用者は、次の各号に規定する事項を遵守しなければならない。

- (1) センターの講師等の指導及び指示に従うこと。
- (2) センター内で飲食しないこと。
- (3) センター内で携帯電話を使用しないこと。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか必要な事項が生じた場合は、学習支援センター運営委員会の審議を経て、センター長が定める。

(要項の改廃)

第10条 本要項の改廃は、学習支援センター運営委員会の審議を経て、センター長が行う。

附 則

< 省 略 >

環境美化の心得

平成 15 年 4 月 1 日制定

喫煙について

1. 喫煙は、灰皿の設置された所定の場所ですること。
2. 歩行中の喫煙はしないこと。
3. 吸い殻は、所定の灰皿へ入れること。

ゴミについて

1. ゴミは、所定のゴミ箱へ分別して捨てること。
2. 飲料、麺類の汁等を残したまま捨てないこと。
3. 落ちているゴミは、拾って所定のゴミ箱へ捨てよう。

掲示物等について

1. 掲示物は、各担当部署で承認印を受けて、所定の掲示板に掲示すること。
2. 看板、のぼり旗等は、大学の許可を受けて、許可された場所に設置すること。
3. ビラ、チラシ等は、大学の許可を受けて配布すること。
4. 掲示物等は、大学周辺においても大学の許可を受けること。

施設・設備等について

1. 大学及び大学周辺地域の施設・器具等を破損、汚損しないこと。

施設利用の心得

平成 15 年 4 月 1 日制定

駐 輪 場

1. 自転車の駐輪は、滝春第 2 駐車場内の自転車専用駐輪場を利用すること。所定の場所以外、また、路上等には絶対に止めないこと。
2. バイクの駐輪は、滝春第 1 駐車場内のバイク専用駐輪場を利用すること。所定の場所以外、また、路上等には絶対に止めないこと。
3. 駐輪場内では、喫煙・飲食をしないこと。
4. 不要となった自転車、バイクを放置しないこと。
5. 駐輪場の利用は、整理して駐輪し、他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
6. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

駐 車 場

1. 自動車の駐車は、滝春第 1 駐車場を利用すること。所定の場所以外、また、路上等には絶対に止めないこと。
2. 駐車場内では、喫煙・飲食をしないこと。
3. 車通学は、真に必要なある場合に限るものとし、できる限り自粛するものとする。
4. 駐車場の利用は、事前に学生室で学生証を提示の上、駐車カードを購入すること。
5. 駐車場の長期利用、また、車を放置しないこと。
6. 駐車場の利用は、指定枠内に駐車し、他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
7. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

食堂・学生ホール

1. 飲食は、食堂・学生ホール等の所定の場所ですること。
2. 食堂・学生ホールでは、喫煙をしないこと。
3. 食器類は大切に扱い、使用後は指定場所に返却すること。
4. 食堂・学生ホールの卓上に、ペットボトル、ゴミ等を放置しないこと。
5. 混雑時の利用においては、席の譲り合い等を心がけること。
6. 施設の目的外の利用はしないこと。
7. 他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
8. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

ロッカー室

1. ロッカー室・ロッカーの使用は、清潔・整理・整頓を心がけること。
2. ロッカー室では、喫煙・飲食をしないこと。
3. ロッカー室の備品は、外部へ持ち出さないこと。
4. ロッカーの使用は、当日限りで、翌日まで使用しないこと。
5. 金品等貴重品は、ロッカー内に保管しないこと。
6. ロッカーの上に、傘・靴・ペットボトル等を放置しないこと。

7. ロッカー内に、物品の放置をしないこと。
8. 他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
9. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

自習室・ミーティングルーム

1. 自習室・ミーティングルームの利用は、清潔・整理・整頓を心がけること。
2. 自習室・ミーティングルームでは、喫煙・飲食をしないこと。
3. 自習室・ミーティングルームの備品を外部へ持ち出さないこと。
4. 他の利用者に迷惑を及ぼさないこと。
5. 施設・器具類を破損した場合は、速やかに学生室へ届け出ること。

環境美化の心得及び施設利用の心得違反に対する処罰要項

平成 15 年 4 月 1 日制定

(趣旨)

第 1 環境美化の心得及び施設利用の心得(以下「心得」という。)に違反した場合の処罰については、この要項の定めるところによる。

(処罰の対象)

第 2 処罰の対象となる事項は次のとおりとする。

- (1) 心得に著しく違反する行為をした場合。
- (2) 心得に違反する行為を繰り返した場合。

(処罰)

第 3 第 2 に該当する者に対しては、違反の程度に応じて下記のとおり注意、処罰を行う。

- (1) 本人に対して学生部長から嚴重注意を行うとともに、指導教員から直接指導する。
- (2) 本人と保証人を呼び出し、学生部長から嚴重注意を行うとともに、指導教員から直接指導し、保証人連署により反省文を提出させる。
- (3) 学則第 39 条第 4 号の規程に基づく懲戒の対象として、学生委員会にて審議する。

附 則

< 省 略 >

大同学園ハラスメント規程（抜粋）

（平成 21 年 1 月 1 日制定）

第 1 章 総則

（趣旨）

第 1 条 本規程は、学校法人大同学園（以下、「学園」という。）就業規則第 43 条第 11 号に基づき、学園の構成員に関わるハラスメントの発生を防止し、排除するための措置並びにハラスメントに関する問題が生じた場合に適切に対応するための措置（以下、「ハラスメントの防止等」という。）に関する必要な事項を定めるものである。

（基本宣言）

第 2 条 ハラスメントは、個人の人権を侵害するものであり、絶対にあつてはならないものである。学園は、すべての構成員が、個人として尊重され、公正で快適な環境の下で勉学に専念し、職務に従事することができるよう、ハラスメントの防止に最大限努めるとともに、万一ハラスメントが発生した場合は、これに対し厳正・適切に対処する。

2 学園は、前項の目的を達成するために、学園及び大同大学（以下、「大学」という。）並びに大同大学大同高等学校（以下、「高校」という。）について、それぞれハラスメントの防止等委員会を設置する。

（定義及び適用範囲）

第 3 条 本規程において「ハラスメント」とは、相手の意に反する不適切な言動（不作為を含む。）により相手を不快にさせ、不利益や損害を与えることによつて、学園で学び、研究し、働く環境を悪化させることをいう。

2 本規程において「構成員」とは、教育職員等（非常勤を含む。以下、「教育職員」という。）、事務職員等（技術職員、用務職員、嘱託職員、臨時補助員等を含む。以下、「事務職員」という。）、学生、生徒をいう。

3 本規程は、学園の構成員に関わるハラスメントの防止等に適用する。

（責務）

第 4 条 理事長は、学園におけるハラスメントの防止等に関し総括し、大学学長及び高校校長は、それぞれ当該組織においてハラスメントの防止等に関し総括する。

2 学園の構成員は、その相互間及び外部関係者（関係業者、就学又は就業上の関係等を有する者を含む。以下、「外部関係者」という。）に対し、ハラスメントを行つてはならない。

3 学園の構成員は、ハラスメントの防止等に努めるとともに、ハラスメントを許してはならない。

（プライバシー等の保護及び守秘義務）

第 5 条 ハラスメントに関する相談・苦情又は対策等の業務に携わる者は、当事者又は関係者のプライバシー、名誉その他の人権に配慮するとともに、知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

第 2 章 学園

< 省 略 >

第 3 章 大学

（適用範囲）

第 16 条 本章は、大学の学生及び教育職員に関わるハラスメントについて適用する。

（ハラスメントへの対応）

第 17 条 大学は、ハラスメントの問題に対して迅速かつ適切に問題の解決にあたるため、次の各号に定める事項について対応するものとする。

（1）相談体制に関すること

(2) 苦情等に関する事

(3) その他、大学として対応が必要と判断される事項

2 大学は、特に緊急性が高いと判断した場合には、前項各号の規定にかかわらず、緊急対応及び緊急措置を決定し、これを実施するものとする。

(大学ハラスメント委員会)

第18条 大学に、ハラスメントの防止等を図るため、ハラスメント防止等委員会（以下、「大学ハラスメント委員会」という。）を設置する。

2 大学ハラスメント委員会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

(1) ハラスメントの防止等を図る企画及び啓発活動に関する事

(2) ハラスメントに関する事実の認定及び苦情等措置に関する事

(3) その他ハラスメントの防止及び排除に関する事

3 大学ハラスメント委員会は、事態が重大で緊急対応が必要な場合には、関係部署と協議のうえ、直ちに対応策を決定するものとする。

(大学ハラスメント委員会の組織)

第19条 大学ハラスメント委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

(1) 学長

(2) 副学長

(3) 大学院研究科長

(4) 教務部長

(5) 学生部長

(6) 大学事務部長

(7) 学園総務部長

(8) 学生室長

(9) 人事室長

(10) 本学の専任の職員の中から学長が指名する者 若干名（性別に配慮する）

2 前項第10号の委員は、学長が委嘱し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。また欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前々項の委員のほか、外部を含め委員長が必要と認める者を委員とすることができる。その委員は、学長が委嘱する。ただし、その任期は対象とする事案が終了するまでとする。

4 大学ハラスメント委員会に、委員長及び副委員長を置く。

5 委員長は、学長とする。副委員長は、委員長が大学ハラスメント委員会の同意を得て指名する。

6 委員長は、大学ハラスメント委員会を招集し、その議長となる。

7 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

8 大学ハラスメント委員会は、構成員の過半数の出席によつて成立し、決議は、出席委員の過半数をもつて行う。この場合、議長は議決権を有しない。可否同数の場合は、議長の決するところによる。

9 大学ハラスメント委員会は、外部を含め委員以外の者を必要に応じて出席させることができる。

(相談窓口)

第20条 大学は、ハラスメントに関する相談及び苦情等に対応するため、相談窓口として相談員を配置する。

2 相談員の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

(1) ハラスメントに関する相談

(2) 問題を解決するための方法についての説明及び情報の提供

3 相談員は、大学ハラスメント委員会の委員及び学園の構成員のうちから学長が委嘱した者とする。（性別に配慮する）

4 前項の学園の構成員のうち学長から委嘱された者の任期は、2年とする、ただし、再任を妨げない。また欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 相談員は、相談の内容を直ちに書面をもつて大学ハラスメント委員会に報告しなければならない。
（苦情及び救済の申立）

第21条 構成員からハラスメントを受けた者は、大学に対し、苦情及び救済の申立をすることができる。

2 前項の規定により苦情及び救済の申立を行おうとする者は、書面に記載し、提出するものとする。ただし、やむを得ず口頭による場合には、相談員が記録した書面に本人が署名するものとする。

（調査・調停部会）

第22条 ハラスメントに起因する問題が生じた場合、被害の調査及び苦情等に関して、具体的な措置を講じるため、大学ハラスメント委員会内にハラスメント調査・調停部会（以下、「調査・調停部会」という。）を設置することができる。

2 調査・調停部会は、大学ハラスメント委員会の委員の中から組織する。

3 委員長が必要と認めた場合、調査・調停部会に大学ハラスメント委員会の委員以外の者を加えることができる。

4 委員長は、組織された調査・調停部会の中から主査を指名する。

5 調査・調停部会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

(1) ハラスメントの被害に関する調査及び調停に関すること

(2) その他ハラスメントの被害及び苦情等に関すること

6 調査及び調停の実施に関しては、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 調査は、当事者及びその他の関係者から公正な事情聴取を行うものとする。

(2) 調査は、原則として2か月以内に終了するものとする。

(3) 申立人が調査の途中で打ち切りを申し出た場合は、調査を終了するものとする。

(4) 調停が成立した場合は、書面で合意事項を確認するものとする。

(5) 調停は、当事者間の合意が成立する見込みがないと判断した場合又は当事者が調停の途中で打ち切りを申し出た場合は終了するものとする。

7 調査・調停部会は、調査・調停等の結果を書面でもつて大学ハラスメント委員会に報告し、必要に応じて再発防止に関する事項等を提言することができる。

（再調査）

第23条 申立人は、調査・調停部会の結果に対して不服がある場合は、大学ハラスメント委員会に再調査の申立をすることができる。大学ハラスメント委員会は、再調査の申立を審査し措置を協議する。

（ハラスメントの行為に対する措置等）

第24条 大学ハラスメント委員会は、修学上及び就労上の環境改善を行うことが必要であると認めた場合は、必要な措置を講じるよう学長に要請する。また、処分の検討が必要であると認めた場合、その手続の開始を、教育職員については理事長、学生については大学院運営委員会又は学生委員会に対し要請する。

（事務局）

第25条 大学ハラスメント委員会及び相談窓口の事務は、大学学生室または総務部人事室が行う。

第4章 高校

< 省 略 >

第5章 雑則

(規程の改廃)

第36条 この規程の改廃は、理事会が行う。

(その他)

第37条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

< 省 略 >

